

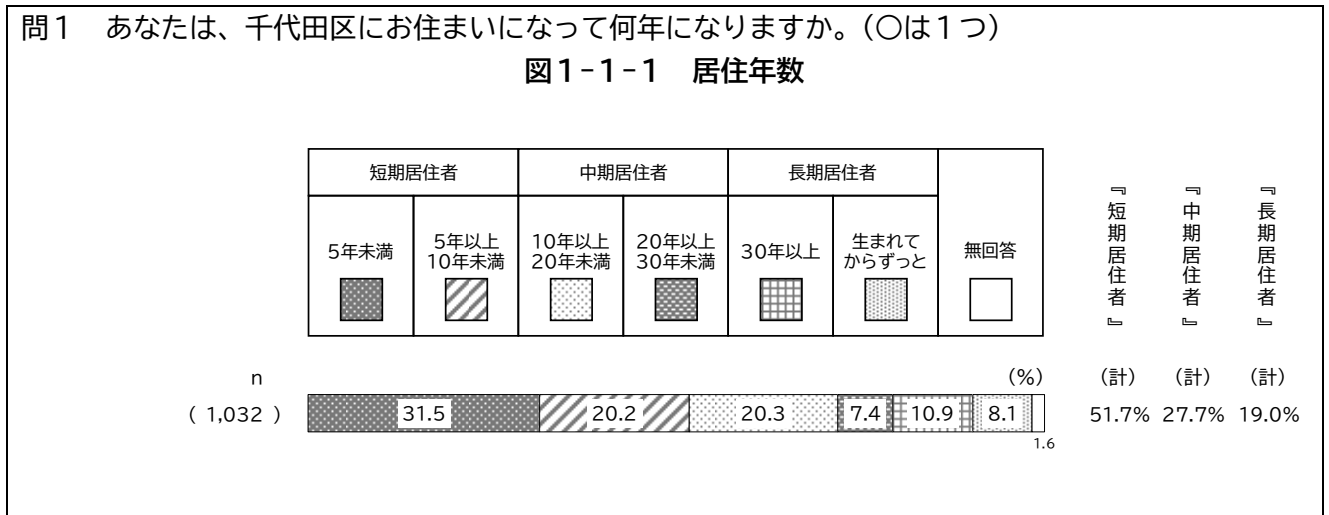
Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

◇「5年未満」と「5年以上10年未満」を合わせた『短期居住者』が5割強

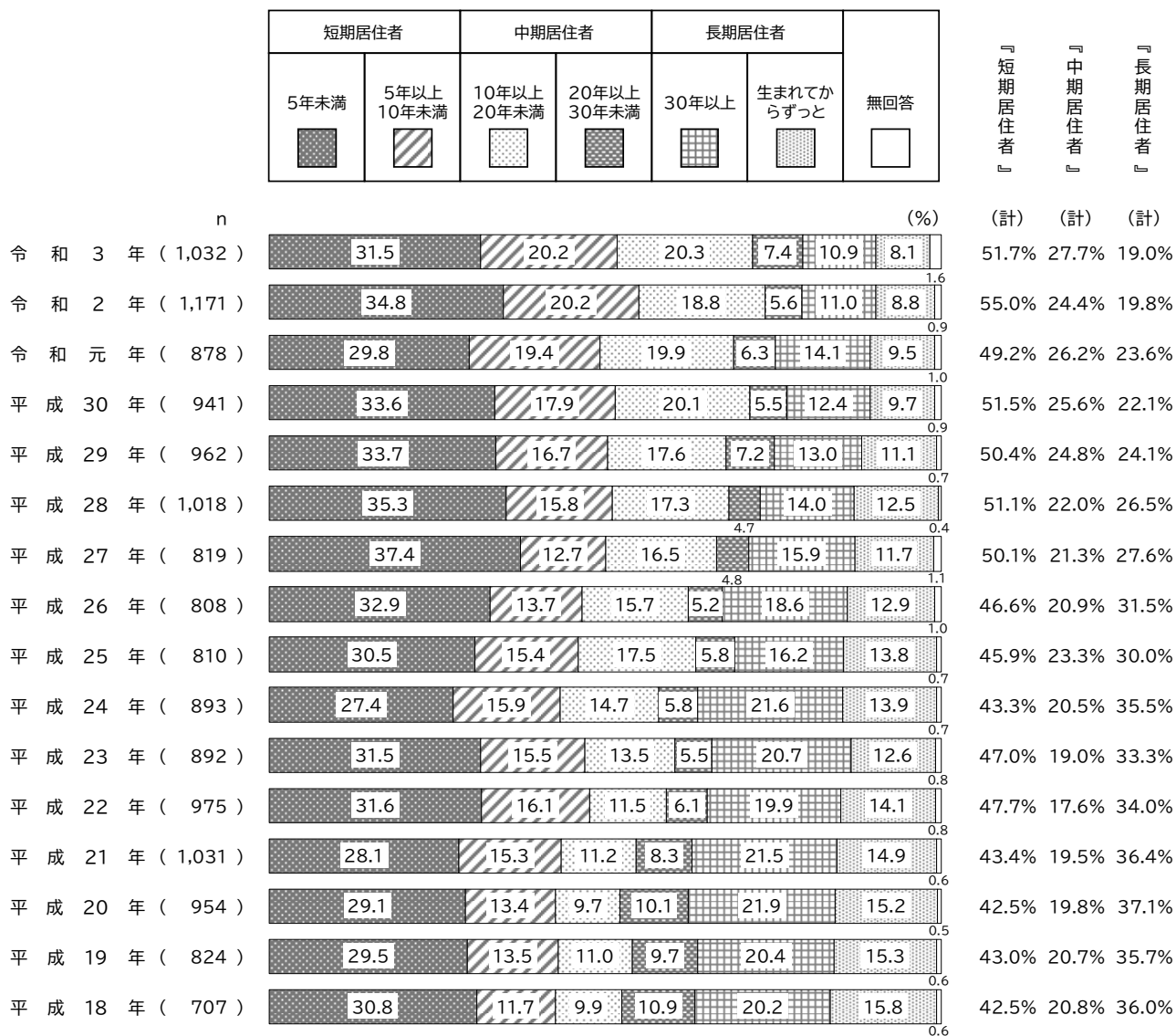


居住年数について聞いたところ、「5年未満」(31.5%)が3割強と最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(51.7%)が5割強となっている。「10年以上20年未満」(20.3%)と「20年以上30年未満」(7.4%)を合わせた『中期居住者』(27.7%)は2割台半ばを超えている。「30年以上」(10.9%)と「生まれてからずっと」(8.1%)を合わせた『長期居住者』(19.0%)は2割弱となっている。(図1-1-1)

経年比較をみると、『短期居住者』(51.7%)と『長期居住者』(19.0%)は令和2年から減少している。一方、『中期居住者』(27.7%)は増加している。「生まれてからずっと」(8.1%)は平成28年以降減少傾向が続いている。

『長期居住者』は最も高い平成20年(37.1%)と令和3年(19.0%)では18.1ポイント減少している。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数(経年比較)

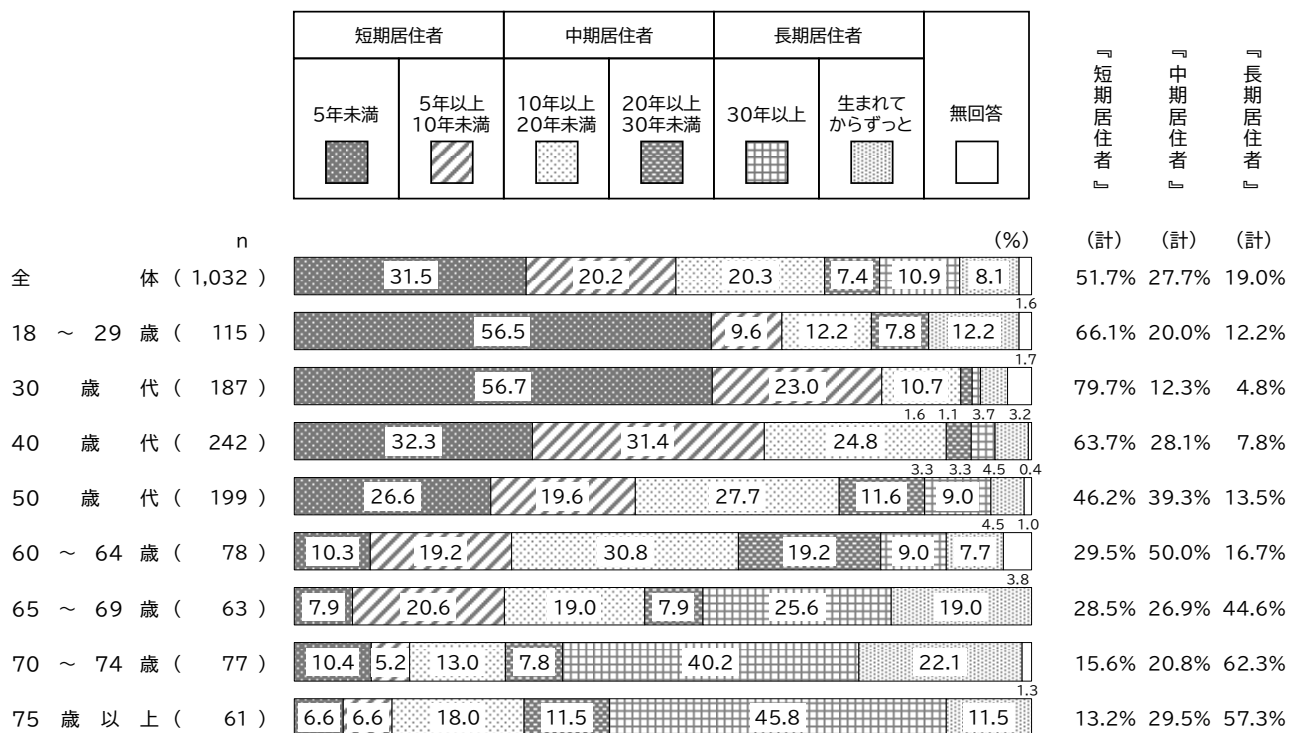


年代別にみると、『短期居住者』は30歳代(79.7%)で、『中期居住者』は60~64歳(50.0%)で、『長期居住者』は70~74歳(62.3%)で、それぞれ高い割合となっている。

「生まれてからずっと」は18~29歳(12.2%)が1割を超えている。また、70~74歳(22.1%)で2割強、65~69歳(19.0%)・75歳以上(11.5%)とそれぞれ1割を超え、特に65歳以上で高い傾向にある。

30歳代までは、「5年未満」が18~29歳(56.5%)・30歳代(56.7%)と5割台半ばを超えて高くなっている。(図1-1-3)

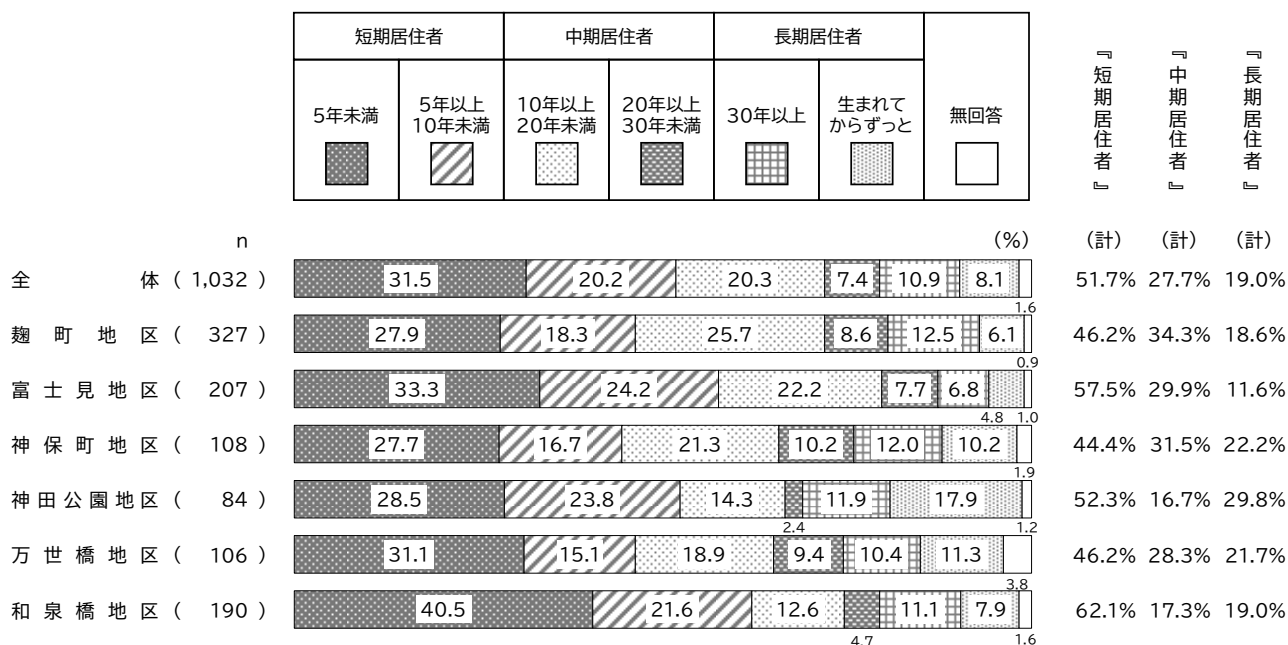
図1-1-3 居住年数(年代別)



地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区（62.1%）で、『中期居住者』は麴町地区（34.3%）で、『長期居住者』は神田公園地区（29.8%）で、それぞれ高い割合となっている。

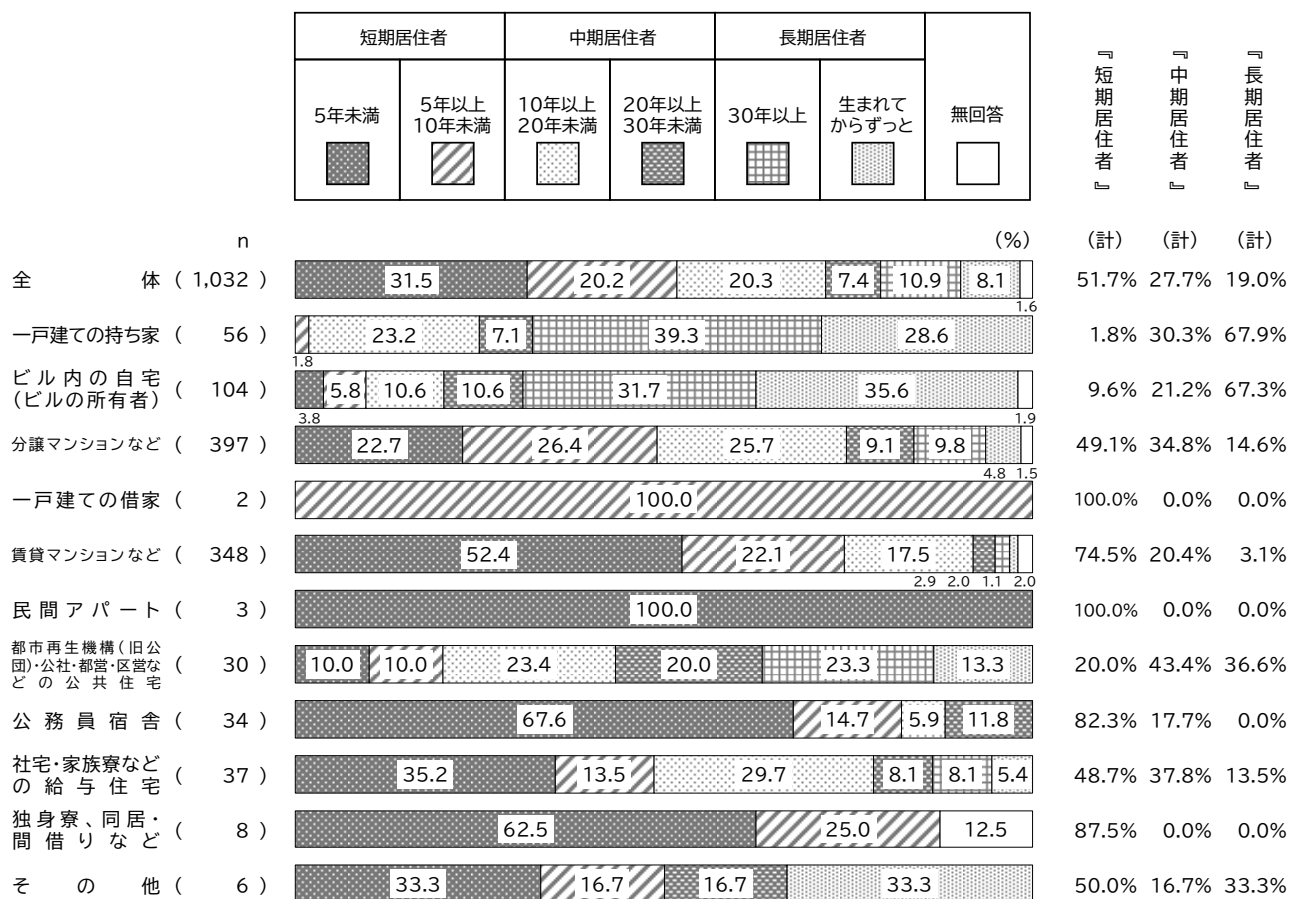
回答順位をみると、神田公園地区・和泉橋地区は、『短期居住者』>『長期居住者』>『中期居住者』の順に高くなっており、その他の地区は、『短期居住者』>『中期居住者』>『長期居住者』の順に高くなっている。（図1-1-4）

図1-1-4 居住年数（地区別）



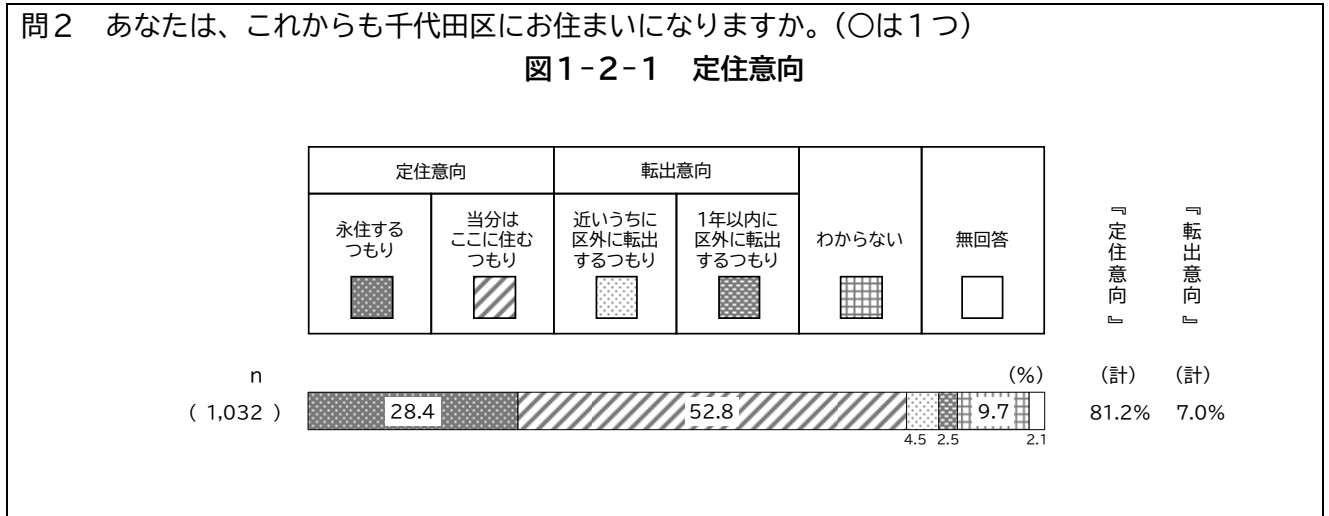
住居形態別にみると、『短期居住者』は公務員宿舎（82.3%）で、『中期居住者』は都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅（43.4%）で、『長期居住者』は一戸建ての持ち家（67.9%）・ビル内の自宅（ビルの所有者）（67.3%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-5）

図1-1-5 居住年数（住居形態別）



(2) 定住意向

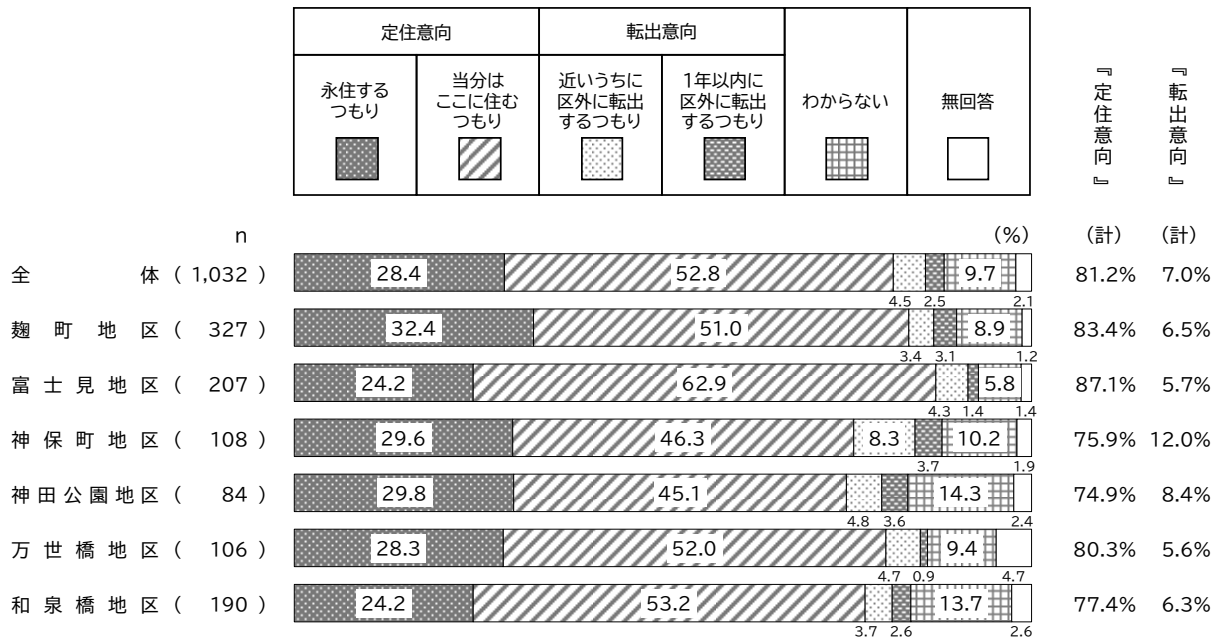
◇「永住するつもり」と「当分はここに住むつもり」を合わせた『定住意向』が8割強



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(52.8%)が5割強と最も高く、これに「永住するつもり」(28.4%)を合わせた『定住意向』(81.2%)は8割強となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.5%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.5%)を合わせた『転出意向』(7.0%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

地区別にみると、『定住意向』は富士見地区(87.1%)で8割台半ばを超えて高くなっている。『転出意向』は神保町地区(12.0%)のみが1割を超えている。(図1-2-2)

図1-2-2 定住意向(地区別)



経年比較をみると、『定住意向』(81.2%)は令和2年(80.8%)から0.4ポイント増加している。一方、『転出意向』(7.0%)は令和2年(7.3%)から0.3ポイント減少している。「永住するつもり」は令和元年(32.0%)から令和2年(28.4%)にかけて3.6ポイント減少し、令和2年(28.4%)から令和3年(28.4%)にかけては変化がみられない。(図1-2-3)

図1-2-3 定住意向(経年比較)

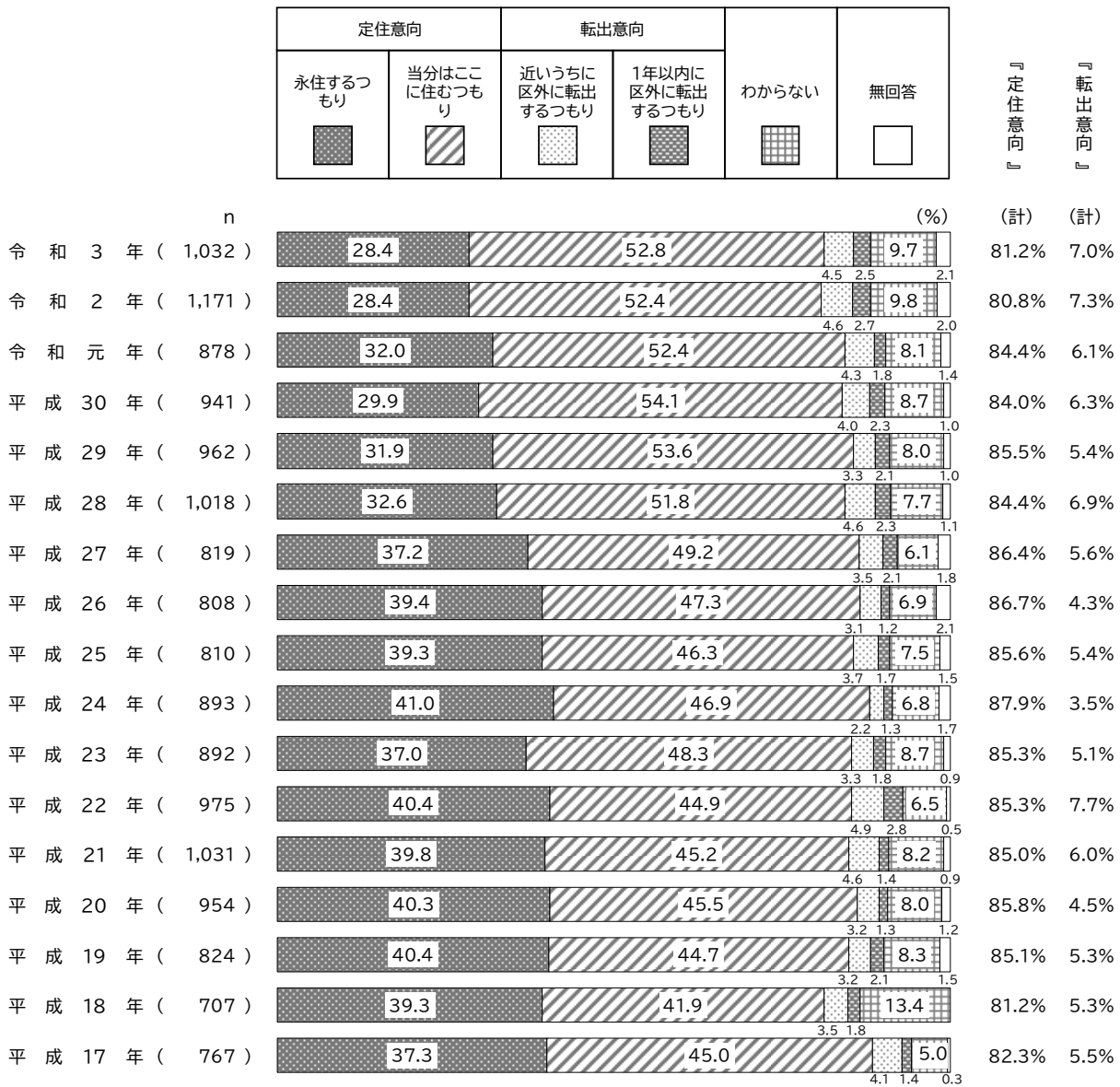
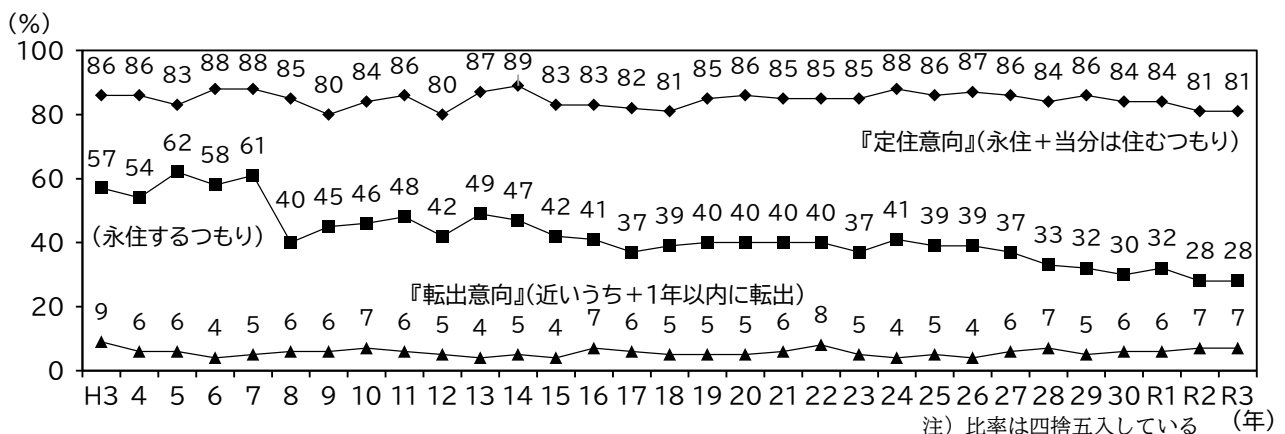
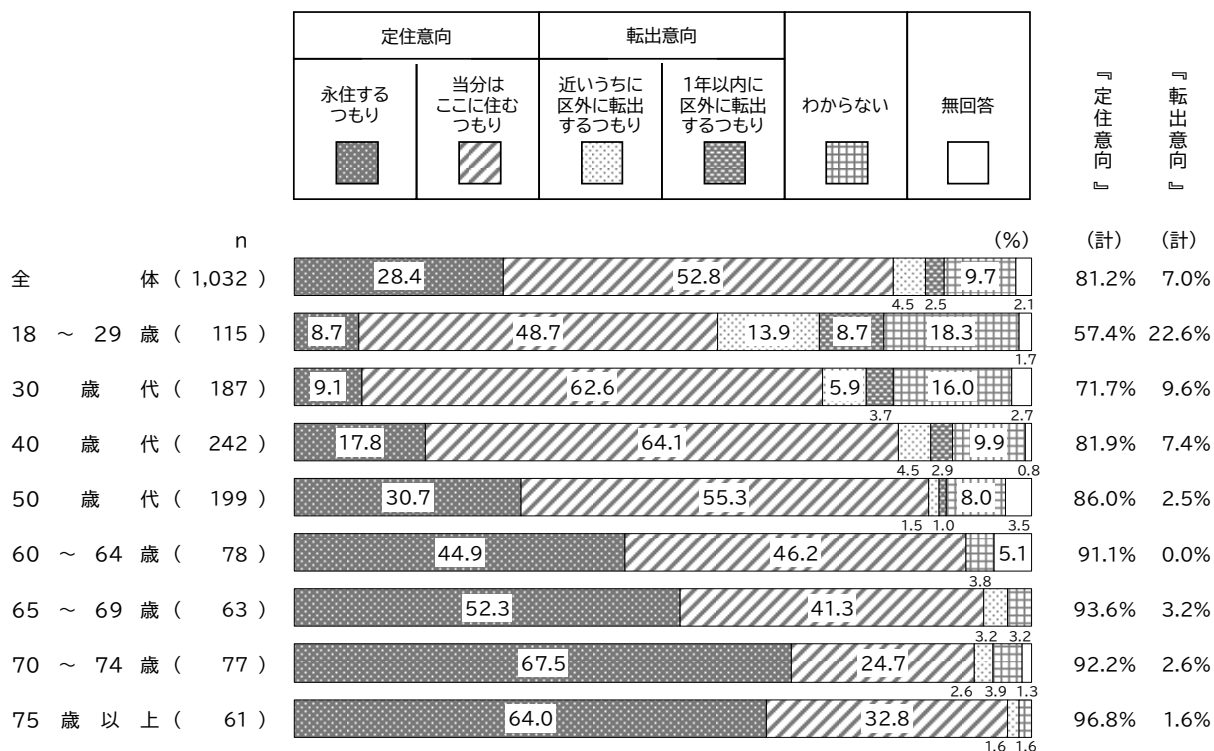


図1-2-4 定住意向(経年比較)



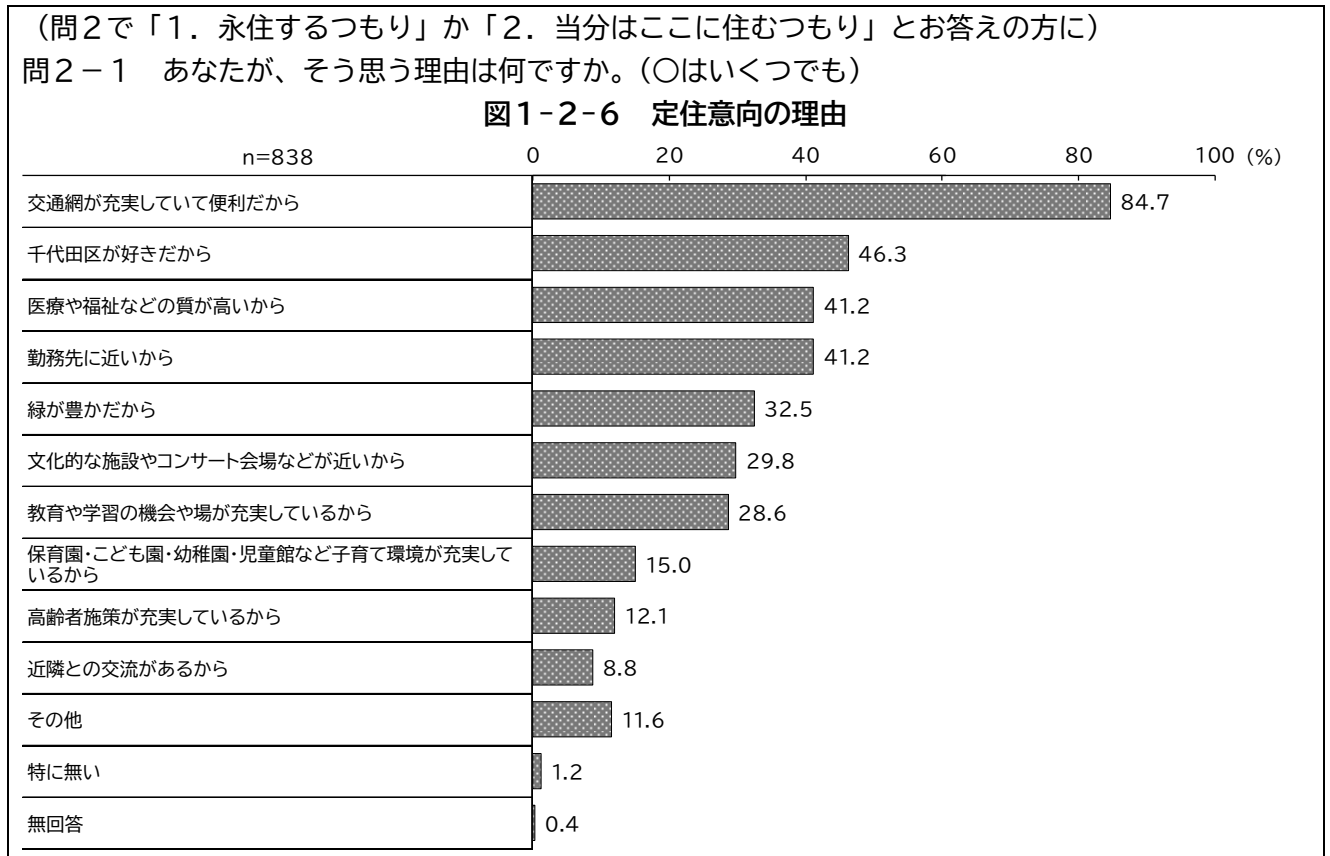
年代別にみると、「永住するつもり」はおおむね年代が上がるほど割合が増加する傾向がある。また、『定住意向』は75歳以上（96.8%）で、『転出意向』は18～29歳（22.6%）で、それぞれ高い割合となっている。『転出意向』は18～29歳（22.6%）から30歳代（9.6%）にかけて13.0ポイントと大きく減少し、それ以降の年代ではいずれも1割未満となっている。（図1-2-5）

図1-2-5 定住意向（年代別）



(2-1) 定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が8割台半ば近く



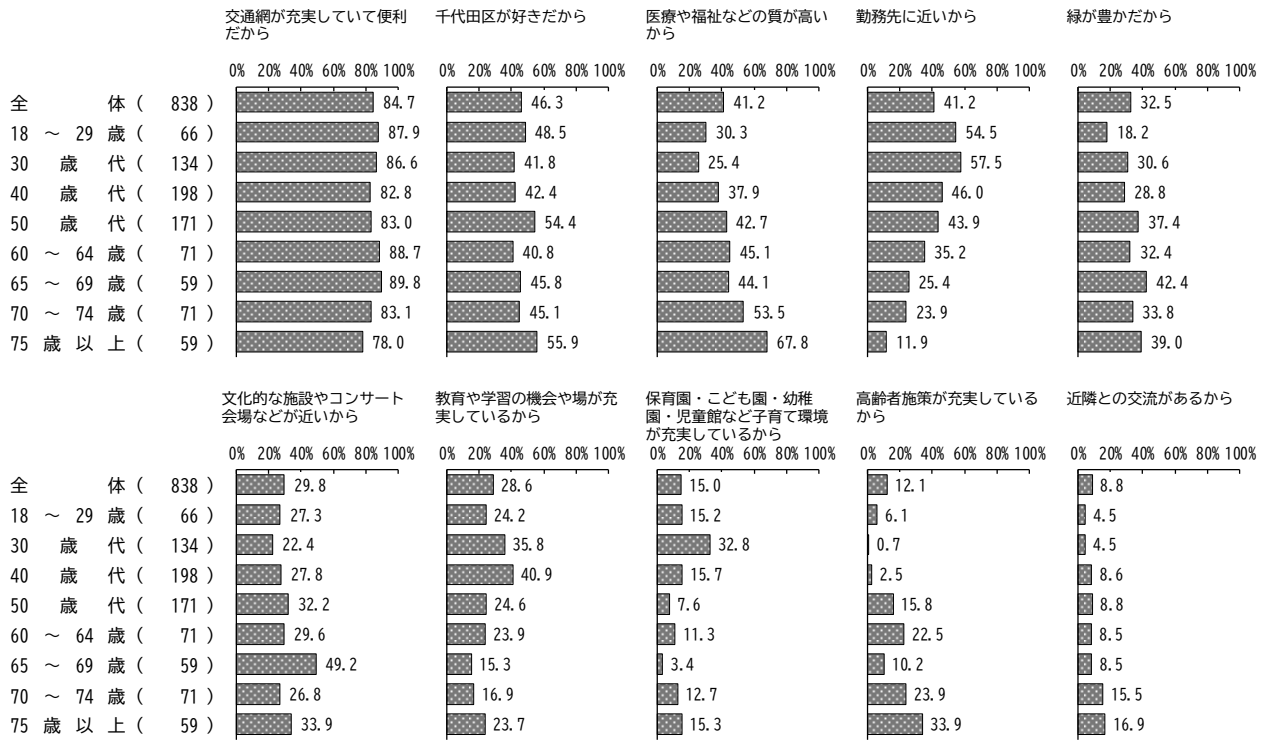
定住意向で「永住するつもり」か「当分はここに住むつもり」とお答えの方に、定住意向の理由について聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.7%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで、「千代田区が好きだから」(46.3%)、「医療や福祉などの質が高いから」(41.2%)、「勤務先に近いから」(41.2%)が4割台となっている。

平成28年調査と比較すると、「千代田区が好きだから」と「緑が豊かだから」は増加傾向にある。「千代田区が好きだから」は平成28年(38.2%)から令和3年(46.3%)にかけて8.1ポイント増加している。同様に、「緑が豊かだから」は平成28年(24.3%)から令和3年(32.5%)にかけて8.2ポイント増加している。これらは、平成28年以降で過去最高となっている。一方で、「近隣との交流があるから」は平成28年(12.6%)から令和3年(8.8%)にかけて3.8ポイント減少しており、平成28年以降で過去最低となっている。(図1-2-6)

年代別にみると、「医療や福祉などの質が高いから」は75歳以上(67.8%)で6割台半ばを超えて高い割合となっている。「勤務先に近いから」は30歳代(57.5%)で5割台半ばを超えて高くなっている。また、「緑が豊かだから」は65～69歳(42.4%)で4割強と高くなっている。

「千代田区が好きだから」は75歳以上(55.9%)・50歳代(54.4%)が5割を超えて、他の年代を上回っている。(図1-2-7)

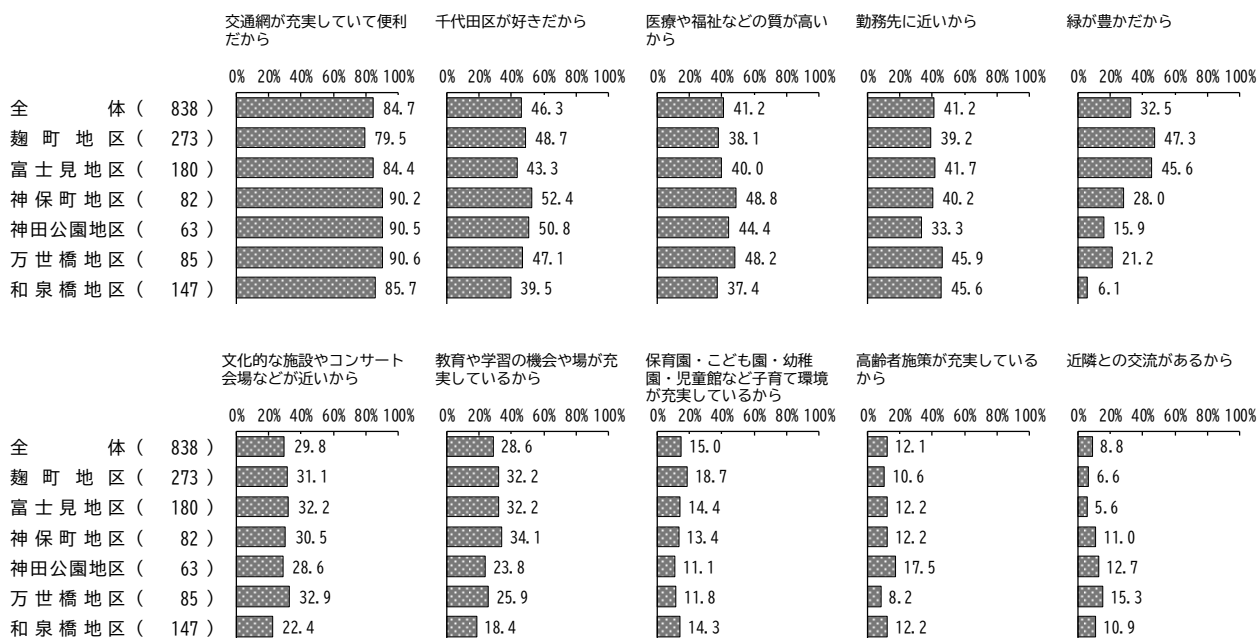
図1-2-7 定住意向の理由(年代別) 上位10項目



地区別にみると、「千代田区が好きだから」は神保町地区(52.4%)で5割強と高くなっている。「医療や福祉などの質が高いから」は神保町地区(48.8%)・万世橋地区(48.2%)でそれぞれ5割近くと高くなっている。また、「緑が豊かだから」は麴町地区(47.3%)で4割台半ばを超えて高い割合になっている。

「図1-2-2 定住意向(地区別)」において、『転出意向』が1割を超えていた神保町地区(12.0%)で、「千代田区が好きだから」(52.4%)が最も高くなっている。(図1-2-8)

図1-2-8 定住意向の理由(地区別) 上位10項目



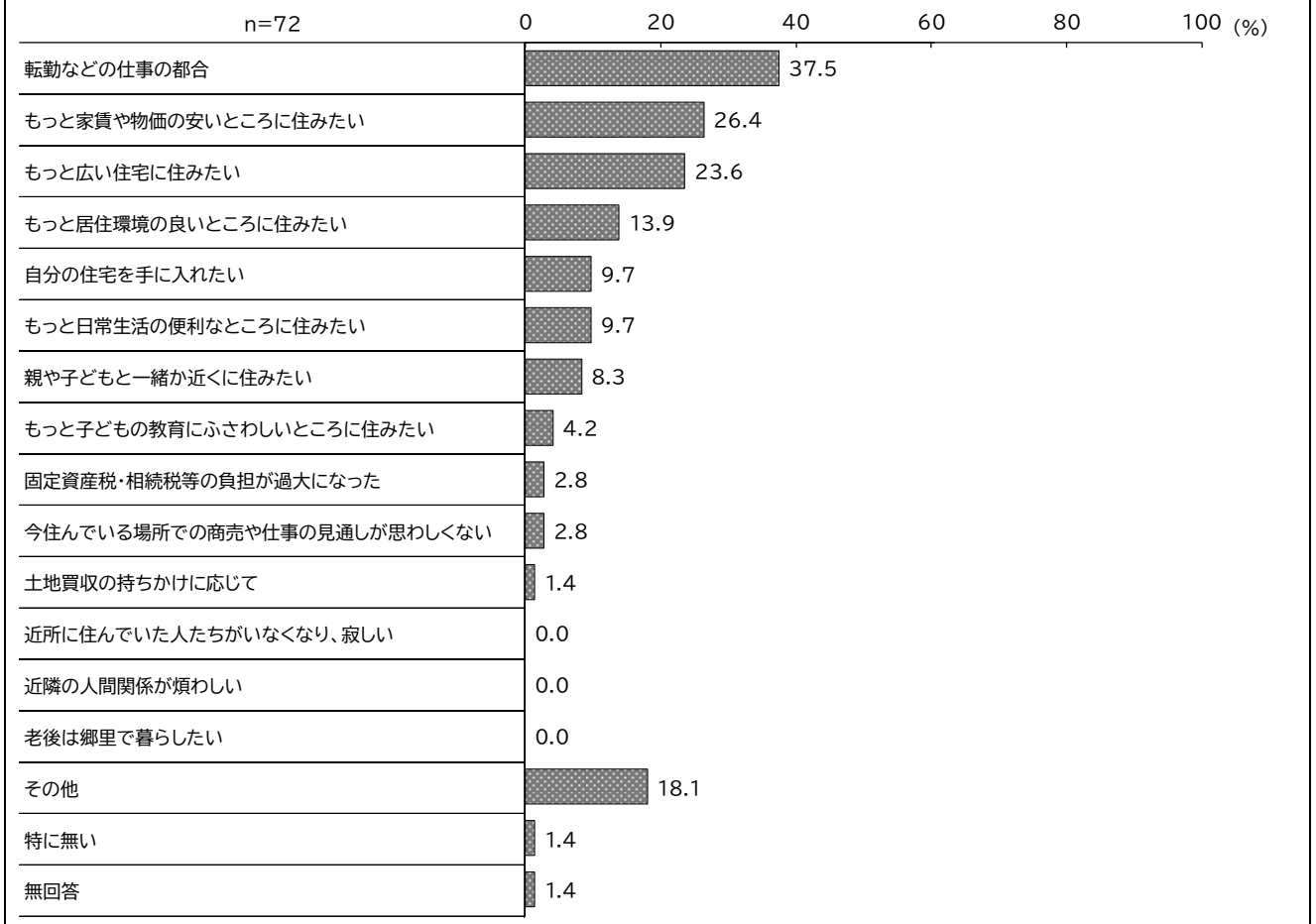
(2-2) 転出意向の理由

◇「転勤などの仕事の都合」が3割台半ばを超える

(問2で「3. 近いうちに区外に転出するつもり」か「4. 1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に)

問2-2 あなたが、そう思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-2-9 転出意向の理由



定住意向で「近いうちに区外に転出するつもり」か「1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に、転出意向の理由について聞いたところ、「転勤などの仕事の都合」(37.5%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(26.4%)、「もっと広い住宅に住みたい」(23.6%)が2割台となっている。(図1-2-9)

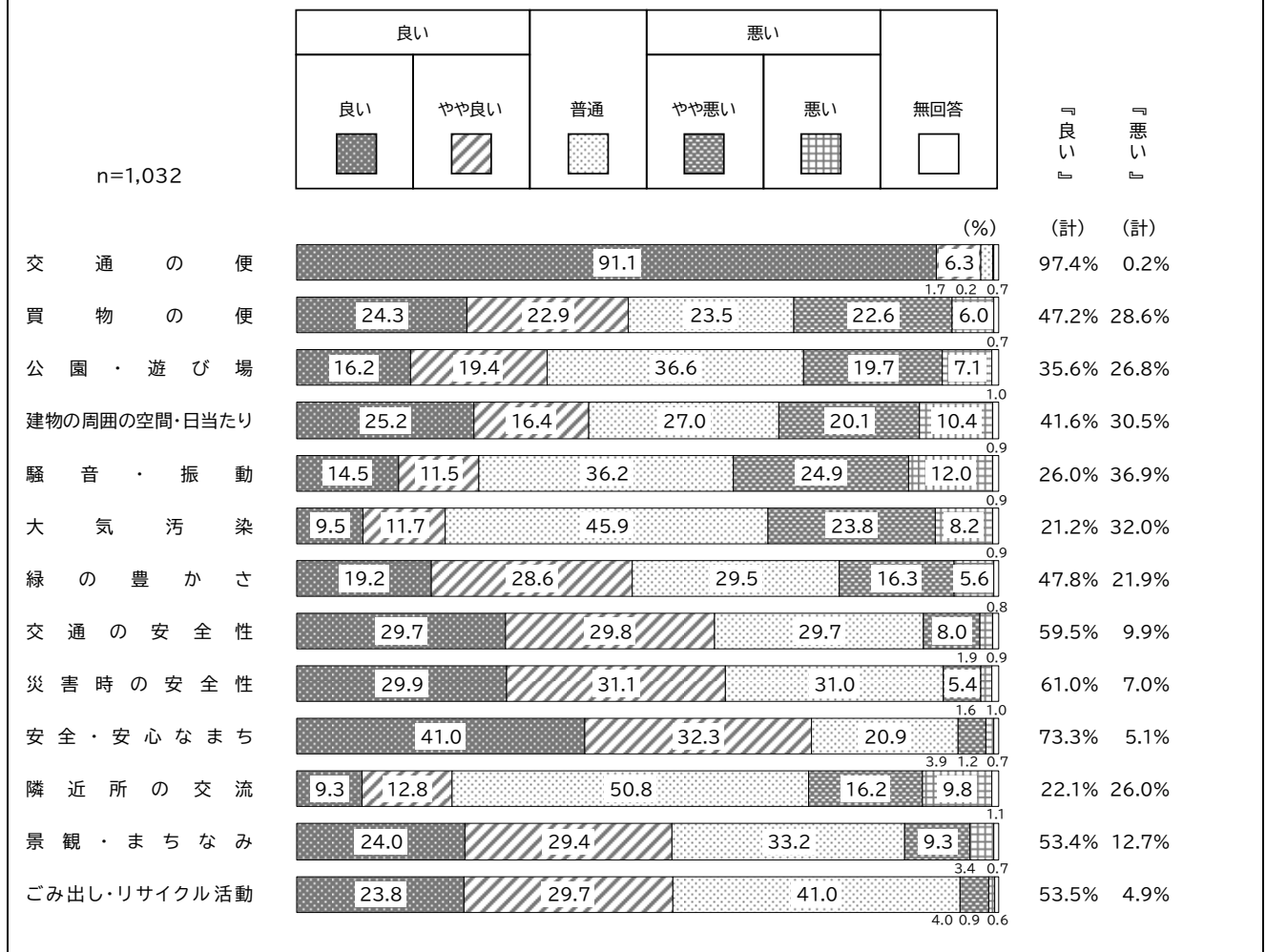
2. 居住環境評価

(1) 周辺の生活環境評価

◇「良い」は“交通の便”で9割強、「悪い」は“騒音・振動”で1割強

問3 あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。各項目ごとに5段階で評価してください。(〇はそれぞれに1つ)

図2-1-1 周辺の生活環境評価



周辺の生活環境評価について聞いたところ、「良い」が最も高い項目は、「交通の便」(91.1%)で9割強となっている。「悪い」が最も高い項目は「騒音・振動」(12.0%)で1割強となっている。

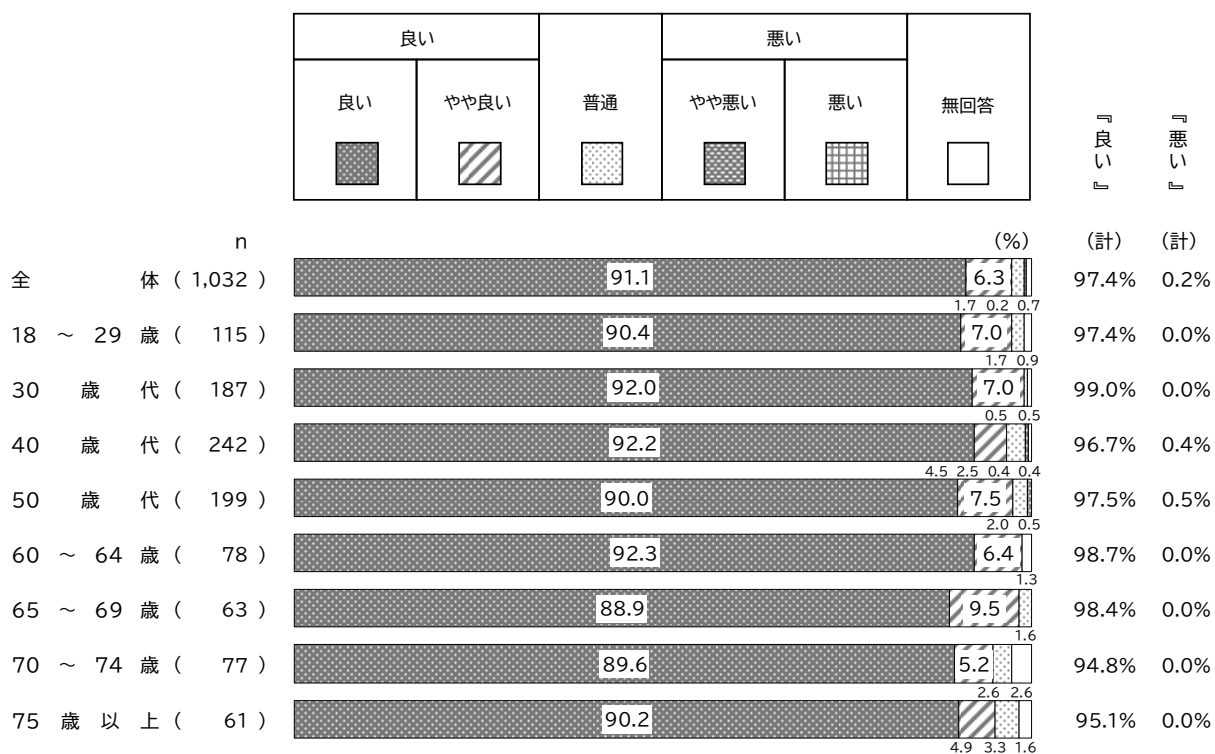
(図2-1-1)

「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位5項目を以下に表した。

『良い』上位5項目			『悪い』上位5項目		
1	交通の便	97.4%	1	騒音・振動	36.9%
2	安全・安心なまち	73.3%	2	大気汚染	32.0%
3	災害時の安全性	61.0%	3	建物の周囲の空間・日当たり	30.5%
4	交通の安全性	59.5%	4	買物の便	28.6%
5	ごみ出し・リサイクル活動	53.5%	5	公園・遊び場	26.8%

“交通の便”について年代別にみると、『良い』は30歳代（99.0%）で10割弱と最も高くなっている。（図2-1-2）

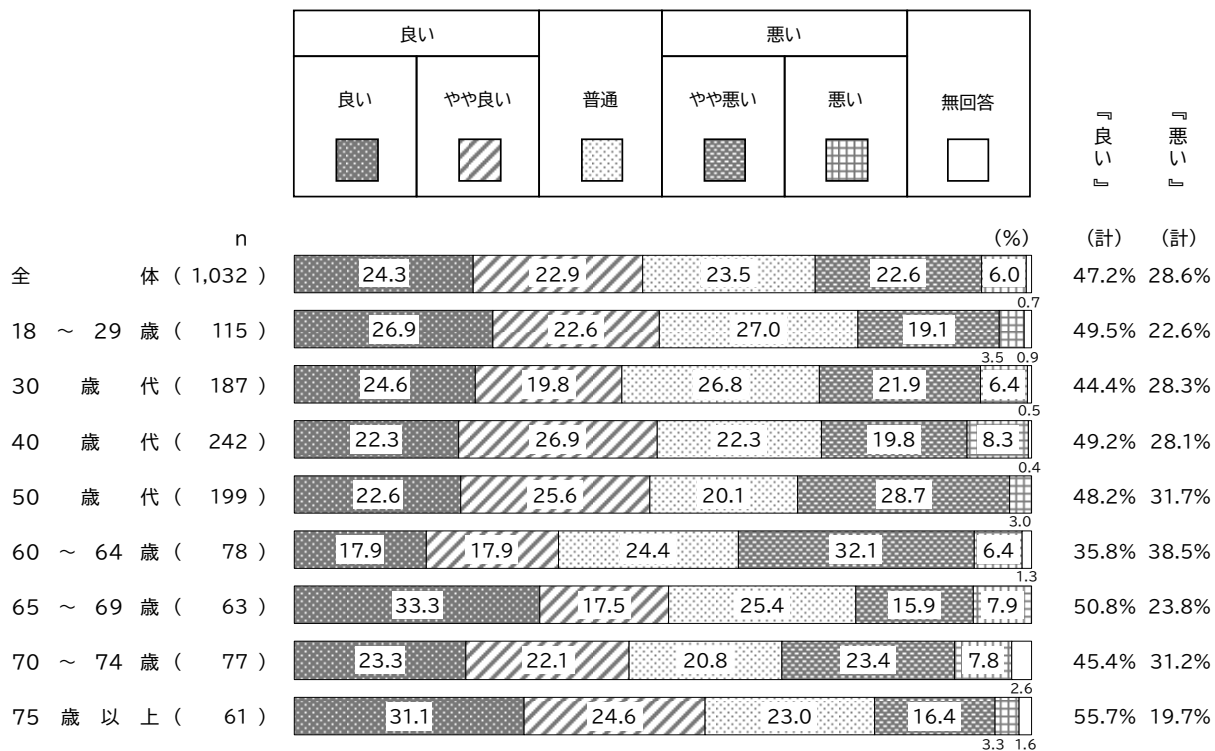
図2-1-2 周辺の生活環境評価 1. 交通の便（年代別）



“買物の便”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（55.7%）で5割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』は60～64歳（38.5%）で4割近くとなっている。

60～64歳のみで『悪い』（38.5%）が『良い』（35.8%）を上回っている。（図2-1-3）

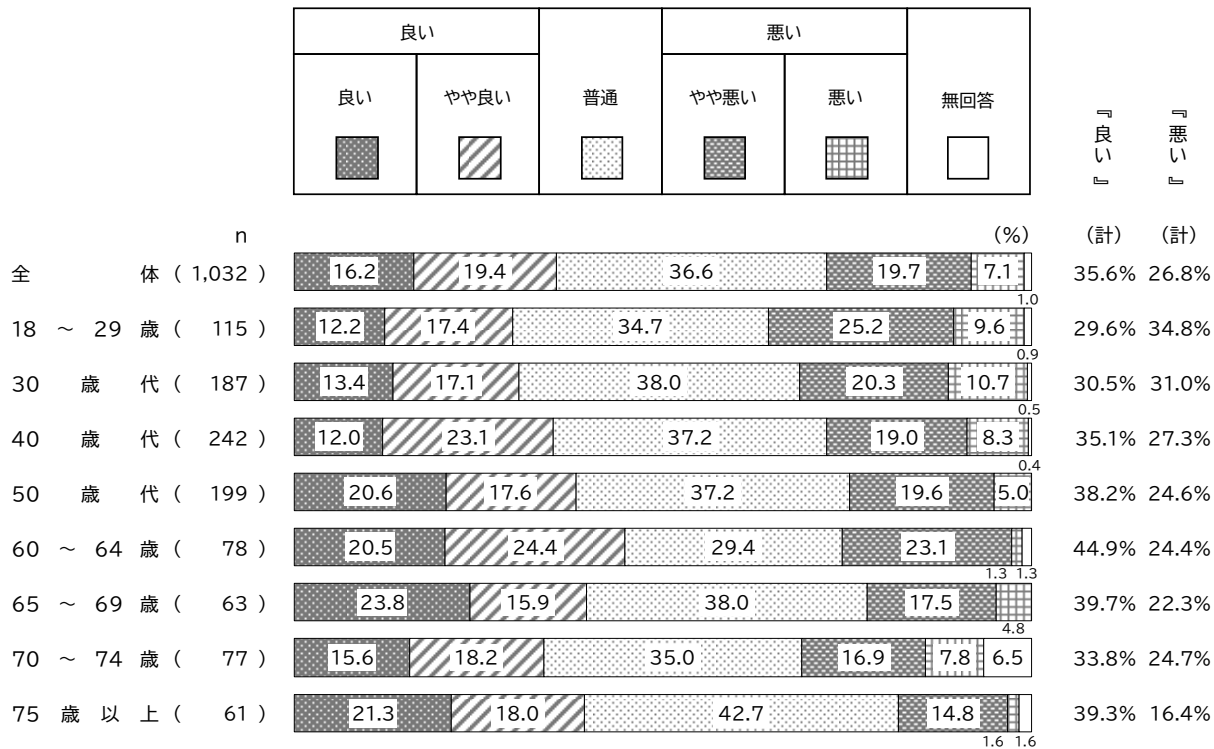
図2-1-3 周辺の生活環境評価 2. 買物の便（年代別）



“公園・遊び場”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（44.9%）で4割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（34.8%）で3割台半ば近くと高くなっている。

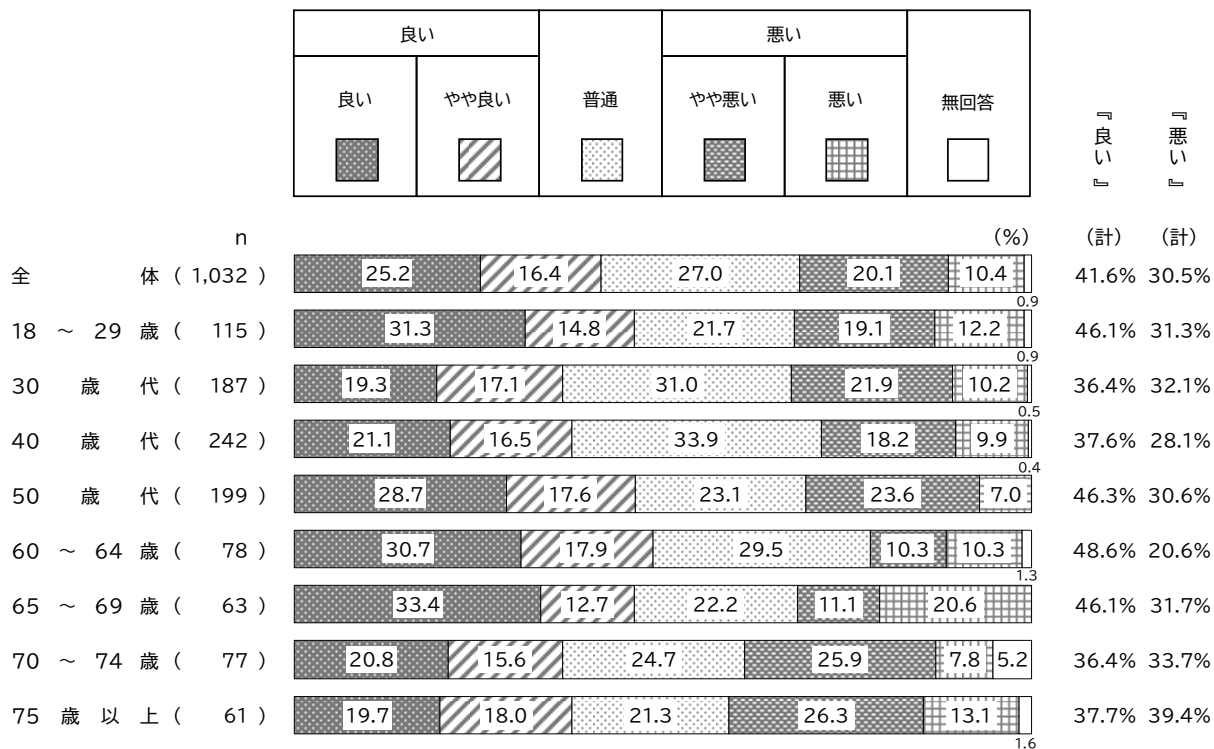
30歳代までは『悪い』が『良い』を上回り、40歳代以降は逆転している。（図2-1-4）

図2-1-4 周辺の生活環境評価 3. 公園・遊び場（年代別）



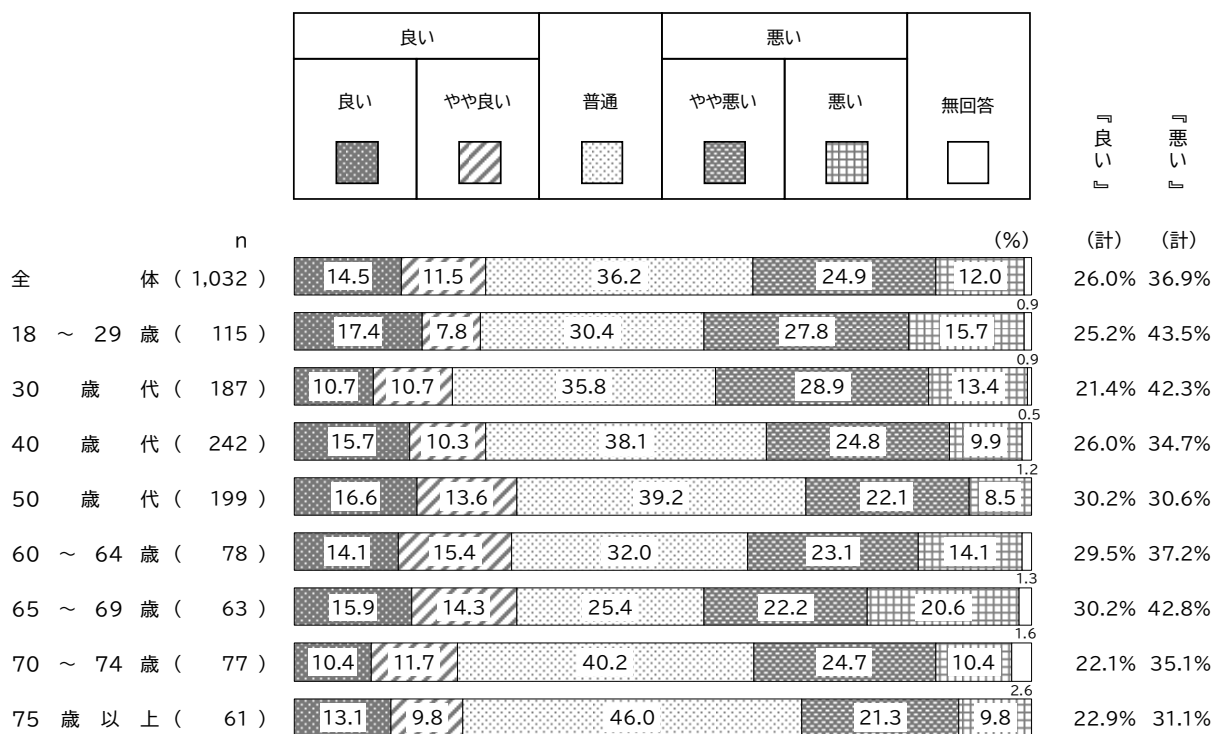
“建物の周囲の空間・日当たり”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（48.6%）で5割近くと高くなっている。一方、『悪い』は75歳以上（39.4%）で4割弱と高くなっている。75歳以上のみで『悪い』（39.4%）が『良い』（37.7%）を上回っている。（図2-1-5）

図2-1-5 周辺の生活環境評価 4. 建物の周囲の空間・日当たり（年代別）



“騒音・振動”について年代別にみると、『良い』は50歳代・65～69歳（ともに30.2%）で約3割とそれぞれ高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（43.5%）で4割台半ば近くと高くなっている。全ての年代で『悪い』が『良い』を上回っている。（図2-1-6）

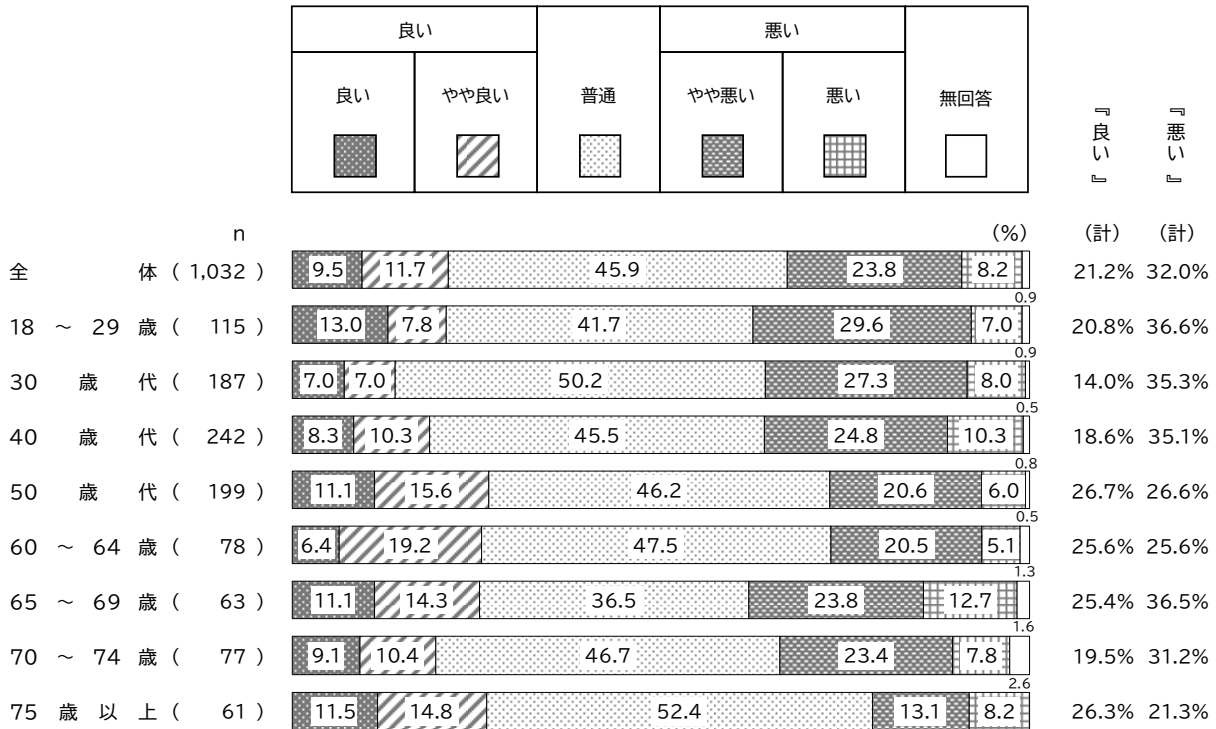
図2-1-6 周辺の生活環境評価 5. 騒音・振動（年代別）



“大気汚染”について年代別にみると、『良い』は50歳代(26.7%)・75歳以上(26.3%)で2割台半ばを超えて高くなっている。一方、『悪い』は18~29歳(36.6%)・65~69歳(36.5%)で3割台半ばを超えて高くなっている。

30歳代で『悪い』(35.3%)が『良い』(14.0%)の2.5倍以上となり、21.3ポイントの差が開いている。(図2-1-7)

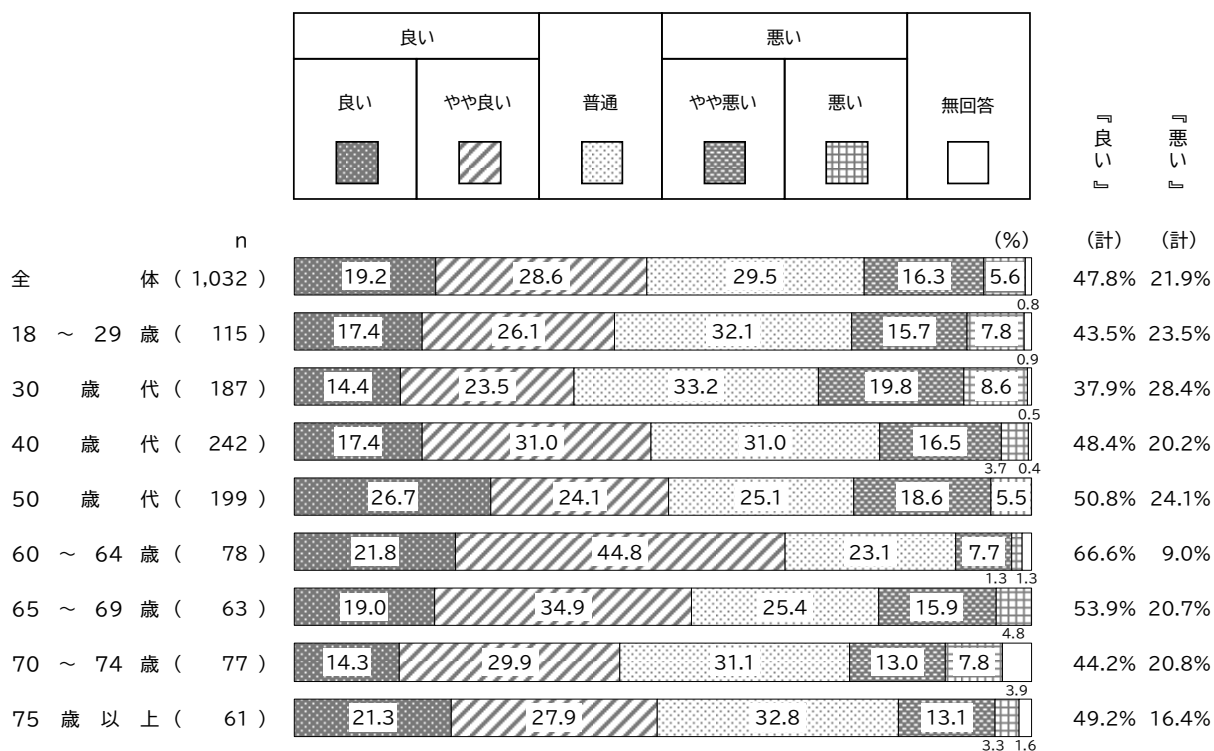
図2-1-7 周辺の生活環境評価 6. 大気汚染 (年代別)



“緑の豊かさ”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（66.6%）で6割台半ばを超えて高くなっている。一方、『悪い』は30歳代（28.4%）で3割近くと高くなっている。

『良い』が最も高い60～64歳（66.6%）と最も低い30歳代（37.9%）では、28.7ポイントの差が開いている。（図2-1-8）

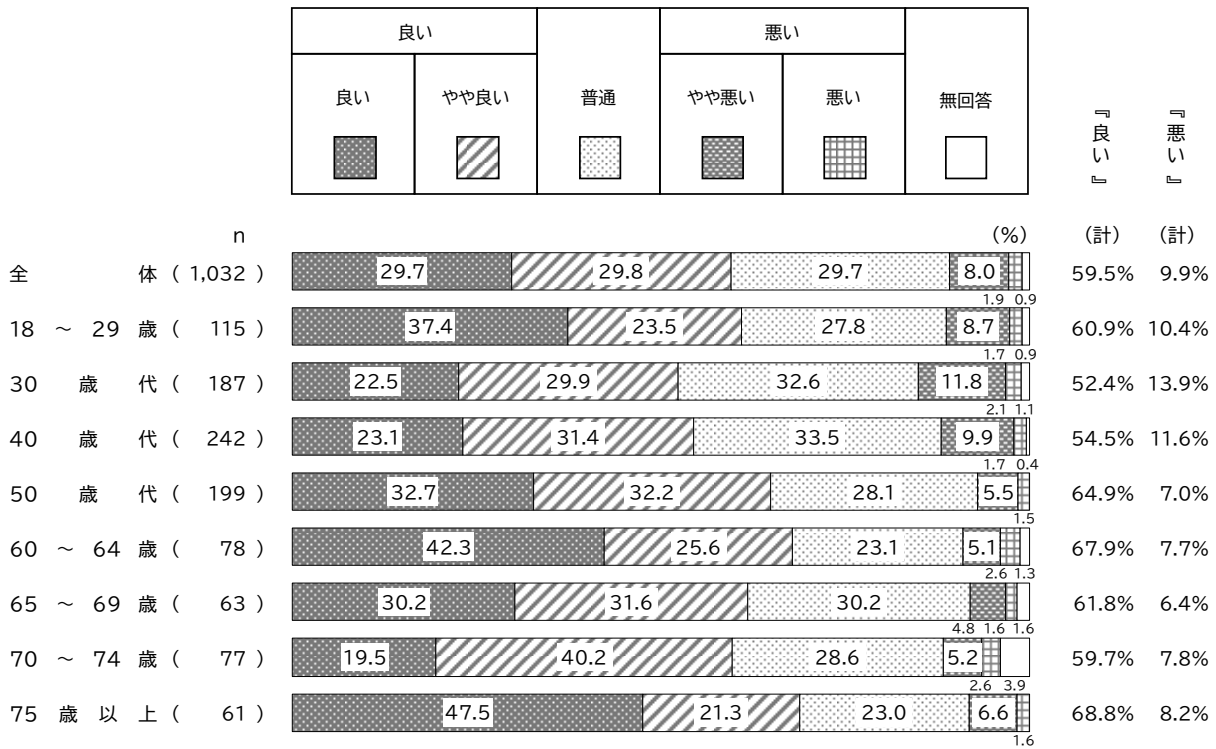
図2-1-8 周辺の生活環境評価 7. 緑の豊かさ（年代別）



“交通の安全性”について年代別にみると、『良い』は75歳以上(68.8%)で7割近くと高くなっている。一方、『悪い』は30歳代(13.9%)で1割台半ば近くと高くなっている。

全ての年代で『良い』が『悪い』を大きく上回っている。40歳代までは『悪い』が1割を超えており、他の年代よりもわずかに高くなっている。(図2-1-9)

図2-1-9 周辺の生活環境評価 8. 交通の安全性(年代別)



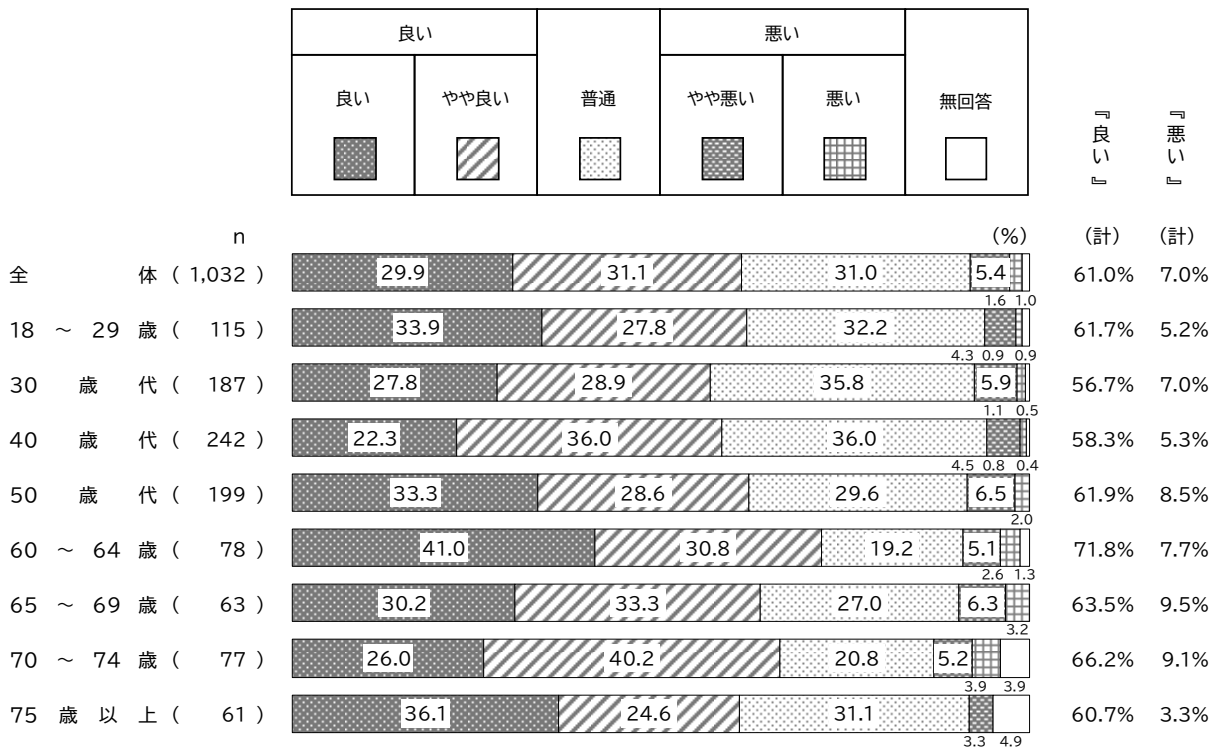
“災害時の安全性”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（71.8%）で7割強と高くなっている。一方、『悪い』は65～69歳（9.5%）・70～74歳（9.1%）で1割弱とそれぞれ高くなっている。

全ての年代で『良い』が『悪い』を大きく上回っており、『悪い』は75歳以上（3.3%）で最も低くなっている。

平成28年調査と比較すると、周辺の生活環境評価は“災害時の安全性”のみで『良い』が10ポイント以上増加し、平成28年（50.9%）から令和3年（61.0%）にかけて10.1ポイント増加した。

（図2-1-10）

図2-1-10 周辺の生活環境評価 9. 災害時の安全性（年代別）

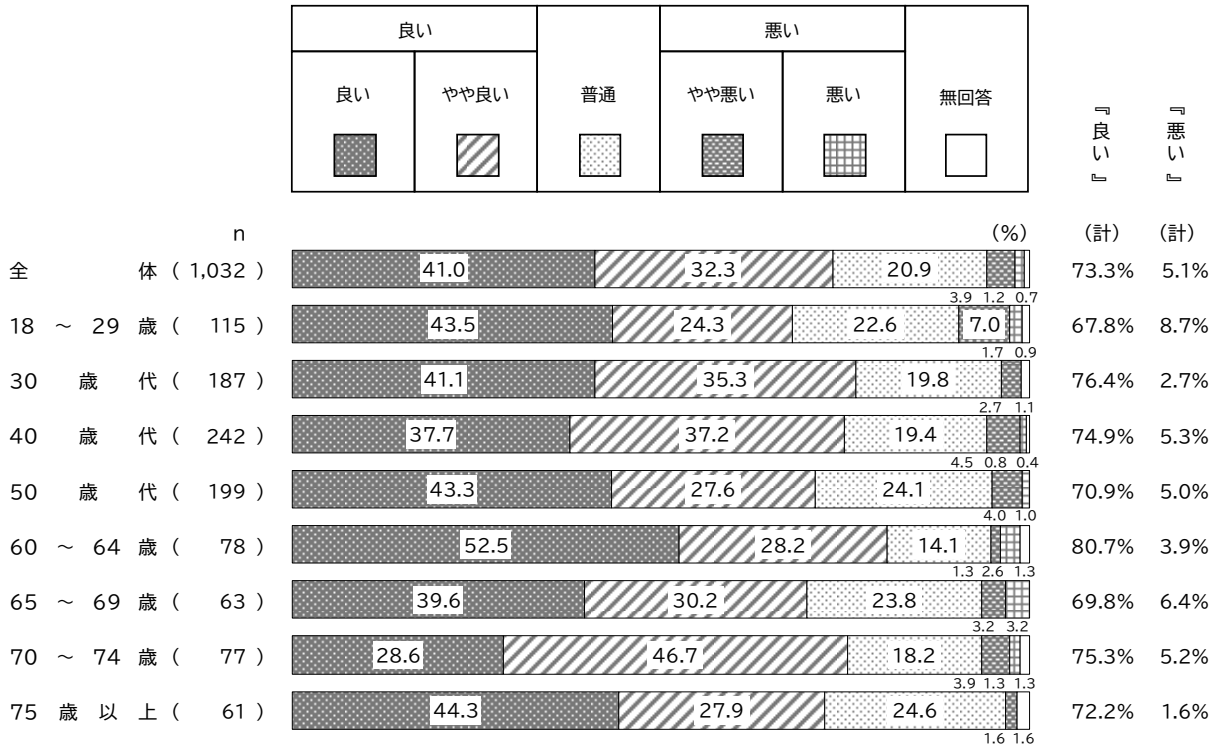


“安全・安心なまち”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（80.7%）で約8割と高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（8.7%）が1割近くとなっている。

全ての年代で『良い』が『悪い』を大きく上回っており、「図2-1-10 周辺の生活環境評価 9. 災害時の安全性（年代別）」と同様に『悪い』は75歳以上（1.6%）で最も低くなっている。

(図2-1-11)

図2-1-11 周辺の生活環境評価 10. 安全・安心なまち（年代別）



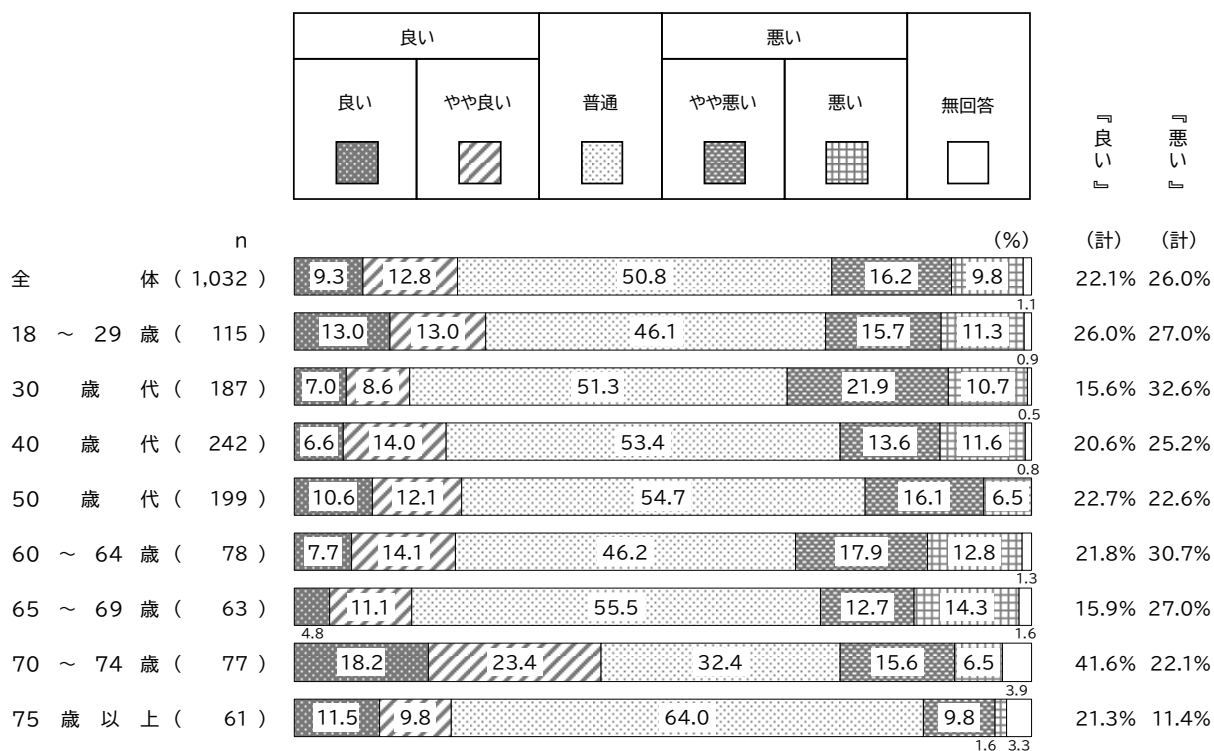
“隣近所の交流”について年代別にみると、『良い』は70～74歳（41.6%）で4割強と高くなっている。一方、『悪い』は30歳代（32.6%）で3割強と高くなっている。

『良い』が『悪い』を上回った年代は、50歳代・70～74歳・75歳以上となっている。また、『良い』が最も高い70～74歳（41.6%）と最も低い30歳代（15.6%）では、26.0ポイントの差が開いている。

平成28年調査と比較すると、周辺的生活環境評価は“隣近所の交流”のみで『良い』が減少し、平成28年（23.0%）から令和3年（22.1%）にかけてわずかに0.9ポイント減少している。

（図2-1-12）

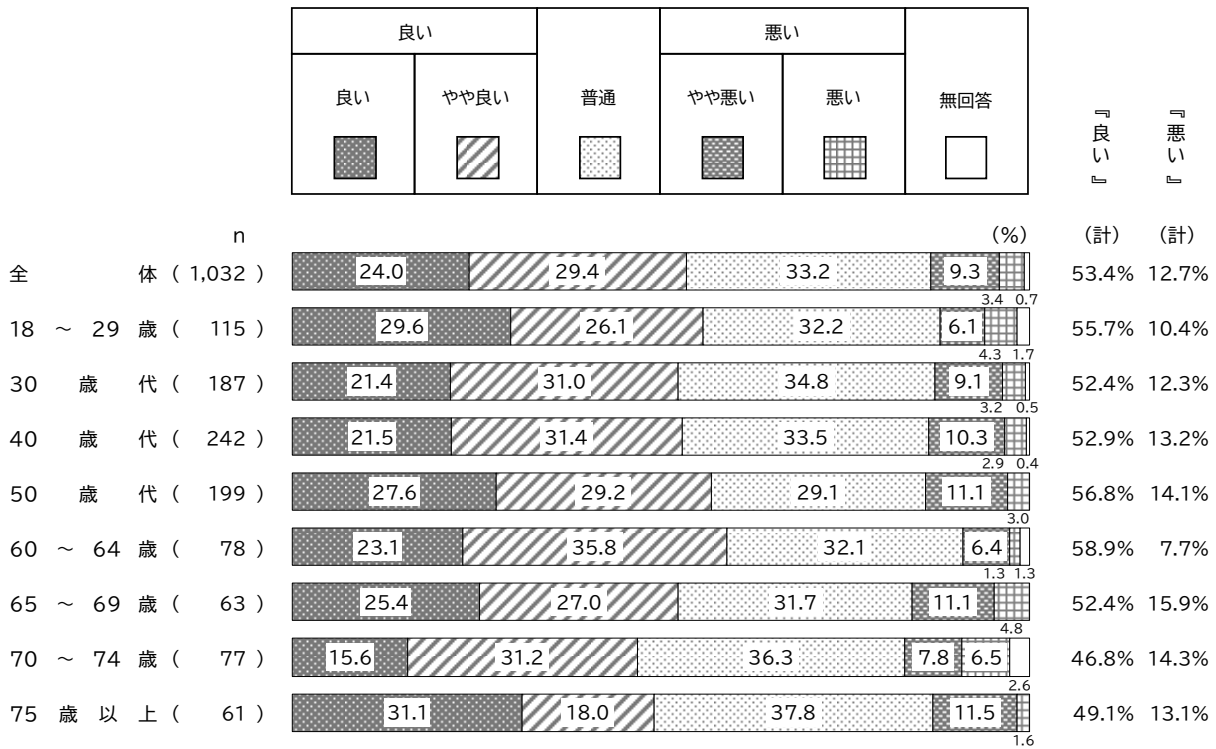
図2-1-12 周辺的生活環境評価 11. 隣近所の交流（年代別）



“景観・まちなみ”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（58.9%）で6割近くと高くなっている。一方、『悪い』は65～69歳（15.9%）で1割台半ばと高くなっている。

全ての年代で『良い』が『悪い』を大きく上回っている。『悪い』が最も低いのは60～64歳（7.7%）で、唯一1割未満となっている。（図2-1-13）

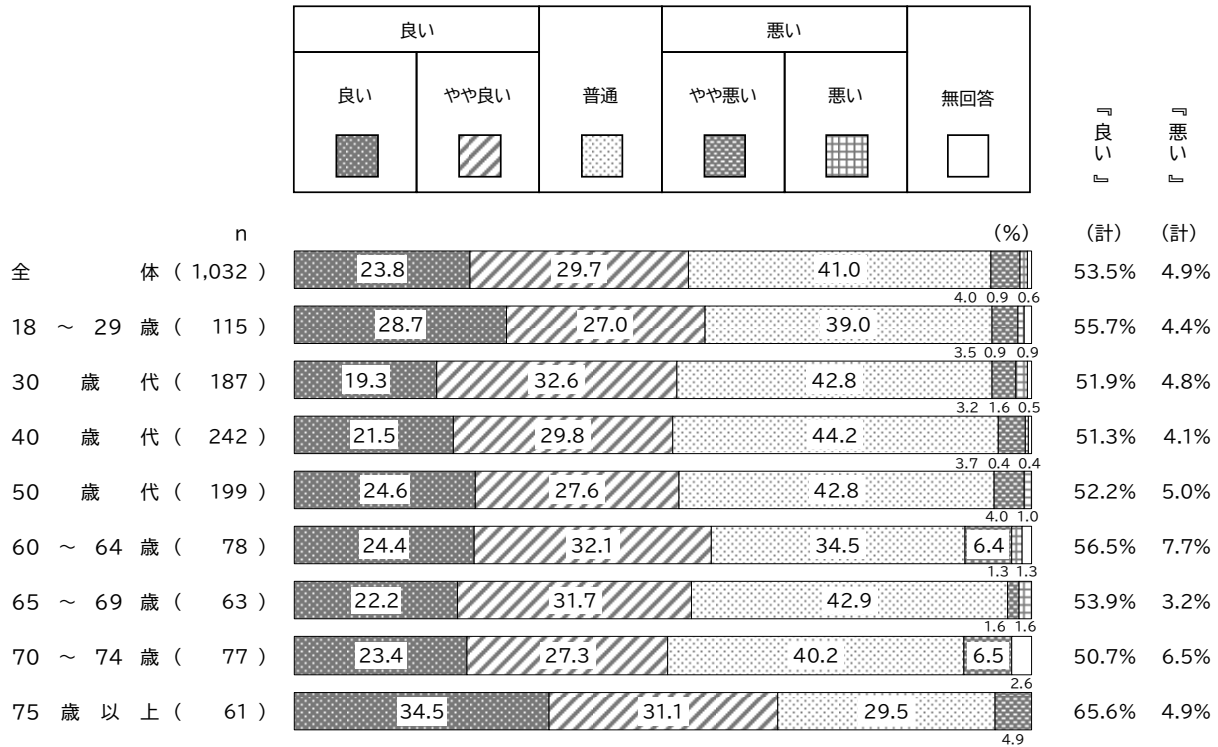
図2-1-13 周辺の生活環境評価 12. 景観・まちなみ（年代別）



“ごみ出し・リサイクル活動”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（65.6%）で6割台半ばと高くなっている。

全ての年代で『良い』が『悪い』を大きく上回っている。（図2-1-14）

図2-1-14 周辺の生活環境評価 13. ごみ出し・リサイクル活動（年代別）



◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については0点として扱った。

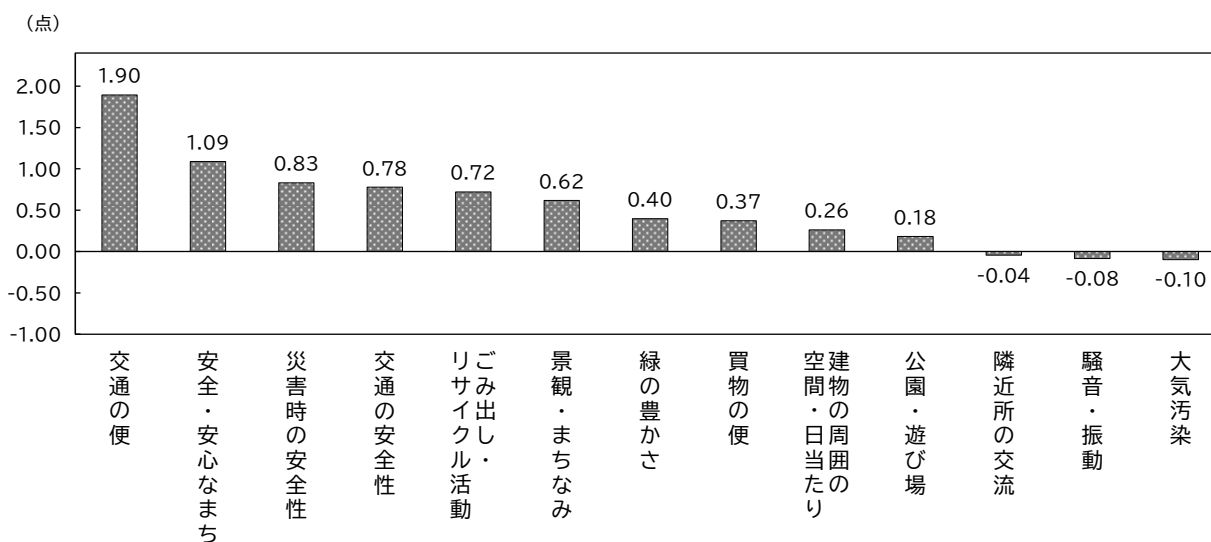
$$\text{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

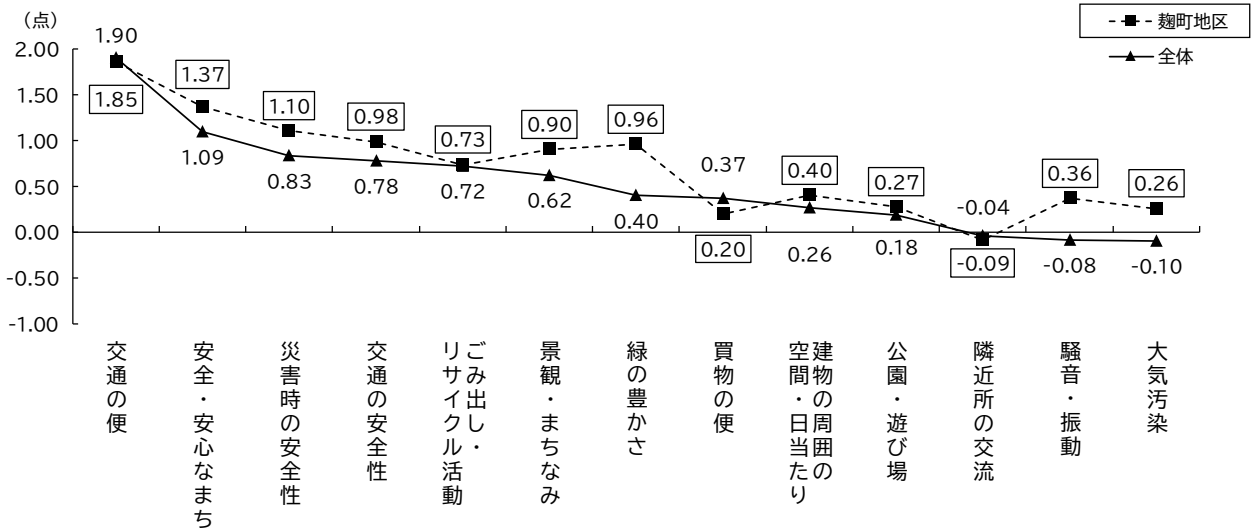
結果をみると、最もプラス評価が高いのが“交通の便” (1.90) で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは“安全・安心なまち” (1.09)、“災害時の安全性” (0.83)、“交通の安全性” (0.78)、“ごみ出し・リサイクル活動” (0.72)、“景観・まちなみ” (0.62)、“緑の豊かさ” (0.40)、“買物の便” (0.37)、“建物の周囲の空間・日当たり” (0.26)、“公園・遊び場” (0.18) の計10項目である。一方、マイナス評価が最も高いのは“大気汚染” (-0.10) となっており、次いで“騒音・振動” (-0.08)、“隣近所の交流” (-0.04) の順となっている。(図2-1-15)

図2-1-15 周辺の生活環境評価 加重平均



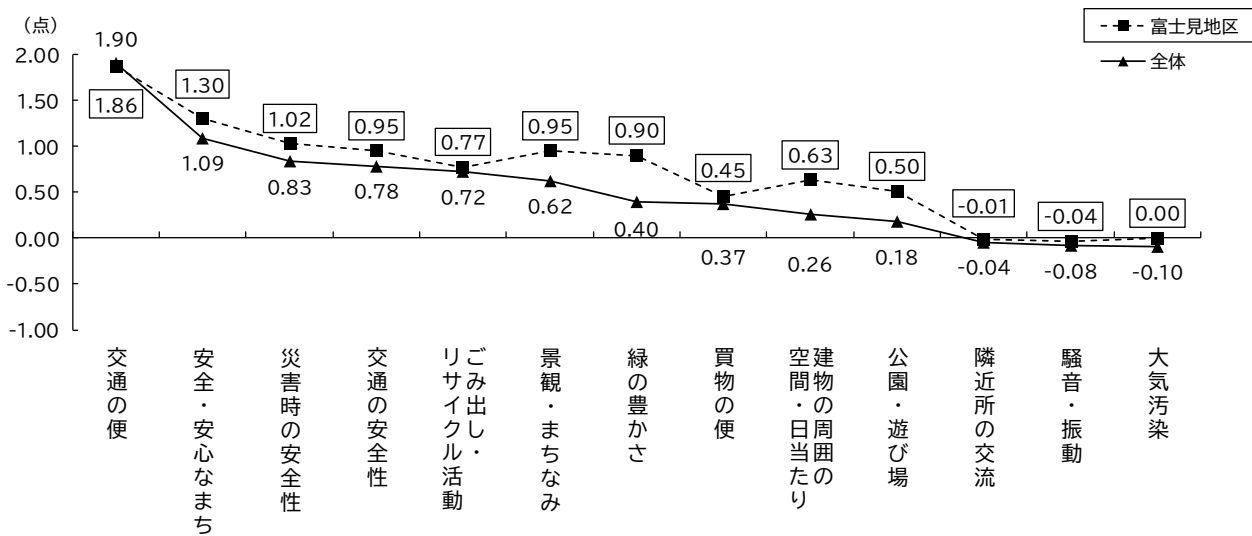
麴町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は10項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.56点差)、“騒音・振動”(0.44点差)、“大気汚染”(0.36点差)などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“買物の便”(0.17点差)、“交通の便”(0.05点差)、“隣近所の交流”(0.05点差)の3項目となっている。(図2-1-16)

図2-1-16 周辺の生活環境評価 加重平均(麴町地区)



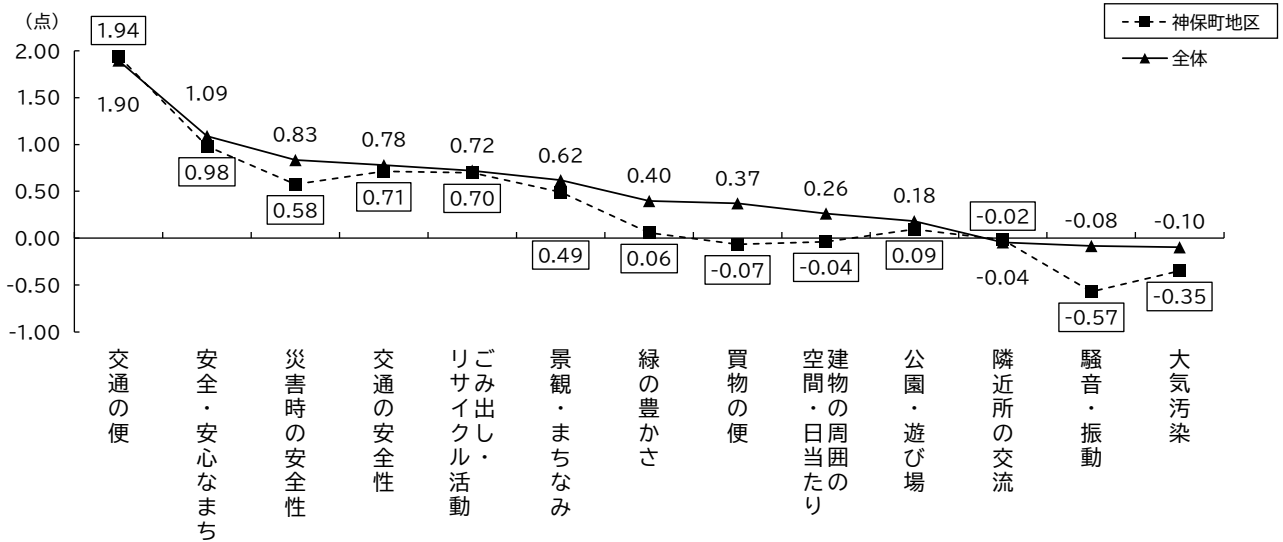
富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は12項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.50点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.37点差)、“景観・まちなみ”(0.33点差)、“公園・遊び場”(0.32点差)などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“交通の便”(0.04点差)の1項目となっている。(図2-1-17)

図2-1-17 周辺の生活環境評価 加重平均(富士見地区)



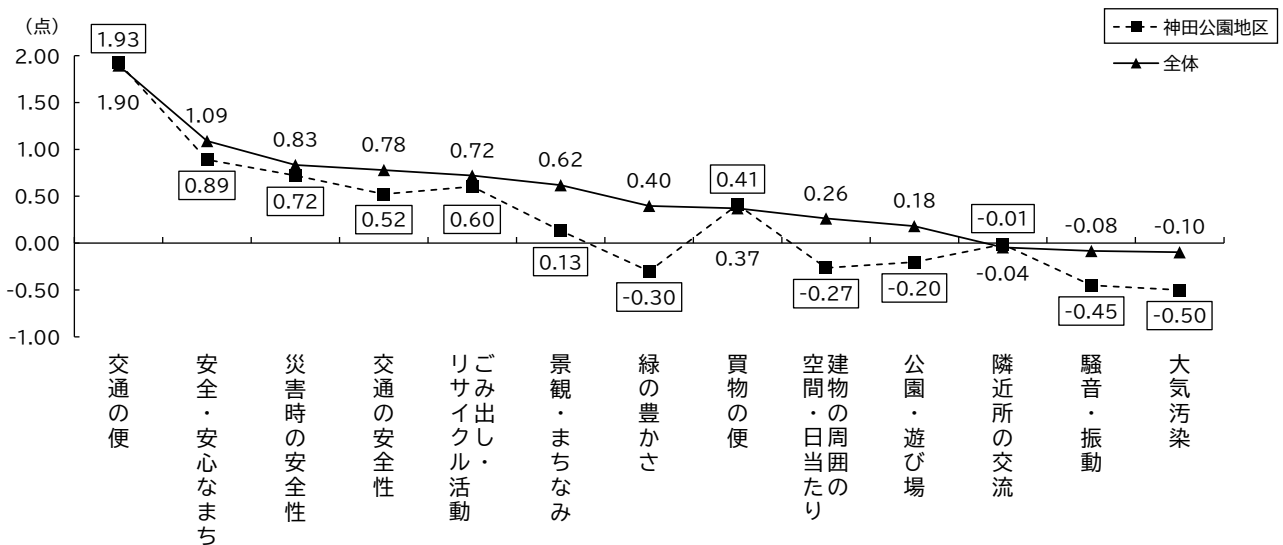
神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は2項目となっており、“交通の便”(0.04点差)、“隣近所の交流”(0.02点差)の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は11項目となっており、特に“騒音・振動”(0.49点差)、“買物の便”(0.44点差)、“緑の豊かさ”(0.34点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.30点差)などの評価が低くなっている。(図2-1-18)

図2-1-18 周辺の生活環境評価 加重平均(神保町地区)



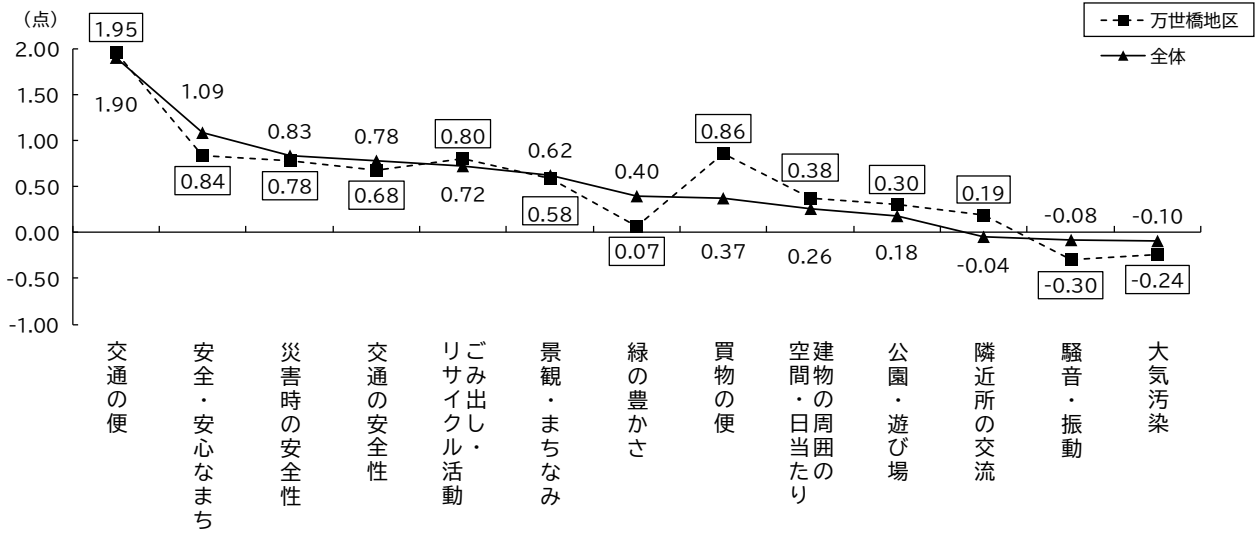
神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は3項目となっており、“買物の便”(0.04点差)、“交通の便”(0.03点差)、“隣近所の交流”(0.03点差)の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は10項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.70点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.53点差)、“景観・まちなみ”(0.49点差)、“大気汚染”(0.40点差)などの評価が低くなっている。(図2-1-19)

図2-1-19 周辺の生活環境評価 加重平均(神田公園地区)



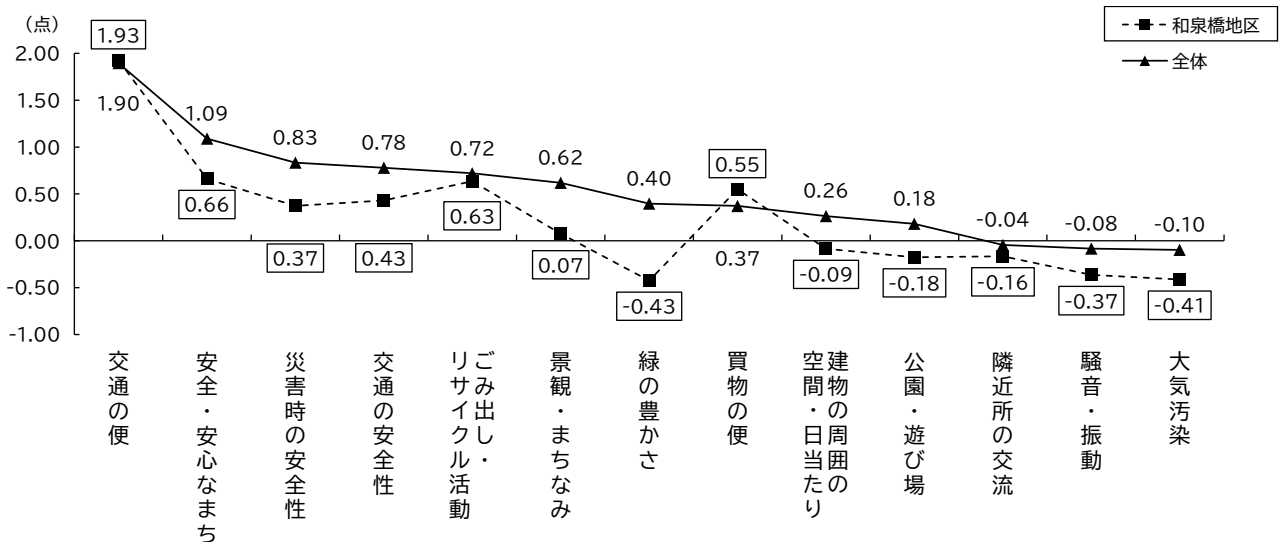
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は6項目となっており、特に“買物の便”(0.49点差)、“隣近所の交流”(0.23点差)などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は7項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.33点差)、“安全・安心なまち”(0.25点差)、“騒音・振動”(0.22点差)などの評価が低くなっている。(図2-1-20)

図2-1-20 周辺の生活環境評価 加重平均(万世橋地区)



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は2項目となっており、“買物の便”(0.18点差)、“交通の便”(0.03点差)の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.83点差)、“景観・まちなみ”(0.55点差)、“災害時の安全性”(0.46点差)、“安全・安心なまち”(0.43点差)などの評価が低くなっている。(図2-1-21)

図2-1-21 周辺の生活環境評価 加重平均(和泉橋地区)

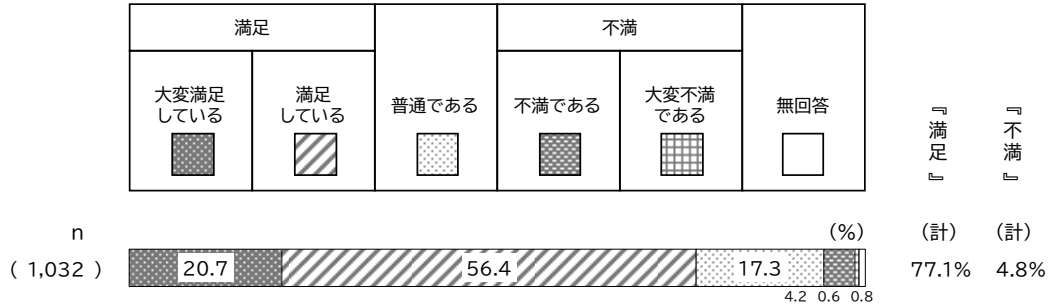


(2) 周辺の居住環境の満足度

◇「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は7割台半ばを超える

問4 あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

図2-2-1 周辺の居住環境の満足度



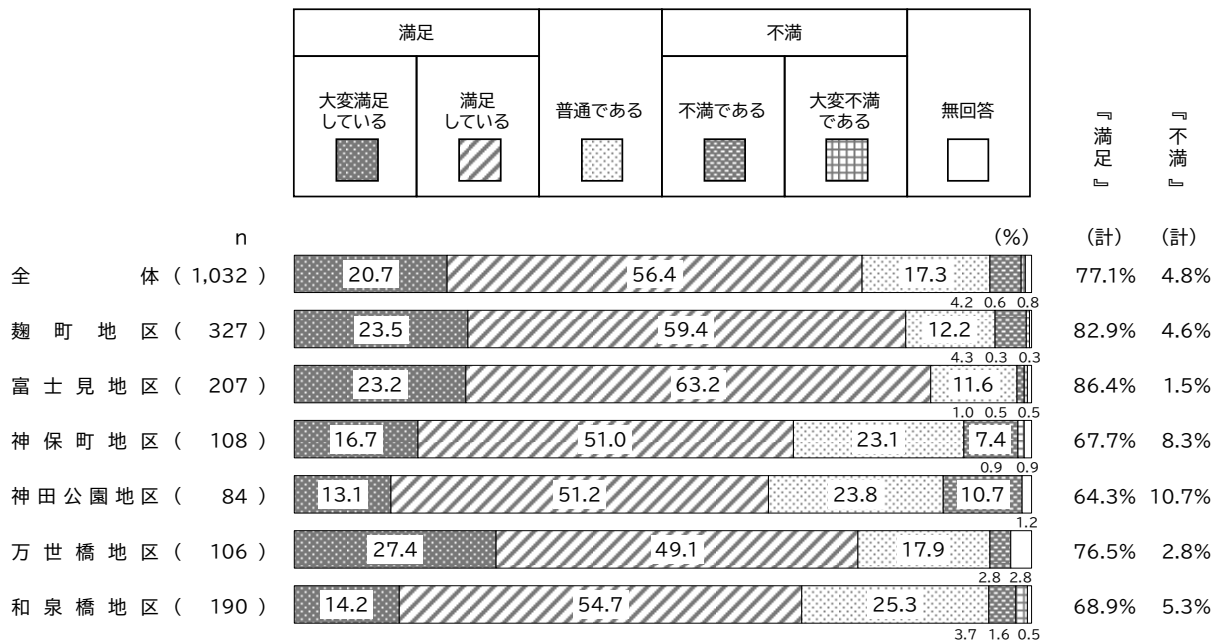
周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(56.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、これに「大変満足している」(20.7%)を合わせた『満足』(77.1%)は7割台半ばを超えている。「不満である」(4.2%)と「大変不満である」(0.6%)を合わせた『不満』(4.8%)は1割未満となっている。

平成28年調査と比較すると、『満足』は平成28年(68.7%)から令和3年(77.1%)にかけて8.4ポイント増加し、平成28年以降で過去最高となった。(図2-2-1)

地区別にみると、『満足』は富士見地区(86.4%)で、『不満』は神田公園地区(10.7%)で、それぞれ高い割合となっている。

全ての地区で『満足』が『不満』を上回っており、『満足』が最も高い富士見地区(86.4%)と最も低い神田公園地区(64.3%)では22.1ポイントの差が開いている。(図2-2-2)

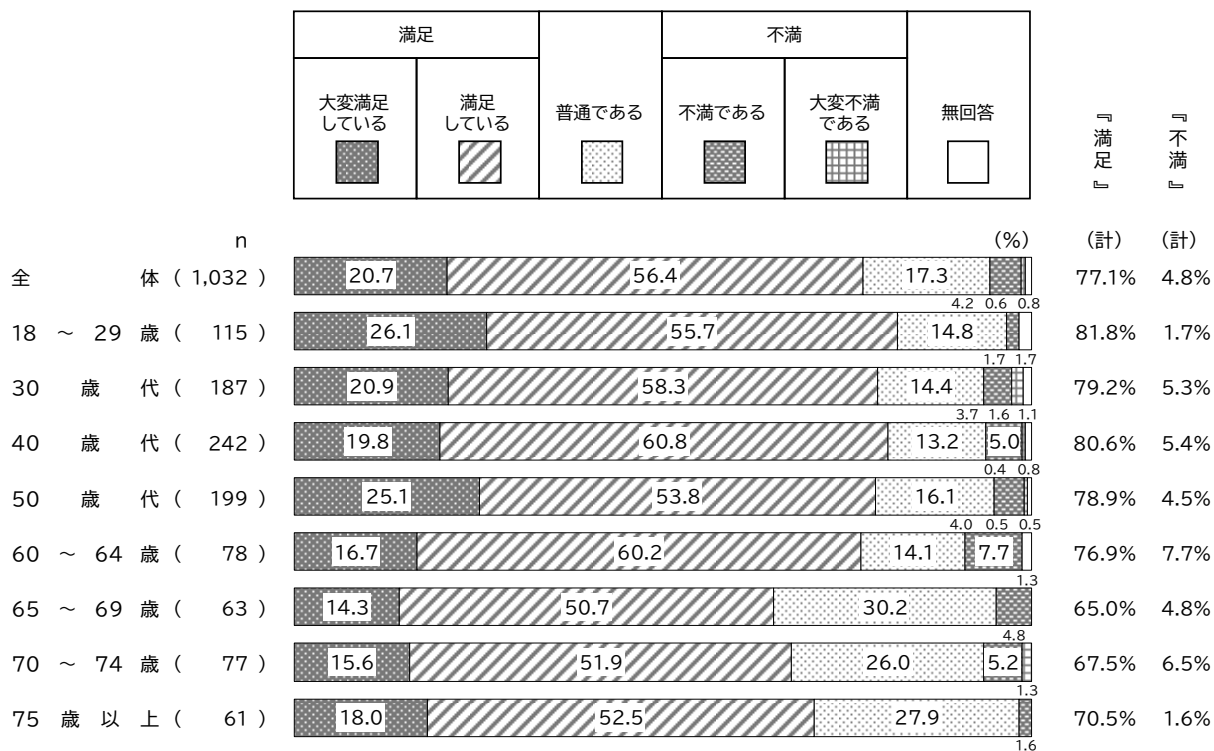
図2-2-2 周辺の居住環境の満足度(地区別)



年代別にみると、『満足』は18～29歳（81.8%）で8割強と高い割合となっている。

全ての年代で『満足』が『不満』を上回っている。また、『満足』は50歳代までは8割近く以上と、それ以降の年代よりも高い傾向にある。（図2-2-3）

図2-2-3 周辺の居住環境の満足度（年代別）



(2-1) 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

「(1) 周辺の生活環境評価」の各項目と「(2) 周辺の居住環境の満足度」から相関係数 (r) を算出し、周辺の生活環境評価と居住環境の満足度の関係を分析した。

◇相関係数 (r)

相関係数 (r) とは、2つのデータの関係の強さを数値 (係数) で示したもので、-1 から +1 の間の数値となる。1 に近づくほど関係が強くなり、関係が低いと 0 に近くなる。

相関係数(r)	考え方
$0 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 < r \leq 0.4$	弱い相関がある
$0.4 < r \leq 0.7$	中程度の相関がある
$0.7 < r \leq 1.0$	強い相関がある

◇満足度と相関係数 (r)

「周辺の生活環境評価」の各項目について、満足度と相関係数 (r) を一覧にすると以下のようになった。

周辺の生活環境評価	満足度	相関係数(r)
交通の便	0.97	0.19
買物の便	0.47	0.28
公園・遊び場	0.36	0.35
建物の周囲の空間・日当たり	0.42	0.36
騒音・振動	0.26	0.37
大気汚染	0.21	0.41
緑の豊かさ	0.48	0.36
交通の安全性	0.60	0.30
災害時の安全性	0.61	0.38
安全・安心なまち	0.73	0.42
隣近所の交流	0.22	0.27
景観・まちなみ	0.53	0.47
ごみ出し・リサイクル活動	0.54	0.33

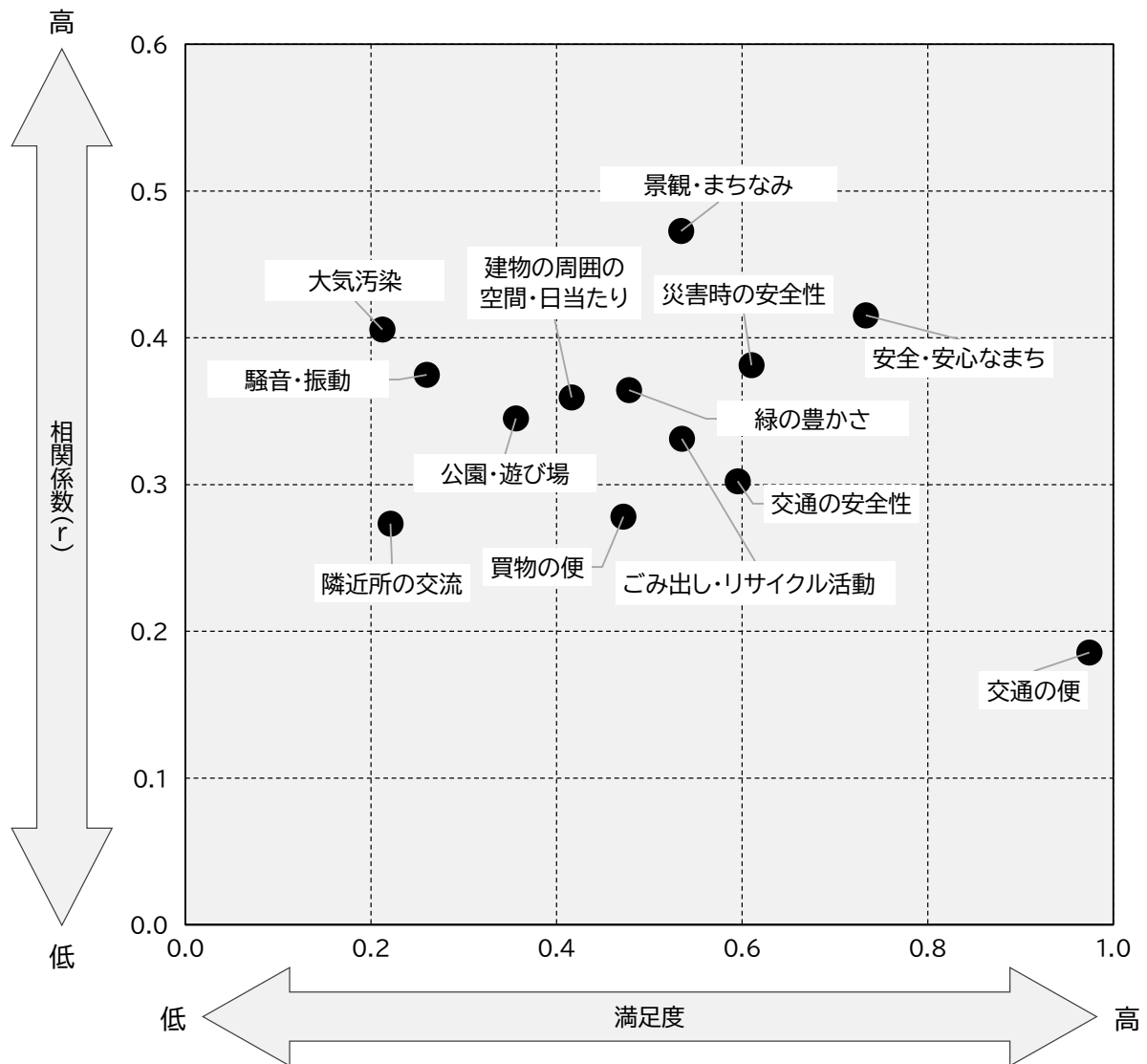
注) 満足度は、各項目の「良い」・「やや良い」の割合の合計となる。

「周辺の生活環境評価」の各項目について、「周辺の居住環境の満足度」との相関係数 (r)、満足度を基に散布図に示した。

“景観・まちなみ” (0.47)・“安全・安心なまち” (0.42)・“大気汚染” (0.41) の3項目は相関係数 (r) が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。周辺の生活環境の中でも、特にこれらの評価が向上することが、居住環境の満足度向上に影響すると考えられる。

(図2-2-4)

図2-2-4 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析



3. 区の施策への要望

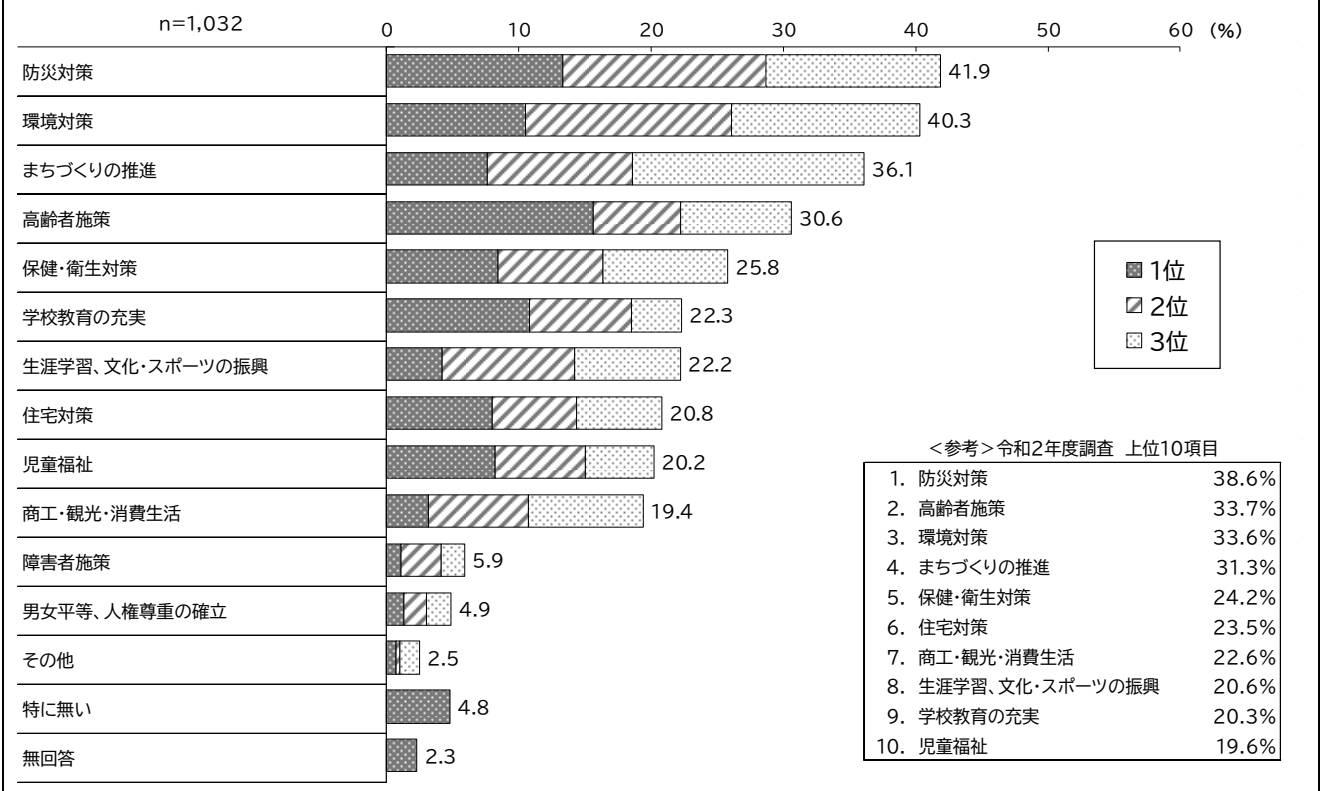
(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割強

問5 これからの区政全体について考えた場合、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。特に力を入れて取り組んでほしい分野について、下記1～14の中から優先順位の高い順に3つ選んで番号を記入してください。ただし、「14. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入し問6へ進んでください。

問5-1 問5で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を3つ選んでご記入ください。

図3-1-1 力を入れてほしい施策



力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「環境対策」(40.3%)、「まちづくりの推進」(36.1%)となっている。

令和2年調査では2番目に高かった「高齢者施策」は4番目に順位が下がっている。一方で、令和2年調査で3番目に高かった「環境対策」は2番目、4番目に高かった「まちづくりの推進」は3番目と順位が上がっている。

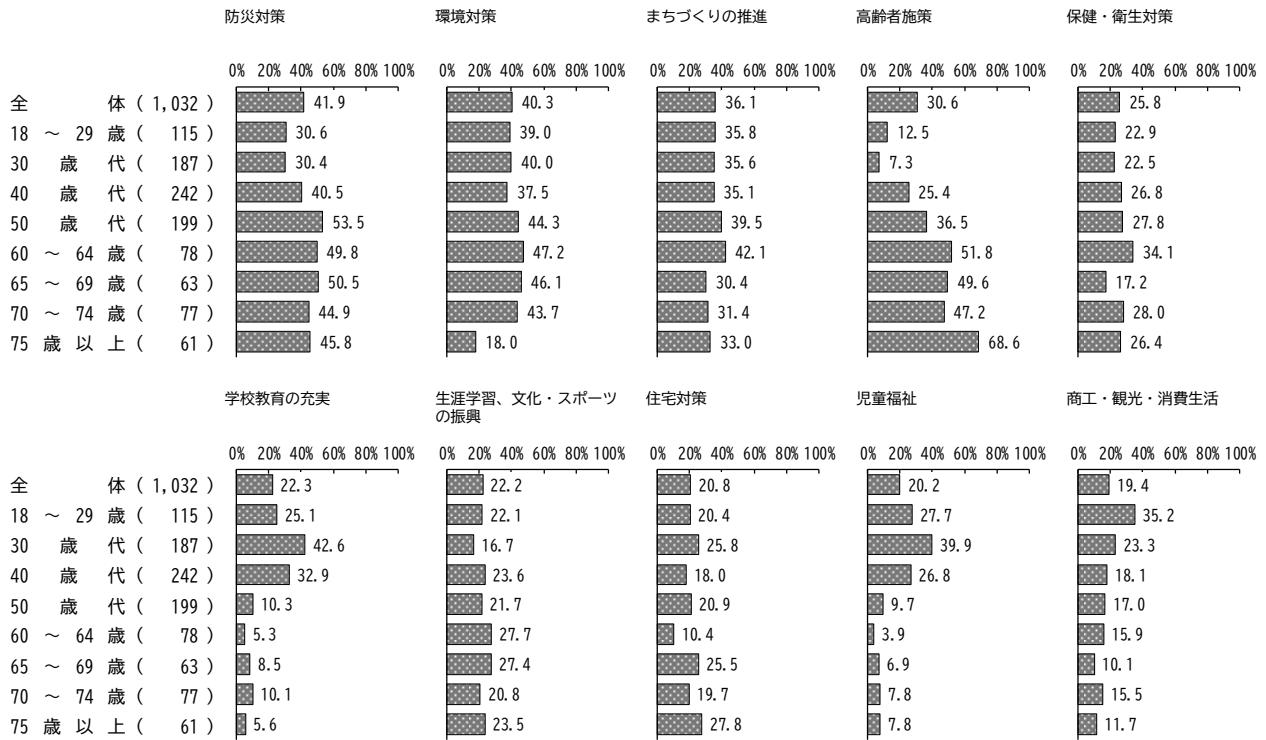
また、1位の回答順位に着目すると、「高齢者施策」>「防災対策」>「学校教育の充実」の順に高くなっており、「高齢者施策」を1位のみを選択している方が多いことがうかがえる。(図3-1-1)

年代別にみると、「防災対策」は50歳代(53.5%)で5割台半ば近くと高くなっている。「環境対策」は60～64歳(47.2%)で4割台半ばを超えて高くなっている。

また、「高齢者施策」は75歳以上(68.6%)で7割近くと高くなっている。

令和2年調査から順位が上がった「環境対策」は50～74歳でいずれも4割を超えて高い傾向にある。同様に順位が上がった「まちづくりの推進」は50～64歳で高い傾向にある。(図3-1-2)

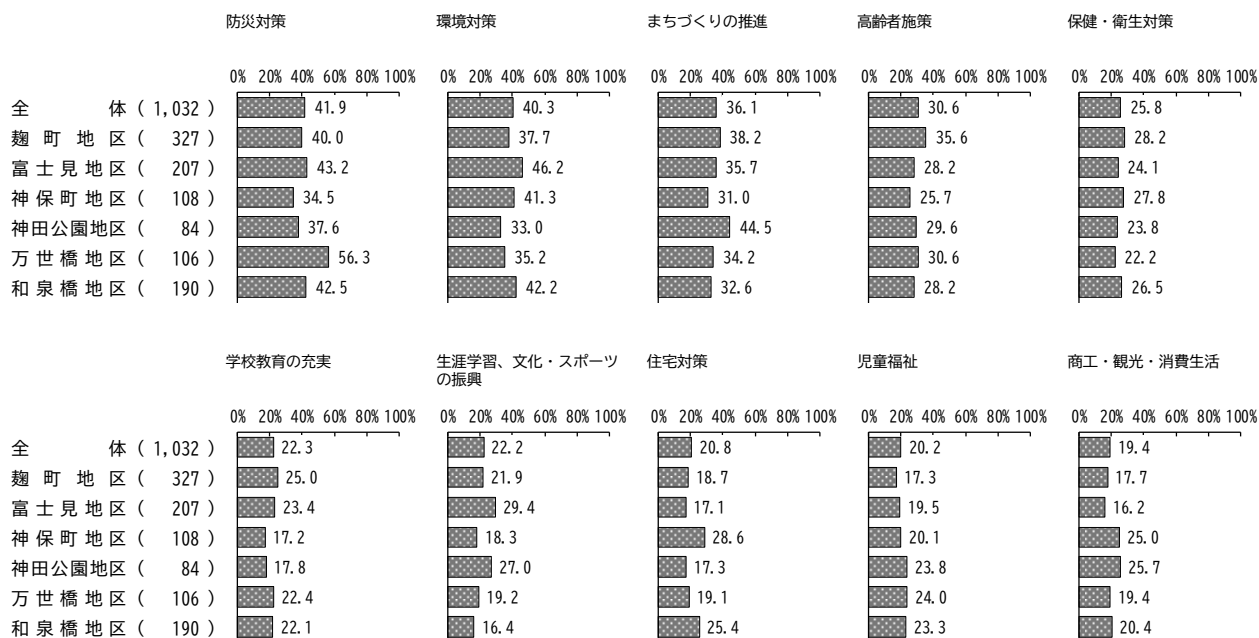
図3-1-2 力を入れてほしい施策(年代別)上位10分野



地区別にみると、「防災対策」は万世橋地区（56.3%）で5割台半ばを超えて高くなっている。

また、「環境対策」は富士見地区（46.2%）で4割台半ばを超えて高く、「まちづくりの推進」は神田公園地区（44.5%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図3-1-3）

図3-1-3 力を入れてほしい施策（地区別）上位10分野



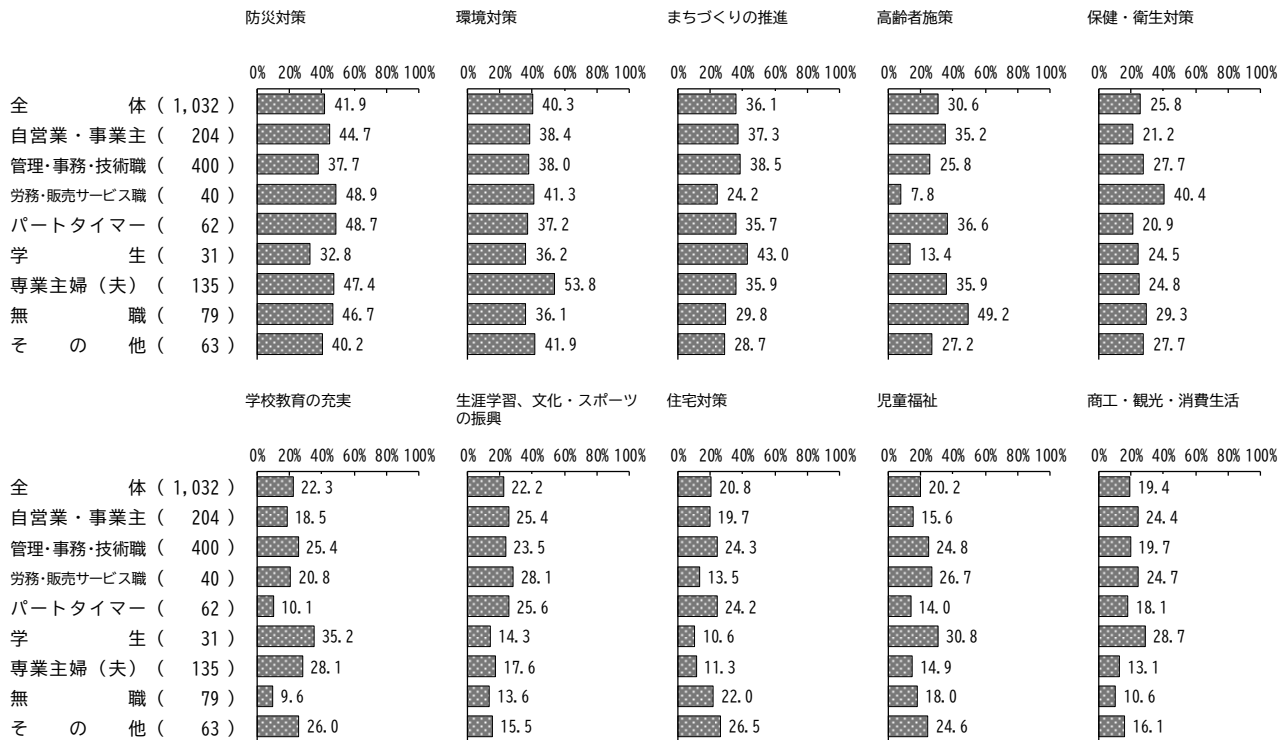
職業別にみると、「防災対策」は労務・販売サービス職（48.9%）・パートタイマー（48.7%）で5割近くとそれぞれ高くなっている。「環境対策」は専業主婦（夫）（53.8%）で5割台半ば近くと高くなっている。

また、「高齢者施策」は無職（49.2%）で5割弱と高くなっている。

「保健・衛生対策」は特に労務・販売サービス職（40.4%）で約4割と高くなっている。

（図3-1-4）

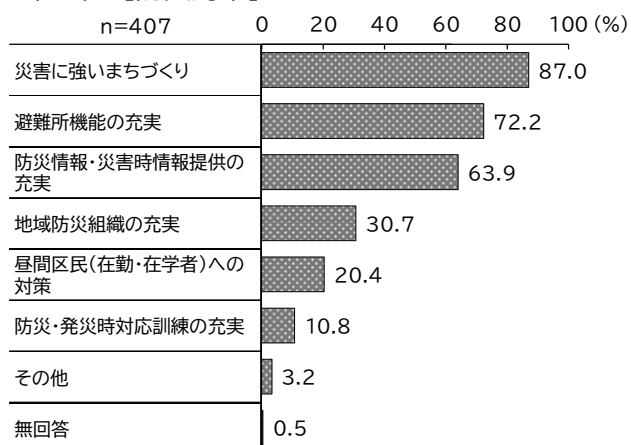
図3-1-4 力を入れてほしい施策（職業別）上位10分野



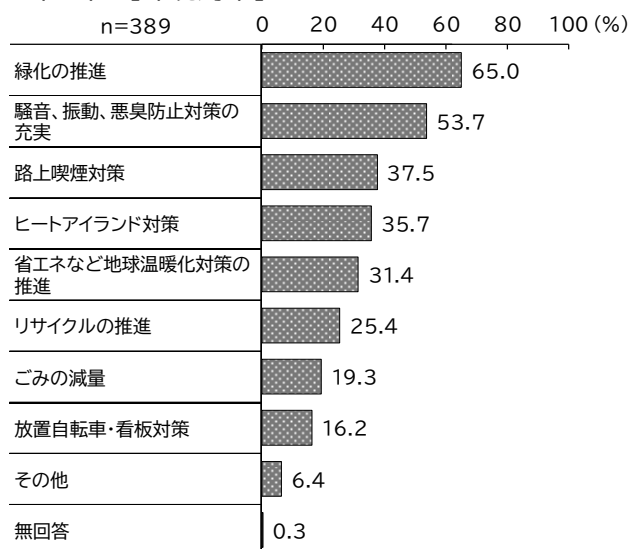
力を入れてほしい施策の分野別要望について平成28年調査と比較すると、【保健・衛生対策】の「感染症予防対策」の変化の幅が最も大きく、平成28年（32.4%）から令和3年（80.1%）にかけて47.7ポイント増加している。このほかにも、【生涯学習、文化・スポーツの振興】の「文化鑑賞・学習機会の充実」は平成28年（50.5%）から令和3年（61.0%）にかけて10.5ポイント増加している。「学習・文化施設の充実」は平成28年（42.2%）から令和3年（59.2%）にかけて17.0ポイント増加している。いずれも平成28年以降で過去最高となった。（図3-1-5）

図3-1-5 力を入れてほしい施策 分野別要望（問5-1）

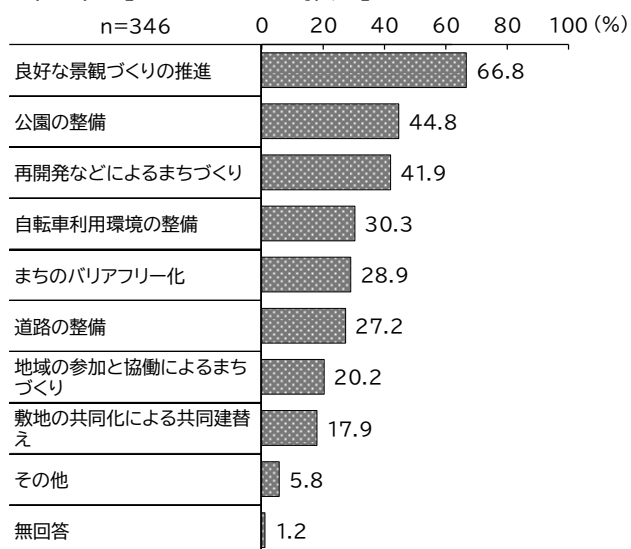
第1位【防災対策】



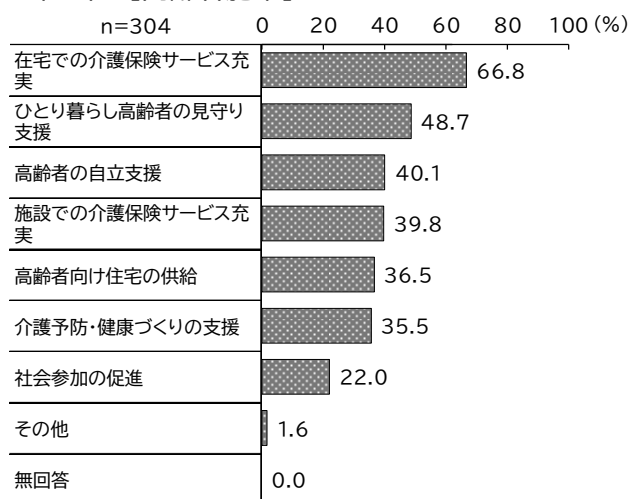
第2位【環境対策】



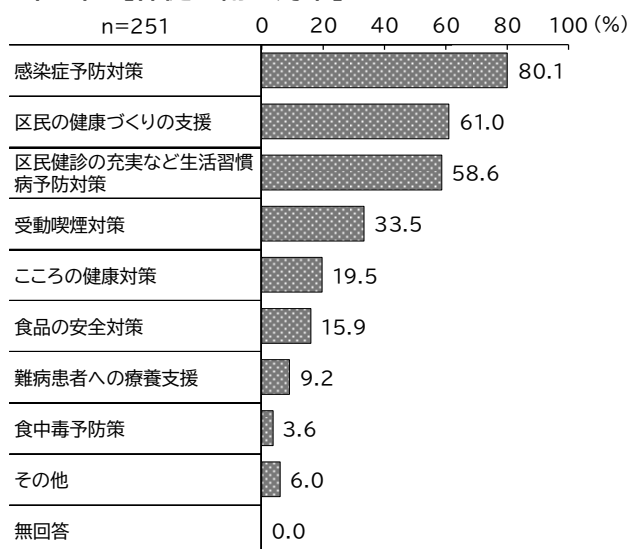
第3位【まちづくりの推進】



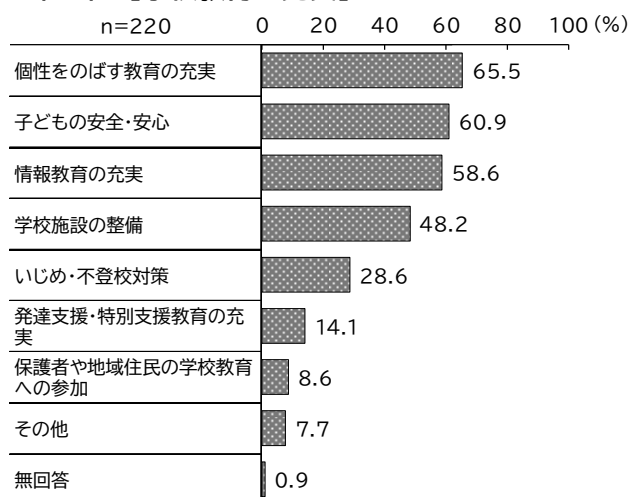
第4位【高齢者施策】



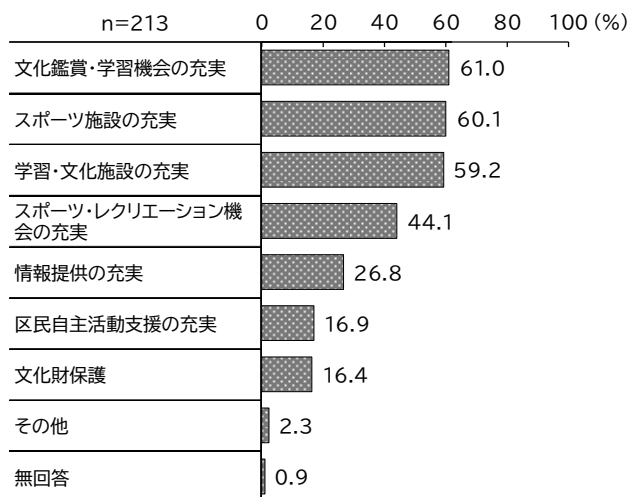
第5位【保健・衛生対策】



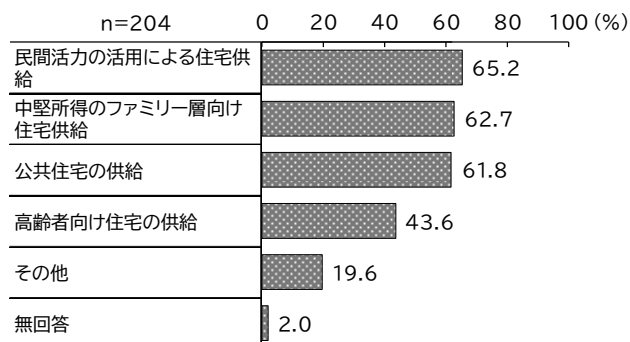
第6位【学校教育の充実】



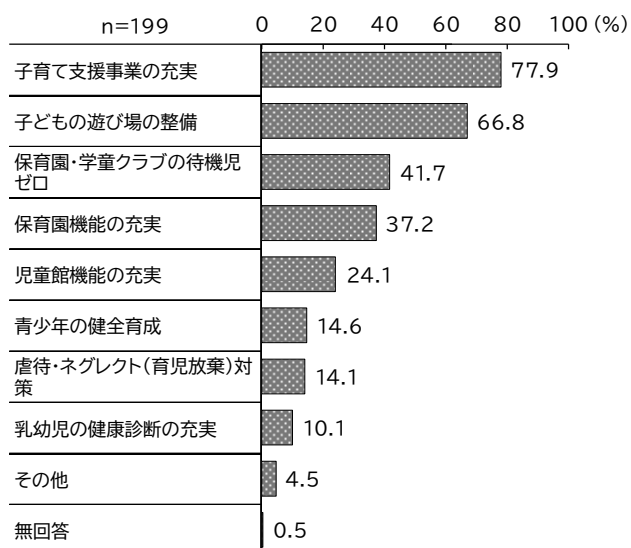
第7位【生涯学習、文化・スポーツの振興】



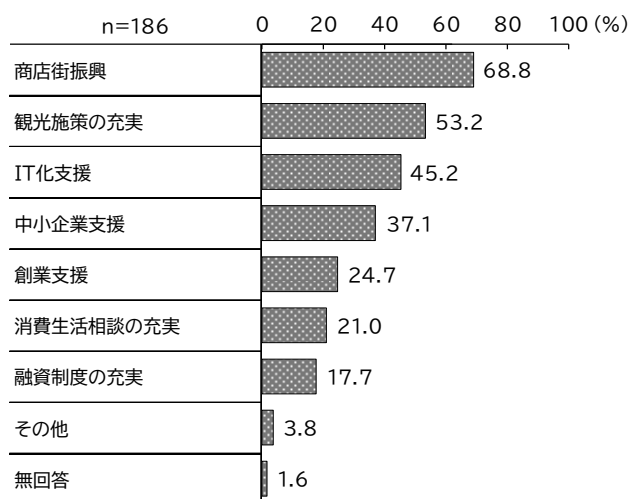
第8位【住宅対策】



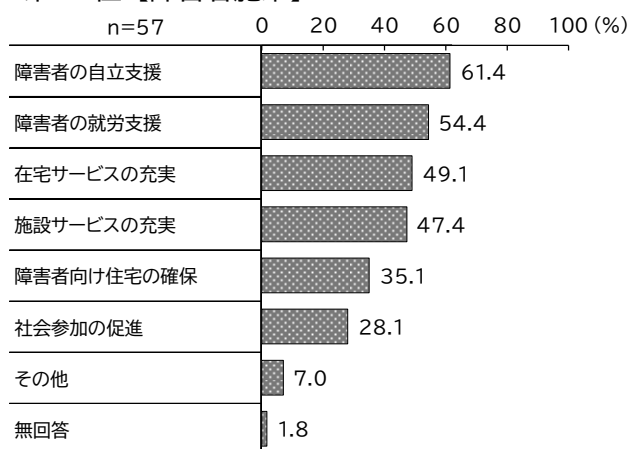
第9位【児童福祉】



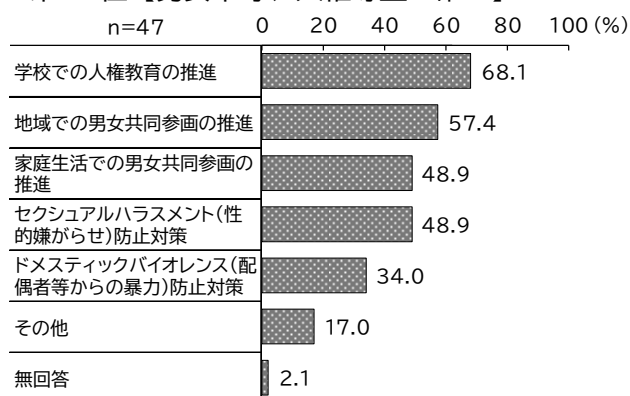
第10位【商工・観光・消費生活】



第11位【障害者施策】



第12位【男女平等、人権尊重の確立】



4. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“保健・衛生対策”、最も低いのは“環境対策”

◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“商工・観光・消費生活”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い
 満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

問6 あなたは、問5のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。
 また、どのくらい重要(大切)だと思いますか。項目ごとに5段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(13分野すべてにご回答ください。)

表4-1-1 施策の満足度・重要度

(単位:%)

	満足度						重要度					
	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無 回答	1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無 回答
n=1,032												
1. 高齢者施策	4.5	20.2	9.8	2.9	59.7	2.9	42.0	33.5	6.8	3.6	10.6	3.5
2. 障害者施策	3.0	11.2	7.4	2.3	71.4	4.7	34.7	37.2	4.5	2.4	16.6	4.6
3. 保健・衛生対策	11.6	42.3	12.2	2.9	26.9	4.1	58.2	29.2	1.7	0.8	5.6	4.5
4. 児童福祉	7.0	25.8	8.7	2.7	51.3	4.5	52.3	27.9	2.9	2.2	10.4	4.3
5. 学校教育の充実	10.4	26.3	8.5	2.5	48.1	4.2	55.0	27.7	2.4	1.9	8.7	4.3
6. 男女平等、 人権尊重の確立	5.6	19.6	8.5	3.3	58.0	5.0	32.1	35.1	10.9	4.0	12.9	5.0
7. 生涯学習、 文化・スポーツの振興	5.3	30.1	16.8	4.3	38.9	4.6	26.5	45.4	13.7	2.3	7.4	4.7
8. 住宅対策	4.0	25.2	22.2	10.8	33.4	4.4	38.5	38.9	9.1	1.7	6.9	4.9
9. 環境対策	6.5	33.8	24.0	9.8	22.0	3.9	54.8	32.4	4.1	0.5	3.7	4.5
10. 防災対策	10.0	39.9	16.2	5.1	25.2	3.6	71.1	20.3	1.4	0.3	3.0	3.9
11. まちづくりの推進	5.8	30.6	22.0	8.3	29.0	4.3	41.1	38.8	8.0	2.3	5.8	4.0
12. 商工・観光・消費生活	5.6	29.6	20.4	6.5	33.2	4.7	27.1	42.7	13.9	3.0	8.6	4.7
13. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	4.7	23.8	17.8	6.7	40.6	6.4	28.2	37.8	11.0	1.6	15.5	5.9

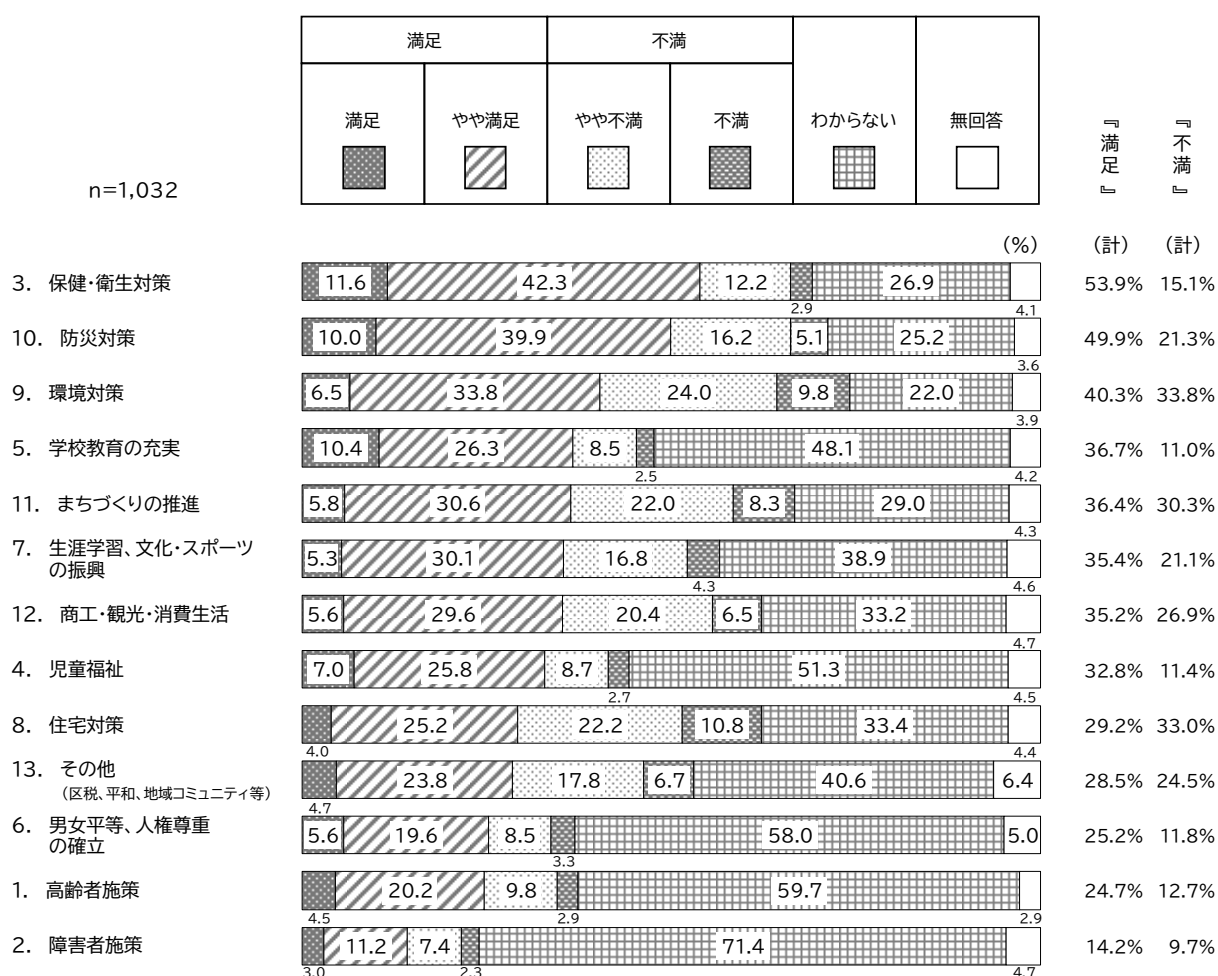
次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（53.9%）が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“環境対策”（33.8%）が3割台半ば近くと高くなっている。

全13施策の中で“住宅対策”のみ、『不満』（33.0%）が『満足』（29.2%）を上回っている。また、「わからない」が高い施策として“児童福祉”（51.3%）・“男女平等、人権尊重の確立”（58.0%）・“高齢者施策”（59.7%）・“障害者施策”（71.4%）があり、いずれも5割を超えている。

平成28年調査と比較すると、『満足』は“防災対策”で最も増加が大きく、平成28年（45.9%）から令和3年（49.9%）にかけて4.0ポイント増加している。一方で、『不満』は“まちづくりの推進”で最も増加が大きく、平成28年（25.8%）から令和3年（30.3%）にかけて4.5ポイント増加し、平成28年以降で過去最高となった。（図4-1-1）

図4-1-1 施策の満足度



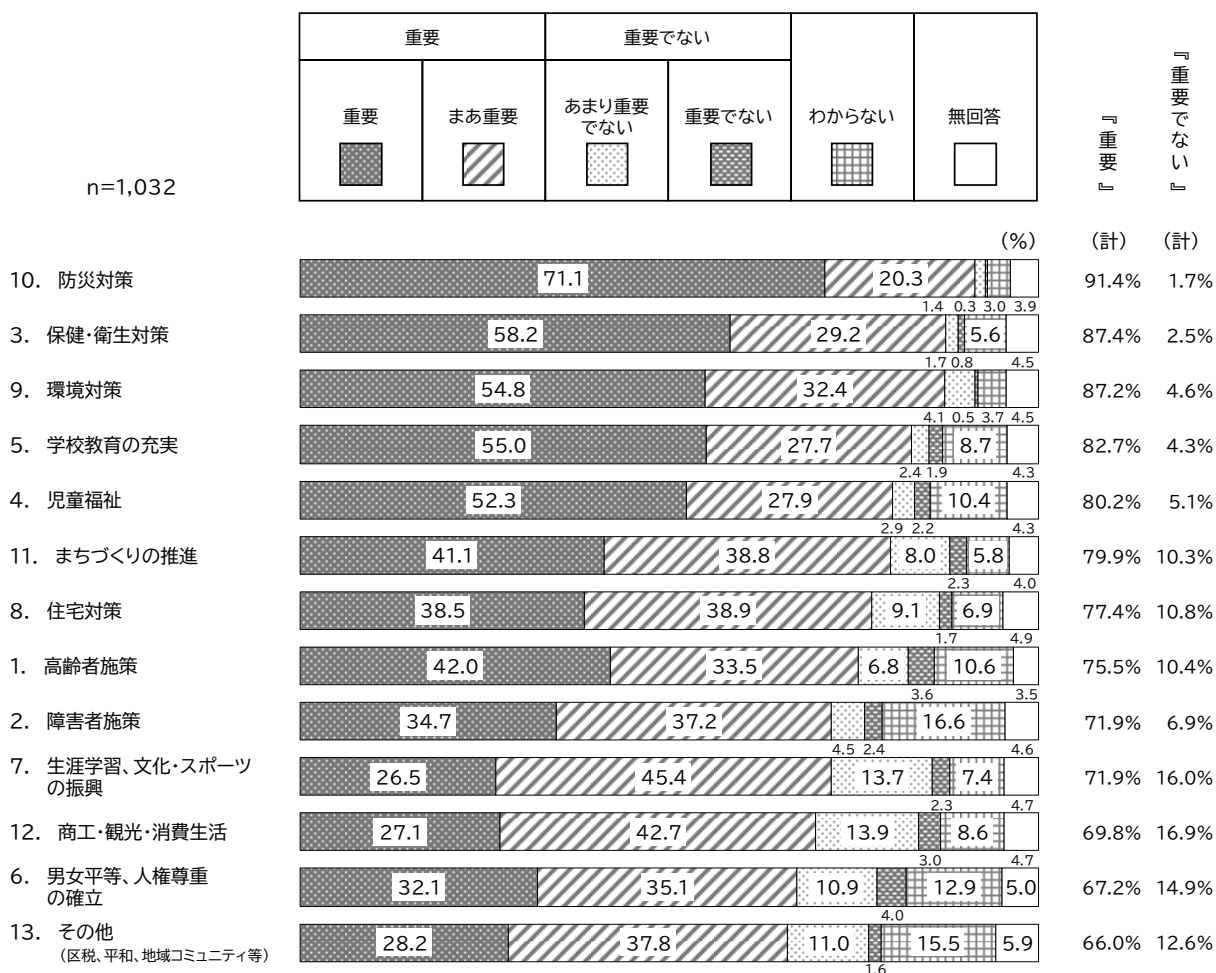
次のグラフは、「重要」と「まあ重要」の合算で、高い順に並べたものである。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(91.4%)が9割強と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“商工・観光・消費生活”(16.9%)が1割台半ばを超えて高くなっている。

全ての項目で『重要』が『重要でない』を大きく上回っているが、“商工・観光・消費生活”・“男女平等、人権尊重の確立”・“その他(区税、平和、地域コミュニティ等)”の『重要』は6割台にとどまっている。

平成28年調査と比較すると、『重要』は“保健・衛生対策”で最も増加が大きく、平成28年(80.9%)から令和3年(87.4%)にかけて6.5ポイント増加している。“学校教育の充実”も、平成28年(76.3%)から令和3年(82.7%)にかけて6.4ポイント増加し、いずれも平成28年以降で過去最高となった。一方で、『重要でない』は“高齢者施策”で最も増加が大きく、平成28年(5.8%)から令和3年(10.4%)にかけて4.6ポイント増加している。(図4-1-2)

図4-1-2 施策の重要度



◇加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、4段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{\text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、「わからない」と無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。

地区別に満足度をみると、麴町地区では、「保健・衛生対策」(0.71)、「学校教育の充実」(0.68)、「防災対策」(0.65)、「児童福祉」(0.53)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.16)が低くなっている。

富士見地区では、「学校教育の充実」(0.87)、「保健・衛生対策」(0.79)、「男女平等、人権尊重の確立」(0.73)、「児童福祉」(0.67)、「高齢者施策」(0.52)が高くなっている。一方、「住宅対策」(0.16)が低くなっている。

神保町地区では、「学校教育の充実」(0.79)、「保健・衛生対策」(0.69)、「児童福祉」(0.69)、「高齢者施策」(0.60)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.47)が低くなっている。

神田公園地区では、「学校教育の充実」(0.97)、「児童福祉」(0.94)、「保健・衛生対策」(0.57)、「防災対策」(0.54)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.60)が低くなっている。

万世橋地区では、「保健・衛生対策」(0.56)が高くなっている。一方、「まちづくりの推進」(-0.01)が低くなっている。

和泉橋地区では、「保健・衛生対策」(0.65)が高くなっている。一方、「環境対策」(-0.30)が低くなっている。(表4-1-2)

地区別に重要度をみると、麴町地区では、「防災対策」(1.69)、「保健・衛生対策」(1.60)、「学校教育の充実」(1.58)、「児童福祉」(1.50)が高くなっている。

富士見地区では、「防災対策」(1.78)、「保健・衛生対策」(1.58)、「環境対策」(1.54)、「学校教育の充実」(1.50)が高くなっている。

神保町地区では、「防災対策」(1.75)、「保健・衛生対策」(1.61)、「環境対策」(1.53)が高くなっている。

神田公園地区では、「防災対策」(1.76)、「保健・衛生対策」(1.56)、「児童福祉」(1.51)、「学校教育の充実」(1.51)が高くなっている。

万世橋地区では、「防災対策」(1.73)、「保健・衛生対策」(1.58)、「学校教育の充実」(1.52)が高くなっている。

和泉橋地区では、「防災対策」(1.69)、「保健・衛生対策」(1.55)、「環境対策」(1.53)が高くなっている。(表4-1-2)

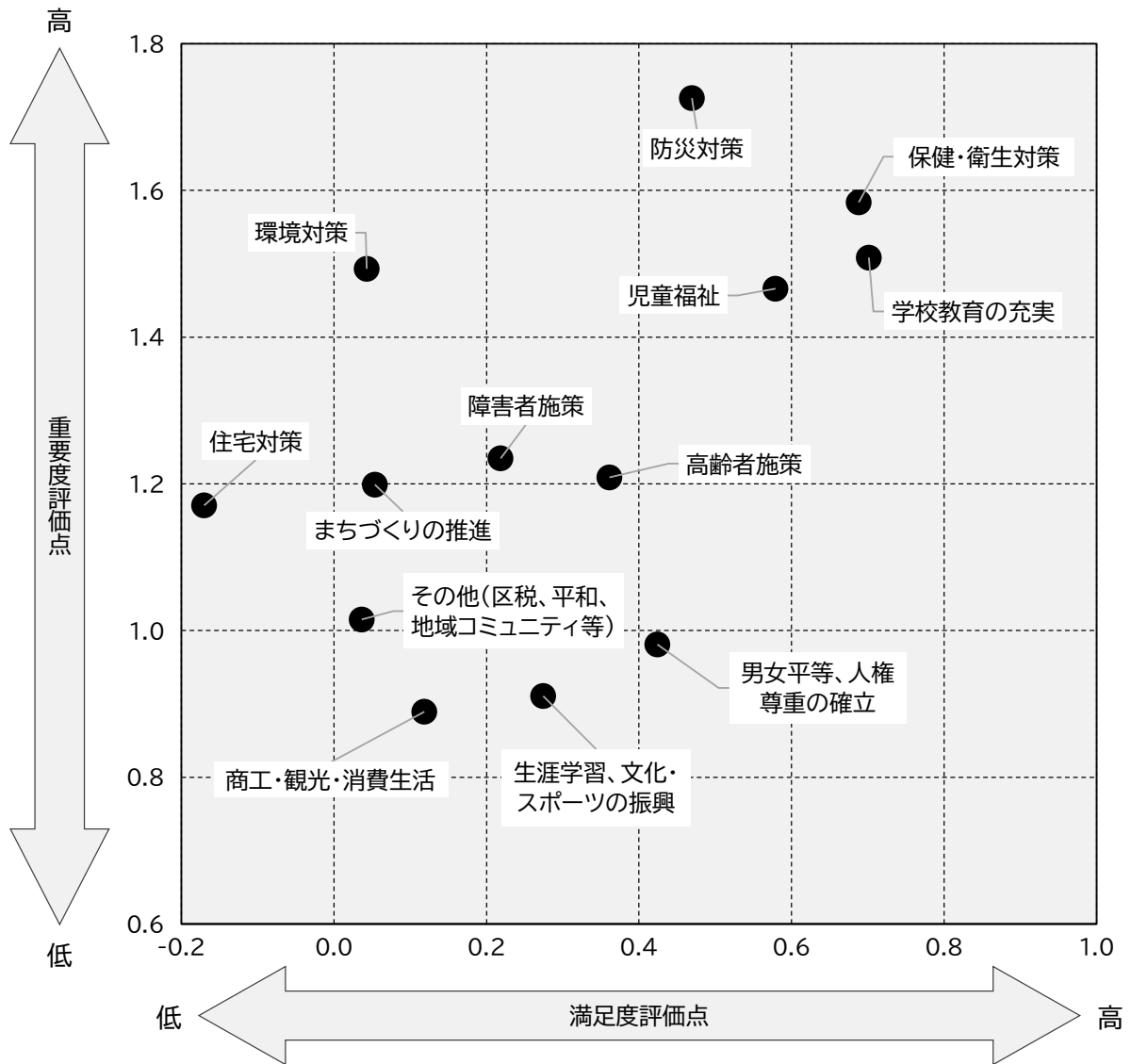
表4-1-2 施策の満足度評価点・重要度評価点(地区別)

	満足度							重要度						
	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区
1. 高齢者施策	0.36	0.32	0.52	0.60	0.29	0.36	0.09	1.21	1.19	1.30	1.23	1.26	1.23	1.08
2. 障害者施策	0.22	0.24	0.29	0.15	0.11	0.28	0.17	1.23	1.14	1.28	1.27	1.25	1.30	1.26
3. 保健・衛生対策	0.69	0.71	0.79	0.69	0.57	0.56	0.65	1.58	1.60	1.58	1.61	1.56	1.58	1.55
4. 児童福祉	0.58	0.53	0.67	0.69	0.94	0.32	0.43	1.47	1.50	1.44	1.47	1.51	1.47	1.42
5. 学校教育の充実	0.70	0.68	0.87	0.79	0.97	0.37	0.47	1.51	1.58	1.50	1.46	1.51	1.52	1.41
6. 男女平等、 人権尊重の確立	0.42	0.36	0.73	0.24	0.45	0.38	0.27	0.98	0.93	1.13	1.07	1.09	0.94	0.81
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	0.27	0.25	0.40	0.23	0.23	0.33	0.10	0.91	0.91	1.07	0.82	0.88	1.03	0.72
8. 住宅対策	-0.17	-0.16	0.16	-0.47	-0.60	0.08	-0.28	1.17	1.09	1.21	1.28	1.14	1.12	1.23
9. 環境対策	0.04	0.29	0.24	-0.25	-0.27	0.00	-0.30	1.49	1.48	1.54	1.53	1.44	1.37	1.53
10. 防災対策	0.47	0.65	0.48	0.10	0.54	0.30	0.42	1.73	1.69	1.78	1.75	1.76	1.73	1.69
11. まちづくりの推進	0.05	0.17	0.19	0.00	-0.18	-0.01	-0.16	1.20	1.23	1.19	1.10	1.20	1.16	1.24
12. 商工・観光・消費生活	0.12	0.12	0.18	-0.18	-0.13	0.32	0.17	0.89	0.79	0.83	1.08	0.93	0.99	0.96
13. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	0.04	0.08	0.21	-0.32	-0.09	0.23	-0.11	1.01	0.91	1.10	1.10	1.09	0.92	1.08

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域(左上方)にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。(図4-1-3)

図4-1-3 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



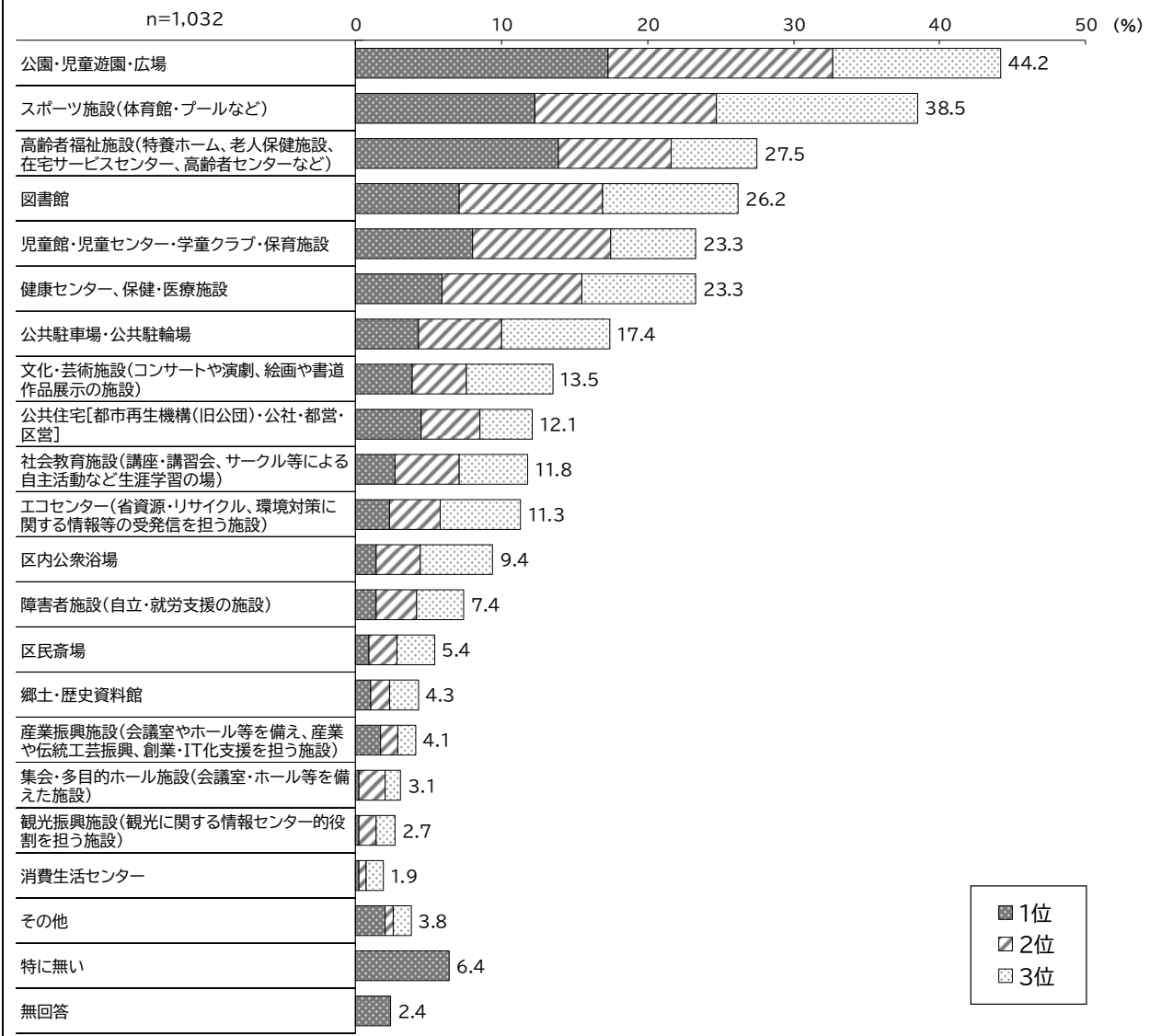
5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

◇「公園・児童遊園・広場」が4割台半ば近く

問7 あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記1～21の施設から優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。ただし、「21. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

図5-1-1 整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設について聞いたところ、「公園・児童遊園・広場」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「スポーツ施設(体育館・プールなど)」(38.5%)、「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」(27.5%)となっている。

また、1位の回答順位に着目すると、「公園・児童遊園・広場」>「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」>「スポーツ施設(体育館・プールなど)」の順に高くなっており、その中でも特に「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」を1位のみを選択している方が多いことがうかがえる。

(図5-1-1)

「公園・児童遊園・広場」は令和元年に3位だったが、令和2年には2位、令和3年には1位と順位が上昇している。また、平成29年以降、上位5つの施設は変わっていない。(表5-1-1)

表5-1-1 整備・充実すべき施設（経年比較）

(単位:%)

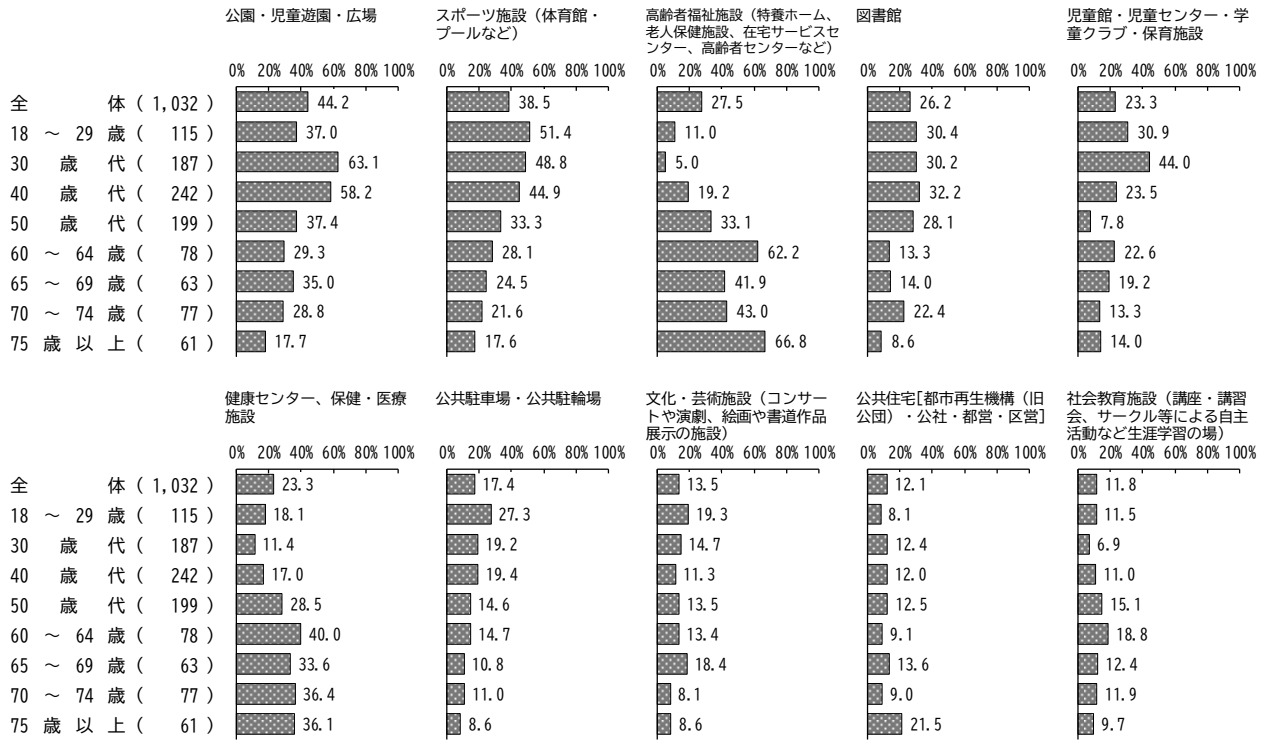
	1位	2位	3位	4位	5位
令和3年	公園・児童遊園・広場 17.3	高齢者福祉施設 13.9	スポーツ施設 12.3	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 8.0	図書館 7.1
令和2年	高齢者福祉施設 15.0	公園・児童遊園・広場 13.7	スポーツ施設 13.3	図書館 10.2	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 9.9
令和元年	高齢者福祉施設 17.2	スポーツ施設 12.8	公園・児童遊園・広場 11.6	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 11.3	図書館 6.8
平成30年	高齢者福祉施設 18.2	スポーツ施設 13.0	公園・児童遊園・広場 12.2	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 10.9	図書館 8.7
平成29年	高齢者福祉施設 16.6	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 13.3	スポーツ施設 12.4	公園・児童遊園・広場 11.1	図書館 8.3
平成28年	高齢者福祉施設 17.9	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 12.6	公園・児童遊園・広場 11.3	スポーツ施設 9.7	公共住宅 7.1
平成27年	高齢者福祉施設 23.3	スポーツ施設 11.5	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 10.5	公園・児童遊園・広場 9.2	図書館 7.3
平成26年	高齢者福祉施設 20.2	スポーツ施設 11.3	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 10.8	公園・児童遊園・広場 10.5	図書館 7.4
平成25年	スポーツ施設 14.2	高齢者福祉施設 13.6	公園・児童遊園・広場 10.1	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 各7.9	
平成24年	高齢者福祉施設 13.8	スポーツ施設 11.5	健康センター・保健施設・医療施設、 公園・児童遊園 各9.6		児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 9.5
平成23年	スポーツ施設 23.7	図書館 16.0	公園・児童遊園・広場 8.6	高齢者福祉施設 7.6	区営住宅 4.6
平成22年	スポーツ施設 22.5	図書館 17.2	高齢者福祉施設 8.3	公園・児童遊園 6.6	健康センター 4.3
平成21年	スポーツ施設 23.2	図書館 16.3	高齢者福祉施設 8.1	公園・児童遊園 7.7	区営駐車場 4.6
平成20年	スポーツ施設 22.6	図書館 17.3	高齢者福祉施設 9.1	公園・児童遊園 8.0	健康センター、 区営駐車場 各4.9
平成19年	スポーツ施設 22.7	図書館 16.0	公園・児童遊園・広場 8.5	高齢者福祉施設 8.0	区営駐車場 6.6
平成18年	スポーツ施設 27.0	図書館 16.3	公園・児童遊園・広場 8.1	区営駐車場 7.8	高齢者福祉施設 7.2
平成17年	スポーツ施設 26.1	図書館 15.8	健康センター 6.9	区営駐車場 6.9	公園・児童遊園 6.4
平成16年	スポーツ施設 21.5	図書館 15.7	高齢者福祉施設 8.7	健康センター 7.0	公園・児童遊園 7.0
平成15年	スポーツ施設 20.8	図書館 13.9	高齢者福祉施設 11.5	公園・児童遊園 8.6	区営駐車場 6.9
平成14年	スポーツ施設 19.8	図書館 13.2	高齢者福祉施設 10.6	区営駐車場 8.4	健康センター 5.9
平成13年	スポーツ施設 24.8	図書館 13.4	高齢者福祉施設 12.8	区営駐車場 12.4	健康センター 11.1
平成12年	スポーツ施設 30.7	図書館 18.2	文化会館 13.3	区営駐車場 13.0	高齢者福祉施設 12.5
平成11年	スポーツ施設 26.1	図書館 16.3	高齢者福祉施設 14.7	区営駐車場 13.7	健康センター 12.3
平成10年	スポーツ施設 31.2	図書館 16.0	文化会館 13.1	健康センター 12.8	区営駐車場 11.8
平成9年	スポーツ施設 29.6	図書館 17.0	区営駐車場 14.6	健康センター 12.9	公園・児童遊園 11.1
平成8年	区営駐車場 23.5	スポーツ施設 23.1	健康センター 17.5	図書館 14.0	高齢者福祉施設 13.1
平成7年	スポーツ施設 22.6	区営駐車場 17.5	高齢者福祉施設 15.3	区営住宅 14.2	健康センター 13.6
平成6年	スポーツ施設 25.9	区営駐車場 15.2	健康センター 14.1	高齢者福祉施設 13.2	図書館 13.1

注)平成13年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大2つまで」答えたものの割合を、平成14年～平成23年の調査では「もっとも近くにあればよい(第1位)」と答えた施設の割合を、平成24年からは「整備・充実すべき(第1位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

年代別にみると、「公園・児童遊園・広場」は30歳代（63.1%）で6割台半ば近くと高くなっている。「スポーツ施設（体育館・プールなど）」は18～29歳（51.4%）で5割強と高くなっている。また、「高齢者福祉施設（特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど）」は75歳以上（66.8%）で6割台半ばを超えて高くなっている。

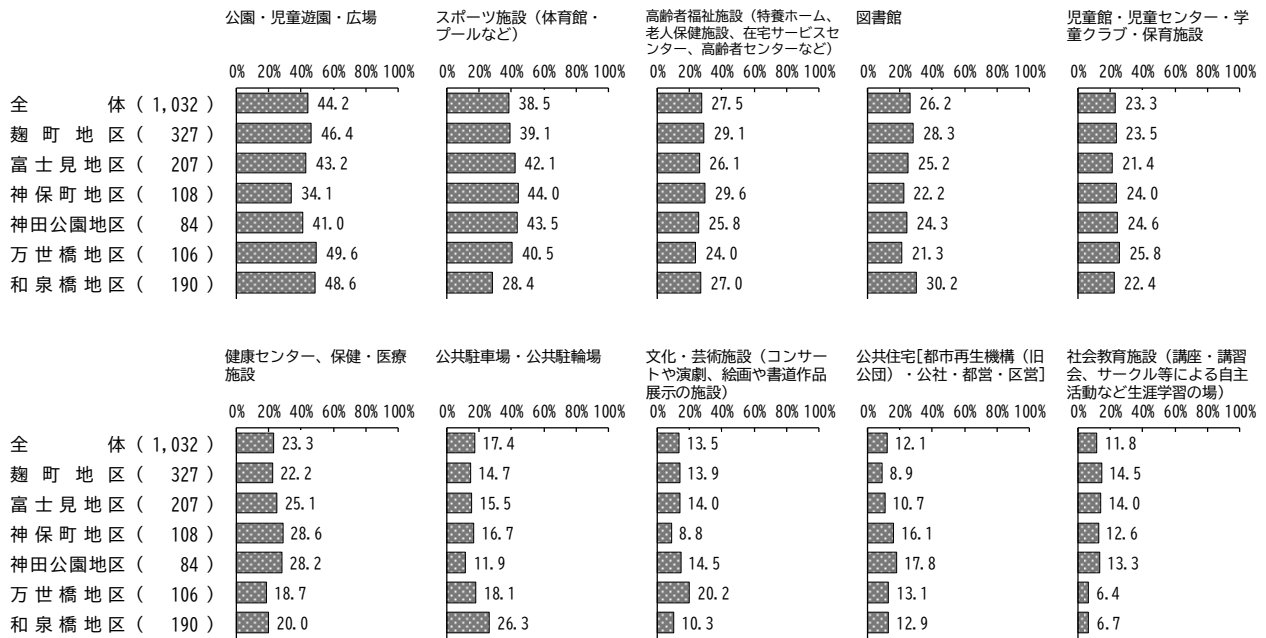
年代が上がるにつれて、「スポーツ施設（体育館・プールなど）」と「公共駐車場・公共駐輪場」はおおむね減少する傾向がある。（図5-1-2）

図5-1-2 整備・充実すべき施設（年代別）上位10施設



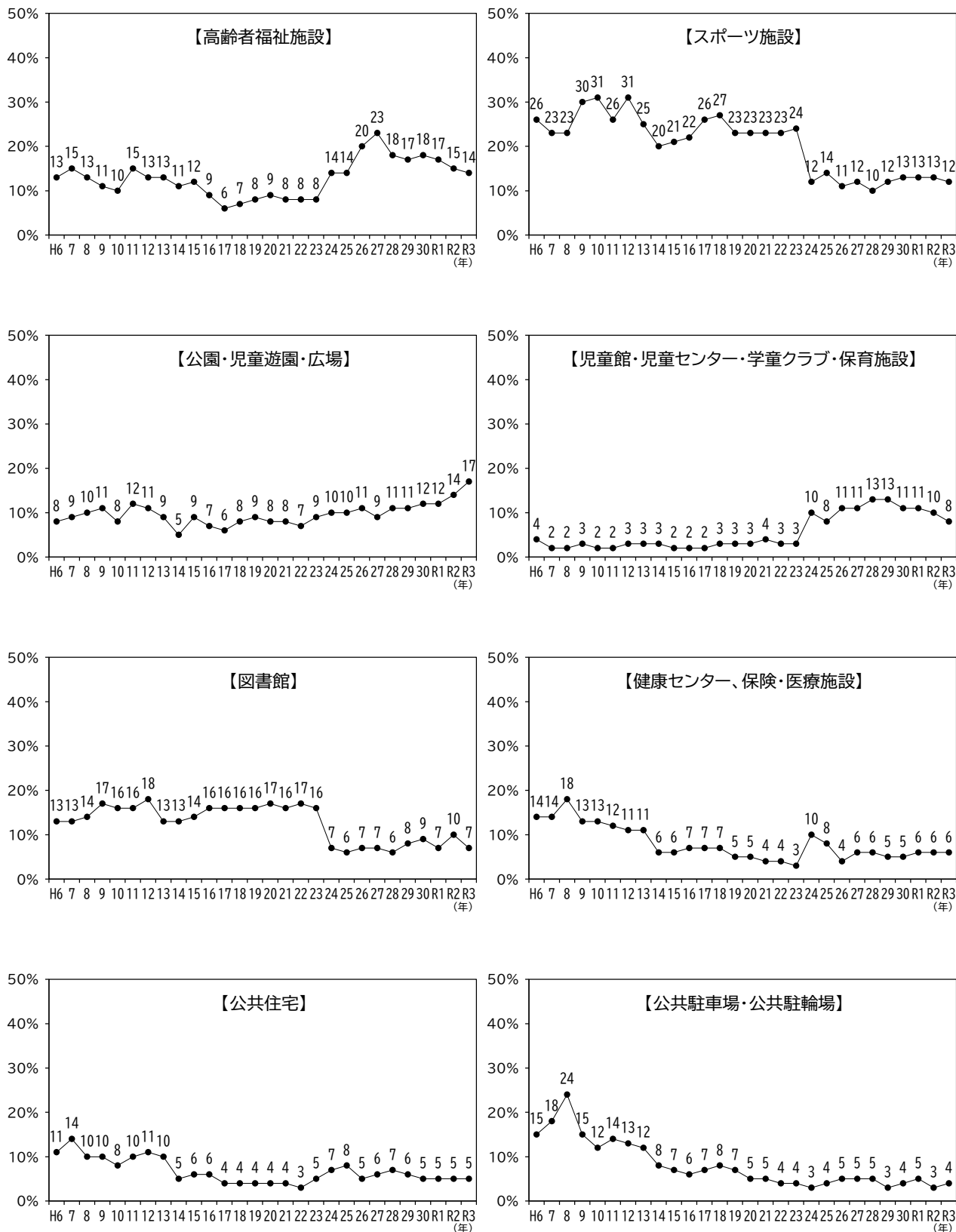
地区別にみると、「公園・児童遊園・広場」は万世橋地区（49.6%）で5割弱と高くなっている。「スポーツ施設（体育館・プールなど）」は神保町地区（44.0%）・神田公園地区（43.5%）で4割台半ば近くとそれぞれ高くなっている。また、「公共駐車場・公共駐輪場」は和泉橋地区（26.3%）で2割台半ばを超えて高くなっている。（図5-1-3）

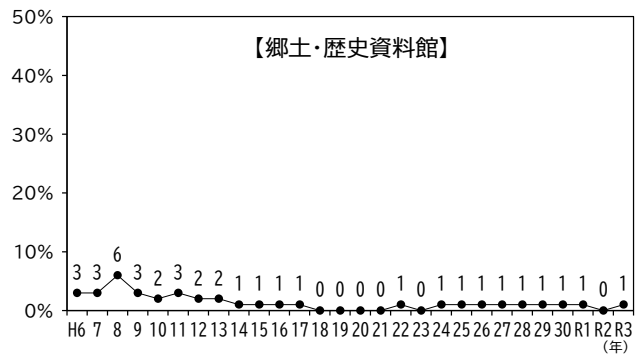
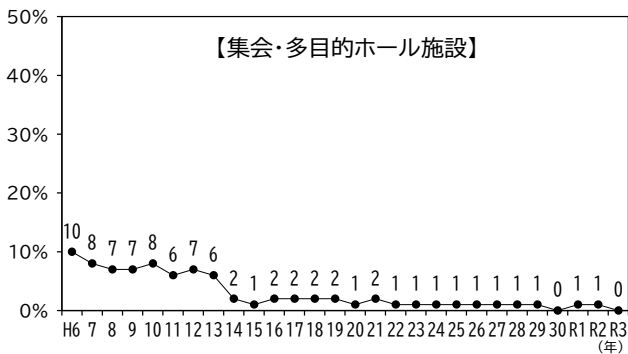
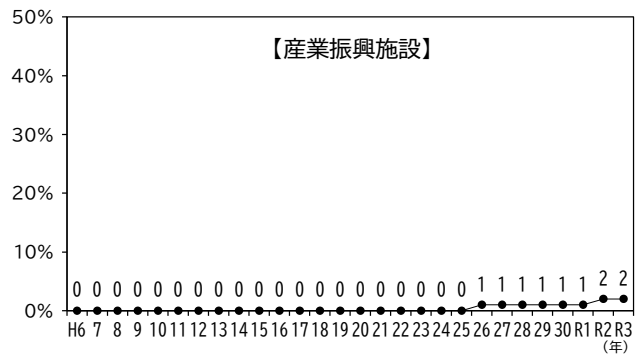
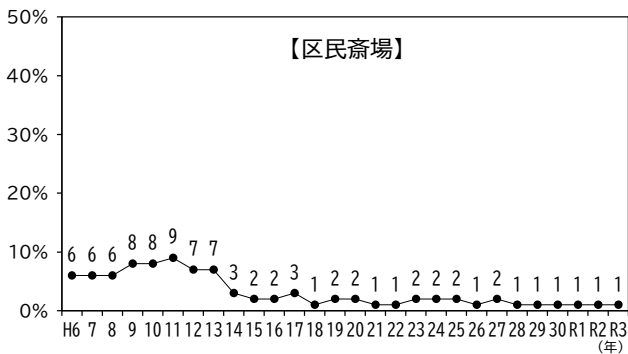
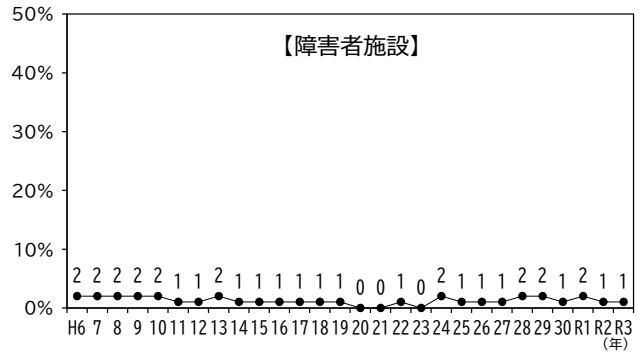
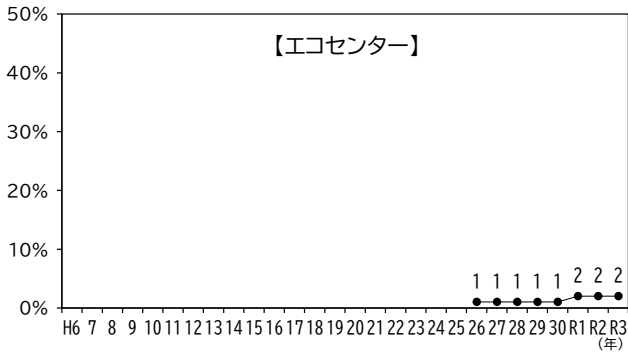
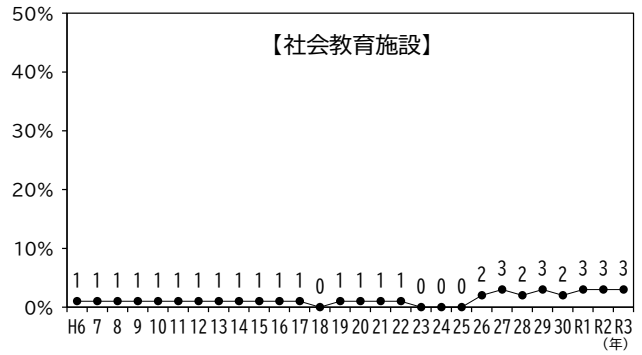
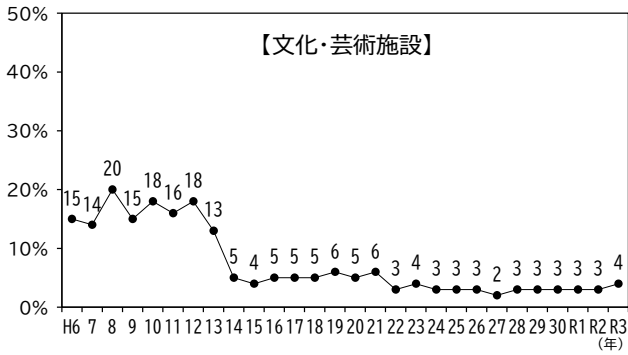
図5-1-3 整備・充実すべき施設（地区別）上位10施設

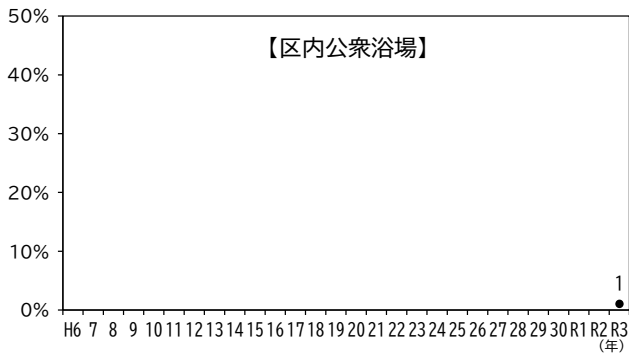
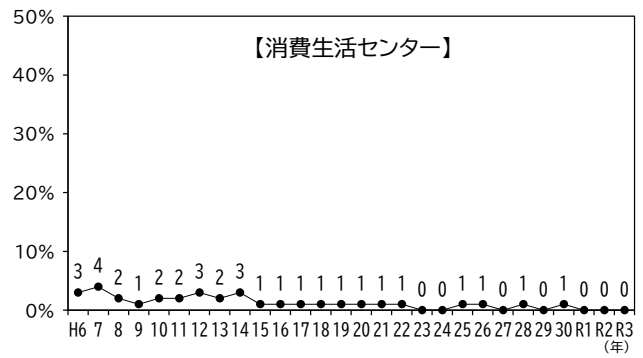
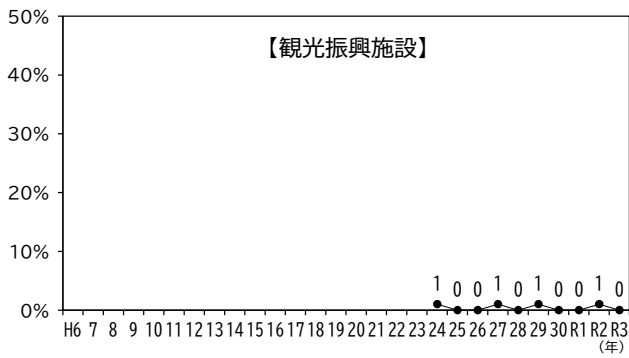


施設別に経年比較をみると、「公園・児童遊園・広場」は平成27年以降上昇傾向がみられる。「スポーツ施設」は平成23年まで2割以上で推移していたが、平成24年以降は1割台にとどまっている。
(図5-1-4)

図5-1-4 整備・充実すべき施設（第1位）施設別経年比較





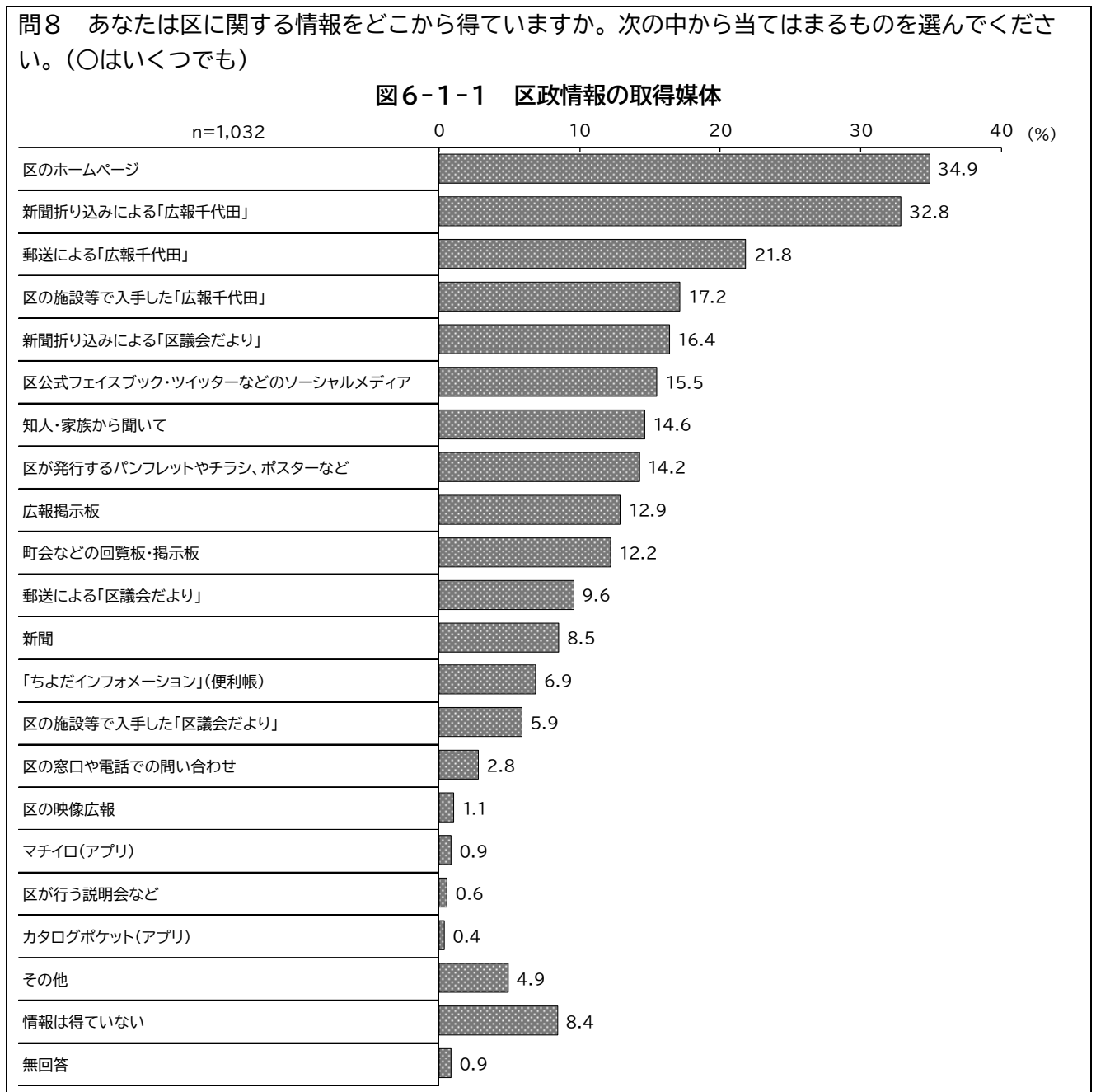


注) 比率は四捨五入している。「0」は [0.4%以下] であることを示す。選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

◇「区のホームページ」が3割台半ば近く



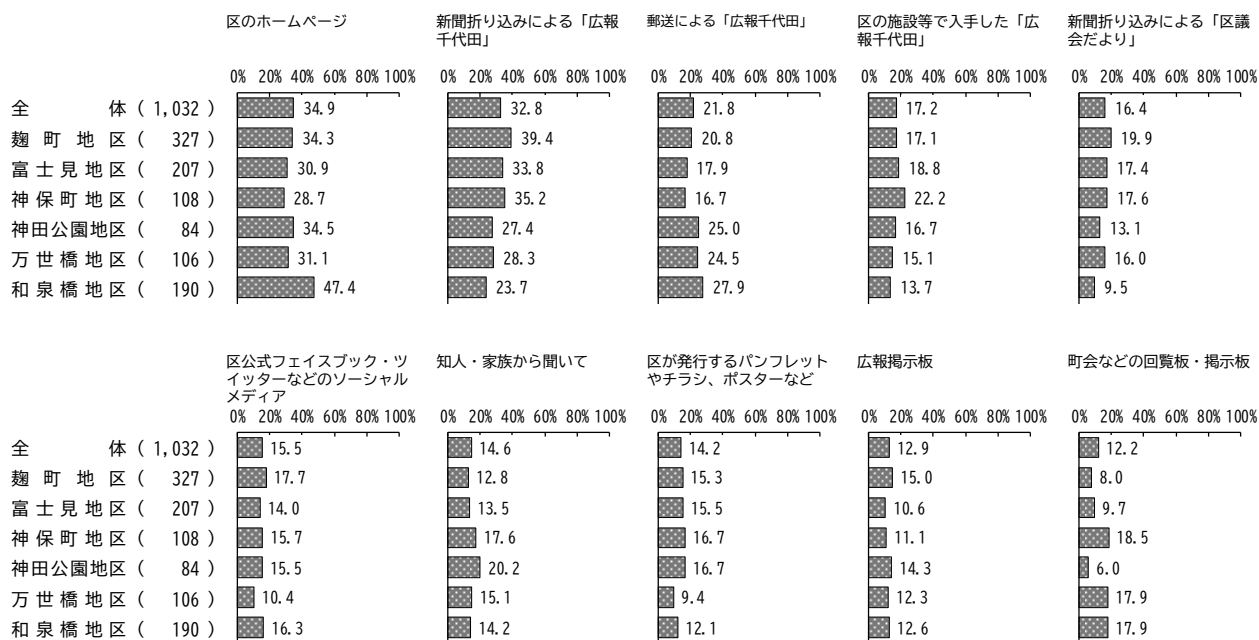
区政情報の取得媒体について聞いたところ、「区のホームページ」(34.9%)が3割台半ば近くと最も高く、「新聞折り込みによる『広報千代田』」(32.8%)の割合を上回った。「郵送による『広報千代田』」(21.8%)は2割強となっている。

「区公式フェイスブック・ツイッターなどのソーシャルメディア」(15.5%)が1割台半ばで平成28年調査(3.1%)から12.4ポイント増加し、平成28年以降で過去最高の数値となっている。一方、同じくスマートフォンなどを活用する「マチイロ(アプリ)」(0.9%)、「カタログポケット(アプリ)」(0.4%)はともに1%未満となっており、情報の入手先としてあまり活用されていないことがうかがえる。(図6-1-1)

地区別にみると、「区のホームページ」は和泉橋地区(47.4%)で4割台半ばを超えて高くなっている。「新聞折り込みによる『広報千代田』」は麴町地区(39.4%)で4割弱と高くなっている。また、「郵送による『広報千代田』」は和泉橋地区(27.9%)で2割台半ばを超えて高くなっている。

「町会などの回覧板・掲示板」は神保町地区(18.5%)・万世橋地区(17.9%)・和泉橋地区(17.9%)が他の地区を上回っている。(図6-1-2)

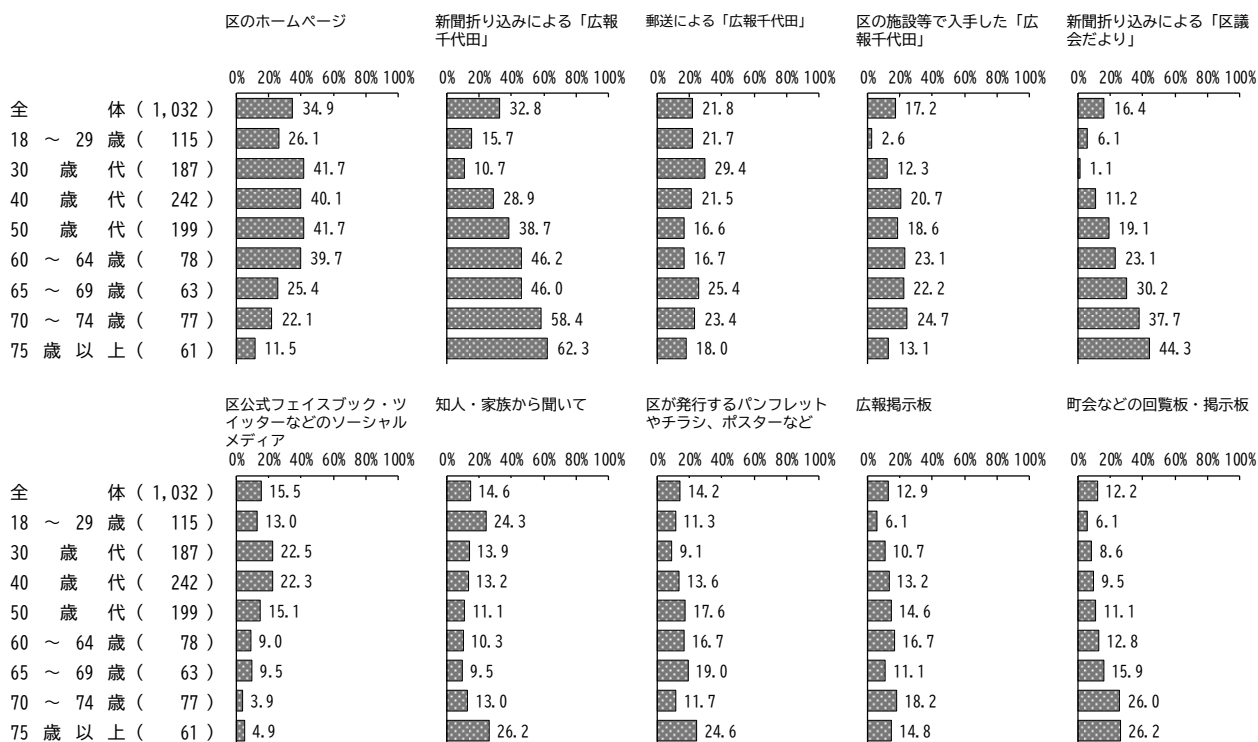
図6-1-2 区政情報の取得媒体(地区別) 上位10媒体



年代別にみると、「区のホームページ」は30歳代・50歳代（ともに41.7%）で4割強とそれぞれ高くなっている。「新聞折り込みによる『広報千代田』」は75歳以上（62.3%）で6割強と高くなっている。また、「新聞折り込みによる『区議会だより』」も75歳以上（44.3%）で4割台半ば近くと高くなっている。

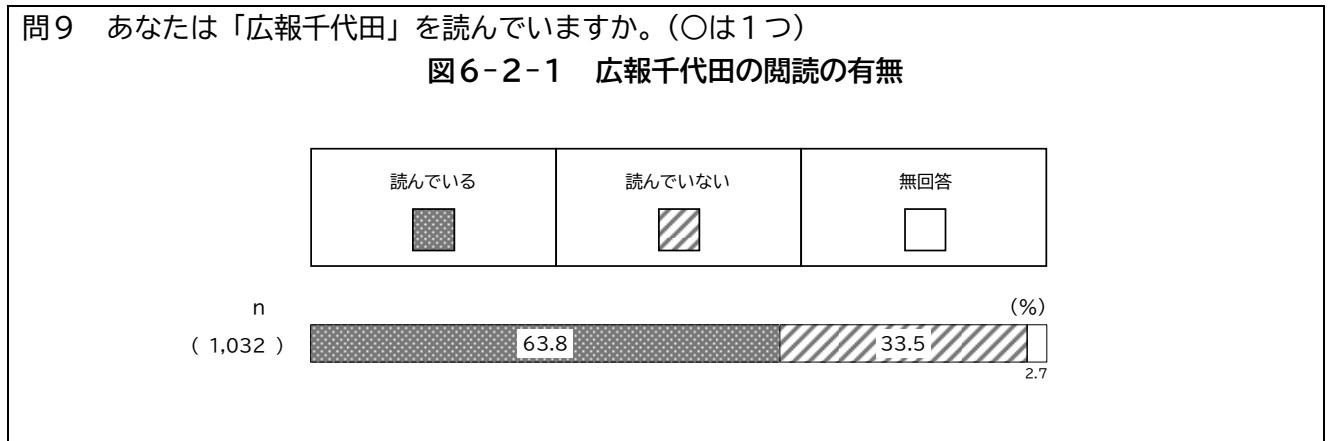
「区公式フェイスブック・ツイッターなどのソーシャルメディア」は30歳代（22.5%）・40歳代（22.3%）がともに2割強となっているが、18～29歳（13.0%）は1割台半ば近くにとどまっている。（図6-1-3）

図6-1-3 区政情報の取得媒体（年代別）上位10媒体



(2) 広報千代田の読書の有無

◇「読んでいる」が6割台半ば近く

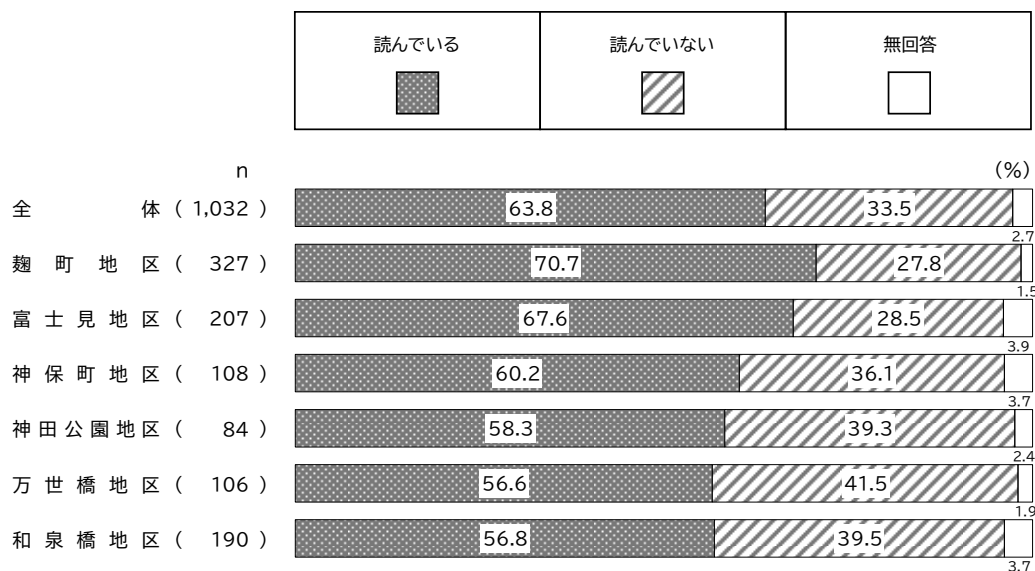


広報千代田の読書の有無について聞いたところ、「読んでいる」(63.8%)が6割台半ば近くとなり、令和2年(59.0%)から4.8ポイント増加した。(図6-2-1)

地区別にみると、「読んでいる」は麴町地区(70.7%)で約7割と高くなっている。一方、「読んでいない」は万世橋地区(41.5%)で4割強と最も高くなっている。

麴町地区・富士見地区・神保町地区は「読んでいる」が6割を超えているが、神田公園地区・万世橋地区・和泉橋地区は5割台にとどまっている。(図6-2-2)

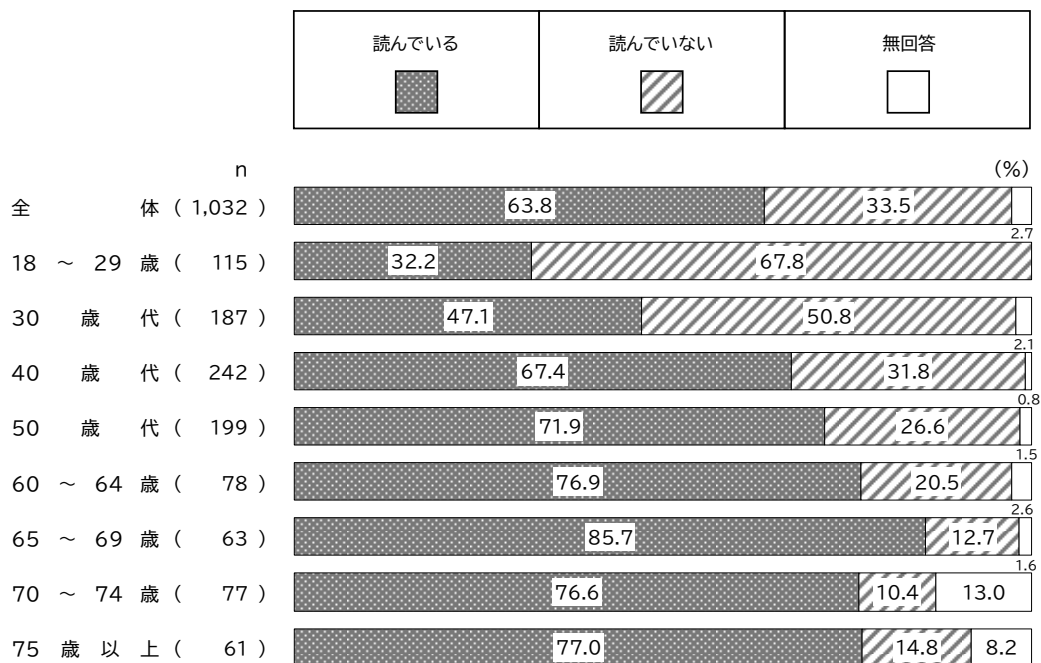
図6-2-2 広報千代田の読書の有無(地区別)



年代別にみると、「読んでいる」は65～69歳（85.7%）で8割台半ばと高くなっている。一方、「読んでいない」は18～29歳（67.8%）で6割台半ばを超えて高くなっている。

「読んでいる」は年代が上がるにつれておおむね増加する傾向にあり、30歳代までは「読んでいない」が「読んでいる」を上回っている。40歳代以降は逆転している。（図6-2-3）

図6-2-3 広報千代田の読書の有無（年代別）



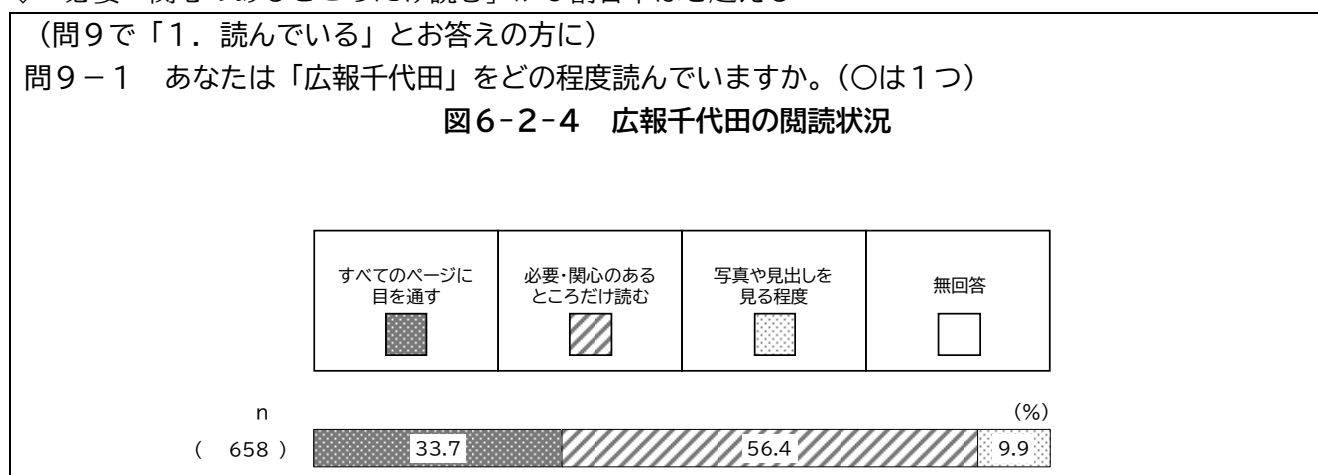
(2-1) 広報千代田の閲読状況

◇「必要・関心のあるところだけ読む」が5割台半ばを超える

(問9で「1. 読んでいる」とお答えの方に)

問9-1 あなたは「広報千代田」をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

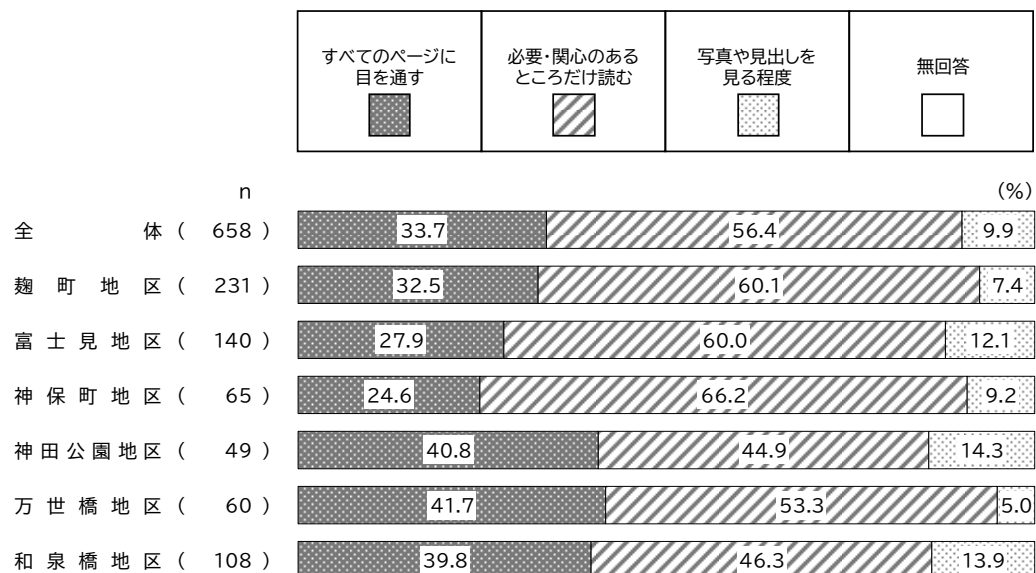
図6-2-4 広報千代田の閲読状況



広報千代田の閲読の有無で「読んでいる」とお答えの方に、広報千代田の閲読状況について聞いたところ、「必要・関心のあるところだけ読む」(56.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「すべてのページに目を通す」(33.7%)、「写真や見出しを見る程度」(9.9%)となっている。(図6-2-4)

地区別にみると、「すべてのページに目を通す」は万世橋地区(41.7%)で4割強と高くなっている。また、「必要・関心のあるところだけ読む」は神保町地区(66.2%)で6割台半ばを超えて高くなっている。(図6-2-5)

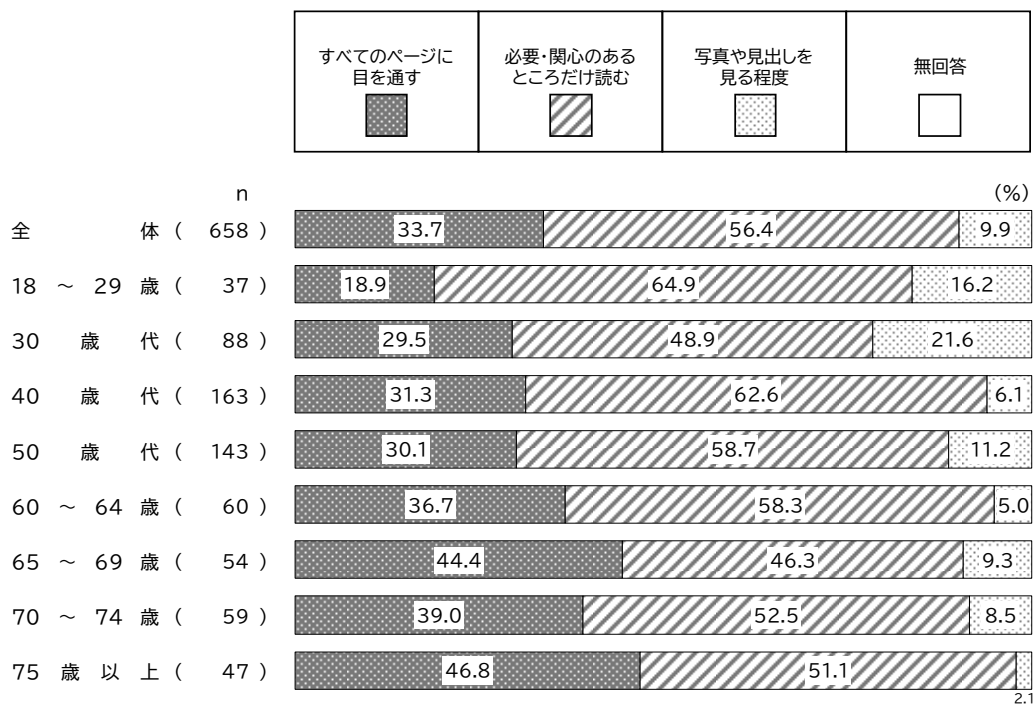
図6-2-5 広報千代田の閲読状況(地区別)



年代別にみると、「すべてのページに目を通す」は75歳以上（46.8%）が4割台半ばを超えて高くなっている。「必要・関心のあるところだけ読む」は18～29歳（64.9%）で6割台半ば近くと高くなっている。

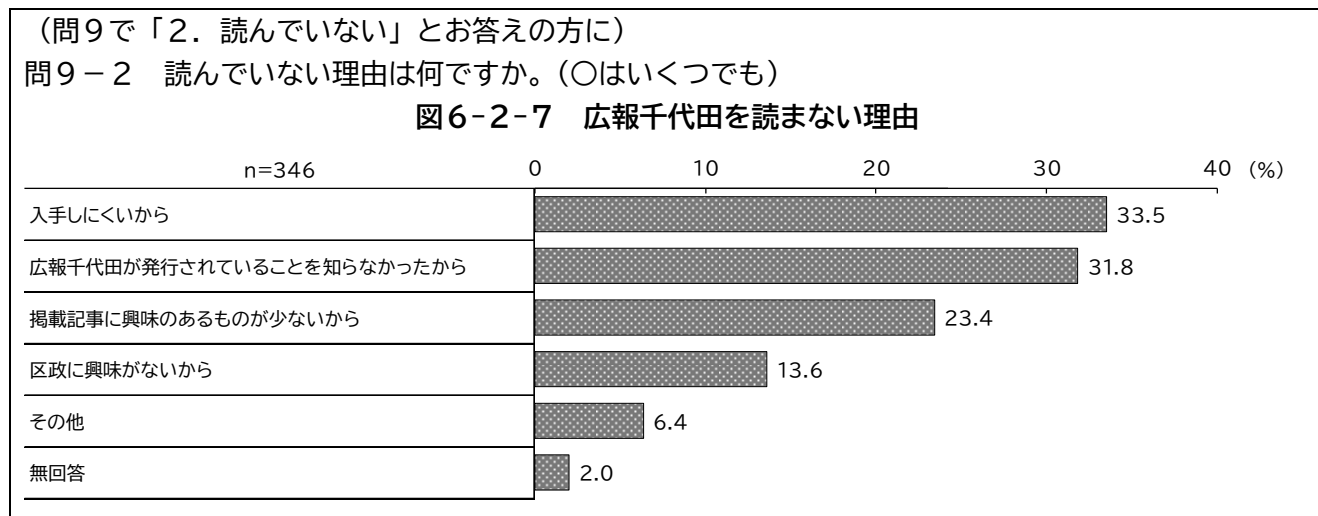
「すべてのページに目を通す」は年代が上がるにつれておおむね増加する傾向がある。また、「写真や見出しを見る程度」は30歳代（21.6%）で2割強と最も高くなっている。（図6-2-6）

図6-2-6 広報千代田の閲読状況（年代別）



(2-2) 広報千代田を読まない理由

◇「入手しにくいから」が3割台半ば近く

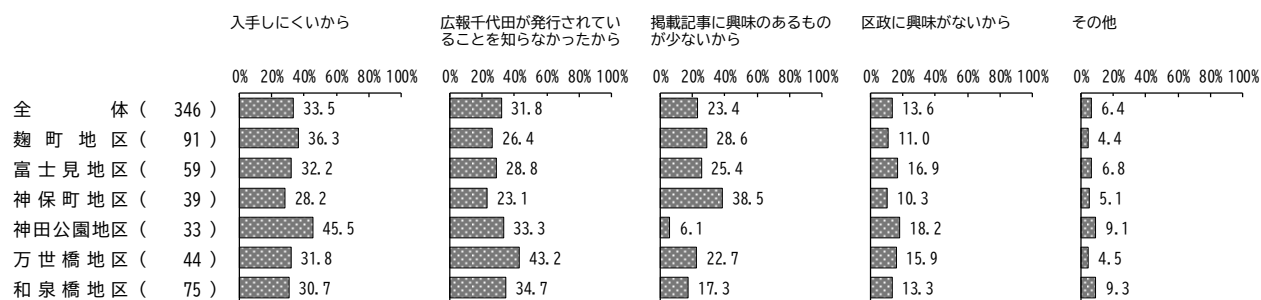


広報千代田の閲読の有無で「読んでいない」とお答えの方に、広報千代田を読まない理由について聞いたところ、「入手しにくいから」(33.5%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで、「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(31.8%)、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(23.4%)となっている。(図6-2-7)

地区別にみると、「入手しにくいから」は神田公園地区(45.5%)が4割台半ばと高くなっている。「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」は万世橋地区(43.2%)が4割台半ば近くと高くなっている。

また、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」は神保町地区(38.5%)で4割近くと高くなっている。一方で、神田公園地区(6.1%)では1割未満となっており、神保町地区とは32.4ポイントの差が開いている。(図6-2-8)

図6-2-8 広報千代田を読まない理由(地区別)

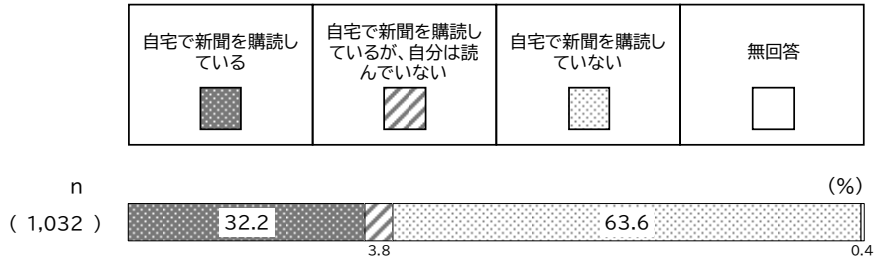


(3) 自宅での新聞購読の有無

◇「自宅で新聞を購読していない」が6割台半ば近く

問10 あなたは自宅で新聞購読していますか（電子版を除く）。（○は1つ）

図6-3-1 自宅での新聞購読の有無

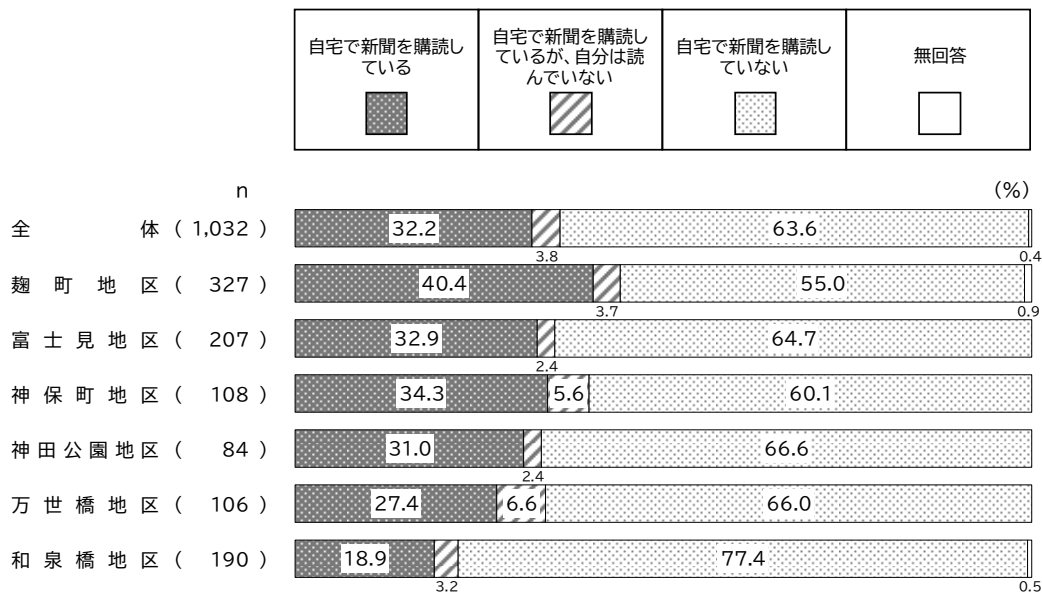


自宅での新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」(63.6%)が6割台半ば近くと最も高く、令和2年(63.0%)から0.6ポイント増加している。(図6-3-1)

地区別にみると、「自宅で新聞を購読している」は麴町地区(40.4%)が約4割と高くなっている。また、「自宅で新聞を購読していない」は和泉橋地区(77.4%)が7割台半ばを超えて高くなっている。

「自宅で新聞を購読している」が最も高い麴町地区(40.4%)と和泉橋地区(18.9%)では、21.5ポイントの差が開いている。(図6-3-2)

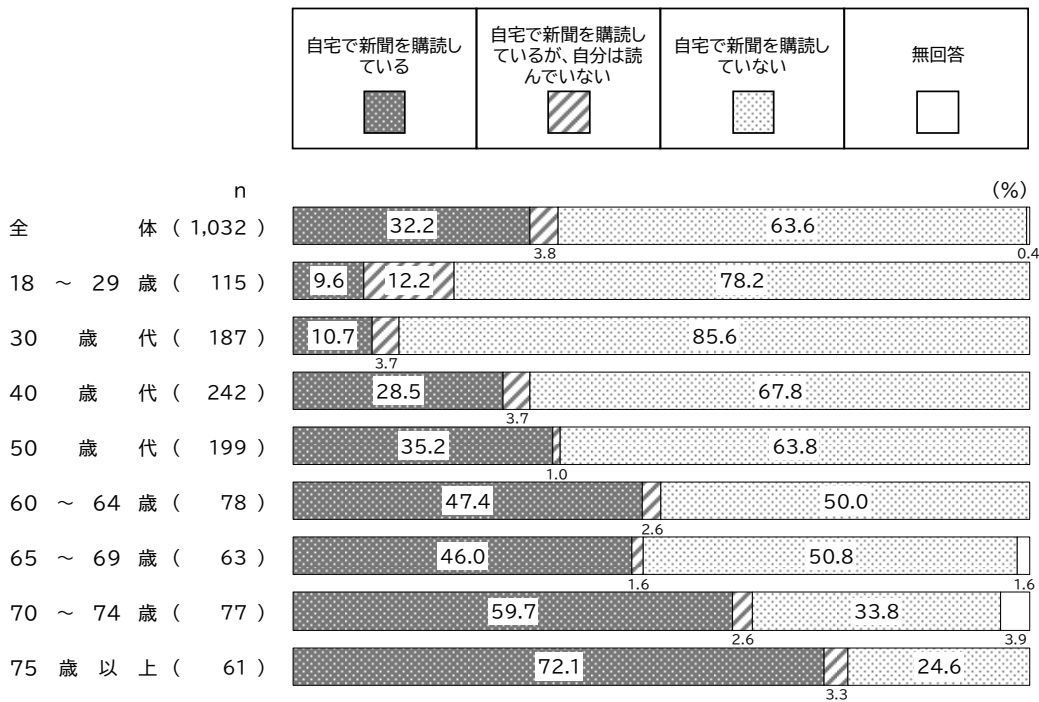
図6-3-2 自宅での新聞購読の有無（地区別）



年代別にみると、「自宅で新聞を購読している」は75歳以上(72.1%)が7割強と最も高くなっており、おおむね年代が上がるにつれて「自宅で新聞を購読している」が増加する傾向にある。「自宅で新聞を購読していない」は30歳代(85.6%)で8割台半ばと最も高くなっている。

また、18～29歳で「自宅で新聞を購読しているが、自分は読んでいない」(12.2%)が1割強となっており、他の年代を大きく上回っている。(図6-3-3)

図6-3-3 自宅での新聞購読の有無(年代別)



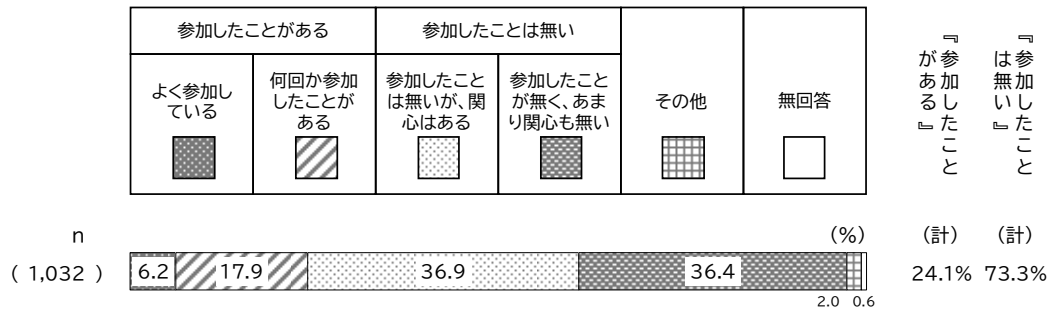
7. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

◇「参加したことは無いが、関心はある」・「参加したことが無く、あまり関心も無い」が3割台半ばを超える

問11 あなたは地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。（○は1つ）

図7-1-1 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況



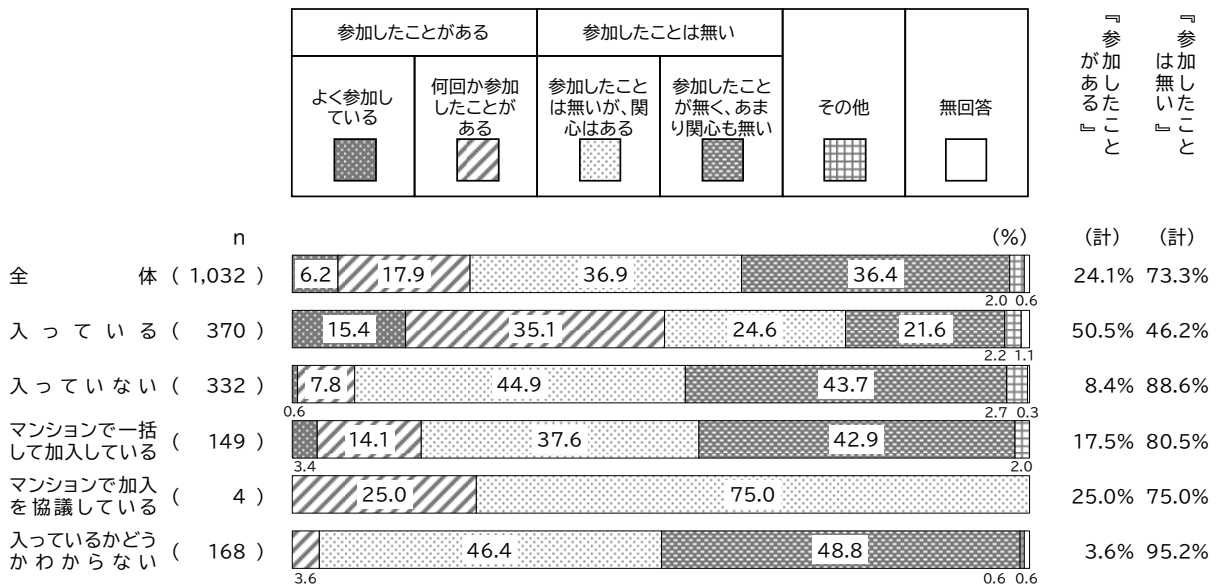
地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況について聞いたところ、「参加したことは無いが、関心はある」（36.9%）が3割台半ばを超えて最も高く、これに「参加したことが無く、あまり関心も無い」（36.4%）を合わせた『参加したことは無い』（73.3%）が7割台半ば近くとなっている。一方、「よく参加している」（6.2%）と「何回か参加したことがある」（17.9%）を合わせた『参加したことがある』（24.1%）は2割台半ば近くとなっている。

平成28年調査と比較すると、『参加したことがある』は平成28年（29.5%）から令和3年（24.1%）にかけて5.4ポイント減少している。一方、『参加したことは無い』は平成28年（68.6%）から令和3年（73.3%）にかけて4.7ポイント増加している。（図7-1-1）

町会の加入状況別にみると、『参加したことがある』は町会に「入っている」(50.5%)で約5割と高くなっているが、「入っていない」(8.4%)・「入っているかどうか分からない」(3.6%)では1割未満にとどまっている。

また、町会に「入っていない」場合でも「参加したことは無いが、関心はある」(44.9%)が4割台半ば近くとなっている。(図7-1-2)

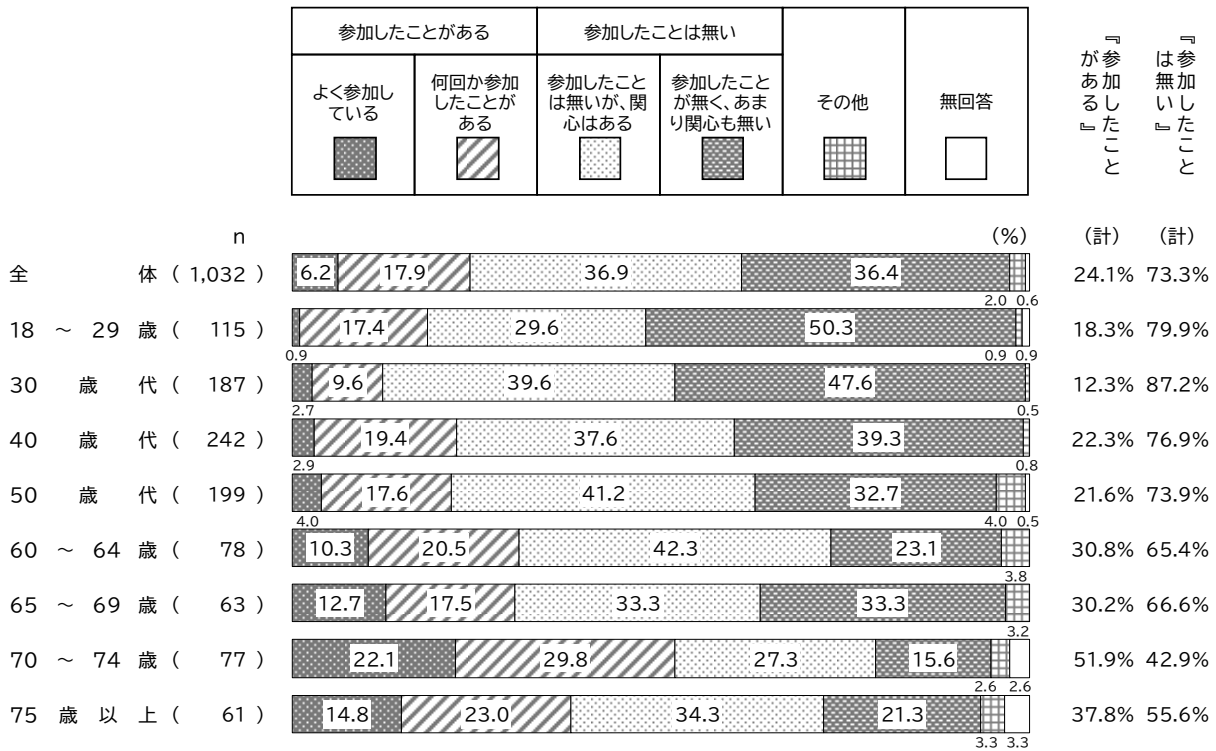
図7-1-2 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(町会の加入状況別)



年代別にみると、『参加したことがある』は70～74歳(51.9%)で5割強と高くなっている。一方、『参加したことは無い』は30歳代(87.2%)で8割台半ばを超えて高くなっている。

「参加したことは無いが、関心はある」と「参加したことが無く、あまり関心も無い」を比較すると、40歳代までは「参加したことが無く、あまり関心も無い」が上回っており、それ以降はおおむね逆転している。(図7-1-3)

図7-1-3 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(年代別)

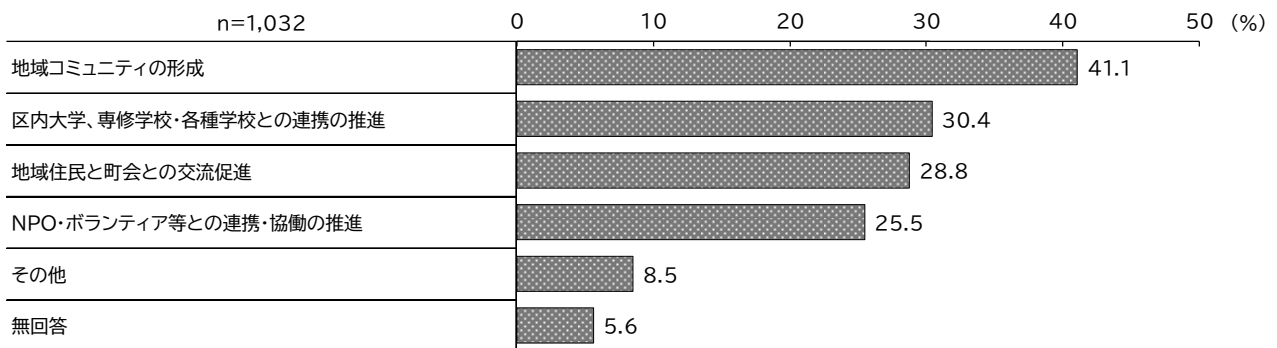


(2) 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野

◇「地域コミュニティの形成」が4割強

問12 町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。(〇はいくつでも)

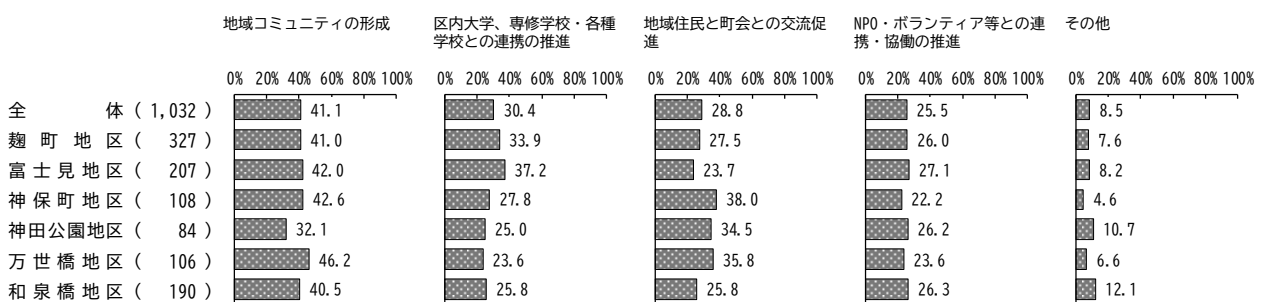
図7-2-1 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野



町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(41.1%)が4割強と最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(30.4%)、「地域住民と町会との交流促進」(28.8%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の推進」(25.5%)となっている。(図7-2-1)

地区別に見ると、「地域コミュニティの形成」は万世橋地区(46.2%)で4割台半ばを超えて高くなっている。「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は富士見地区(37.2%)で3割台半ばを超えて高くなっている。また、「地域住民と町会との交流促進」は神保町地区(38.0%)で4割近くと高くなっている。(図7-2-2)

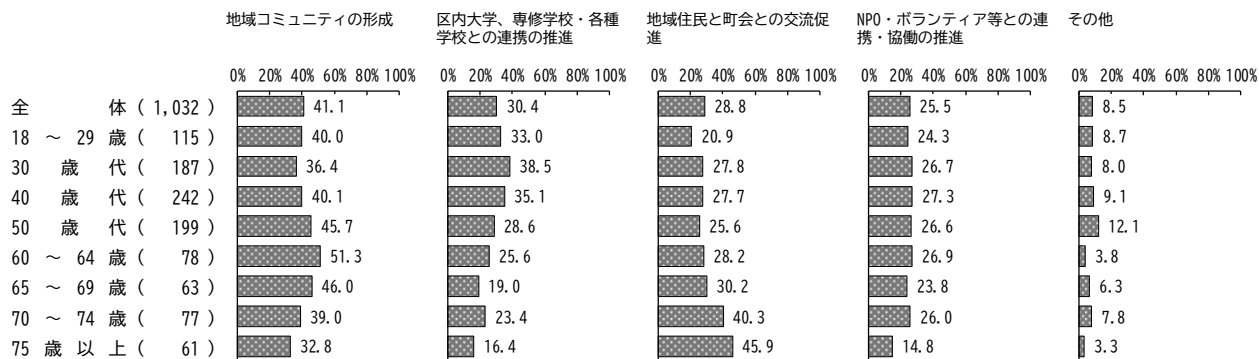
図7-2-2 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野(地区別)



年代別にみると、「地域コミュニティの形成」は60～64歳（51.3%）で5割強と高くなっている。「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は30歳代（38.5%）で4割近くと高くなっている。また、「地域住民と町会との交流促進」は75歳以上（45.9%）で4割台半ばと高くなっている。

（図7-2-3）

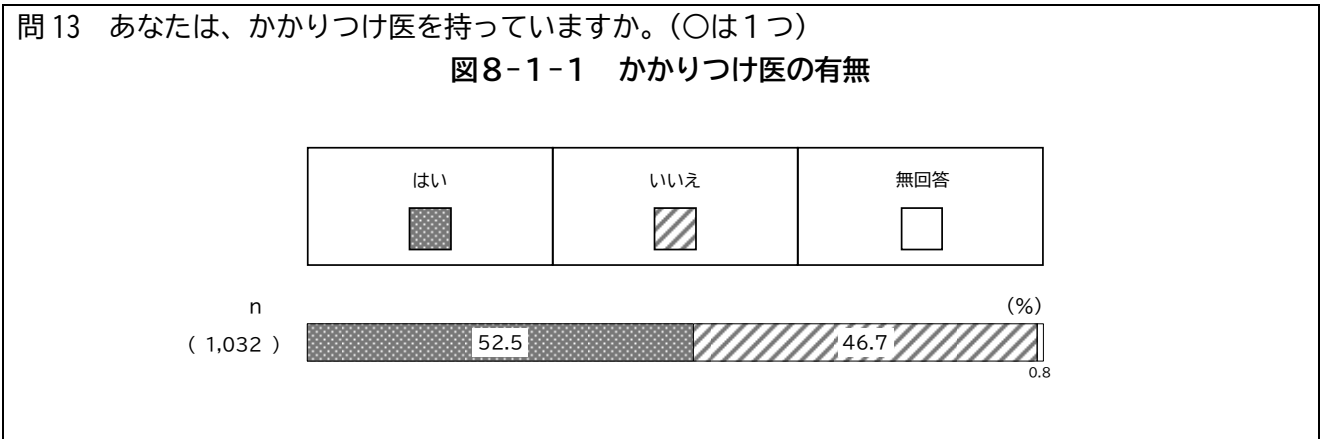
図7-2-3 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野（年代別）



8. かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

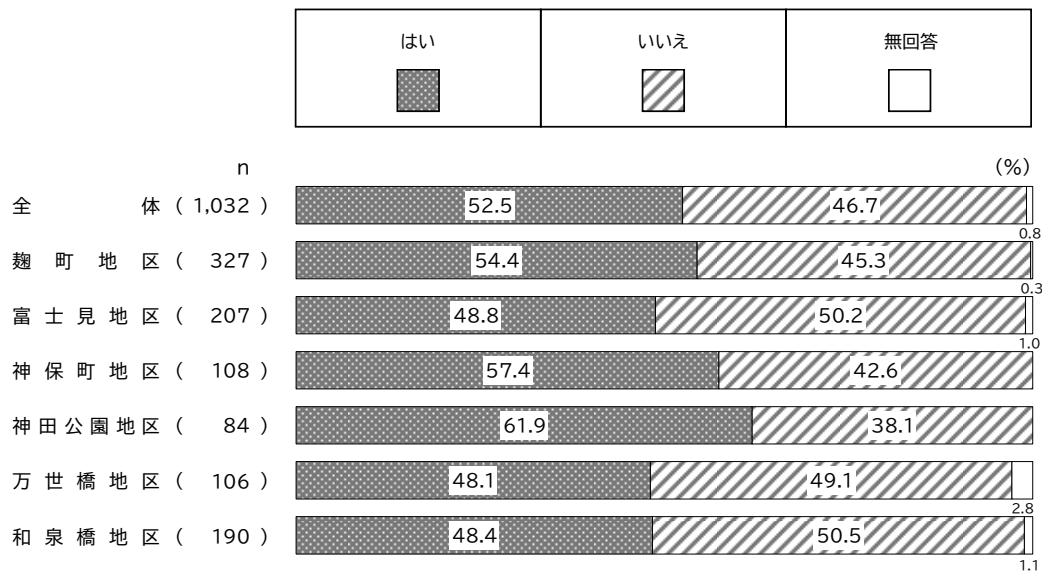
◇かかりつけ医がいるのは5割強



かかりつけ医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (52.5%) が5割強、一方「いいえ」(いない) (46.7%) は4割台半ばを超えている。(図8-1-1)

地区別にみると、「はい」(いる) は神田公園地区 (61.9%) で6割強と高くなっている。一方、「いいえ」(いない) は富士見地区 (50.2%) ・和泉橋地区 (50.5%) で約5割とそれぞれ高くなっている。(図8-1-2)

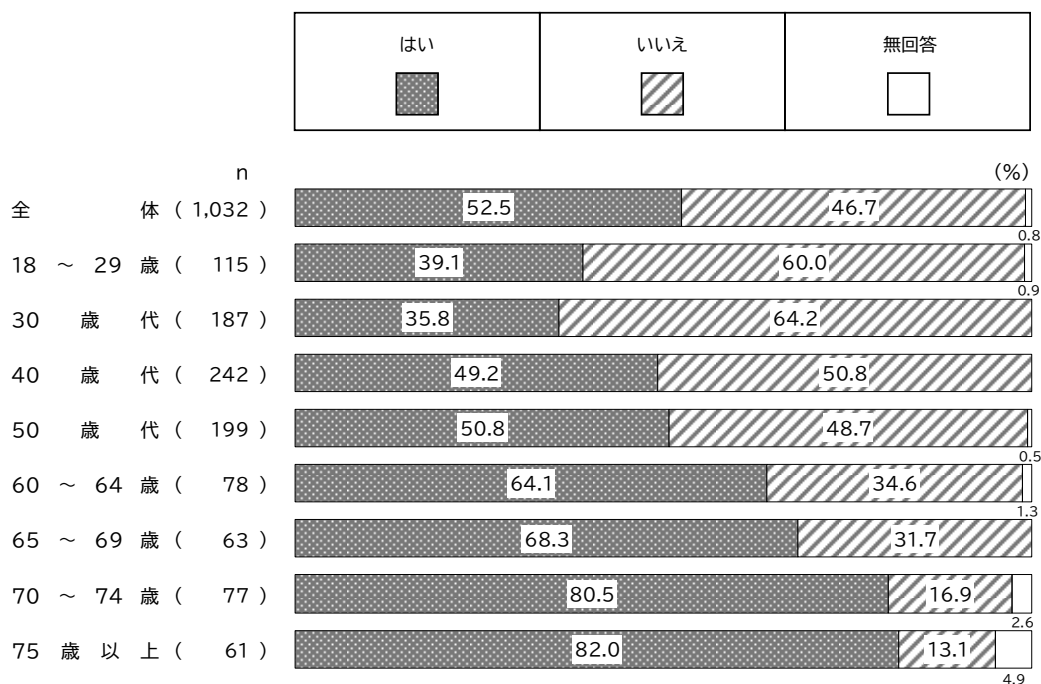
図8-1-2 かかりつけ医の有無 (地区別)



年代別にみると、「はい」(いる)は75歳以上(82.0%)で8割強と高くなっており、年代が上がるにつれて「はい」(いる)がおおむね増加する傾向にある。一方、「いいえ」(いない)は30歳代(64.2%)で6割台半ば近くと高くなっている。

「はい」(いる)は30歳代までは3割台にとどまっているが、50歳代以降になると5割を超えている。(図8-1-3)

図8-1-3 かかりつけ医の有無(年代別)



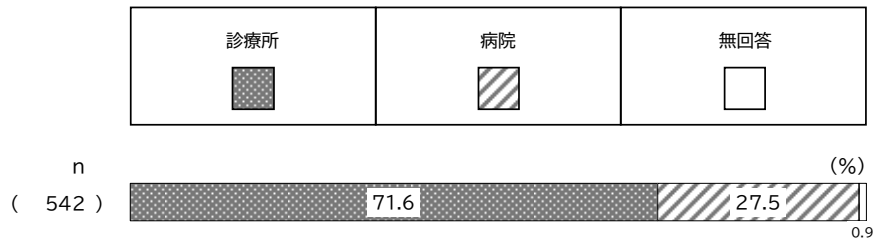
(1-1) かかりつけ医の医療機関

◇かかりつけ医の医療機関は「診療所」が7割強

(問13で「1. はい」とお答えの方に)

問13-1 そのかかりつけ医は、診療所の医師ですか、それとも病院の医師ですか。(○は1つ)

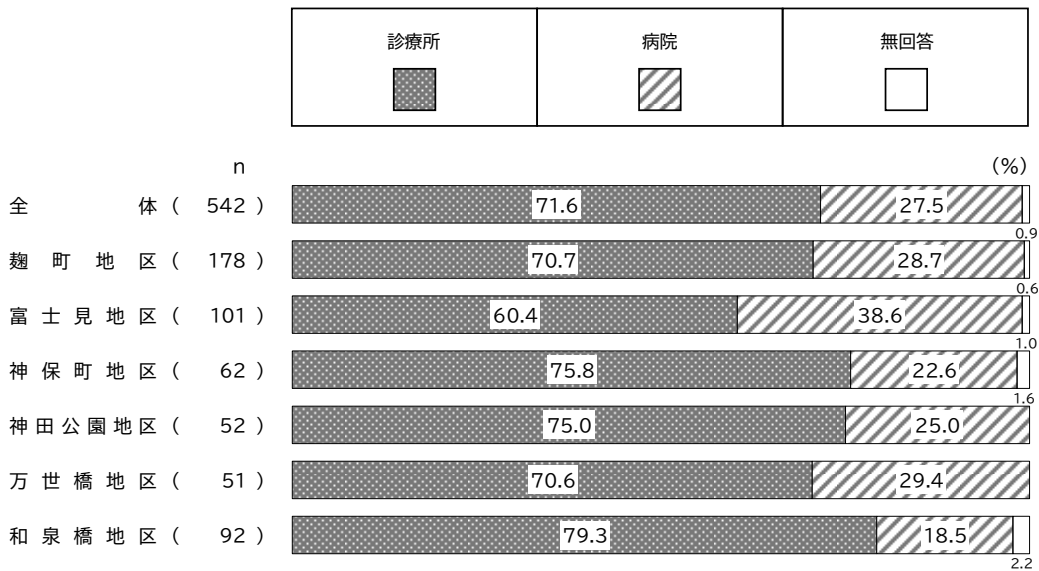
図8-1-4 かかりつけ医の医療機関



かかりつけ医の有無で「はい」(いる)とお答えの方に、かかりつけ医の医療機関について聞いたところ、「診療所」(71.6%)が7割強、「病院」(27.5%)は2割台半ばを超えている。(図8-1-4)

地区別にみると、「診療所」は和泉橋地区(79.3%)が8割弱で、「病院」は富士見地区(38.6%)が4割近くとそれぞれ最も高くなっている。(図8-1-5)

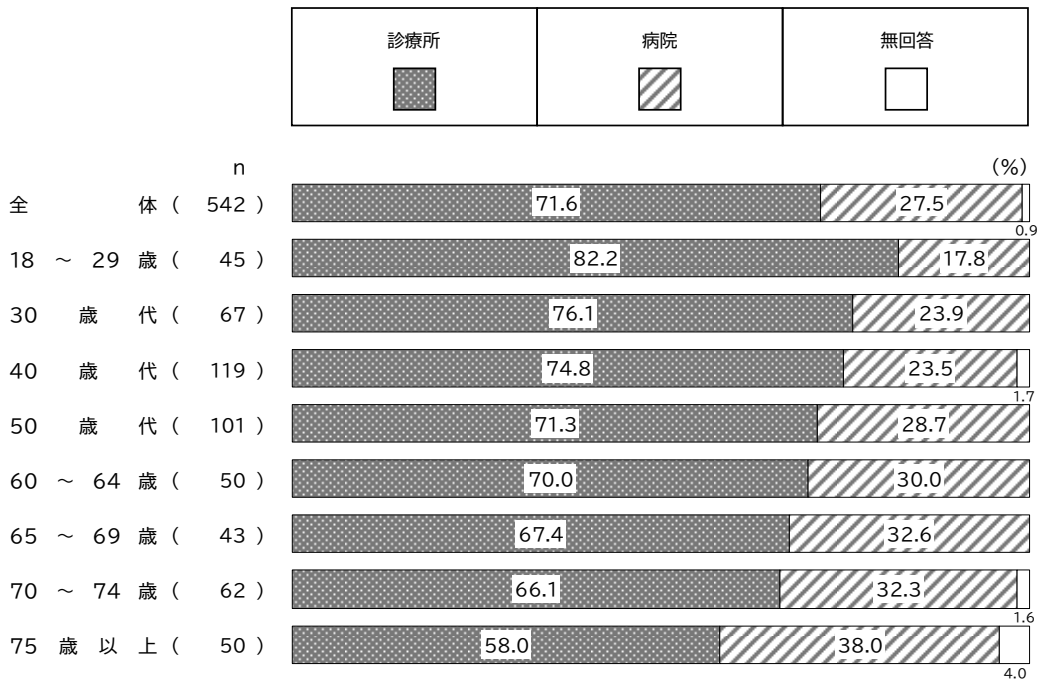
図8-1-5 かかりつけ医の医療機関(地区別)



年代別にみると、「診療所」は18～29歳（82.2%）で8割強と高くなっている。一方、「病院」は75歳以上（38.0%）で4割近くと高くなっている。

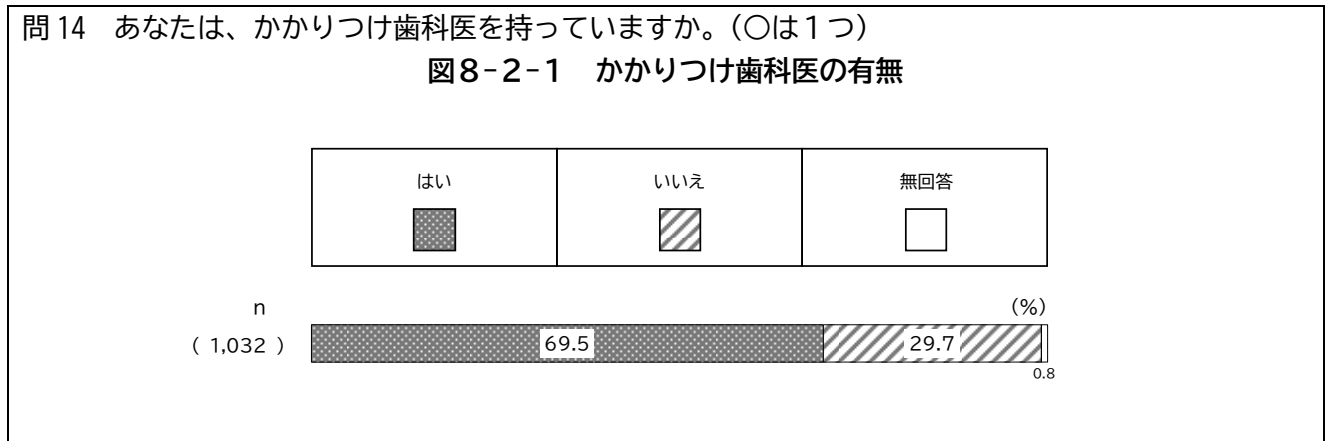
年代が上がるにつれて「病院」が増加する傾向があり、18～29歳（17.8%）から75歳以上（38.0%）にかけて20.2ポイント増加している。（図8-1-6）

図8-1-6 かかりつけ医の医療機関（年代別）



(2) かかりつけ歯科医の有無

◇かかりつけ歯科医がいるのは7割弱

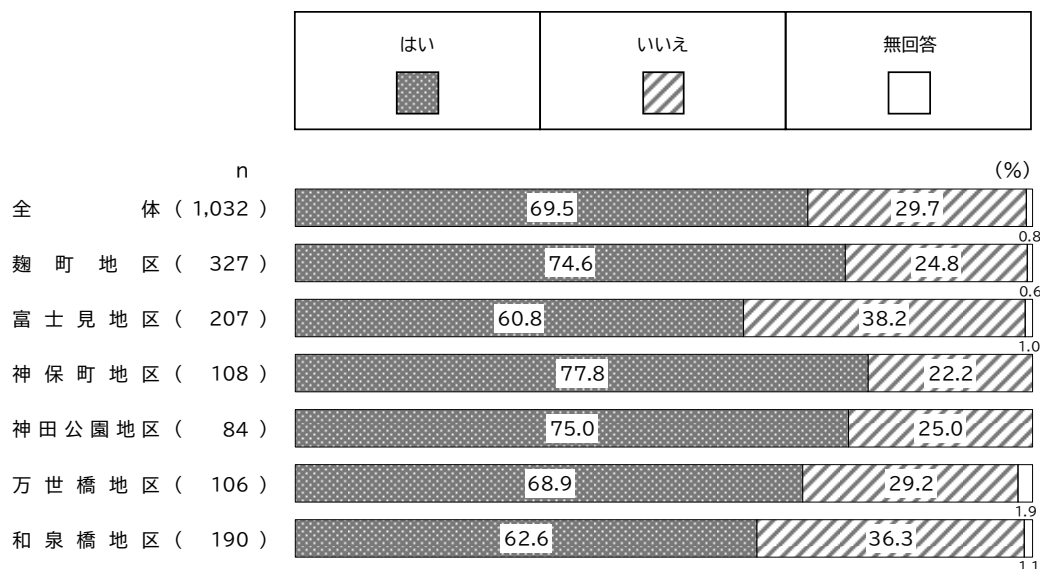


かかりつけ歯科医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (69.5%) が7割弱、「いいえ」(いない) (29.7%) は3割弱となっている。(図8-2-1)

地区別に見ると、「はい」(いる) は神保町地区 (77.8%) が7割台半ばを超えて最も高くなっている。「いいえ」(いない) は富士見地区 (38.2%) で4割近くと高くなっている。

「はい」(いる) が最も高い神保町地区 (77.8%) と富士見地区 (60.8%) では17.0ポイントの差が開いている。(図8-2-2)

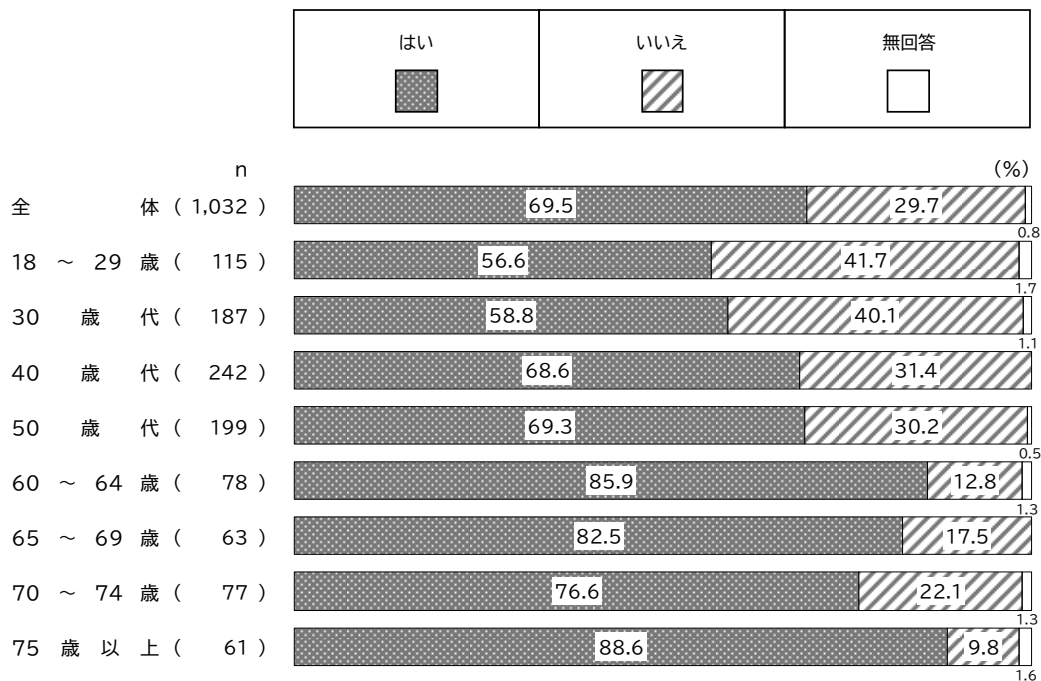
図8-2-2 かかりつけ歯科医の有無 (地区別)



年代別にみると、「はい」（いる）は75歳以上（88.6%）で9割近くと高くなっている。一方、「いいえ」（いない）は18～29歳（41.7%）で4割強と最も高くなっている。

全ての年代で「はい」が「いいえ」を上回っているが、「はい」の割合が最も高い75歳以上（88.6%）と18～29歳（56.6%）では32.0ポイントの差が開いている。（図8-2-3）

図8-2-3 かかりつけ歯科医の有無（年代別）



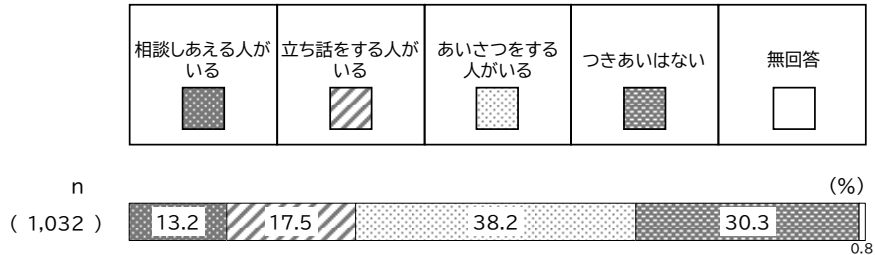
9. 第二次健康千代田21の成果指標

(1) 地域の人との関わり

◇「あいさつをする人がいる」が4割近く

問15 あなたは、お住まいの地域の人との程度かかわりを持っていますか。(○は1つ)

図9-1-1 地域の人との関わり

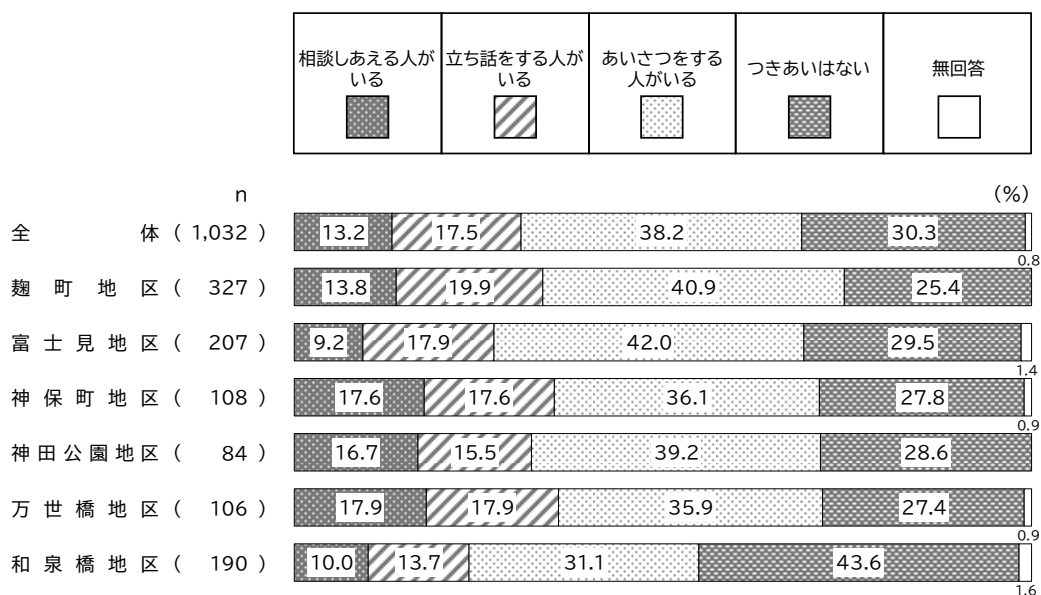


地域の人との関わりについて聞いたところ、「あいさつをする人がいる」(38.2%)が4割近くと最も高く、次いで、「つきあいはない」(30.3%)、「立ち話をする人がいる」(17.5%)、「相談しあえる人がいる」(13.2%)となっている。(図9-1-1)

地区別にみると、「あいさつをする人がいる」は富士見地区(42.0%)が4割強で最も高くなっている。一方、「つきあいはない」は和泉橋地区(43.6%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。

回答の順位をみると、和泉橋地区のみで「つきあいはない」(43.6%)が最も高く、その他の地区では「あいさつをする人がいる」が最も高くなっている。(図9-1-2)

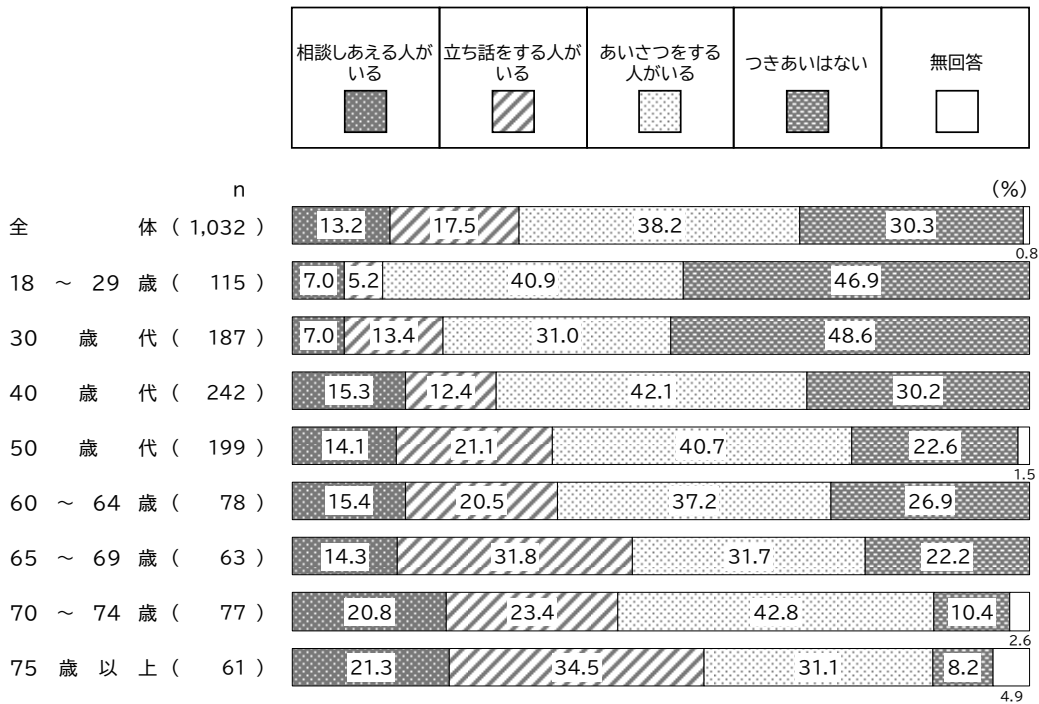
図9-1-2 地域の人との関わり(地区別)



年代別にみると、「立ち話をする人がいる」は75歳以上(34.5%)で3割台半ば近くと高くなっている。「あいさつをする人がいる」は40歳代(42.1%)・70~74歳(42.8%)で4割強とそれぞれ高くなっている。一方、「つきあいはない」は30歳代(48.6%)で5割近くと高くなっている。

「相談しあえる人がいる」は年代が上がるにつれておおむね増加しているが、最も割合が高い75歳以上(21.3%)であっても2割強にとどまっている。(図9-1-3)

図9-1-3 地域の人との関わり (年代別)

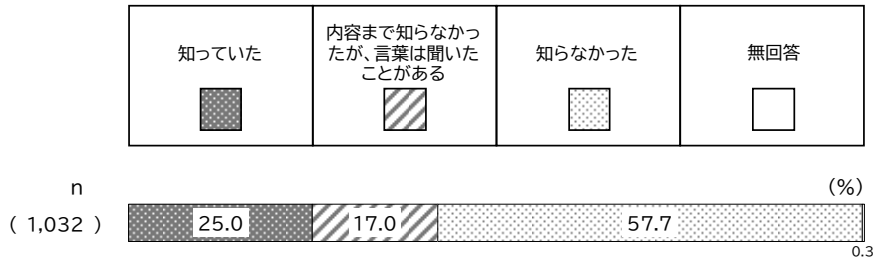


(2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度

◇「知らなかった」が5割台半ばを超える

問 16 あなたは「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」の内容を知っていましたか。(○は1つ)

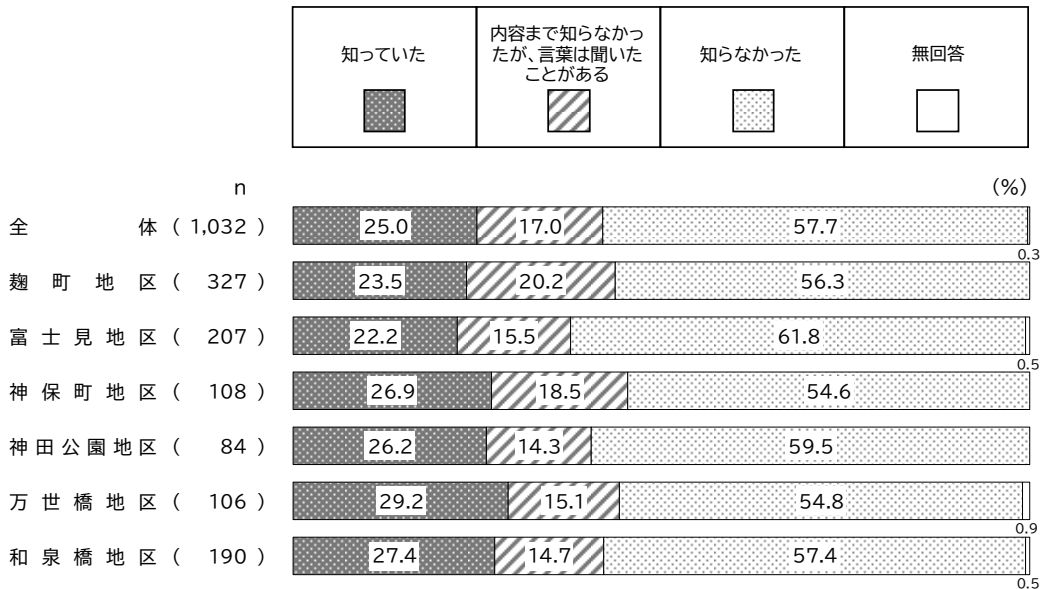
図9-2-1 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度



慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度について聞いたところ、「知らなかった」(57.7%) が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「知っていた」(25.0%)、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(17.0%) となっている。(図9-2-1)

地区別にみると、「知っていた」は万世橋地区 (29.2%) が3割弱と最も高くなっている。全ての地区で「知らなかった」が半数以上となっている。(図9-2-2)

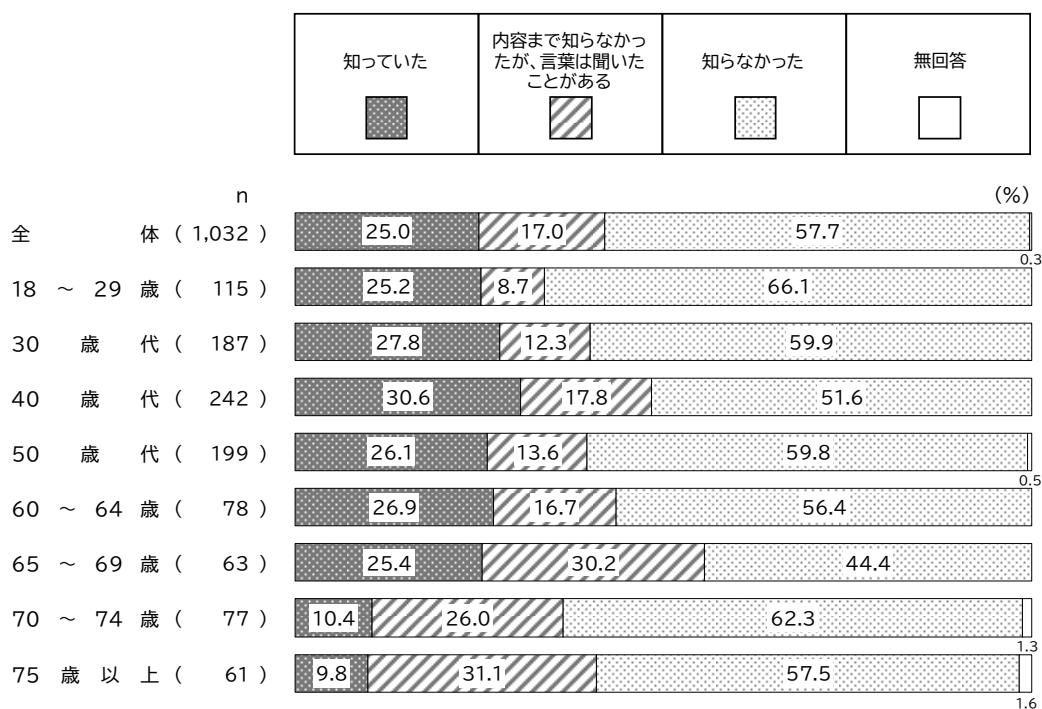
図9-2-2 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度 (地区別)



年代別にみると、「知っていた」は40歳代（30.6%）で約3割と高くなっている。一方、「知らなかった」は18～29歳（66.1%）で6割台半ばを超えて高くなっている。

「知っていた」は69歳までおおむね2割台半ば以上で推移しているが、75歳以上になると1割弱に減少している。（図9-2-3）

図9-2-3 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度（年代別）



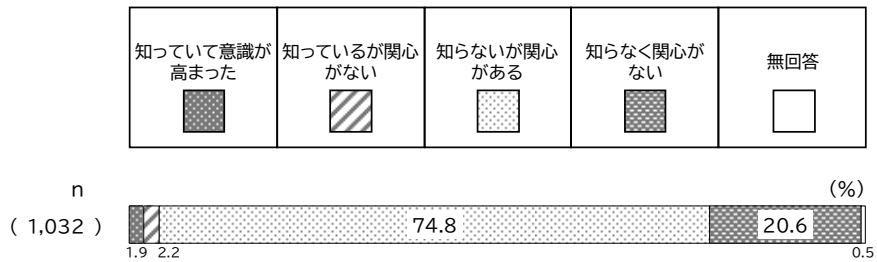
10. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らないが関心がある」が7割台半ば近く

問 17 区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成 31 年 3 月に千代田区自殺対策計画を策定しましたがご存じですか。(○は1つ)

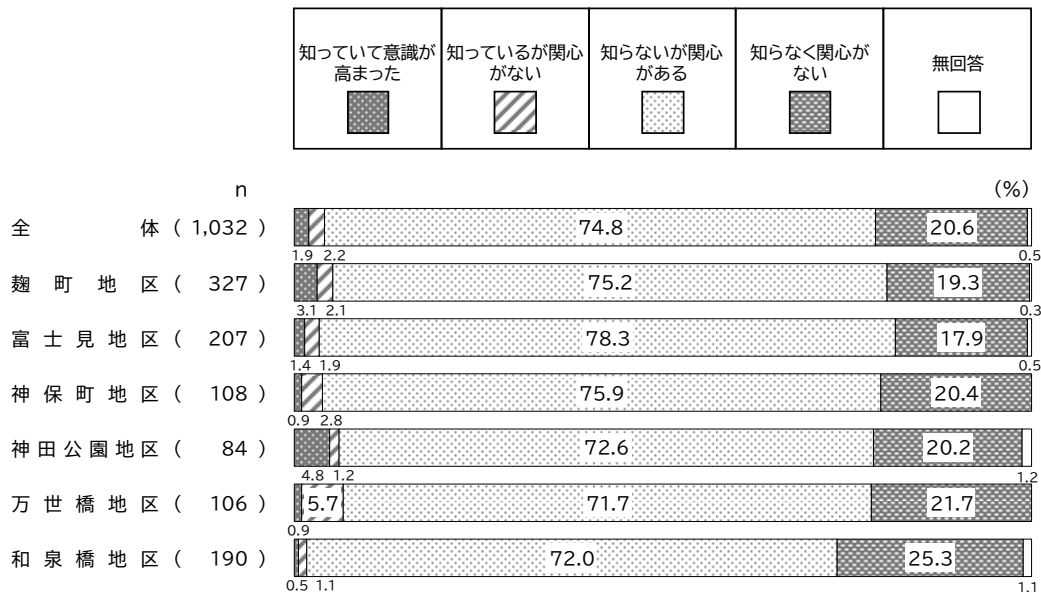
図 10-1-1 千代田区自殺対策計画の認知度



千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らないが関心がある」(74.8%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで、「知らなく関心がない」(20.6%)、「知っているが関心がない」(2.2%)、「知っている意識が高まった」(1.9%)となっている。(図 10-1-1)

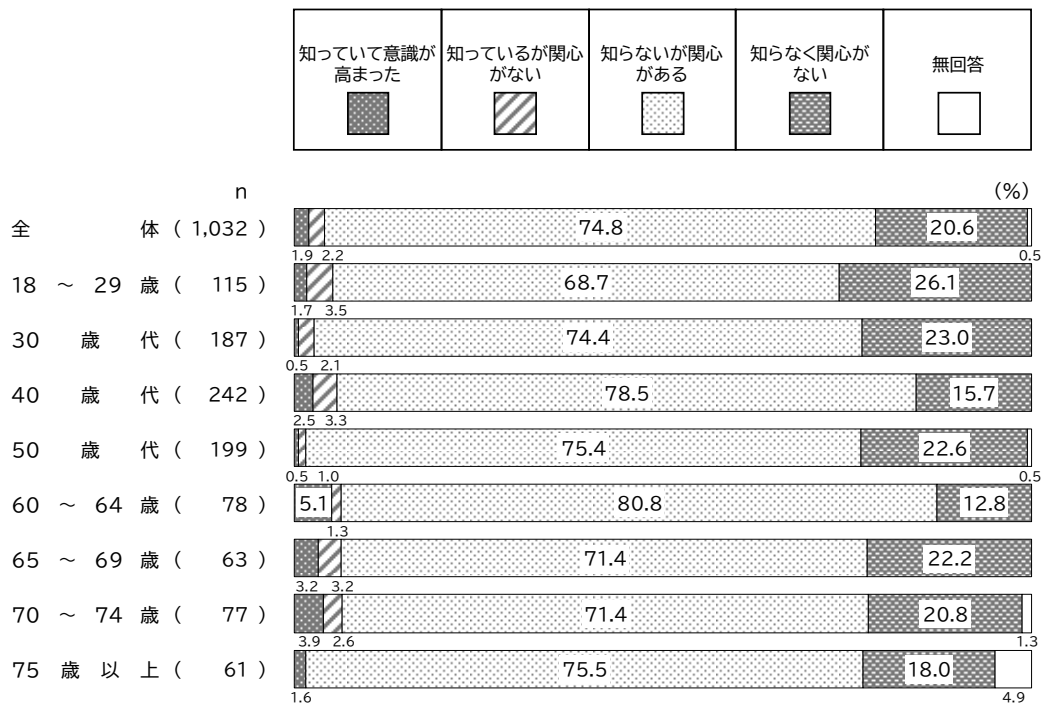
地区別にみると、「知らないが関心がある」は富士見地区(78.3%)が8割近くと最も高くなっている。(図 10-1-2)

図 10-1-2 千代田区自殺対策計画の認知度(地区別)



年代別にみると、「知らないが関心がある」は60～64歳(80.8%)が約8割と最も高くなっている。「知らなく関心がない」は18～29歳(26.1%)で2割台半ばを超えて高くなっている。(図10-1-3)

図10-1-3 千代田区自殺対策計画の認知度(年代別)

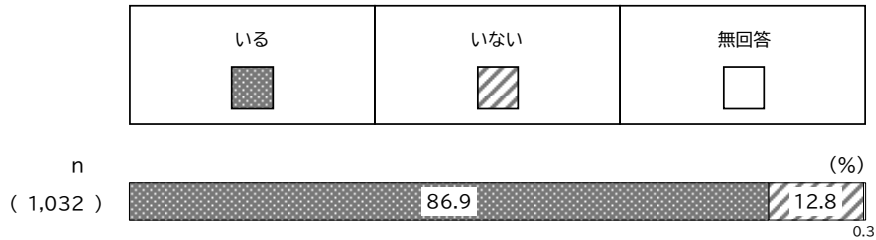


(2) 悩みを相談できる人の有無

◇悩みを相談できる人が「いる」が8割台半ばを超える

問 18 あなたは、悩みやストレスを感じたときに相談できる人がいますか。(○は1つ)

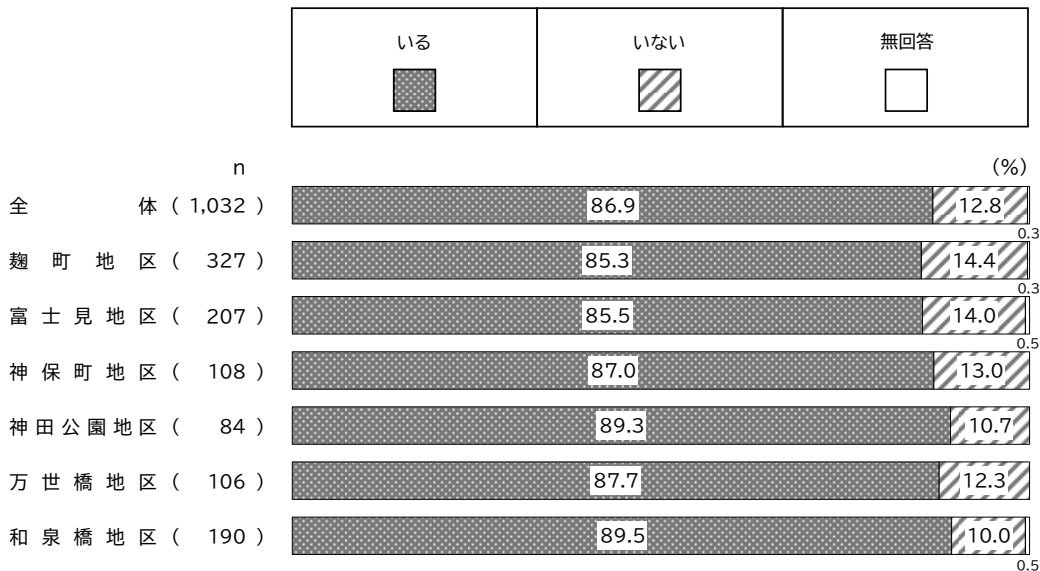
図 10-2-1 悩みを相談できる人の有無



悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(86.9%)が8割台半ばを超え、「いない」(12.8%)は1割強となっている。(図 10-2-1)

地区別にみると、「いる」は神田公園地区(89.3%)・和泉橋地区(89.5%)で9割弱とそれぞれ高くなっている。地区別では大きな差はみられず、いずれの地区にも悩みを相談できる人が「いない」は1割程度いることがうかがえる。(図 10-2-2)

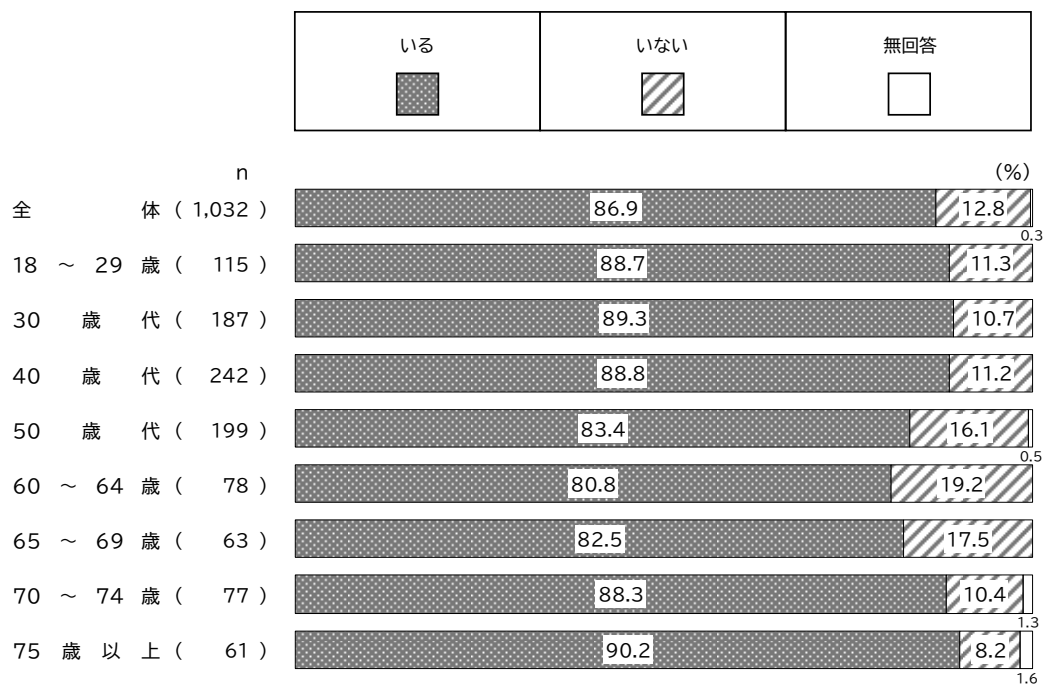
図 10-2-2 悩みを相談できる人の有無(地区別)



年代別にみると、「いる」は75歳以上（90.2%）で約9割と高くなっている。一方、「いない」は60～64歳（19.2%）で2割弱と高くなっている。

悩みを相談できる人が「いない」は60～64歳（19.2%）が最も高く、それ以降の年代で減少している。（図10-2-3）

図10-2-3 悩みを相談できる人の有無（年代別）



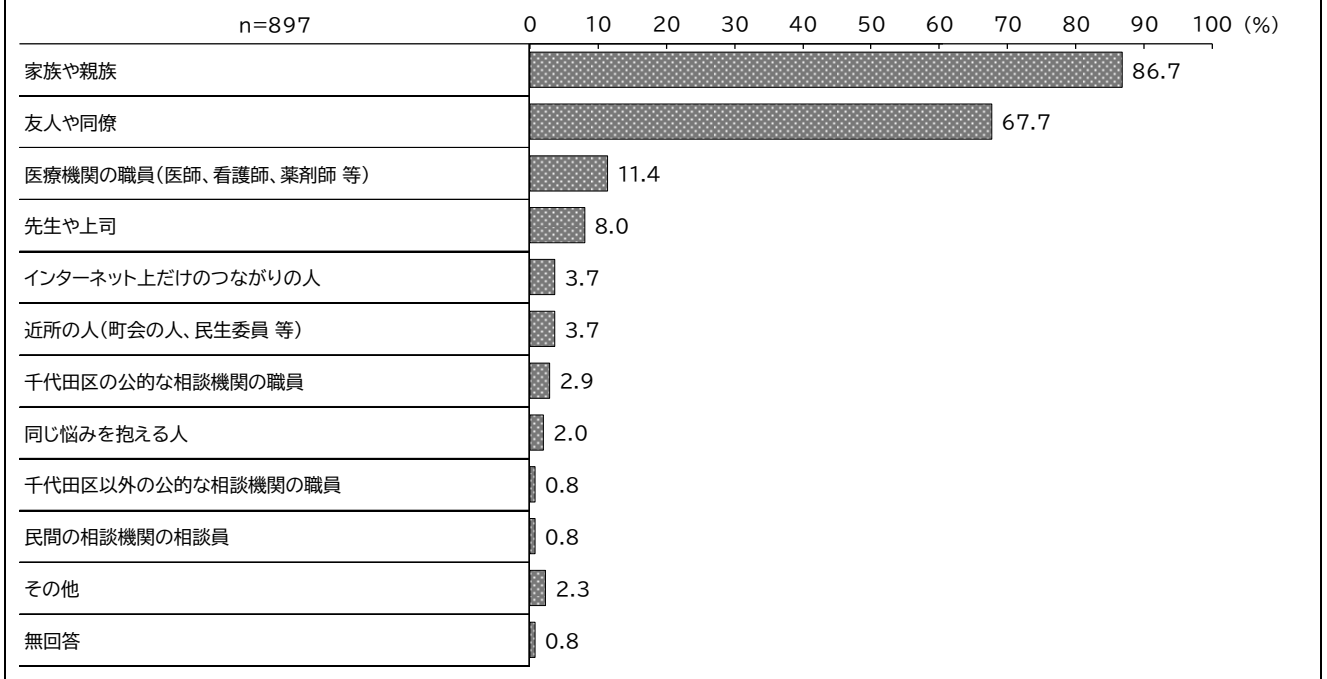
(2-1) 悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が8割台半ばを超える

(問18で「1. いる」とお答えの方に)

問18-1 悩みはどのような方に相談しますか。(〇はいくつでも)

図10-2-4 悩みを相談する相手

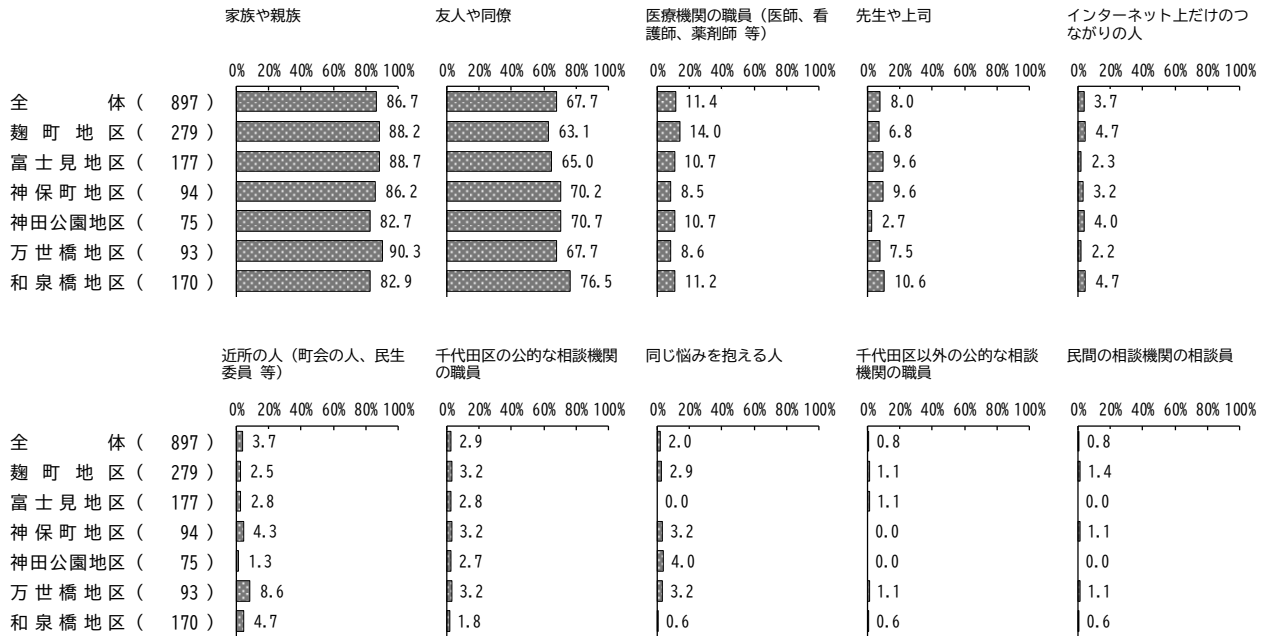


悩みを相談できる人の有無で「いる」とお答えの方に、悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(86.7%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「友人や同僚」(67.7%)が6割台半ばを超えている。(図10-2-4)

地区別にみると、「家族や親族」は万世橋地区（90.3%）で約9割と高くなっている。「友人や同僚」は和泉橋地区（76.5%）で7割台半ばを超えて高くなっている。

「先生や上司」は和泉橋地区のみ1割を超えている。（図10-2-5）

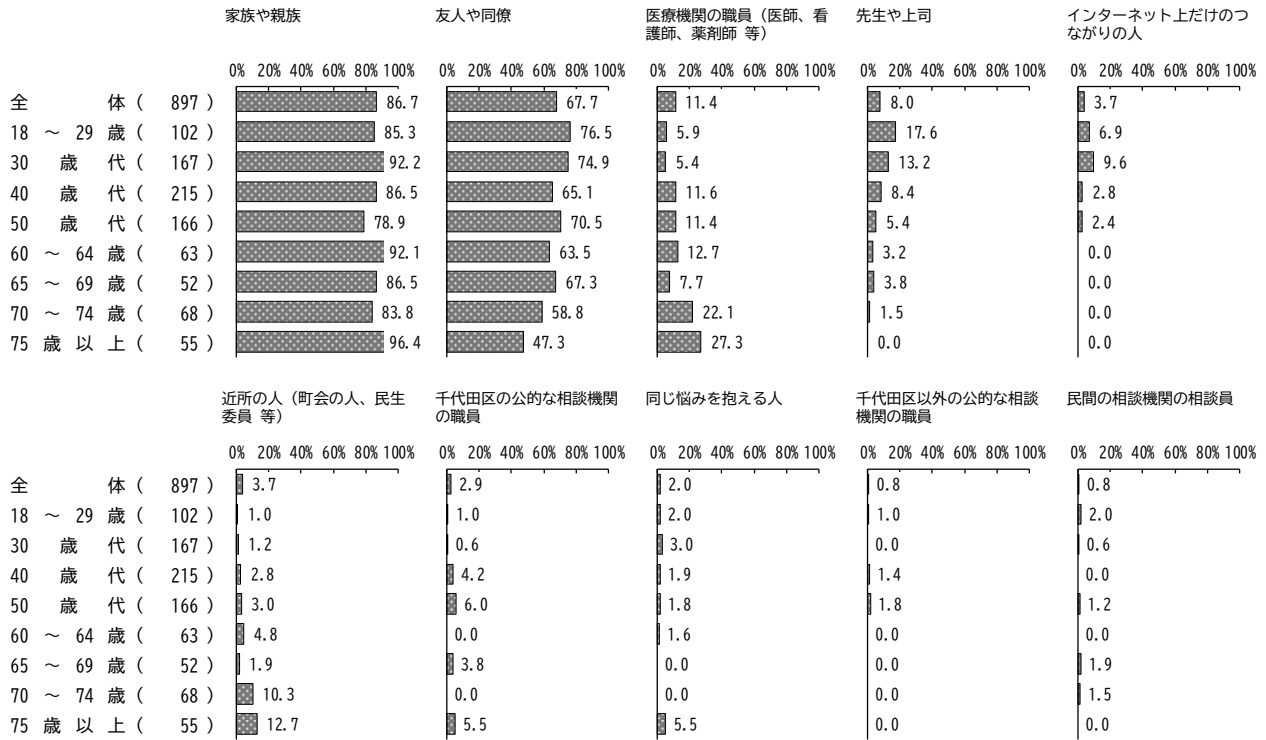
図10-2-5 悩みを相談する相手（地区別）



年代別にみると、「家族や親族」は75歳以上（96.4%）で9割台半ばを超えて高くなっている。「友人や同僚」は18～29歳（76.5%）で7割台半ばを超えて高くなっている。また、「医療機関の職員（医師、看護師、薬剤師等）」は75歳以上（27.3%）で2割台半ばを超えて高くなっている。

「インターネット上だけのつながりの人」は30歳代（9.6%）で1割弱となっており、他の年代よりわずかに高くなっている。「近所の人（町会の人、民生委員等）」は75歳以上（12.7%）で1割強と高くなっている。（図10-2-6）

図10-2-6 悩みを相談する相手（年代別）

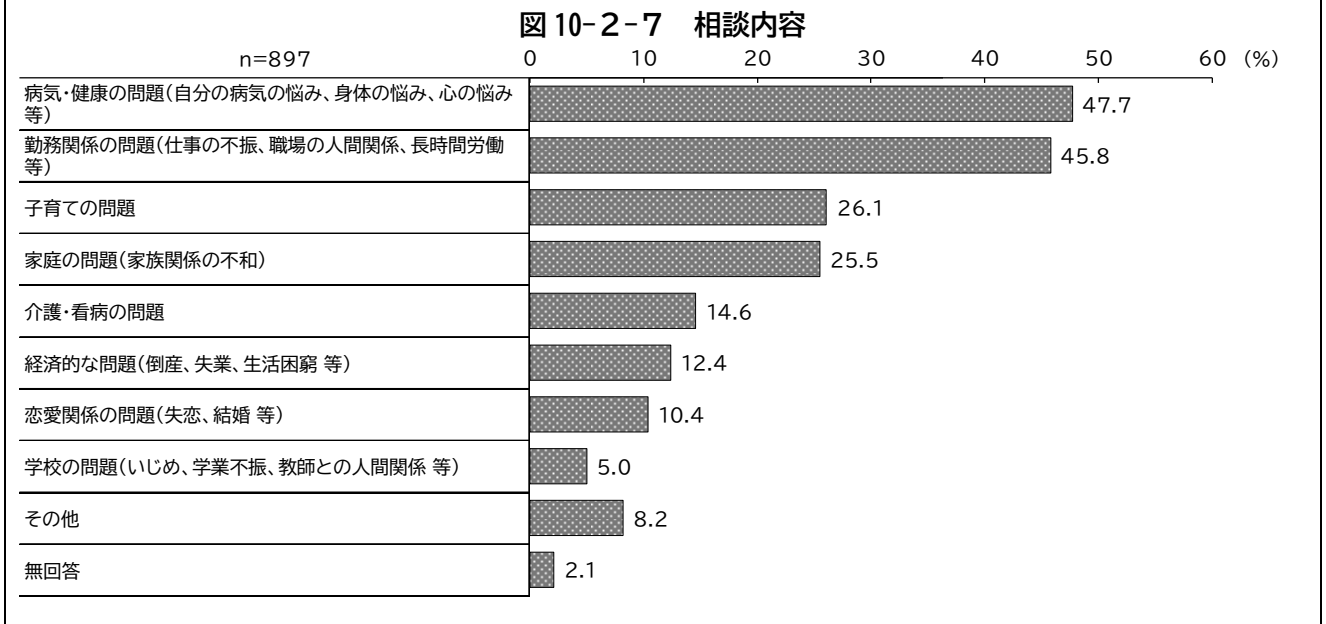


(2-2) 相談内容

◇「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」が4割台半ばを超える

(問18で「1. いる」とお答えの方に)

問18-2 相談内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

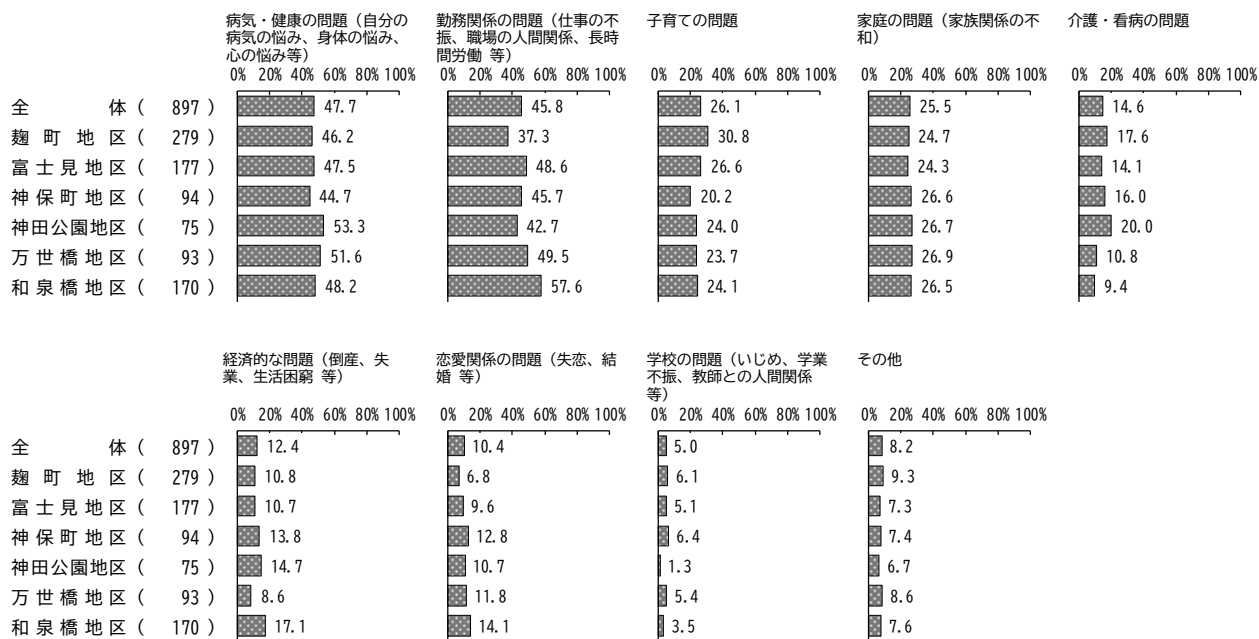


悩みを相談できる人の有無で「いる」とお答えの方に、相談内容について聞いたところ、「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」(47.7%) が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」(45.8%)、「子育ての問題」(26.1%)、「家庭の問題（家族関係の不和）」(25.5%) となっている。(図10-2-7)

地区別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等）」は和泉橋地区（57.6%）で5割台半ばを超えて高くなっている。「子育ての問題」は麴町地区（30.8%）で約3割と高くなっている。「介護・看病の問題」は神田公園地区（20.0%）で2割と高くなっている。

（図 10-2-8）

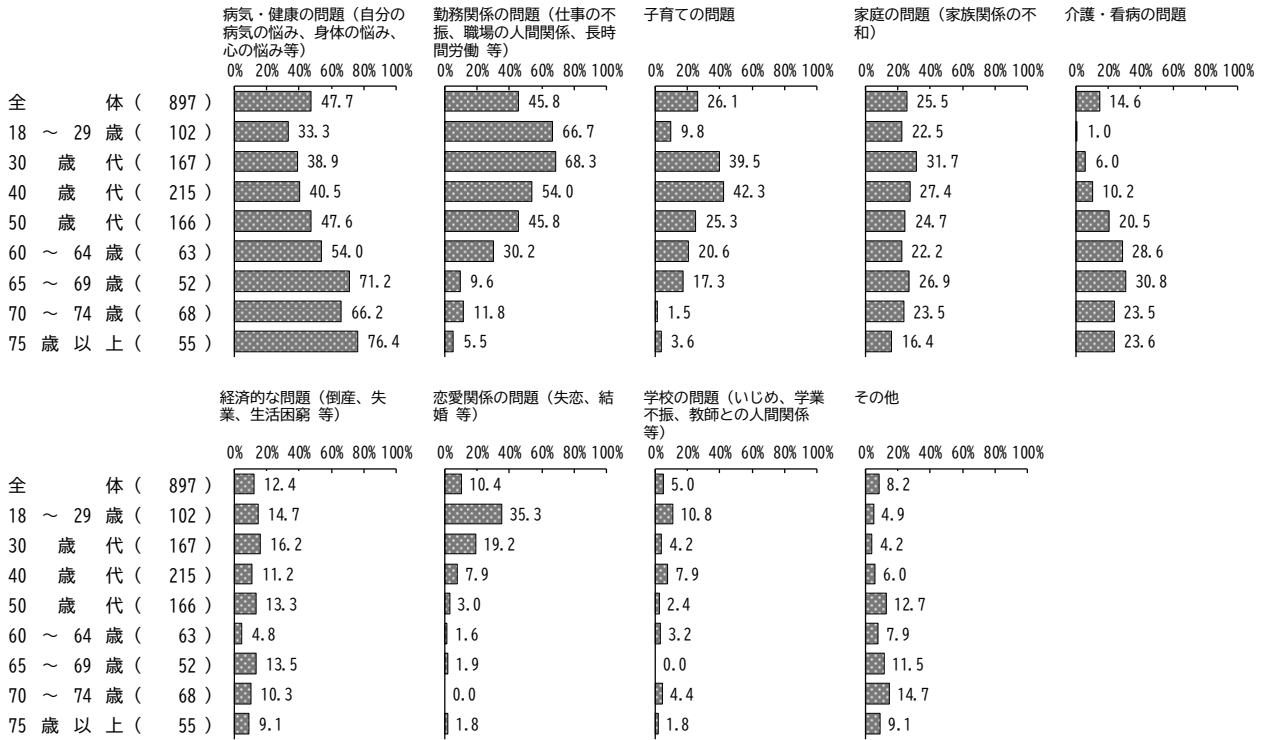
図 10-2-8 相談内容（地区別）



年代別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等）」は 30 歳代（68.3%）で7割近くと高くなっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」は 75 歳以上（76.4%）で7割台半ばを超えて最も高くなっている。また、「子育ての問題」は 40 歳代（42.3%）で4割強と高くなっている。

「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等）」は 18～29 歳・30 歳代で6割以上となっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」は 65 歳以上で6割以上となっている。（図 10-2-9）

図 10-2-9 相談内容（年代別）

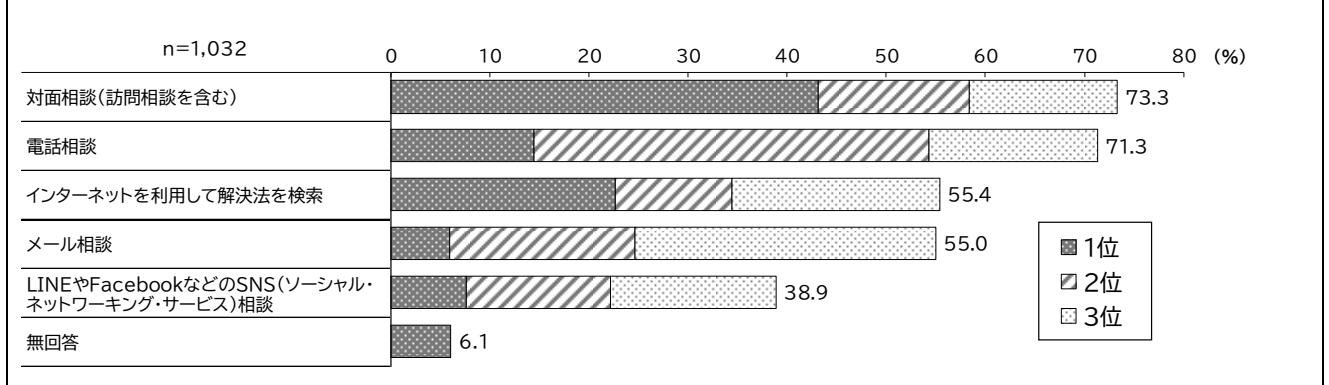


(3) 悩みを相談する手段

◇「対面相談（訪問相談を含む）」が7割台半ば近く

問 19 あなたは悩みやストレスを感じた時に、どのような方法を利用して相談したいと思いますか。
（優先順位の高い順に3つ番号を記入してください。）

図 10-3-1 悩みを相談する手段

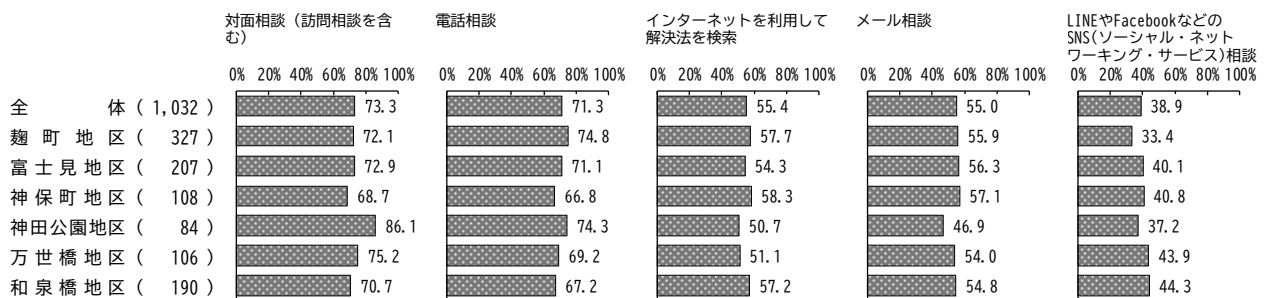


悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」（73.3%）が7割台半ば近くと最も高く、次いで、「電話相談」（71.3%）、「インターネットを利用して解決法を検索」（55.4%）となっている。

また、1位の回答順位に着目すると、「対面相談（訪問相談を含む）」>「インターネットを利用して解決法を検索」>「電話相談」の順に高くなっており、「電話相談」は1位以外で選択している方が多いことがうかがえる。（図 10-3-1）

地区別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は神田公園地区（86.1%）で8割台半ばを超えて高くなっている。「メール相談」は富士見地区（56.3%）・神保町地区（57.1%）で5割台半ばを超えて高くなっている。また、「LINEやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）相談」は万世橋地区（43.9%）・和泉橋地区（44.3%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図 10-3-2）

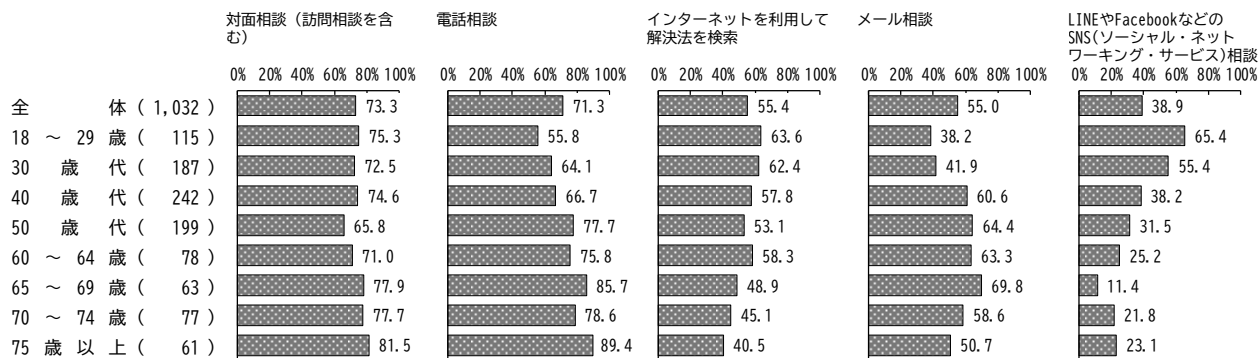
図 10-3-2 悩みを相談する手段（地区別）



年代別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は75歳以上（81.5%）で8割強と高くなっている。「電話相談」は75歳以上（89.4%）で9割弱と高くなっている。また、「メール相談」は65～69歳（69.8%）で7割弱と高くなっている。

「電話相談」は最も高い75歳以上（89.4%）と最も低い18～29歳（55.8%）とで33.6ポイントの差が開いている。一方で、「LINEやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）相談」は18～29歳（65.4%）が特に高く6割台半ばとなっている。（図10-3-3）

図10-3-3 悩みを相談する手段（年代別）

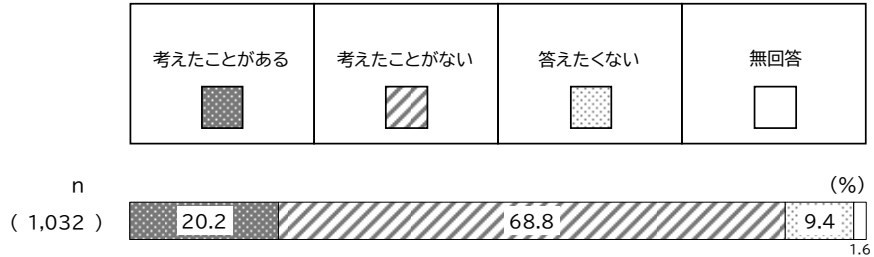


(4) 自殺を考えたことの有無

◇「考えたことがない」が7割近く

問20 あなたはこれまでに、「自殺」をしたいと考えたことはありますか。(○は1つ)

図10-4-1 自殺を考えたことの有無



自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(68.8%)が7割近くと最も高く、次いで、「考えたことがある」(20.2%)、「答えたくない」(9.4%)となっている。

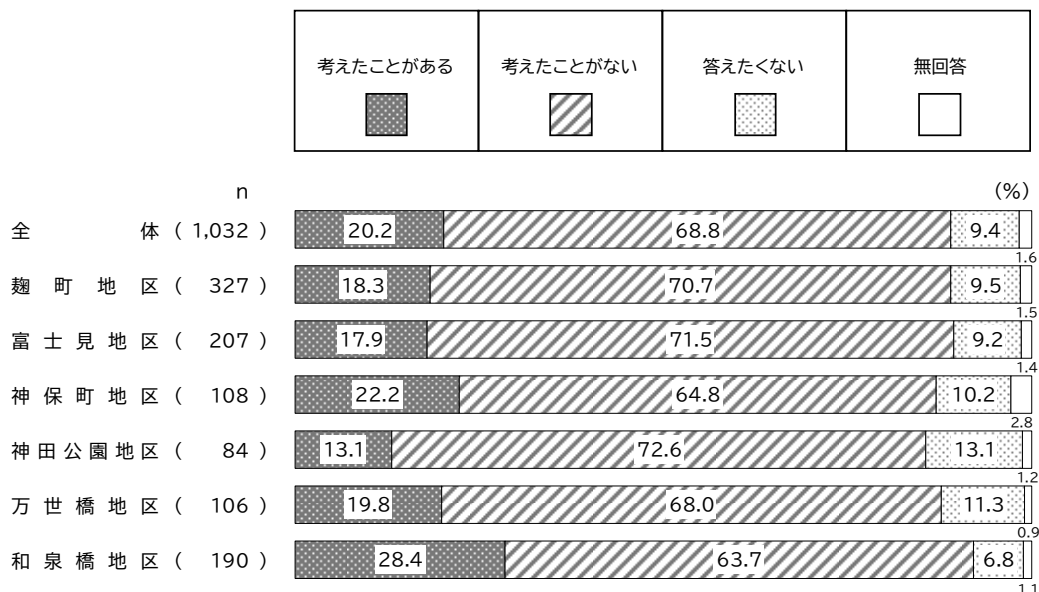
令和2年調査と比較すると、「考えたことがある」は令和2年(17.1%)から令和3年(20.2%)にかけてわずかに3.1ポイント増加した。(図10-4-1)

地区別にみると、「考えたことがある」は和泉橋地区(28.4%)で3割近くと高くなっている。

全ての地区において、「考えたことがある」が一定数いることがうかがえ、最も多い和泉橋地区(28.4%)では、最も少ない神田公園地区(13.1%)の2倍以上となっている。

令和2年調査と比較すると、「考えたことがある」は神田公園地区で令和2年(23.5%)から令和3年(13.1%)にかけて10.4ポイント減少している。一方、和泉橋地区では令和2年(17.1%)から令和3年(28.4%)にかけて11.3ポイント増加している。(図10-4-2)

図10-4-2 自殺を考えたことの有無(地区別)

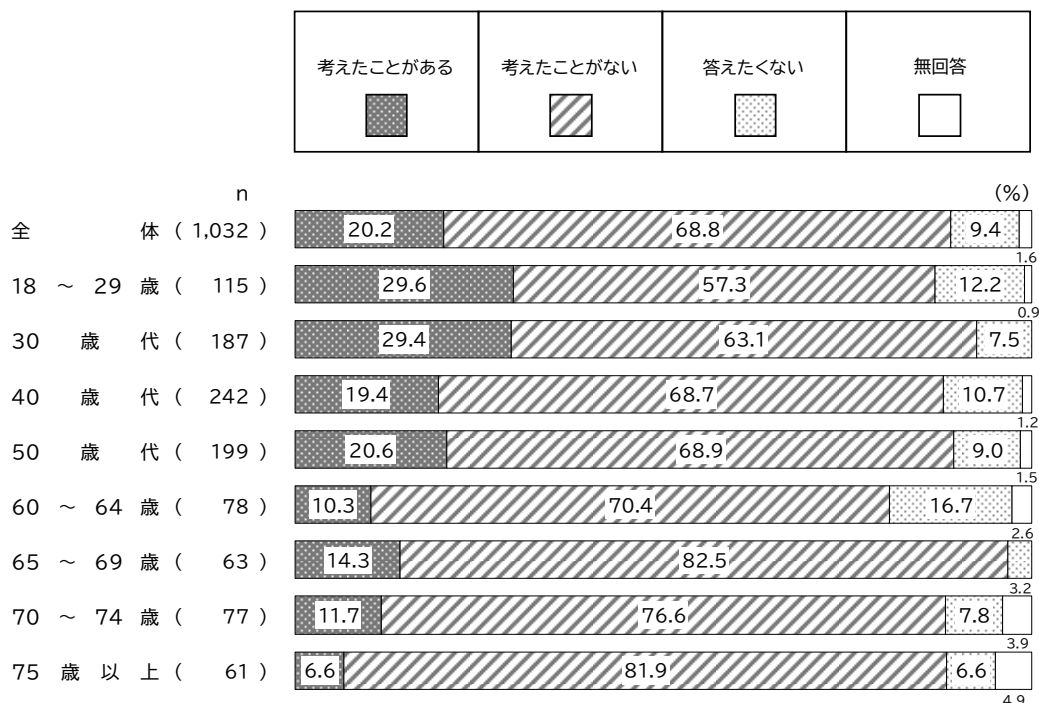


年代別にみると、「考えたことがない」は65～69歳(82.5%)・75歳以上(81.9%)で8割強とそれぞれ高くなっている。また、「考えたことがある」は18～29歳(29.6%)・30歳代(29.4%)で3割弱とそれぞれ高くなっている。

「考えたことがある」は年代が上がるにつれておおむね減少する傾向にあり、最も高い18～29歳(29.6%)と75歳以上(6.6%)では23.0ポイントの差が開いている。また、60～64歳は「考えたことがある」が約1割(10.3%)とあまり高くない一方で、「答えたくない」(16.7%)が「考えたことがある」を唯一上回っている。

令和2年調査と比較すると、「考えたことがない」は18～29歳で令和2年(66.2%)から令和3年(57.3%)にかけて8.9ポイント、60～64歳で令和2年(86.2%)から令和3年(70.4%)にかけて15.8ポイントと大きく減少している。30歳代では「考えたことがある」が令和2年(19.4%)から令和3年(29.4%)にかけて10.0ポイント増加している。(図10-4-3)

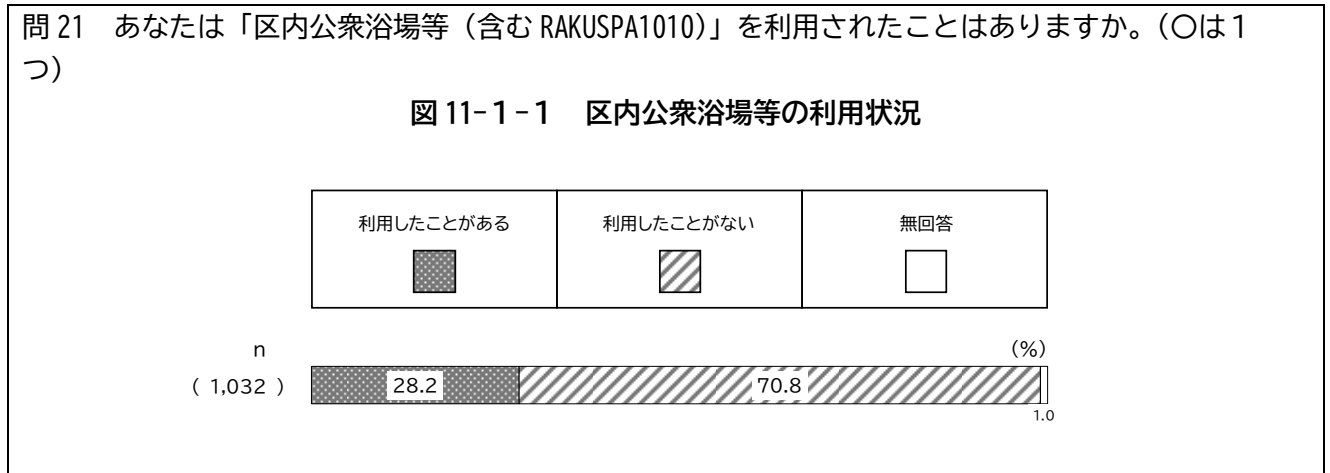
図10-4-3 自殺を考えたことの有無(年代別)



11. 区内公衆浴場等の利用調査

(1) 区内公衆浴場等の利用状況

◇「利用したことがない」が約7割

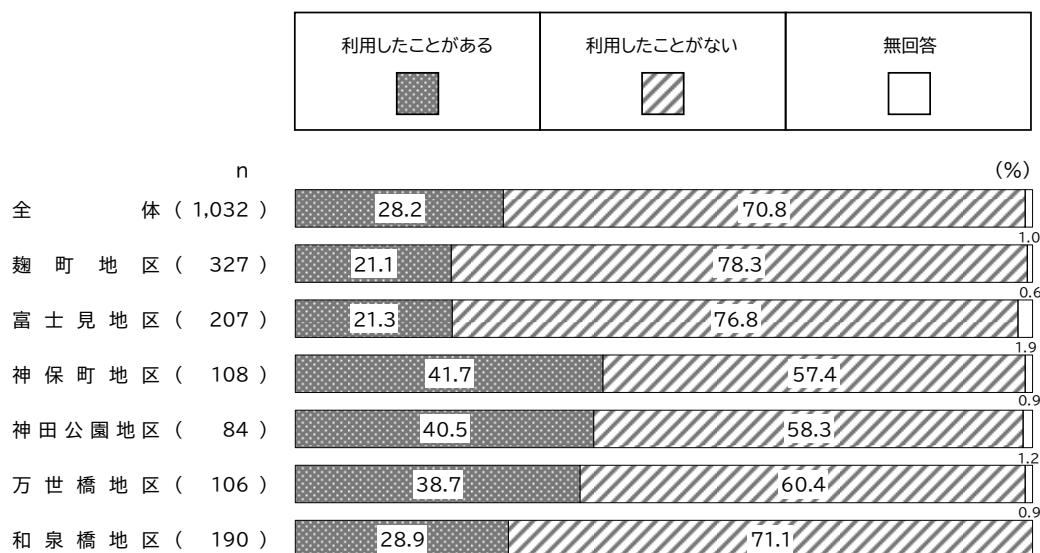


区内公衆浴場等の利用状況について聞いたところ、「利用したことがない」（70.8%）が約7割、「利用したことがある」（28.2%）は3割近くとなっている。（図 11-1-1）

地区別にみると、「利用したことがある」は神保町地区（41.7%）で4割強と高くなっている。「利用したことがない」は麴町地区（78.3%）で8割近くと高くなっている。

「利用したことがある」は富士見地区（21.3%）・麴町地区（21.1%）が2割強であるのに対して、神保町地区（41.7%）・神田公園地区（40.5%）はおおむね2倍程度となっている。（図 11-1-2）

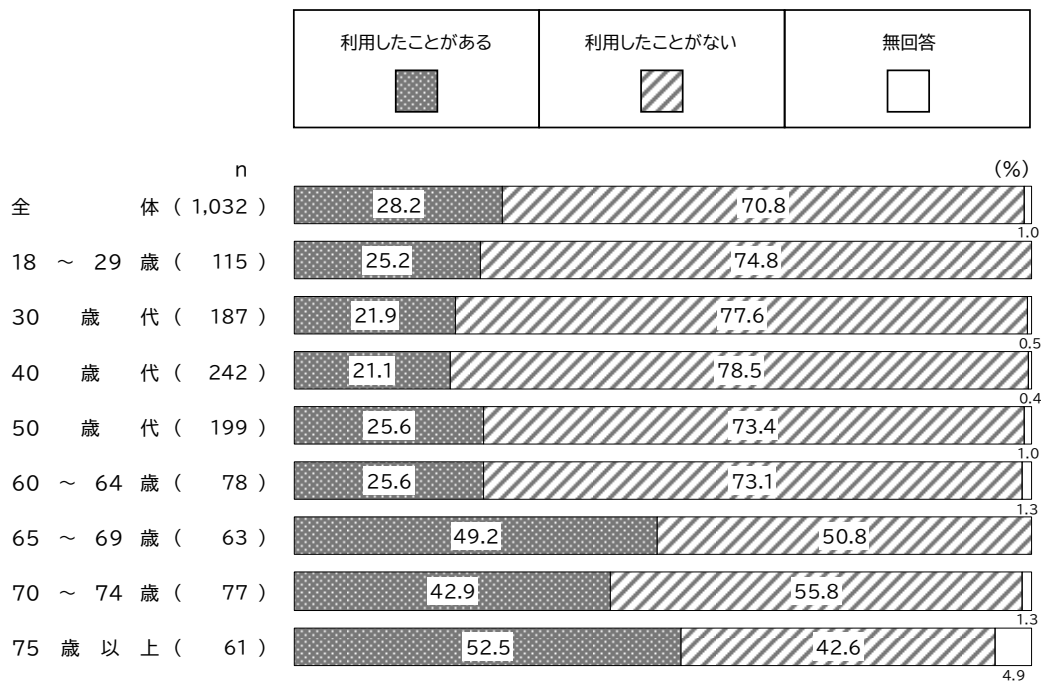
図 11-1-2 区内公衆浴場等の利用状況（地区別）



年代別にみると、「利用したことがある」は75歳以上(52.5%)で5割強と高くなっている。「利用したことがない」は40歳代(78.5%)で8割近くと高くなっている。

「利用したことがある」は64歳までは2割台であるのに対し、65～74歳では4割台、75歳以上では5割台と65歳以上で大きく増加している。(図11-1-3)

図11-1-3 区内公衆浴場等の利用状況(年代別)



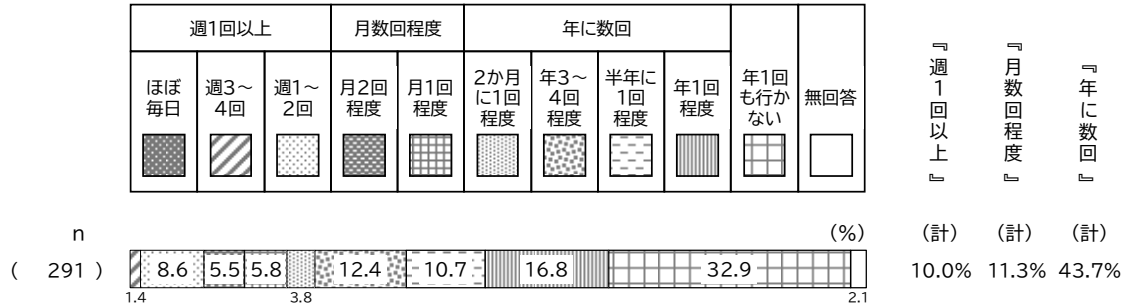
(1-1) 区内公衆浴場等の利用頻度

◇『年に数回』が4割台半ば近く

(問21で「1. 利用したことがある」とお答えの方に)

問21-1 区内公衆浴場等を利用される頻度はどの程度ですか。(○は1つ)

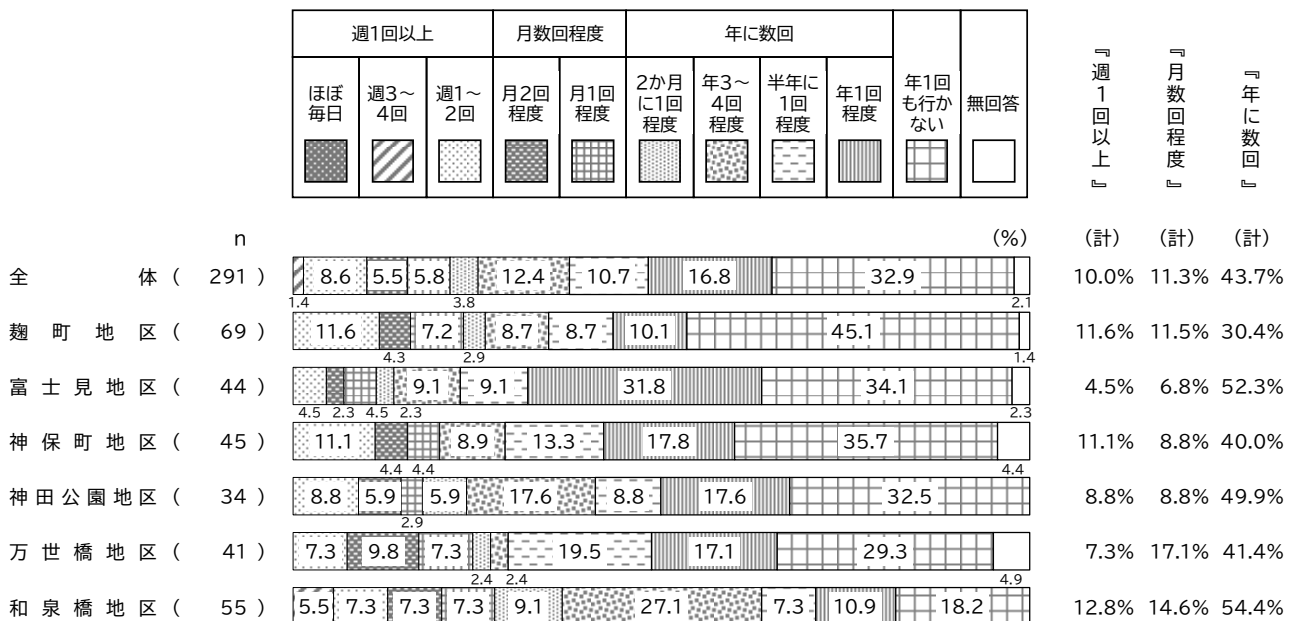
図11-1-4 区内公衆浴場等の利用頻度



区内公衆浴場等の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に、区内公衆浴場等の利用頻度について聞いたところ、「年1回も行かない」(32.9%)が3割強と最も高く、次いで、「年1回程度」(16.8%)、「年3~4回程度」(12.4%)となっている。「ほぼ毎日」(0.0%)と「週3~4回」(1.4%)、「週1~2回」(8.6%)を合わせた『週1回以上』(10.0%)は1割となっている。「月2回程度」(5.5%)と「月1回程度」(5.8%)を合わせた『月数回程度』(11.3%)は1割強となっている。「2か月に1回程度」(3.8%)と「年3~4回程度」(12.4%)、「半年に1回程度」(10.7%)、「年1回程度」(16.8%)を合わせた『年に数回』(43.7%)は4割台半ばを超えている。(図11-1-4)

地区別にみると、『週1回以上』は和泉橋地区(12.8%)で1割強と高くなっている。『月数回程度』は万世橋地区(17.1%)で1割台半ばを超えて高くなっている。『年に数回』は和泉橋地区(54.4%)で5割台半ば近くと高くなっている。(図11-1-5)

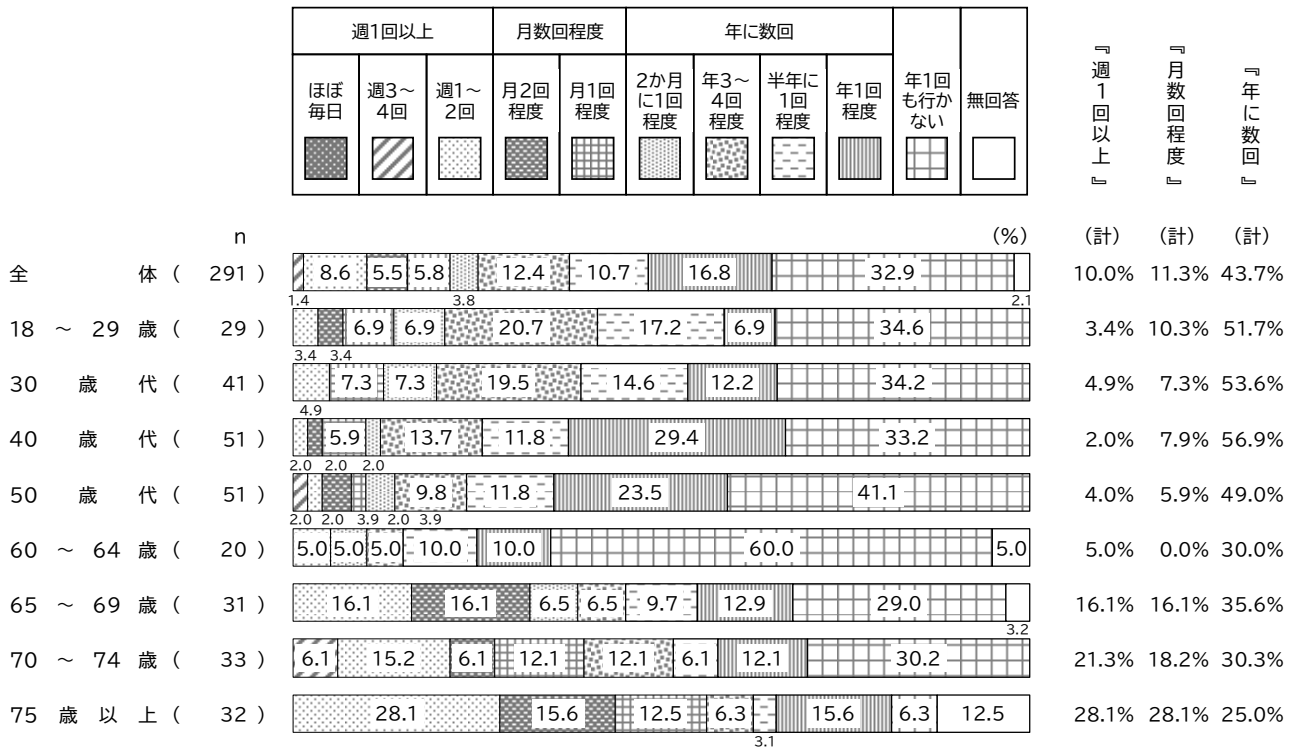
図11-1-5 区内公衆浴場等の利用頻度(地区別)



年代別にみると、『週1回以上』は75歳以上(28.1%)で3割近くと高くなっている。『月数回程度』も75歳以上(28.1%)で3割近くと高くなっている。『年に数回』は40歳代(56.9%)で5割台半ばを超えて高くなっている。

『週1回以上』は64歳までは1割未満となっているが、65~69歳(16.1%)で1割台半ばを超え、75歳以上(28.1%)では3割近くまで増加している。(図11-1-6)

図11-1-6 区内公衆浴場等の利用頻度(年代別)

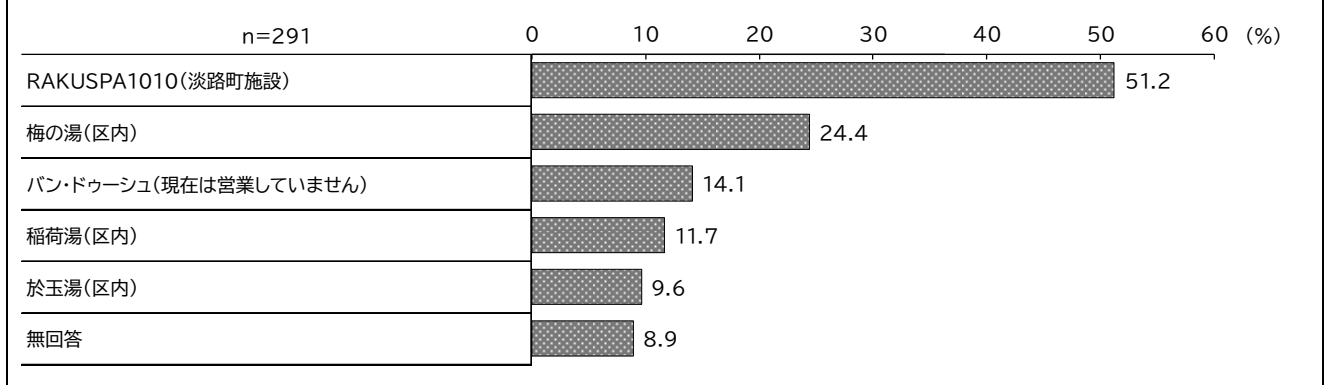


(1-2) 利用する区内公衆浴場等

◇「RAKUSPA1010 (淡路町施設)」が5割強

(問21で「1. 利用したことがある」とお答えの方に)
問21-2 利用されることの多い区内公衆浴場等はどこですか。(〇はいくつでも)

図11-1-7 利用する区内公衆浴場等

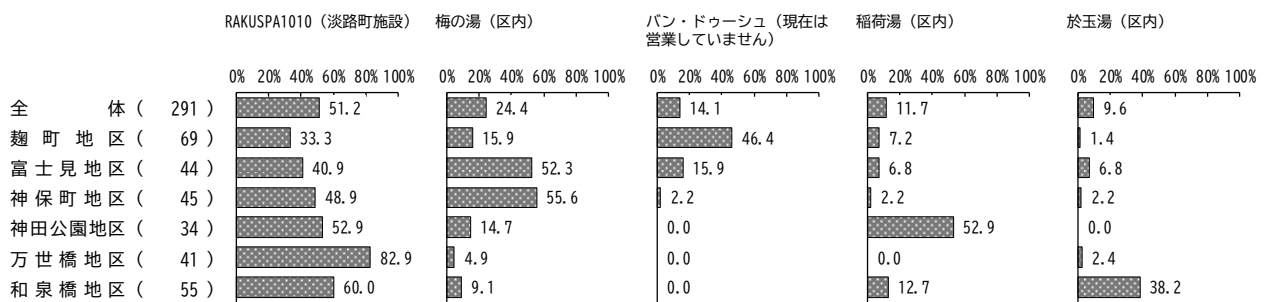


区内公衆浴場等の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に、利用する区内公衆浴場等について聞いたところ、「RAKUSPA1010 (淡路町施設)」(51.2%)が5割強と最も高く、次いで、「梅の湯 (区内)」(24.4%)が2割台半ば近くとなっている。(図11-1-7)

地区別にみると、「RAKUSPA1010 (淡路町施設)」は万世橋地区(82.9%)で8割強と高くなっている。「梅の湯 (区内)」は神保町地区(55.6%)で5割台半ばと高くなっている。また、「稲荷湯 (区内)」は神田公園地区 (52.9%)で5割強と高くなっている。

「RAKUSPA1010 (淡路町施設)」の利用状況は、他の区内公衆浴場等の利用状況と比べると、いずれの地区からも利用が多いことがうかがえる。(図11-1-8)

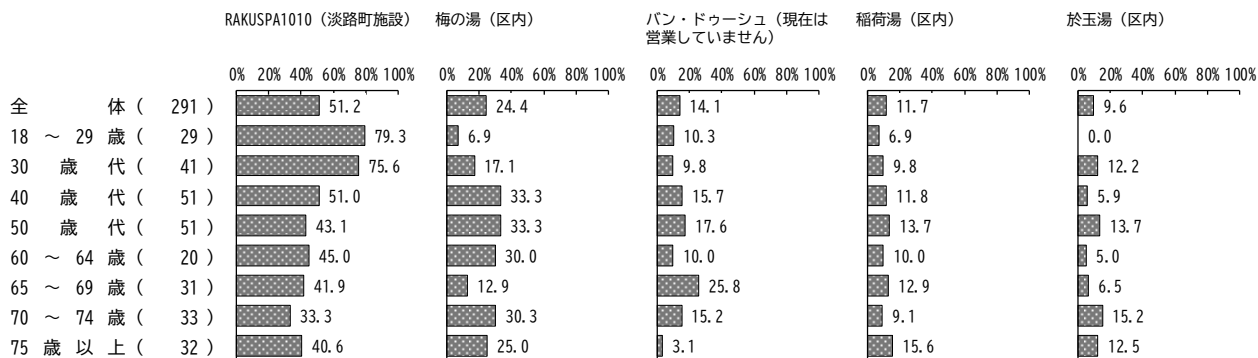
図11-1-8 利用する区内公衆浴場等 (地区別)



年代別にみると、「RAKUSPA1010（淡路町施設）」は18～29歳(79.3%)で8割弱と高くなっている。「梅の湯（区内）」は40歳代・50歳代(ともに33.3%)で3割台半ば近くとそれぞれ高くなっている。また、「バン・ドゥーシュ（現在は営業していません）」は65～69歳(25.8%)で2割台半ばと高くなっている。

「RAKUSPA1010（淡路町施設）」は30歳代までは7割台となっており、他の年代の利用を上回っている。(図11-1-9)

図11-1-9 利用する区内公衆浴場等（年代別）

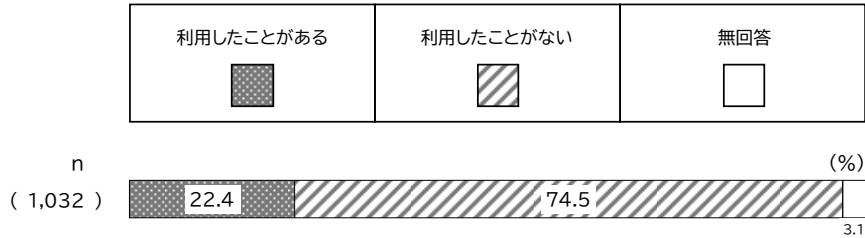


(2) 隣接区での公衆浴場の利用状況

◇「利用したことがない」が7割台半ば近く

問 22 隣接区（中央区、港区、新宿区、文京区、台東区）の公衆浴場は利用されたことがありますか。（○は1つ）

図 11-2-1 隣接区での公衆浴場の利用状況

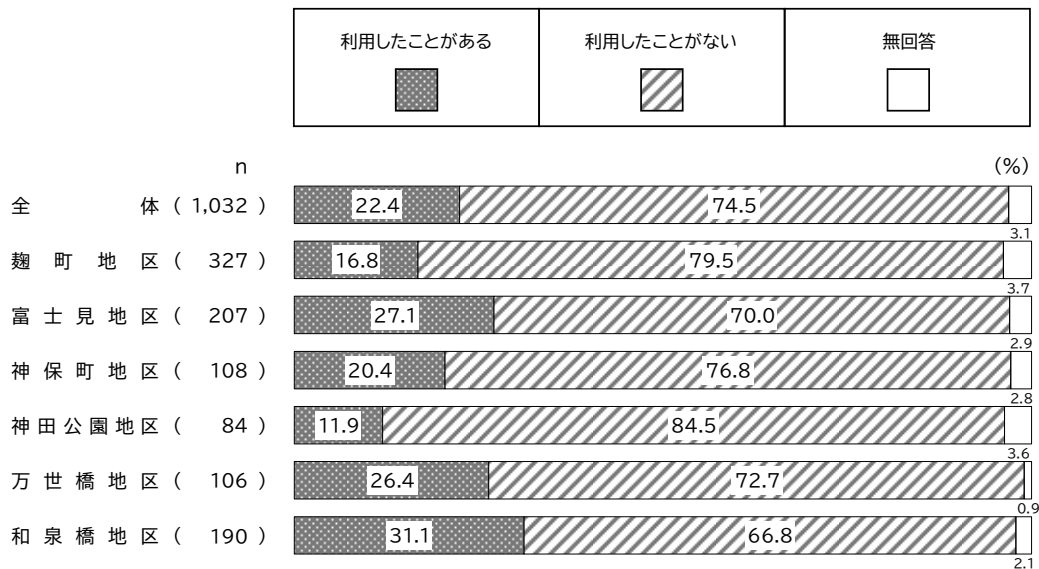


隣接区での公衆浴場の利用状況について聞いたところ、「利用したことがない」(74.5%)が7割台半ば近く、「利用したことがある」(22.4%)は2割強となっている。(図 11-2-1)

地区別にみると、「利用したことがある」は和泉橋地区(31.1%)で3割強と高くなっている。「利用したことがない」は神田公園地区(84.5%)で8割台半ば近くと高くなっている。

「利用したことがある」が最も高い和泉橋地区(31.1%)と最も低い神田公園地区(11.9%)では、19.2ポイントの差が開いている。(図 11-2-2)

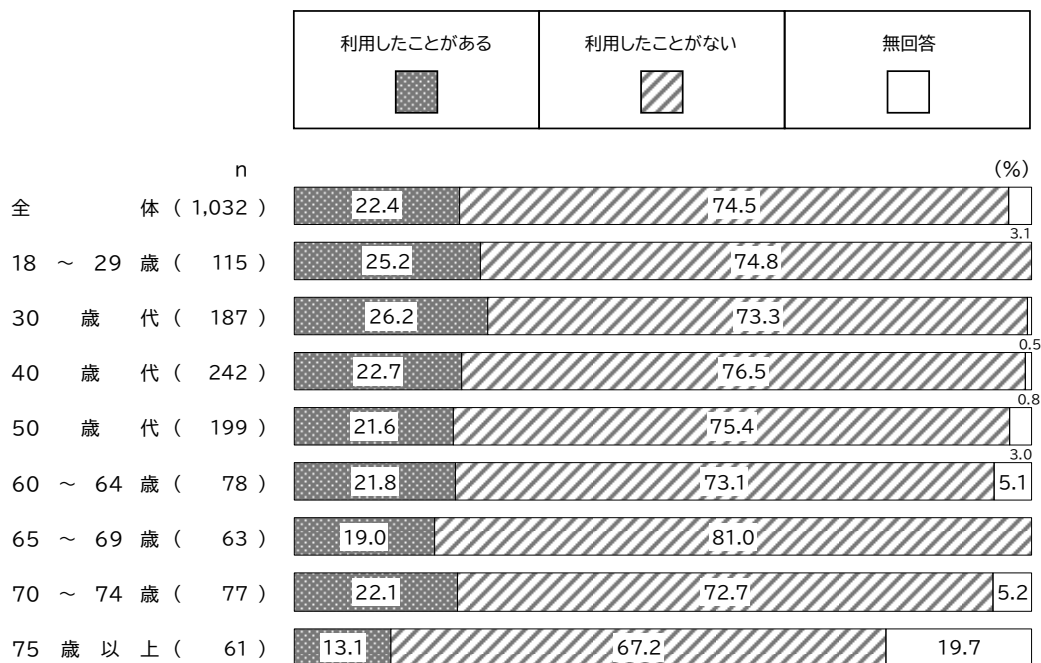
図 11-2-2 隣接区での公衆浴場の利用状況（地区別）



年代別にみると、「利用したことがある」は30歳代(26.2%)で2割台半ばを超えて高くなっている。「利用したことがない」は65～69歳(81.0%)で8割強と高くなっている。

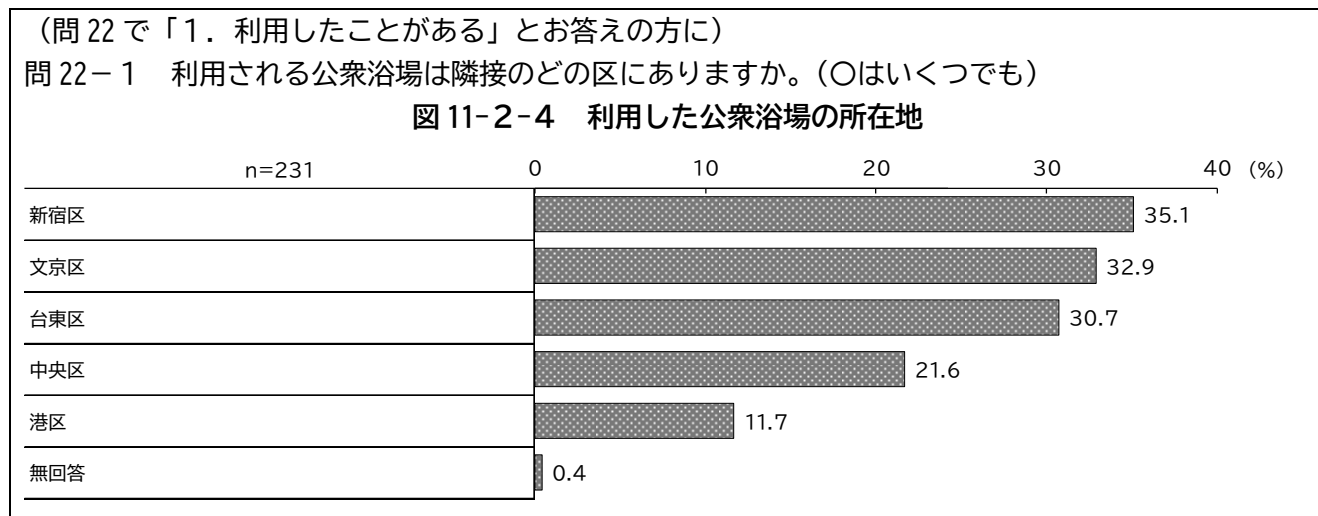
「利用したことがある」は65～69歳(19.0%)・75歳以上(13.1%)で1割台となり、他の年代を下回っている。(図11-2-3)

図11-2-3 隣接区での公衆浴場の利用状況（年代別）



(2-1) 利用した公衆浴場の所在地

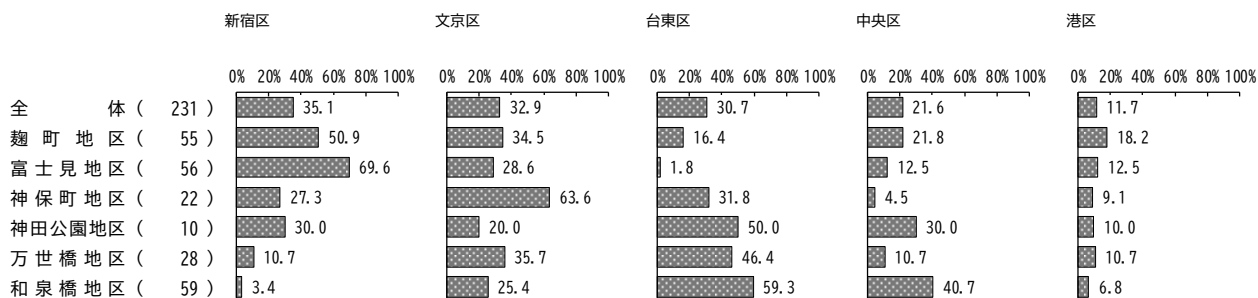
◇「新宿区」が3割台半ば



隣接区での公衆浴場の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に、利用した公衆浴場の所在地について聞いたところ、「新宿区」(35.1%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「文京区」(32.9%)、「台東区」(30.7%)となっている。(図11-2-4)

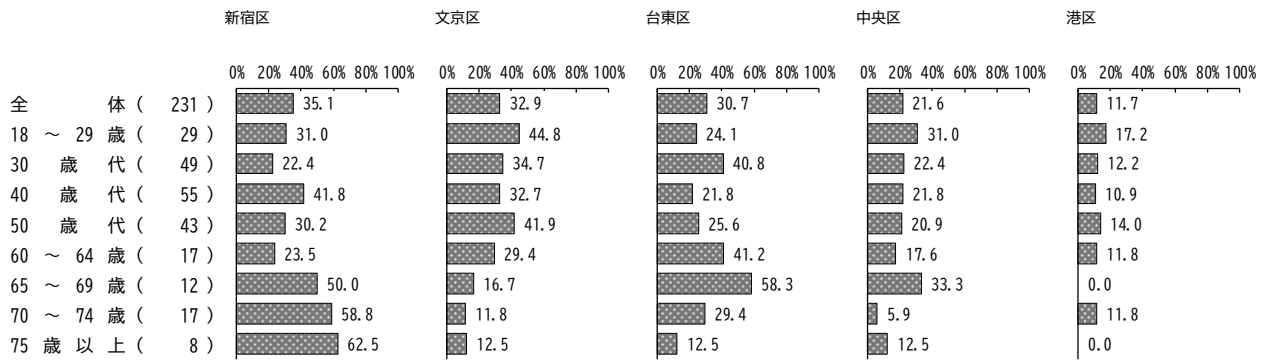
地区別にみると、「新宿区」は富士見地区(69.6%)で7割弱と高くなっている。「文京区」は神保町地区(63.6%)で6割台半ば近くと高くなっている。「台東区」は和泉橋地区(59.3%)で6割弱と高くなっている。(図11-2-5)

図11-2-5 利用した公衆浴場の所在地(地区別)



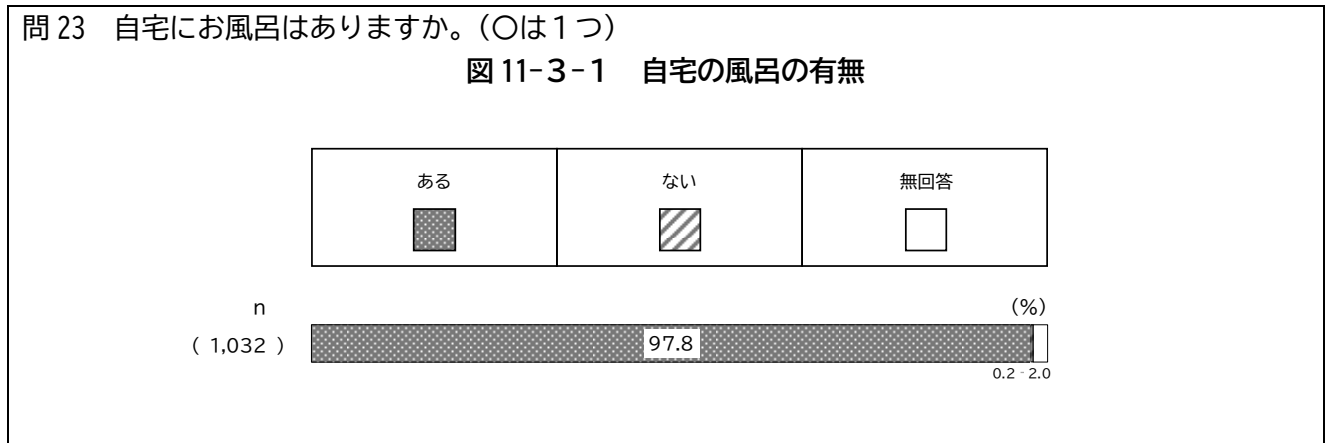
年代別にみると、「新宿区」は70～74歳(58.8%)で6割近くと高くなっている。「文京区」は18～29歳(44.8%)で4割台半ば近くと高くなっている。「台東区」は65～69歳(58.3%)で6割近くと高くなっている。(図11-2-6)

図11-2-6 利用した公衆浴場の所在地(年代別)



(3) 自宅の風呂の有無

◇「ある」が9割台半ばを超える



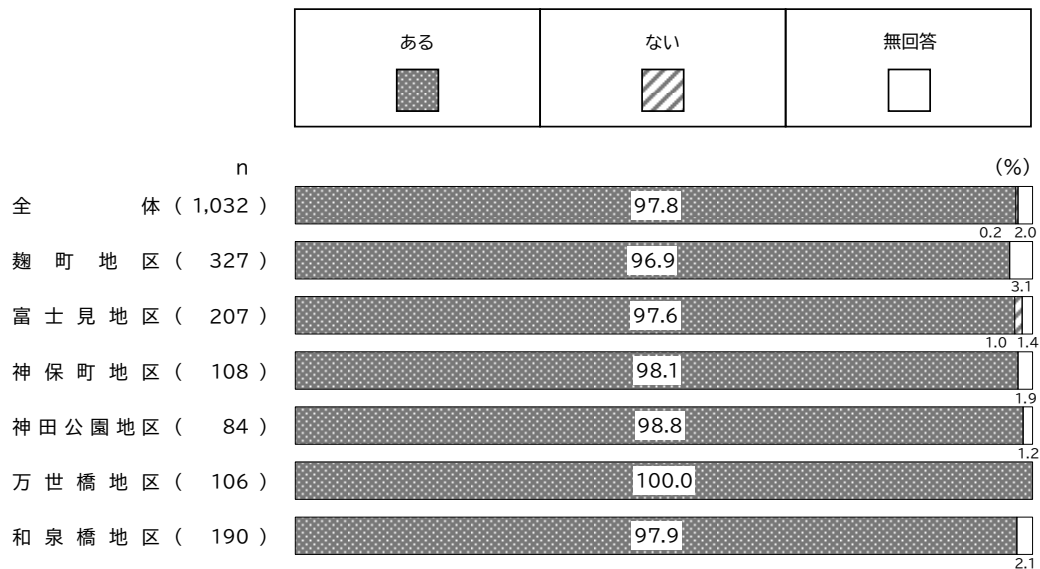
自宅の風呂の有無について聞いたところ、「ある」(97.8%)が9割台半ばを超えている。

(図 11-3-1)

地区別にみると、自宅に風呂が「ある」は万世橋地区(100.0%)で10割と高く、他の地区も9割台半ばを超えている。

「ない」は、富士見地区(1.0%)のみとなっている。(図 11-3-2)

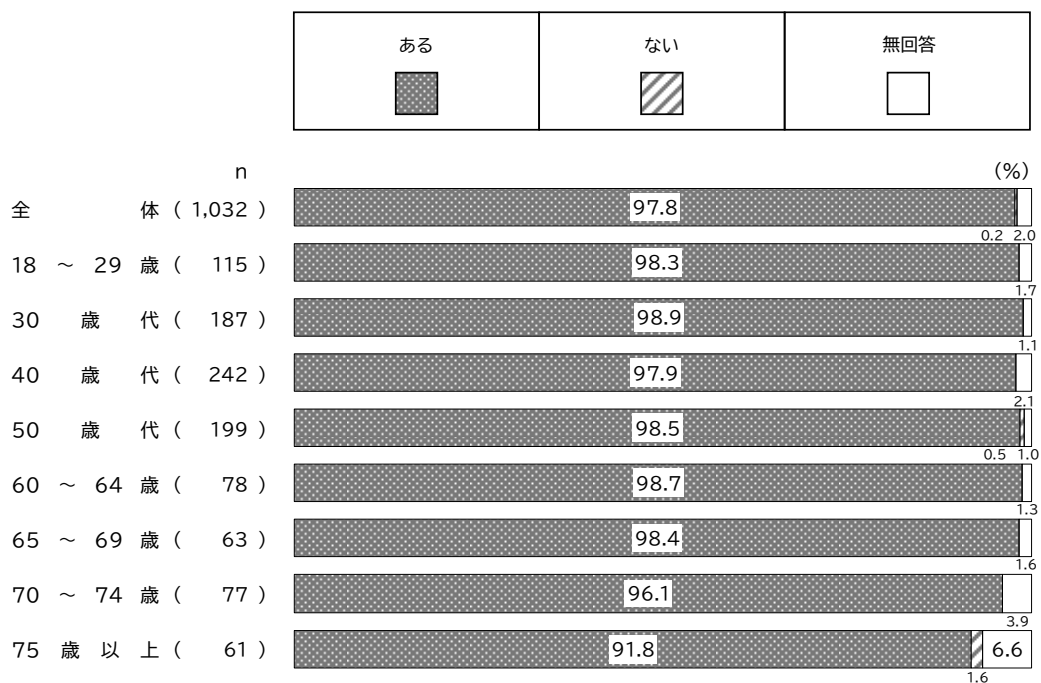
図 11-3-2 自宅の風呂の有無(地区別)



年代別にみると、自宅に風呂が「ある」は18～29歳(98.3%)・30歳代(98.9%)・50歳代(98.5%)・60～64歳(98.7%)・65～69歳(98.4%)で10割近くと高く、他の年代も9割を超えている。

「ない」は、50歳代(0.5%)・75歳以上(1.6%)となっている。(図11-3-3)

図11-3-3 自宅の風呂の有無(年代別)



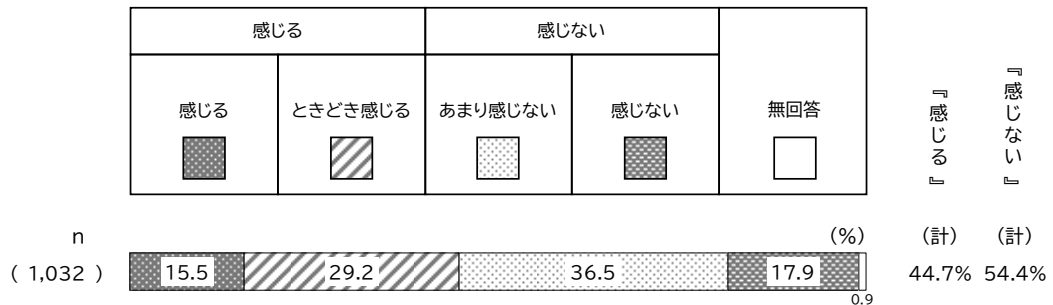
12. 男女平等、人権、国際交流

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

◇「あまり感じない」が3割台半ばを超える

問 24 あなたは、日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはありますか。
(○は1つ)

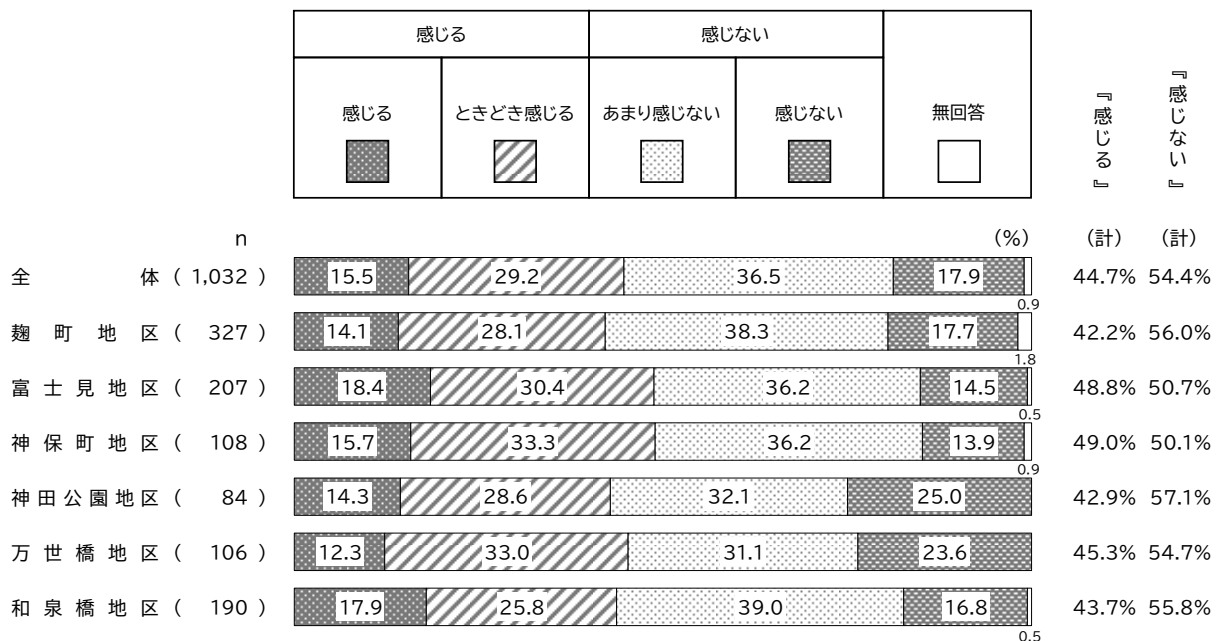
図 12-1-1 性別による不平等を感じることもあるか



性別による不平等を感じることもあるかについて聞いたところ、「あまり感じない」(36.5%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「感じない」(17.9%)を合わせた『感じない』(54.4%)は5割台半ば近くとなっている。一方、「感じる」(15.5%)と「ときどき感じる」(29.2%)を合わせた『感じる』(44.7%)は4割台半ば近くとなっている。(図 12-1-1)

地区別にみると、『感じない』は神田公園地区(57.1%)で5割台半ばを超えて高くなっている。全ての地区で『感じない』が『感じる』を上回っているが、神田公園地区では14.2ポイントの差が開いているのに対し、神保町地区ではわずか1.1ポイントの差であり、地区による違いがみられる。(図 12-1-2)

図 12-1-2 性別による不平等を感じることもあるか(地区別)

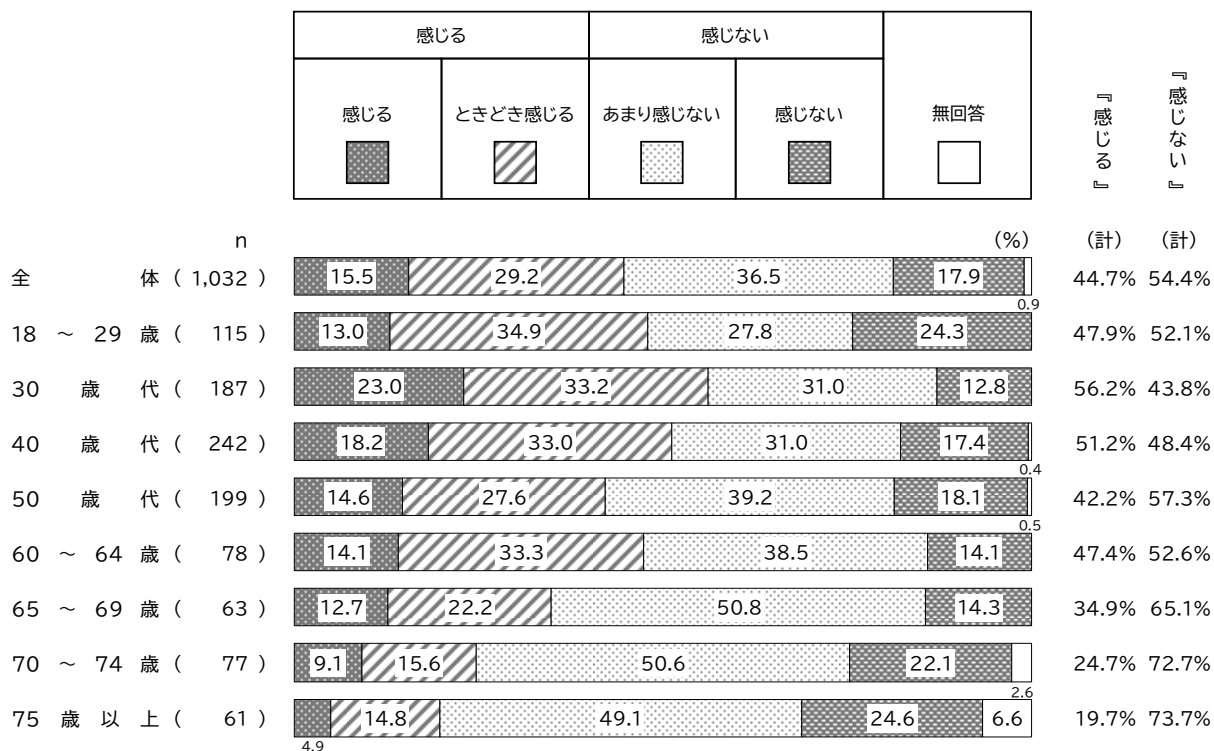


年代別にみると、『感じない』は75歳以上(73.7%)で7割台半ば近くと高くなっている。一方、『感じる』は30歳代(56.2%)で5割台半ばを超えて高くなっている。

『感じる』が『感じない』を上回っているのは30歳代・40歳代となっている。また、『感じる』は60歳以上で減少傾向にあり、75歳以上(19.7%)では2割弱となっている。

(図 12-1-3)

図 12-1-3 性別による不平等を感じることもあるか(年代別)

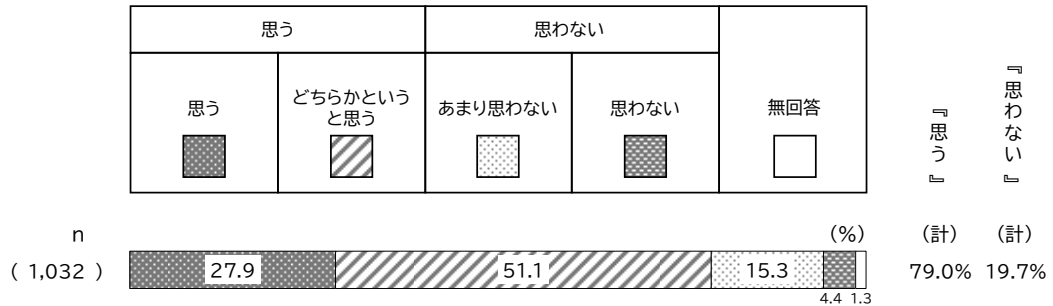


(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

◇『思う』が8割弱

問 25 あなたのまわりでは、人権が尊重されている社会であると思いますか。(○は1つ)

図 12-2-1 人権が尊重されている社会だと思うか

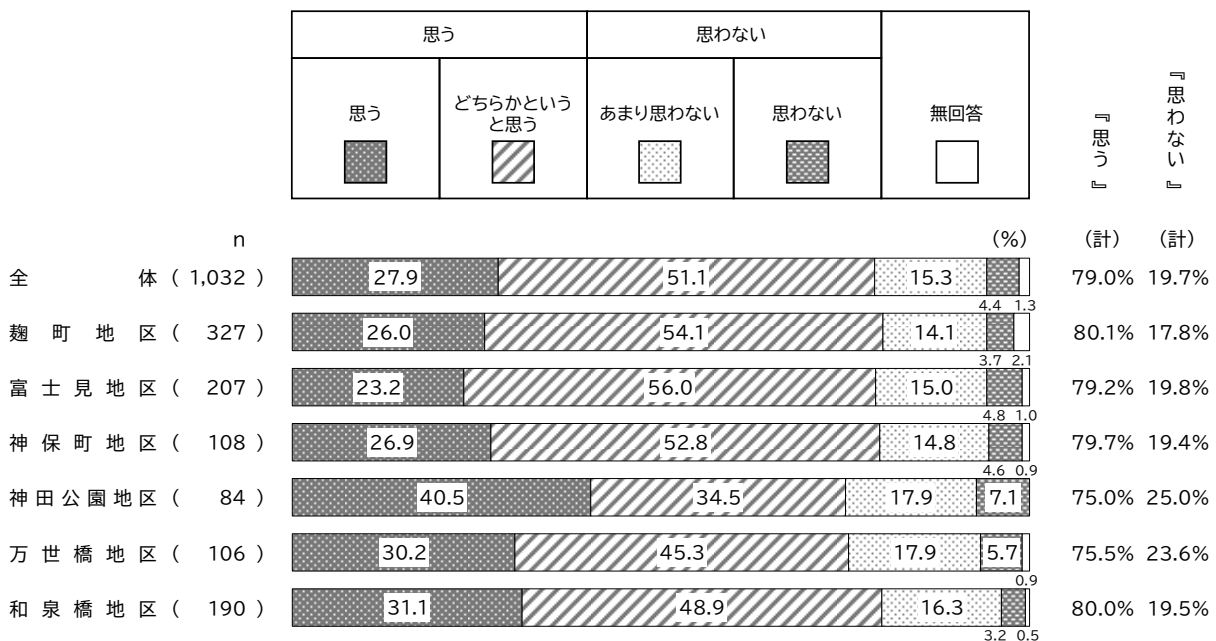


人権が尊重されている社会だと思うかについて聞いたところ、「どちらかというと思う」(51.1%)が5割強と最も高く、これに「思う」(27.9%)を合わせた『思う』(79.0%)は8割弱となっている。一方、「あまり思わない」(15.3%)と「思わない」(4.4%)を合わせた『思わない』(19.7%)は2割弱となっている。(図 12-2-1)

地区別にみると、『思う』は麴町地区(80.1%)で約8割・和泉橋地区(80.0%)で8割と高くなっている。

全ての地区で『思う』は『思わない』を上回っている。(図 12-2-2)

図 12-2-2 人権が尊重されている社会だと思うか(地区別)

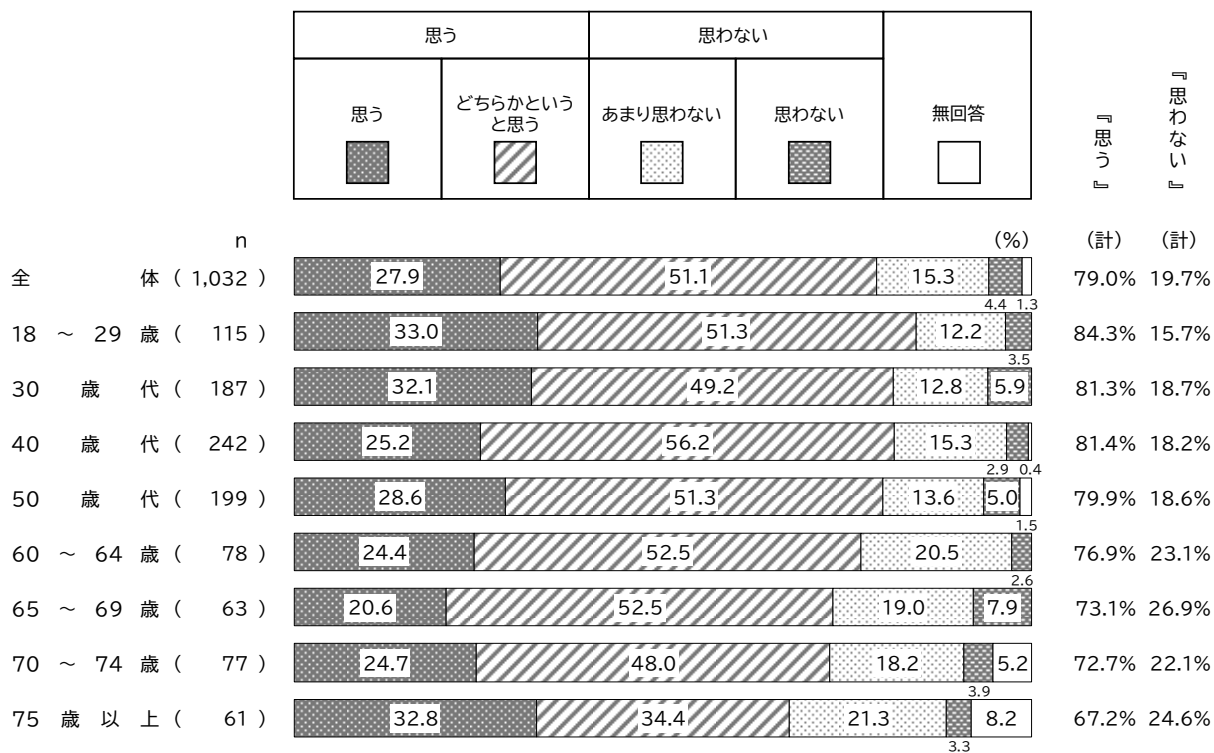


年代別にみると、『思う』は18～29歳（84.3%）で8割台半ば近くと高くなっている。『思う』はおおむね年代が上がるほど割合が減少する傾向がある。

全ての年代で『思う』が『思わない』を大きく上回っているが、18～29歳では68.6ポイントの差が開いているのに対し、75歳以上では42.6ポイントの差となっており、年代による違いがみられる。

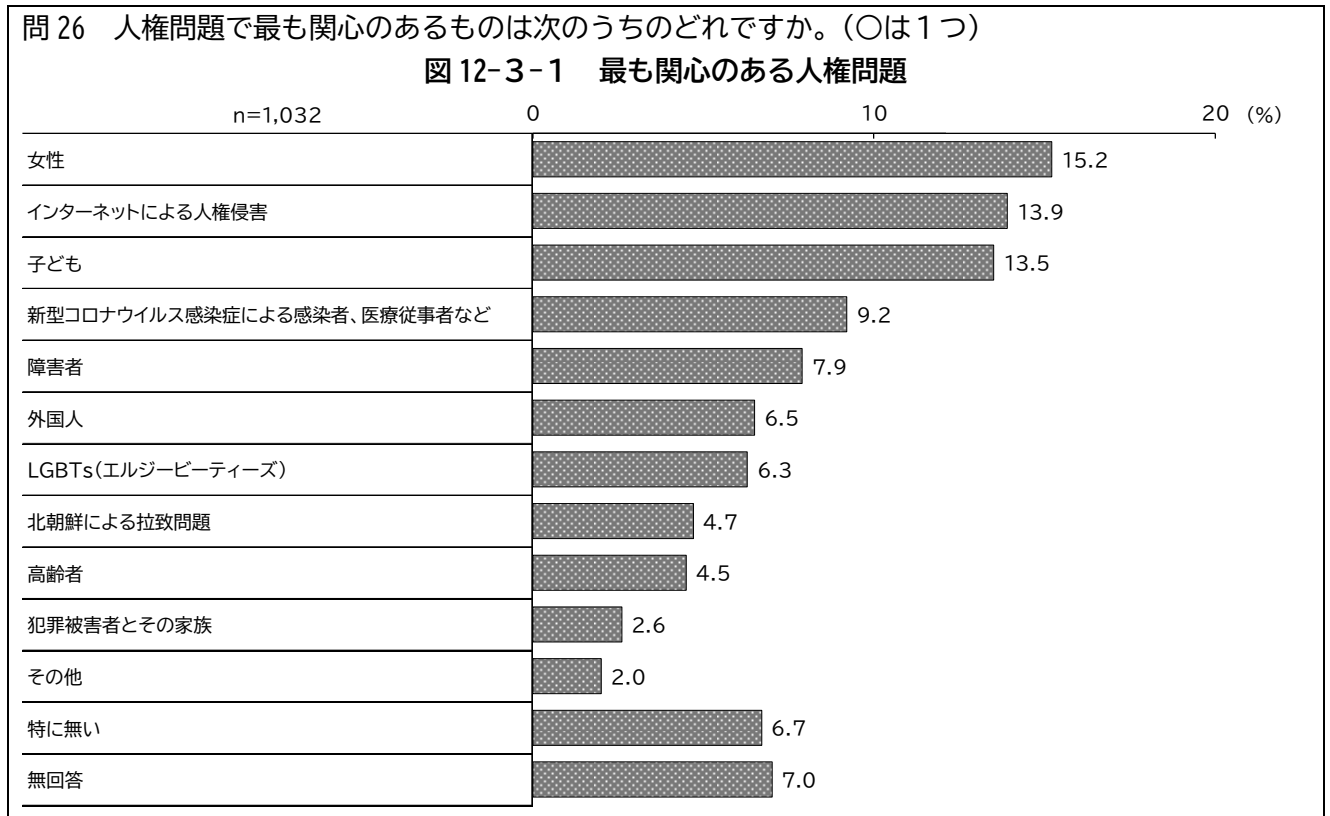
（図12-2-3）

図12-2-3 人権が尊重されている社会だと思うか（年代別）



(3) 最も関心のある人権問題

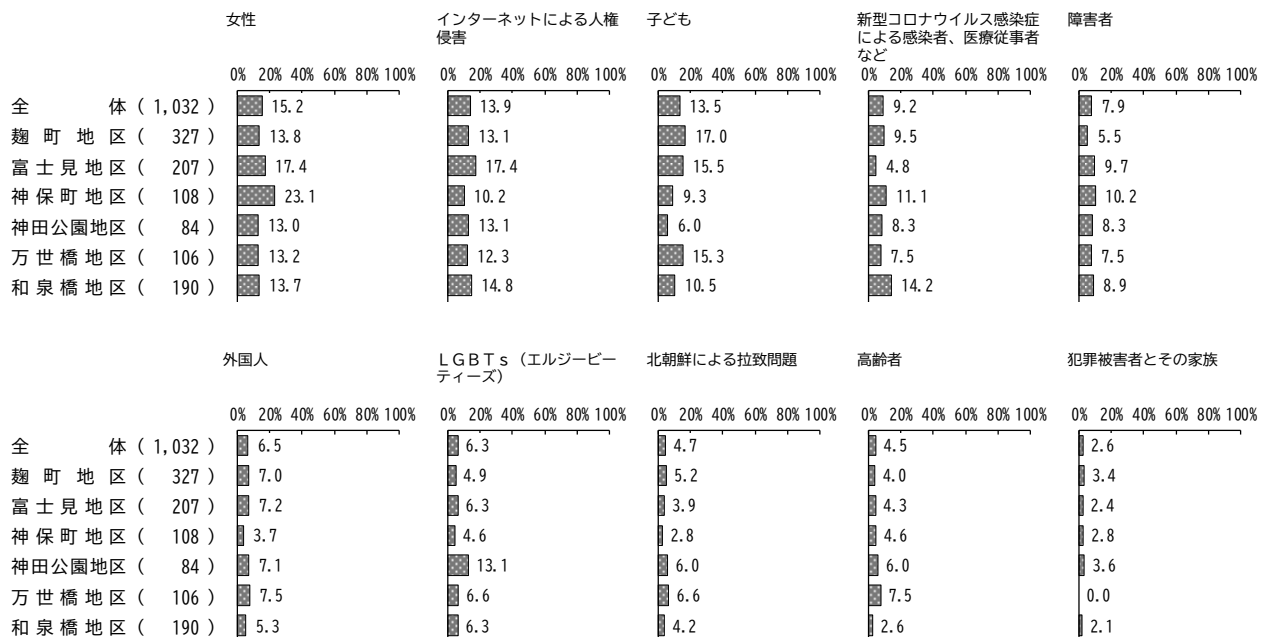
◇「女性」が1割台半ば



最も関心のある人権問題について聞いたところ、「女性」(15.2%)が1割台半ばと最も高く、次いで、「インターネットによる人権侵害」(13.9%)、「子ども」(13.5%)となっている。(図 12-3-1)

地区別にみると、「女性」は神保町地区(23.1%)で2割台半ば近くと高くなっている。「子ども」は麴町地区(17.0%)で1割台半ばを超えて高くなっている。(図 12-3-2)

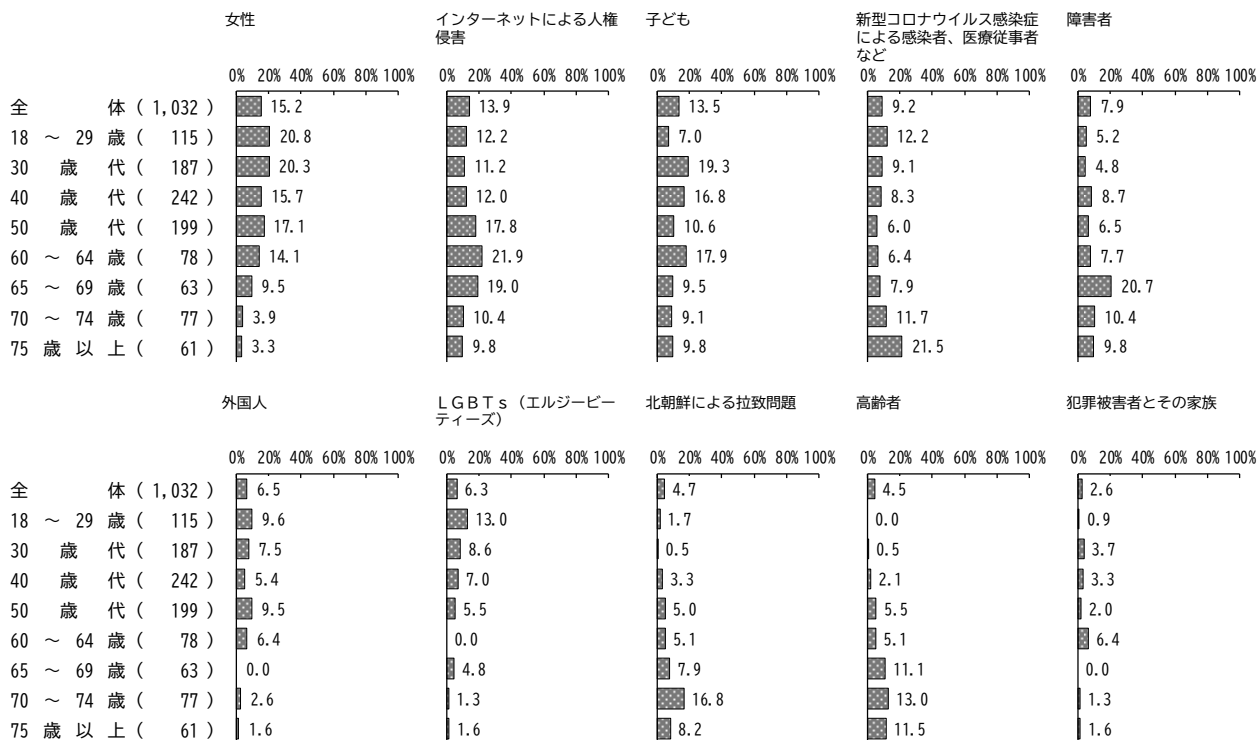
図 12-3-2 最も関心のある人権問題 (地区別)



年代別にみると、「女性」は18～29歳(20.8%)・30歳代(20.3%)で約2割とそれぞれ高くなっている。「インターネットによる人権侵害」は60～64歳(21.9%)で2割強と高くなっている。「新型コロナウイルス感染症による感染者、医療従事者など」は75歳以上(21.5%)で2割強と高くなっている。

(図12-3-3)

図12-3-3 最も関心のある人権問題（年代別）

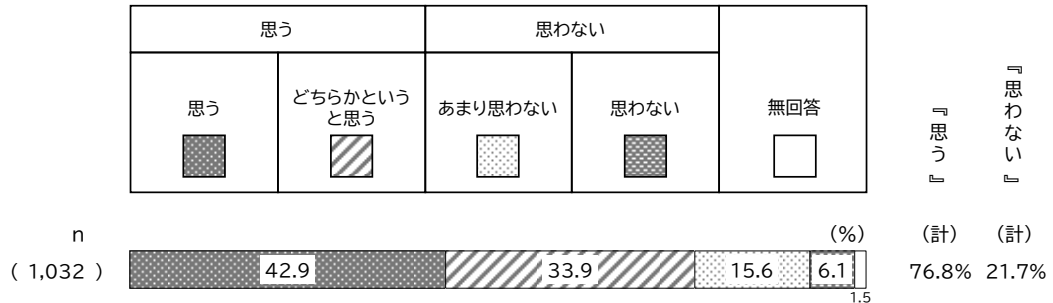


(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

◇『思う』は7割台半ばを超える

問27 誰もが自分らしく生きるために、あなたはLGBTs（エルジービーティーズ）について正しく理解したいと思いますか。（○は1つ）

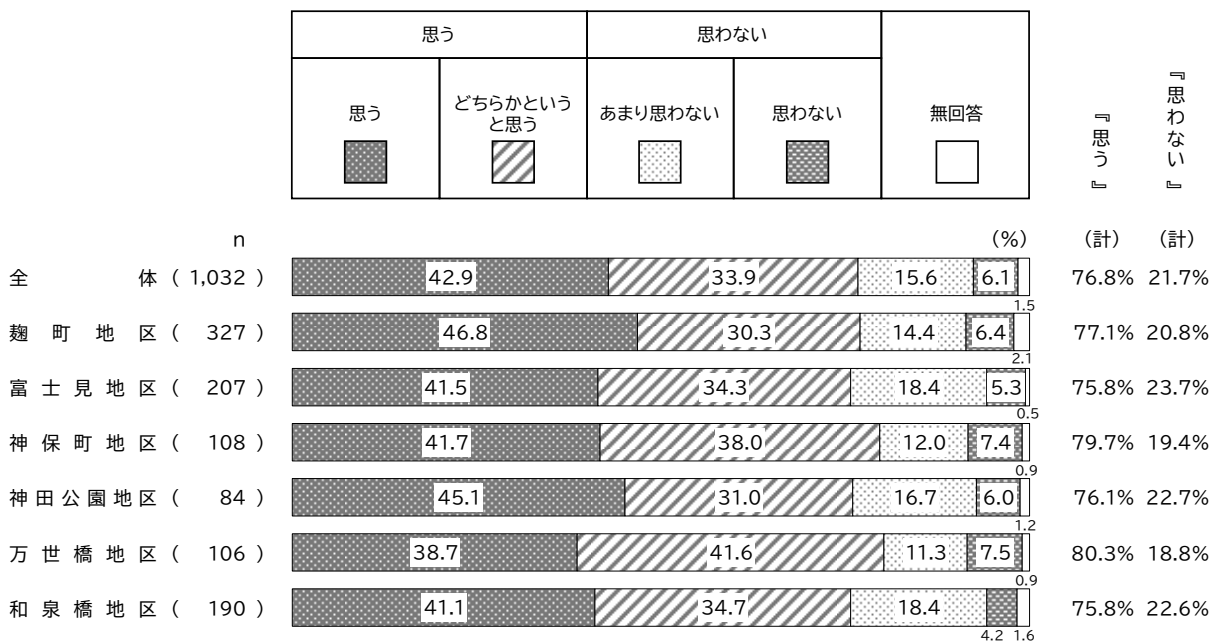
図12-4-1 LGBTsについて正しく理解したいと思うか



LGBTsについて正しく理解したいと思うかについて聞いたところ、「思う」(42.9%)が4割強と最も高く、これに「どちらかというと思う」(33.9%)を合わせた『思う』(76.8%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(15.6%)と「思わない」(6.1%)を合わせた『思わない』(21.7%)は2割強となっている。(図12-4-1)

地区別にみると、『思う』は万世橋地区(80.3%)で約8割と高くなっている。全ての地区で『思う』は『思わない』を上回っている。(図12-4-2)

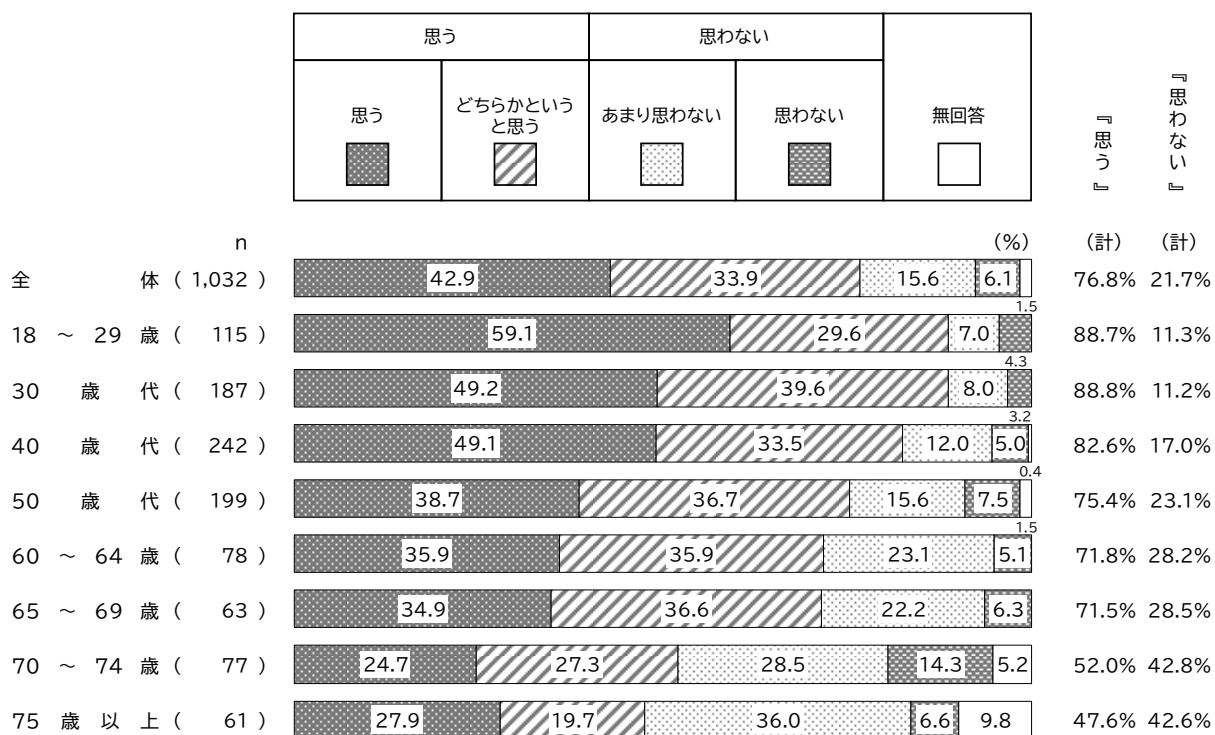
図12-4-2 LGBTsについて正しく理解したいと思うか(地区別)



年代別にみると、『思う』は18～29歳（88.7%）・30歳代（88.8%）で9割近くとそれぞれ高くなっている。『思う』はおおむね年代が上がるほど割合が減少する傾向がある。

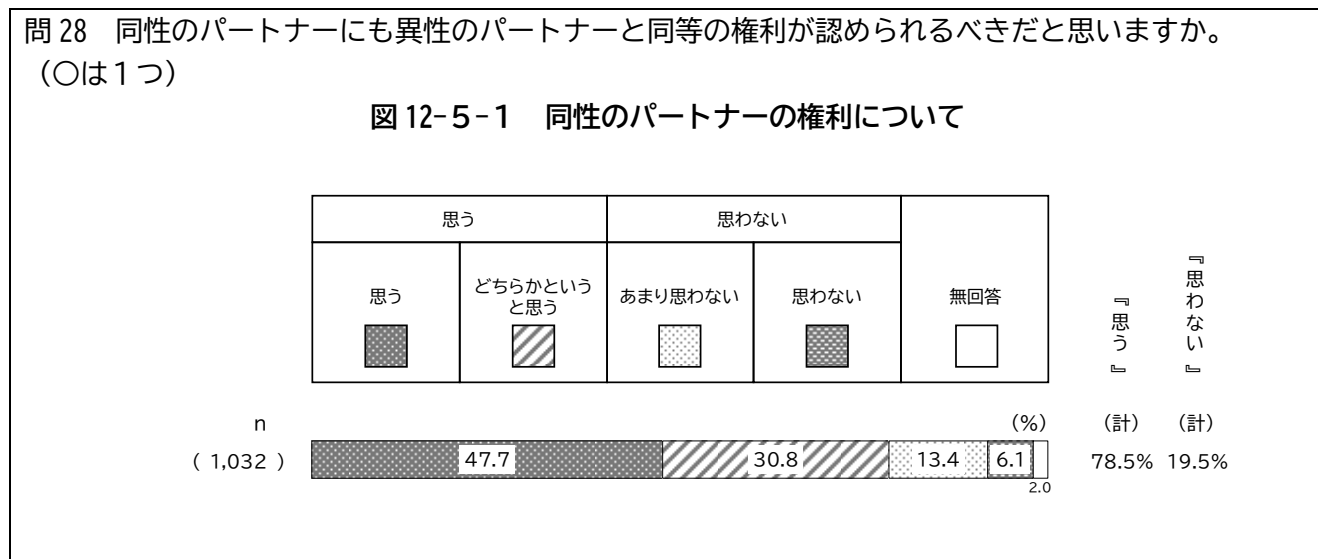
多くの年代で『思う』が『思わない』を大きく上回っているが、75歳以上では、わずかに5.0ポイントの差しかみられなかった。（図12-4-3）

図12-4-3 LGBTsについて正しく理解したいと思うか（年代別）



(5) 同性のパートナーの権利について

◇『思う』は8割近く

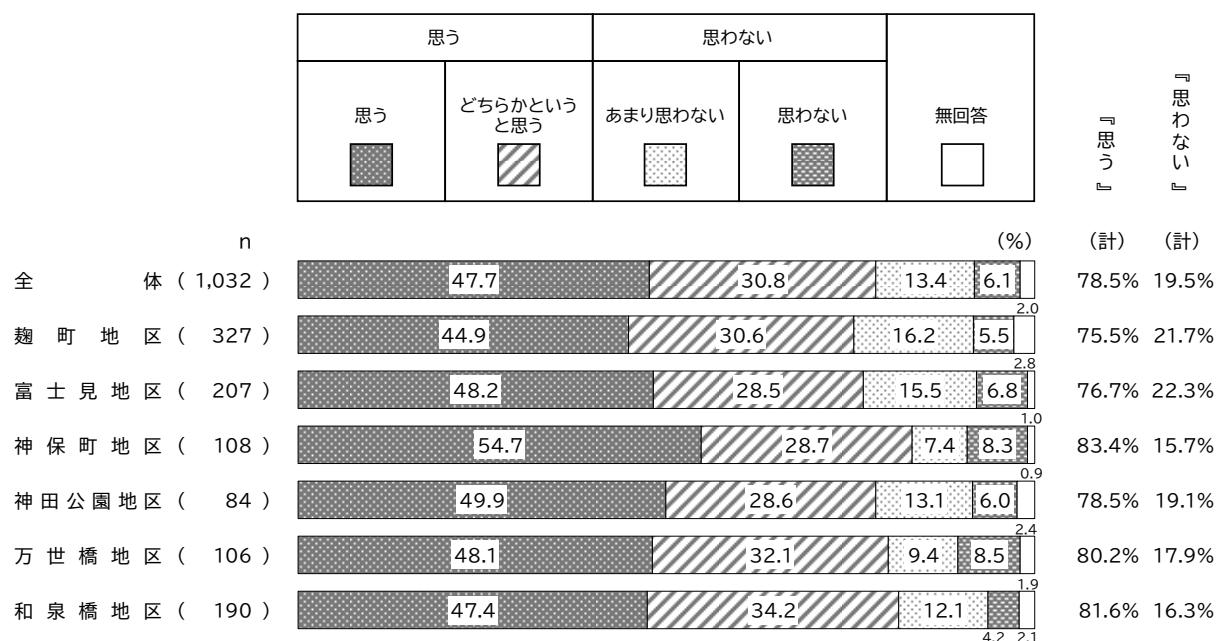


同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うか聞いたところ、「思う」(47.7%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「どちらかというと思う」(30.8%)を合わせた『思う』(78.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまり思わない」(13.4%)と「思わない」(6.1%)を合わせた『思わない』(19.5%)は2割弱となっている。(図 12-5-1)

地区別にみると、『思う』は神保町地区(83.4%)で8割台半ば近くと高くなっている。『思わない』はいずれの地区でも1割台半ば~2割強と一定数いることがうかがえる。

(図 12-5-2)

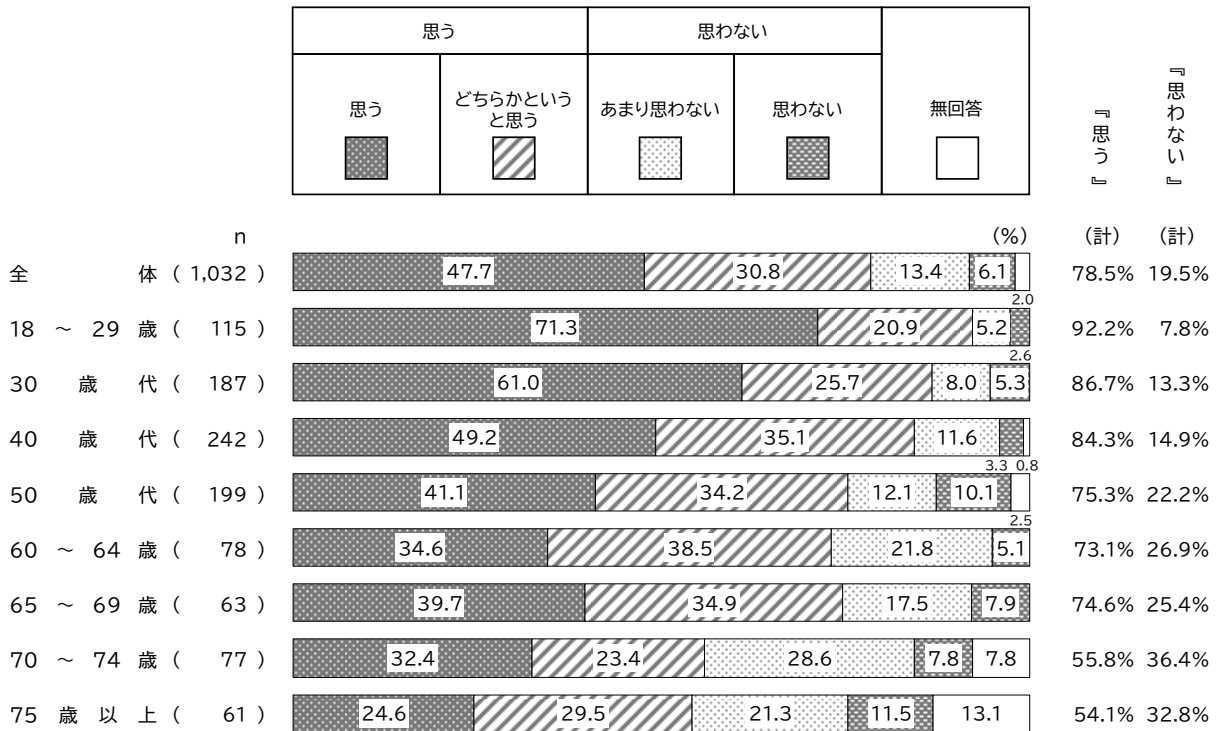
図 12-5-2 同性のパートナーの権利について(地区別)



年代別にみると、『思う』は18～29歳（92.2%）で9割強と高くなっている。『思う』はおおむね年代が上がるほど割合が減少する傾向がある。

『思わない』は70歳以上で3割以上を占めている。（図12-5-3）

図12-5-3 同性のパートナーの権利について（年代別）



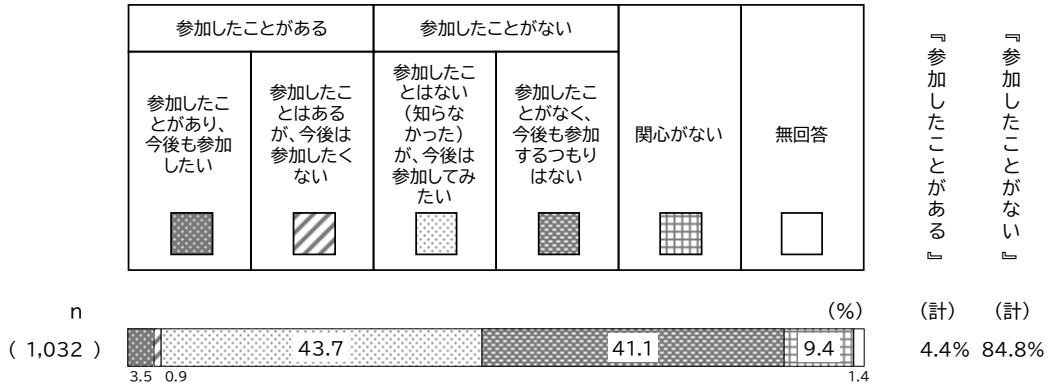
(6) 平和事業への参加の有無

◇『参加したことがない』は8割台半ば近く

区は、戦没者追悼式、平和イベント（原爆・東京大空襲に関する展示および映画上映会等）、平和使節団の派遣、地球市民講座、国際交流体験ツアーなどさまざまな平和事業を行っています。

問 29 あなたは、これらの事業に参加したことがありますか。（○は1つ）

図 12-6-1 平和事業への参加の有無

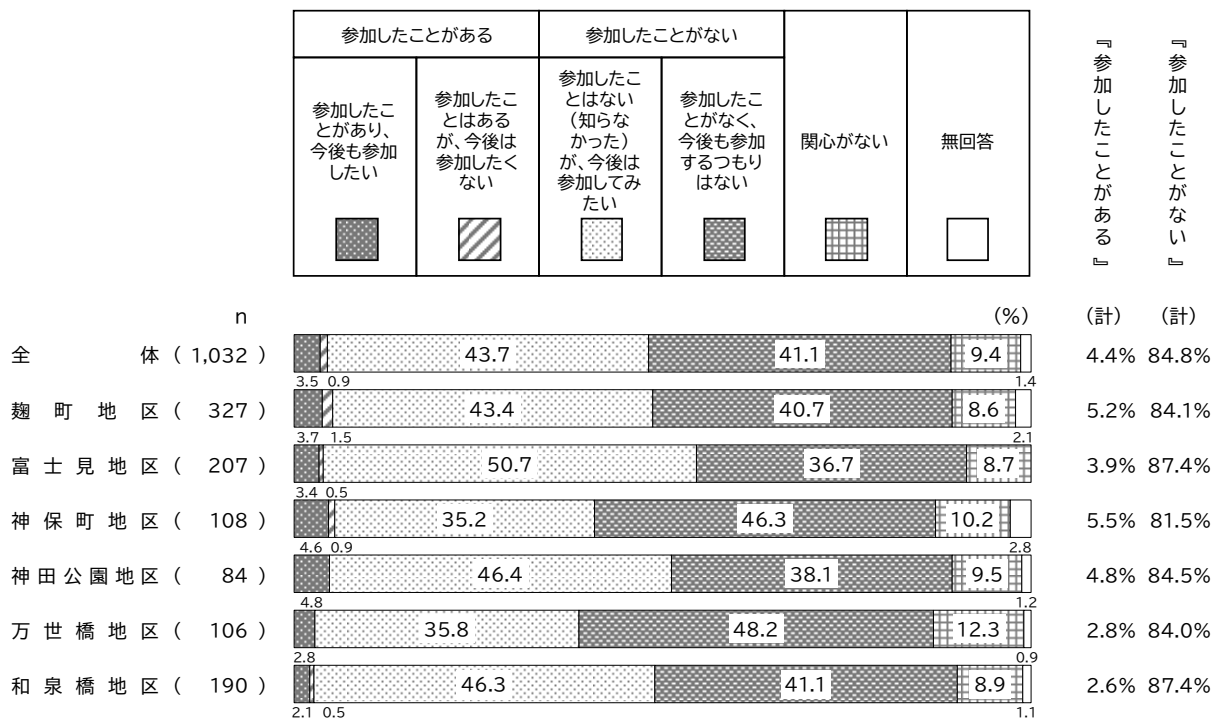


平和事業への参加の有無について聞いたところ、「参加したことはない（知らなかった）が、今後は参加してみたい」（43.7%）が4割台半ば近くと最も高く、これに「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」（41.1%）を合わせた『参加したことがない』（84.8%）は8割台半ば近くとなっている。一方、「参加したことがあり、今後も参加したい」（3.5%）と「参加したことはあるが、今後は参加したくない」（0.9%）を合わせた『参加したことがある』（4.4%）は1割未満となっている。

(図 12-6-1)

地区別にみると、『参加したことがない』は富士見地区・和泉橋地区（ともに87.4%）でそれぞれ8割台半ばを超えて高くなっている。(図 12-6-2)

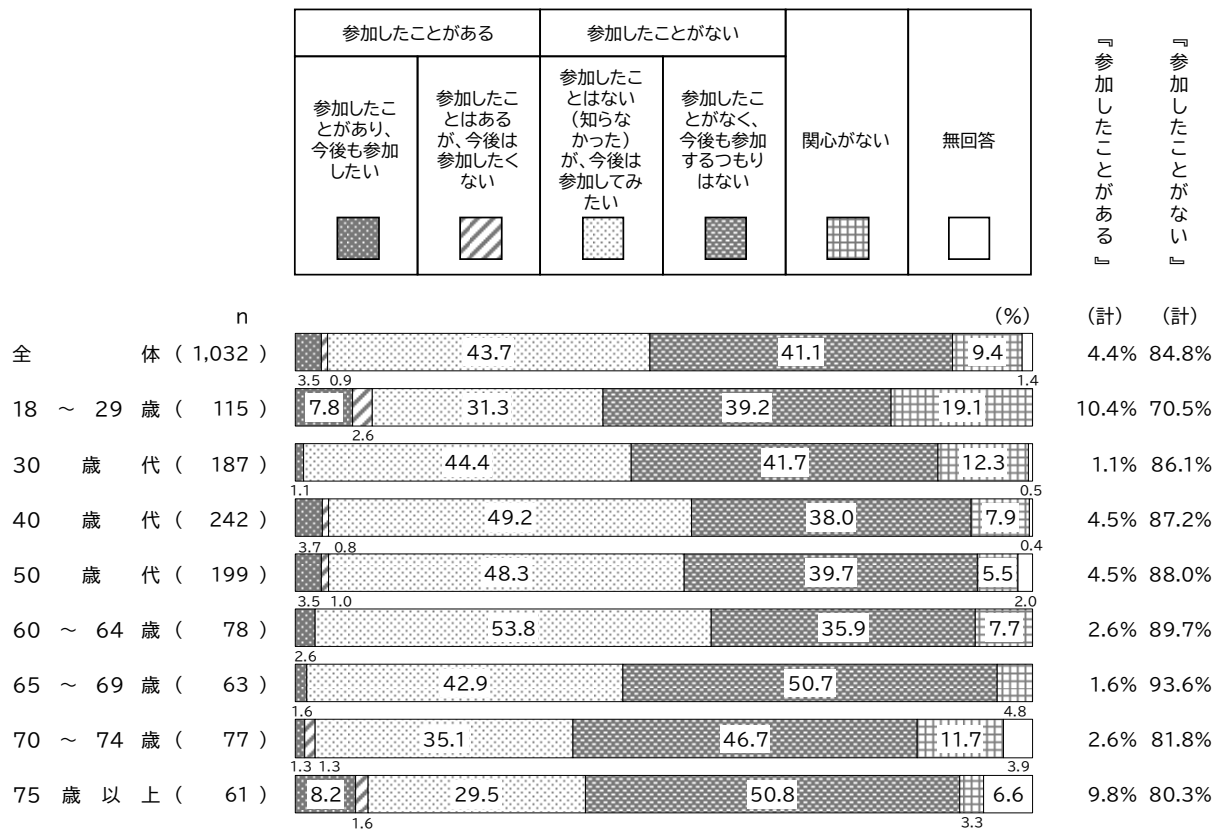
図 12-6-2 平和事業への参加の有無（地区別）



年代別にみると、『参加したことがない』は 65～69 歳 (93.6%) で9割台半ば近くと高くなっている。「関心がない」は 18～29 歳 (19.1%) で2割弱と高くなっている。

「参加したことがあり、今後も参加したい」は 18～29 歳 (7.8%)・75 歳以上 (8.2%) で他の年代よりもわずかに高くなっている。(図 12-6-3)

図 12-6-3 平和事業への参加の有無 (年代別)



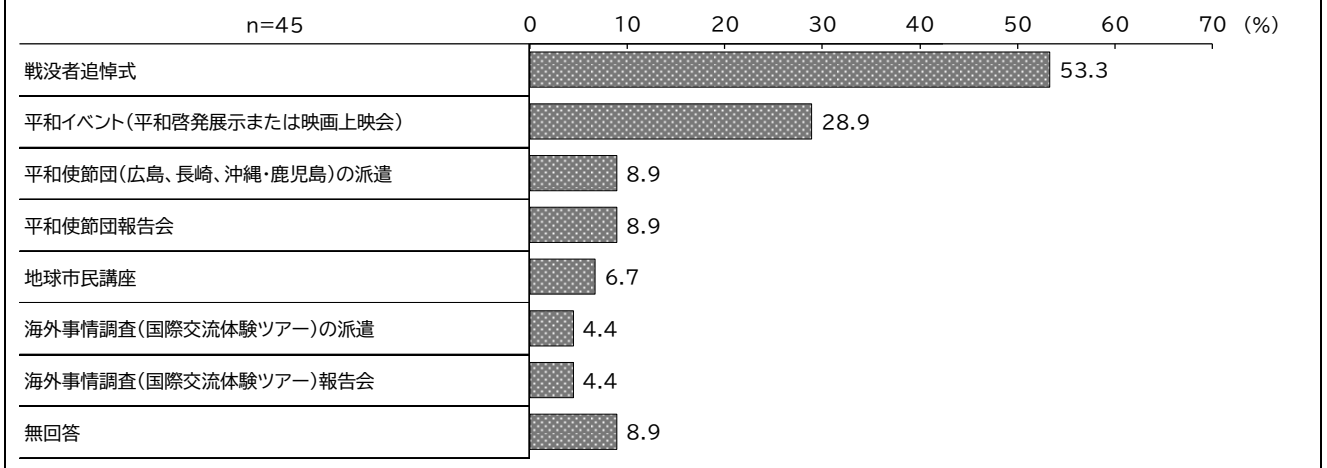
(6-1) 参加したことがある平和事業

◇「戦没者追悼式」が5割台半ば近く

(問29で「1. 参加したことがあり、今後も参加したい」「2. 参加したことはあるが、今後は参加したくない」とお答えの方に)

問29-1 どの事業に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

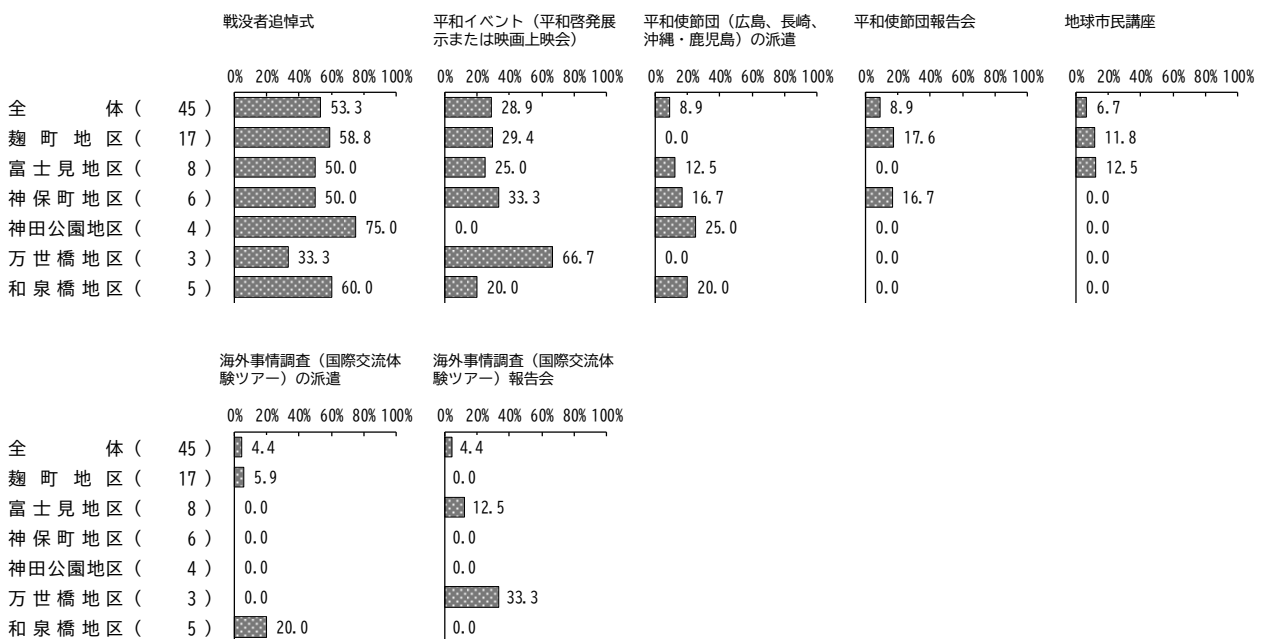
図12-6-4 参加したことがある平和事業



平和事業への参加の有無で「参加したことがあり、今後も参加したい」か「参加したことはあるが、今後は参加したくない」とお答えの方に、参加したことがある平和事業について聞いたところ、「戦没者追悼式」(53.3%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「平和イベント(平和啓発展示または映画上映会)」(28.9%)が3割近くとなっている。(図12-6-4)

地区別では、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示するにとどめる。)(図12-6-5)

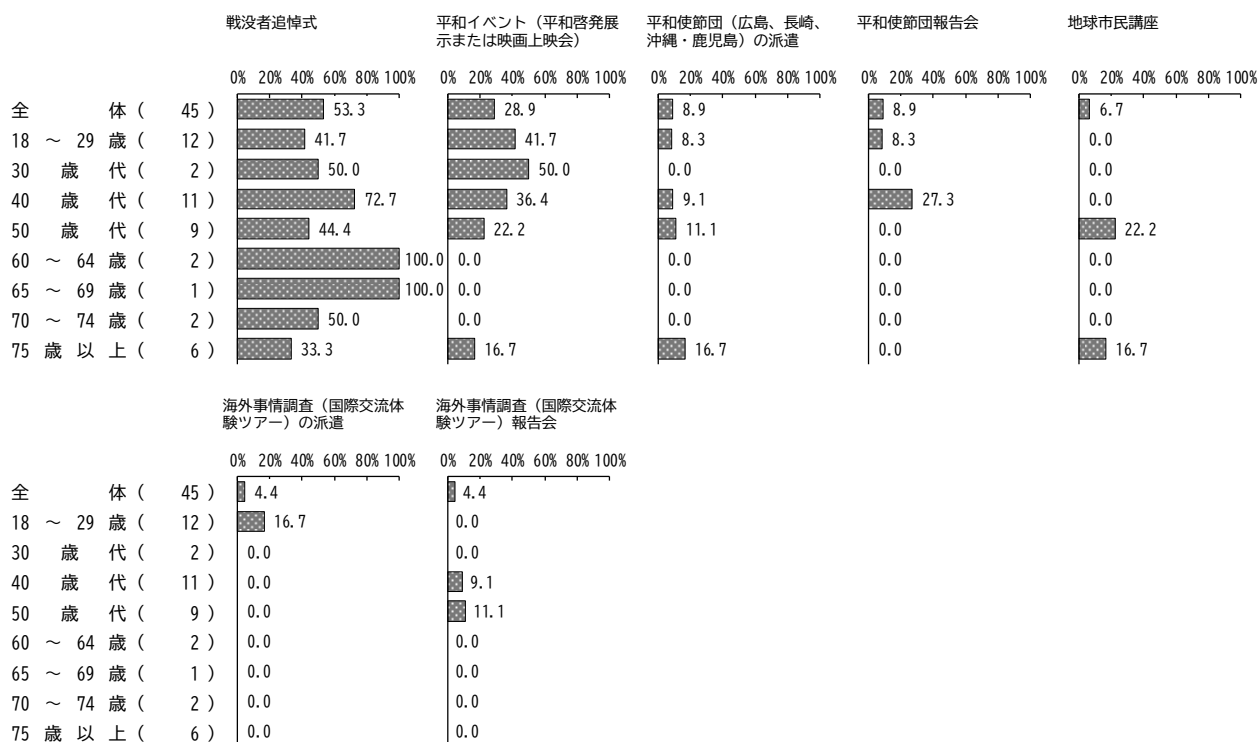
図12-6-5 参加したことがある平和事業(地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示することとする。)

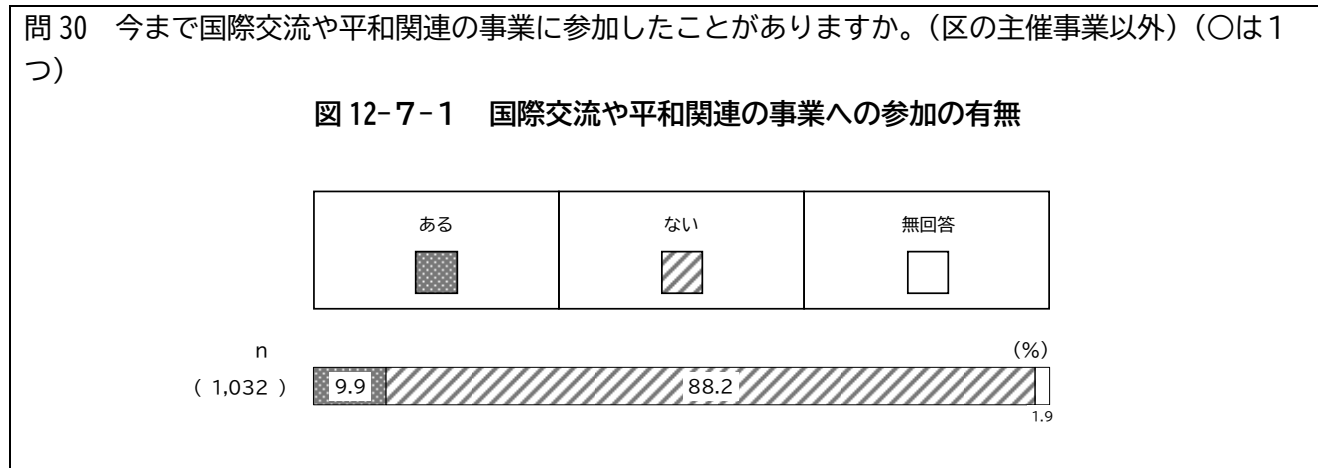
(図 12-6-6)

図 12-6-6 参加したことがある平和事業 (年代別)



(7) 国際交流や平和関連の事業への参加の有無

◇国際交流や平和関連の事業に参加したことが「ない」が9割近く

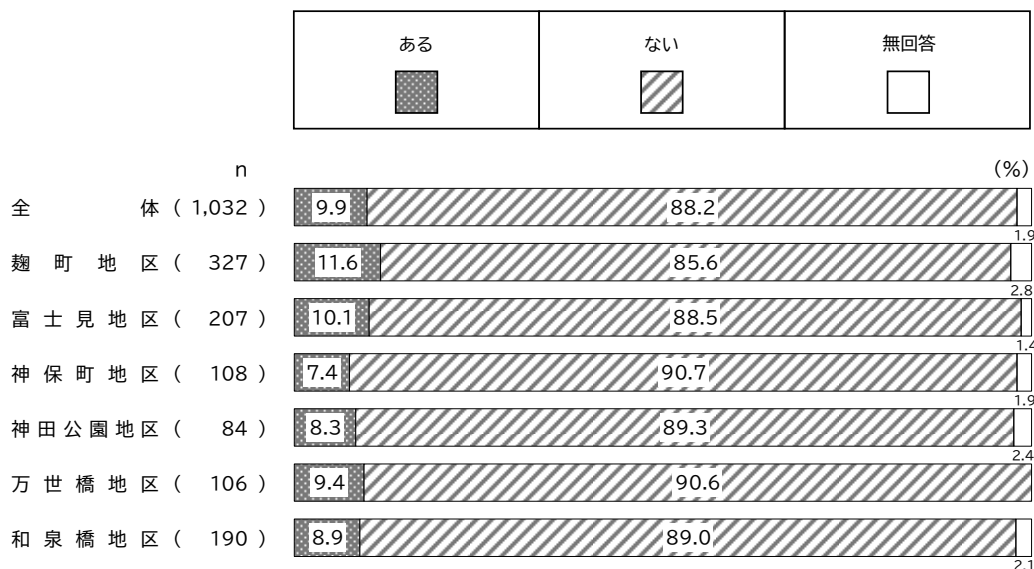


国際交流や平和関連の事業への参加の有無について聞いたところ、「ない」(88.2%)が9割近く、「ある」(9.9%)は1割未満となっている。(図 12-7-1)

地区別に見ると、「ある」は麴町地区(11.6%)で1割強と高くなっている。

国際交流や平和関連の事業へ参加したことが「ある」は全ての地区でおおむね1割程度にとどまっている。(図 12-7-2)

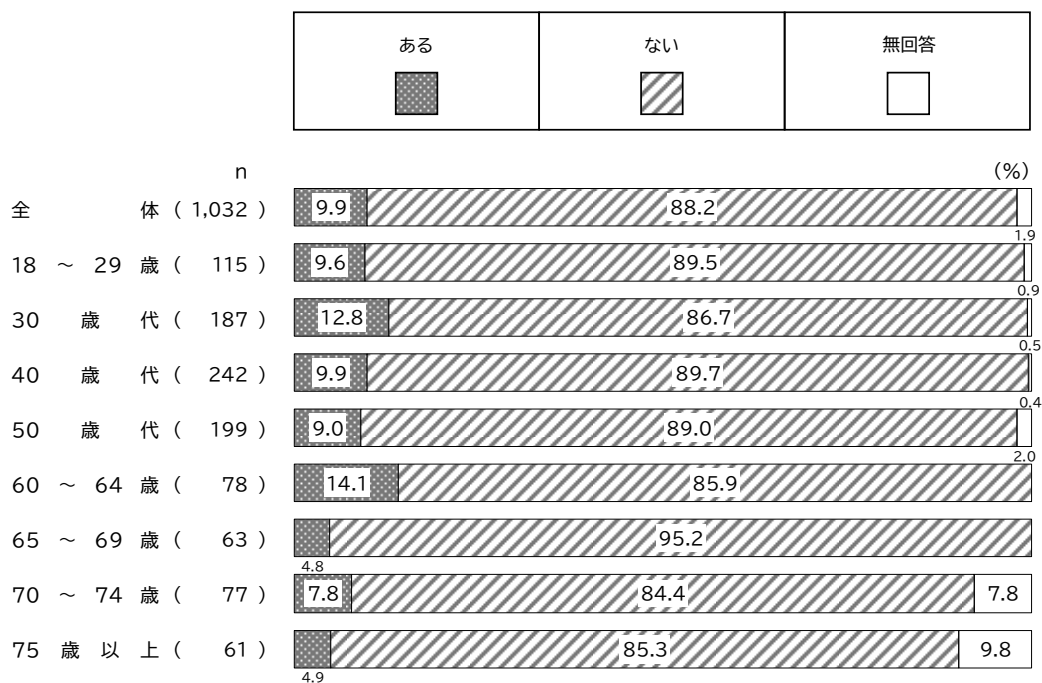
図 12-7-2 国際交流や平和関連の事業への参加の有無(地区別)



年代別にみると、「ある」は60～64歳(14.1%)で1割台半ば近くと高くなっている。

国際交流や平和関連の事業へ参加したことが「ある」は全ての年代でおおむね1割程度にとどまっている。(図12-7-3)

図12-7-3 国際交流や平和関連の事業への参加の有無(年代別)



(7-1) 参加した事業

(問30で「1. ある」とお答えの方に)
問30-1 どのような事業に参加しましたか。(ご自由にご記入ください)

国際交流や平和関連の事業への参加の有無で「ある」とお答えの方に、どのような事業に参加したかを聞いたところ、90件の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

1. 国際交流イベント (34件)

- ・日比谷公園で開催された日韓交流イベント
- ・大学の国際交流イベント。
- ・学生時代に、語学教授を目的とした留学生との交流会によく参加していました。日本文化体験、料理教室など
- ・世界の人々が自国の紹介をするイベント(食や文化等)や、友好イベント

2. 留学・ホームステイ (15件)

- ・大学での短期留学
- ・ホームステイの学生を受け入れた
- ・海外からの留学生を対象とした茶会を開催
- ・ヨーロッパ留学中に様々な国際交流イベントに参加

3. 戦没者慰霊・戦争に関するイベント (15件)

- ・戦没者墓苑の清掃。(子どもの頃)
- ・長崎の非核シンポジウムに、大学の授業の一環として参加した。
- ・沖縄の平和学習
- ・戦没者慰霊式典

4. 文化・スポーツイベント (10件)

- ・オリンピックパラリンピック関連
- ・スペシャルオリンピック
- ・映画と講演会の事業
- ・TPAM(国際舞台芸術ミーティングin横浜)にボランティアとして参加し、案内等を行った。

5. 海外・外国の方への支援 (9件)

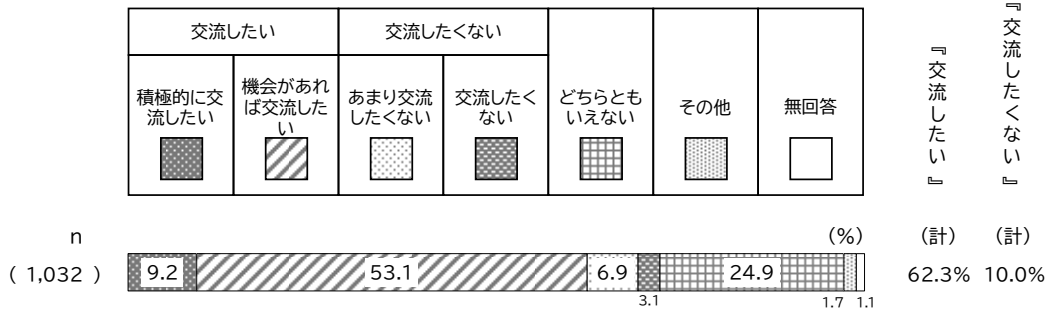
- ・外国人の為の日本語教室
- ・発展途上国支援の為のバザーに参加等
- ・観光案内(区外で自発的、個人的に)
- ・千代田区在住外国人の困った際のサポート(地震発生時の避難情報や周辺施設の連絡、心理的不安の解消を英語で伝えるなど)

(8) 区在住の外国人との交流意向

◇区にお住まいの外国人との交流意向で『交流したい』が6割強

問31 区では、住民基本台帳人口が増加しているのと同様に、外国人住民も増加傾向にあり、住民の約20人に1人程度は外国人となっています。あなたは、区にお住まいの外国人との交流についてどう思いますか。(○は1つ)

図12-8-1 区在住の外国人との交流意向

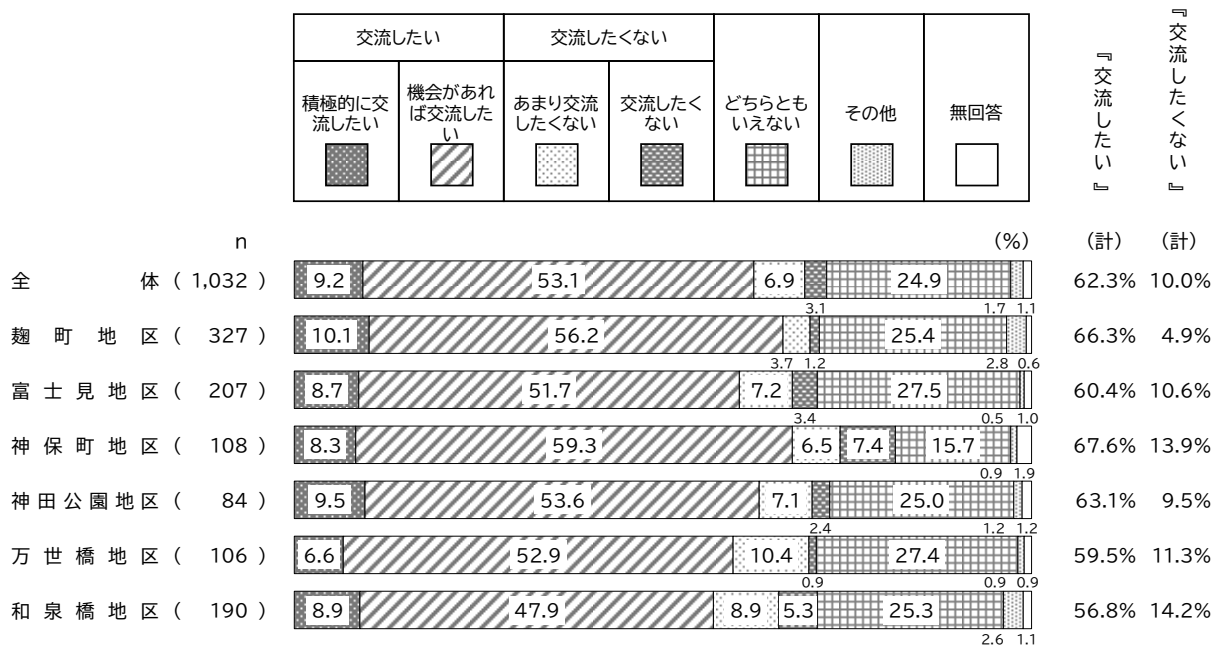


区在住の外国人との交流意向について聞いたところ、「機会があれば交流したい」(53.1%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「積極的に交流したい」(9.2%)を合わせた『交流したい』(62.3%)は6割強となっている。一方、「あまり交流したくない」(6.9%)と「交流したくない」(3.1%)を合わせた『交流したくない』(10.0%)は1割となっている。(図12-8-1)

地区別にみると、『交流したい』は神保町地区(67.6%)で6割台半ばを超えて高くなっている。

(図12-8-2)

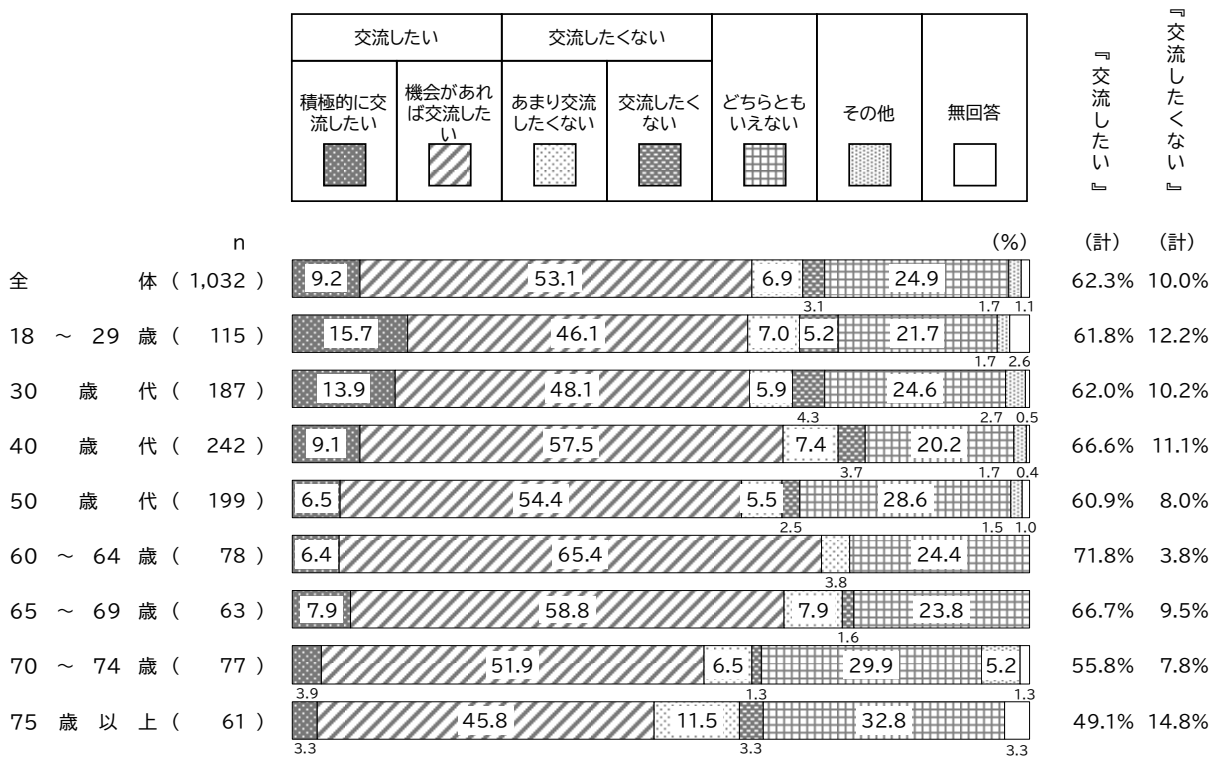
図12-8-2 区在住の外国人との交流意向(地区別)



年代別にみると、『交流したい』は60～64歳（71.8%）で7割強と高くなっている。一方、『交流したくない』は75歳以上（14.8%）で1割台半ば近くと高くなっている。

「積極的に交流したい」は18～29歳（15.7%）・30歳代（13.9%）がともに1割台となっており、他の年代を上回っている。（図12-8-3）

図12-8-3 区在住の外国人との交流意向（年代別）

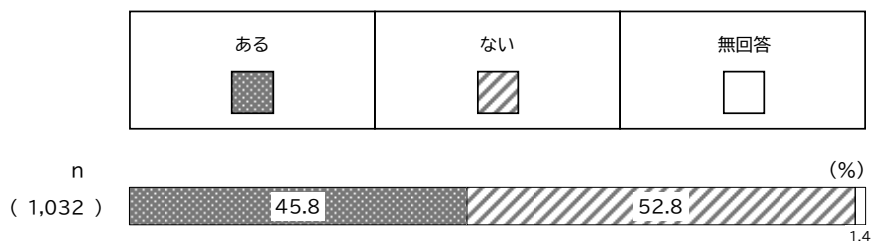


(9) いじめ等を受けた経験の有無

◇「ない」が5割強

問32 いじめや差別、DV、ハラスメントを受けた、もしくは見たことにより嫌な思いをしたことがありますか。(○は1つ)

図12-9-1 いじめ等を受けた経験の有無



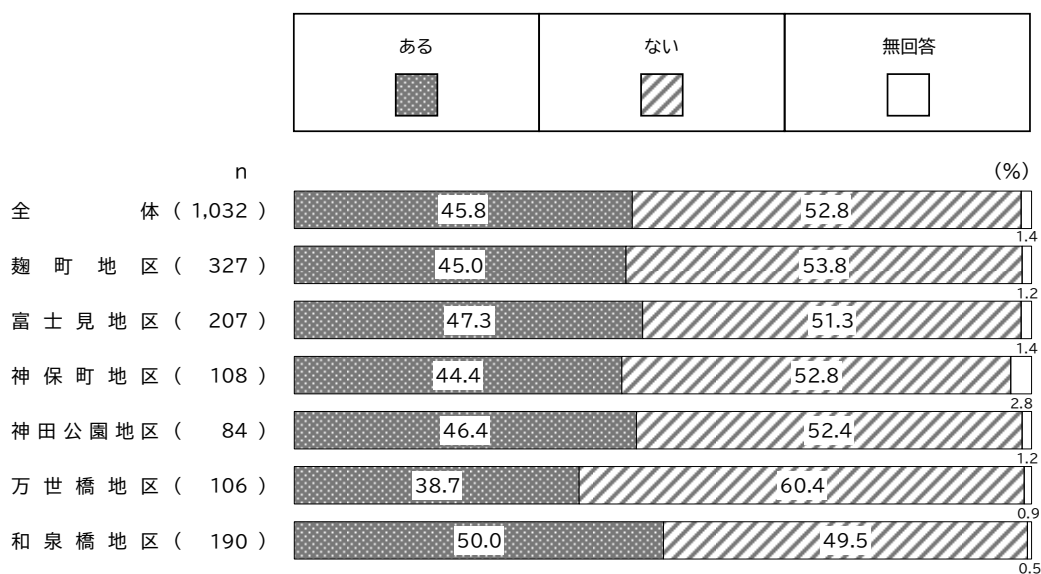
いじめ等を受けた経験の有無について聞いたところ、「ない」(52.8%)が5割強、「ある」(45.8%)は4割台半ばとなっている。(図12-9-1)

地区別にみると、「ある」は和泉橋地区(50.0%)で5割と高くなっている。一方、「ない」は万世橋地区(60.4%)で約6割と高くなっている。

万世橋地区を除く5地区で、いじめ等を受けた経験の「ある」が4割を超えている。

(図12-9-2)

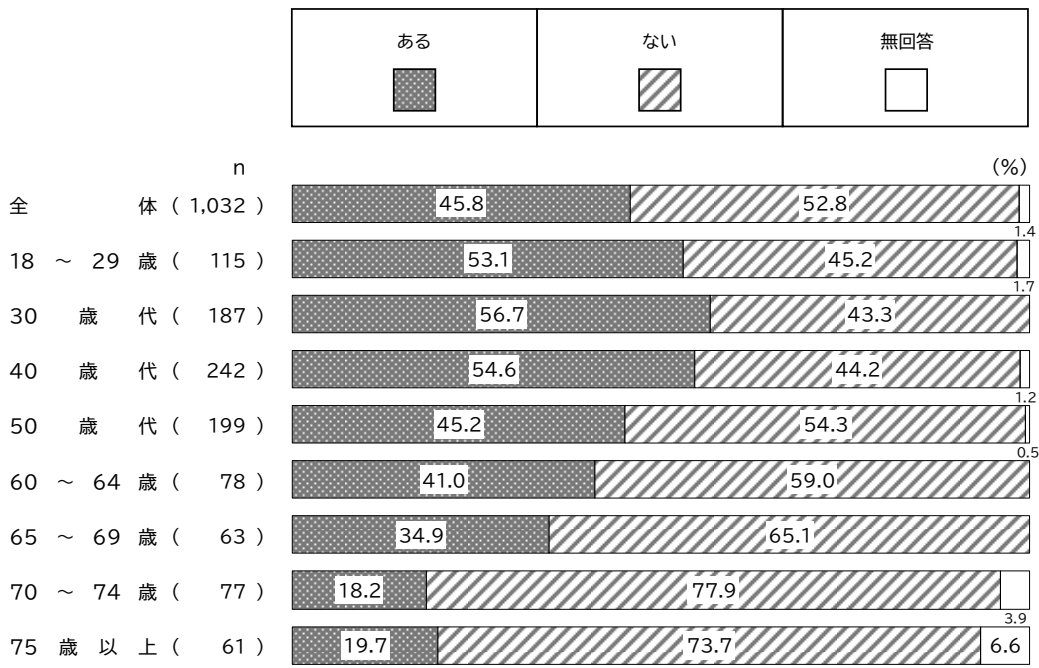
図12-9-2 いじめ等を受けた経験の有無(地区別)



年代別にみると、「ある」は30歳代(56.7%)で5割台半ばを超えて高くなっている。一方、「ない」は70~74歳(77.9%)で7割台半ばを超えて高くなっている。

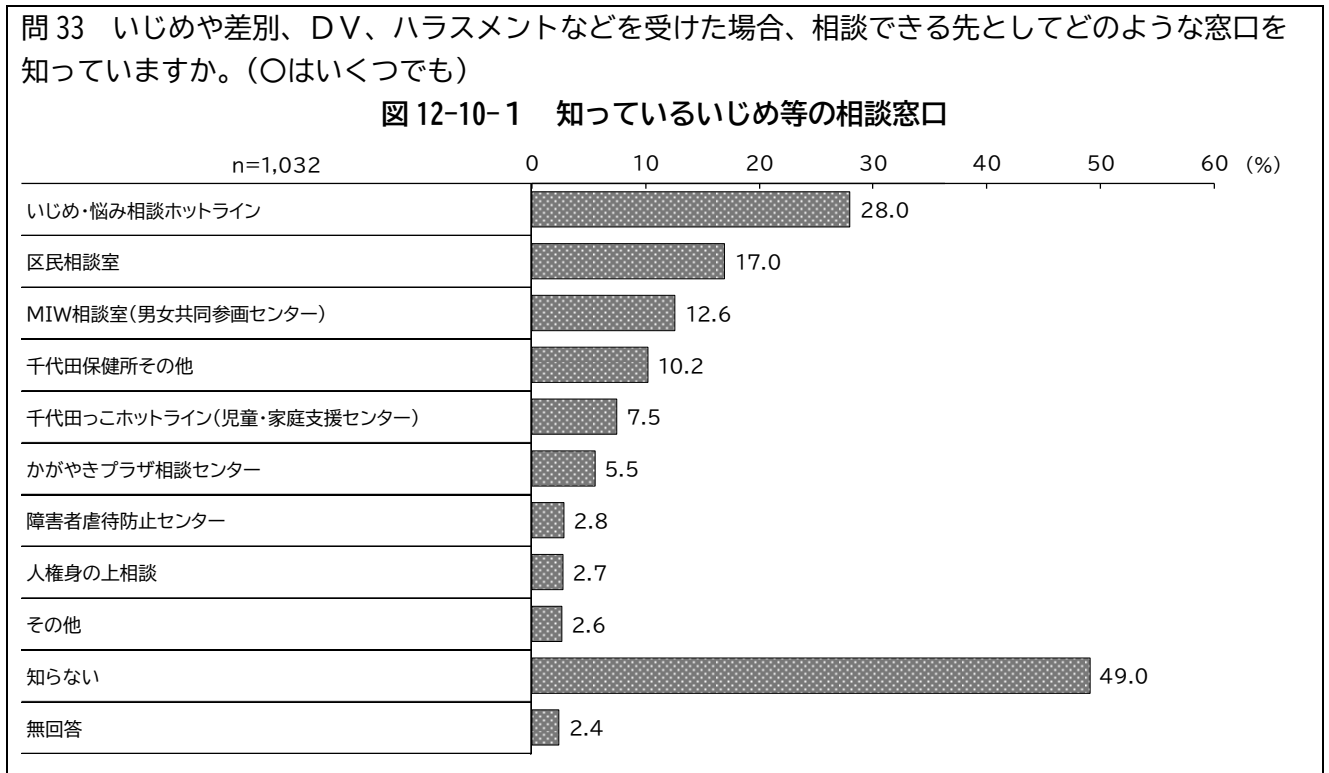
「ある」は30歳代(56.7%)が最も高く、それ以降はおおむね減少する傾向にある。特に70歳以上では1割台と低くなっている。(図12-9-3)

図12-9-3 いじめ等を受けた経験の有無(年代別)



(10) 知っているいじめ等の相談窓口

◇「知らない」が5割弱

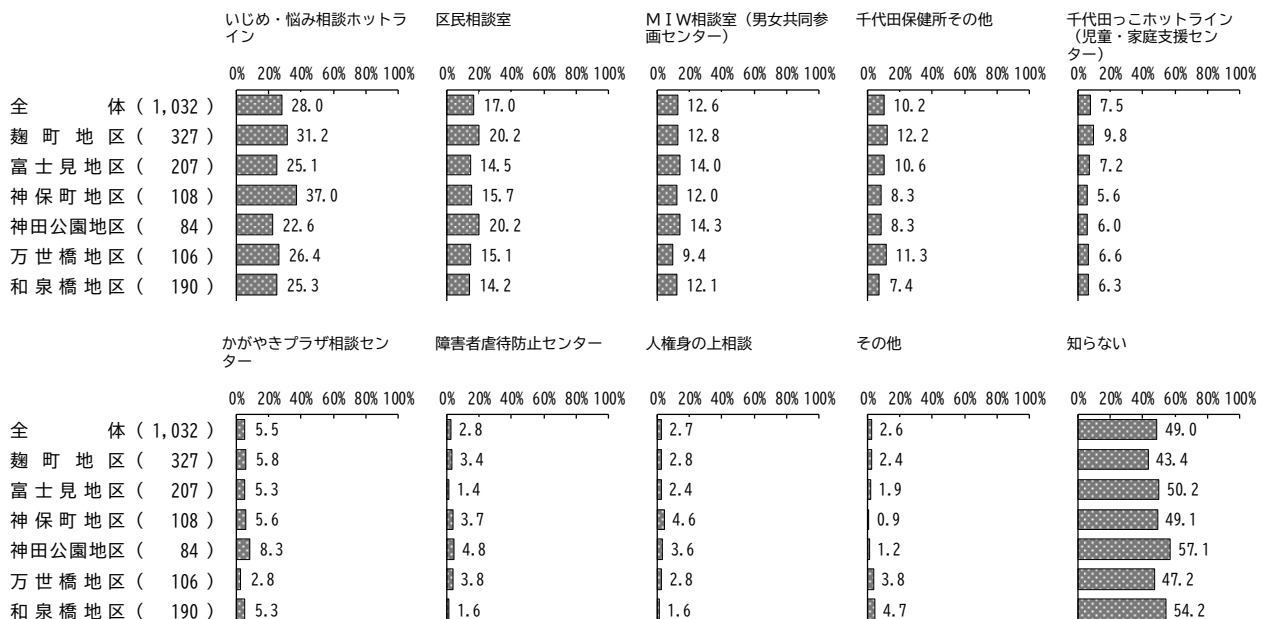


知っているいじめ等の相談窓口について聞いたところ、「いじめ・悩み相談ホットライン」(28.0%)が3割近くと最も高く、次いで、「区民相談室」(17.0%)となっている。一方、「知らない」(49.0%)が5割弱となっている。(図 12-10-1)

地区別にみると、「いじめ・悩み相談ホットライン」は神保町地区(37.0%)で3割台半ばを超えて高くなっている。「区民相談室」は麴町地区・神田公園地区(ともに 20.2%)で約2割とそれぞれ高くなっている。一方、「知らない」は神田公園地区(57.1%)で5割台半ばを超えて高くなっている。

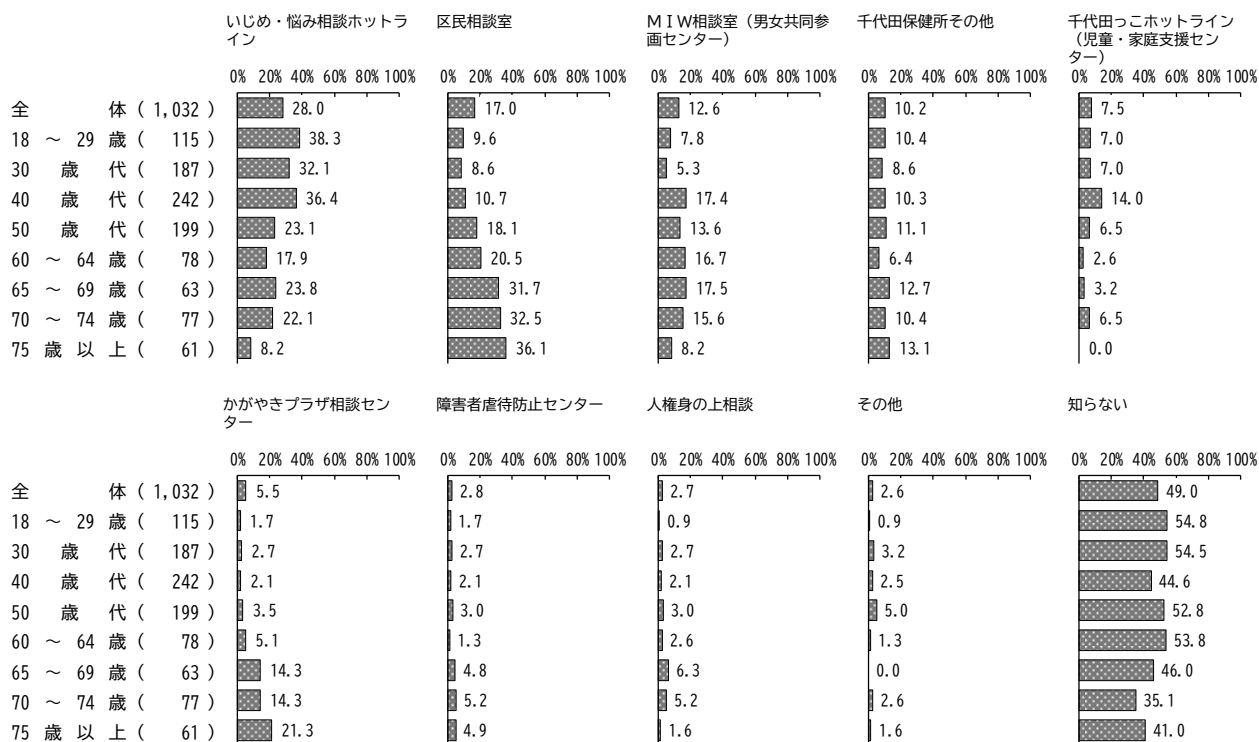
「千代田っこホットライン(児童・家庭支援センター)」・「かがやきプラザ相談センター」・「障害者虐待防止センター」・「人権身の上相談」はいずれの地区でも1割未満となっている。(図 12-10-2)

図 12-10-2 知っているいじめ等の相談窓口(地区別)



年代別にみると、「いじめ・悩み相談ホットライン」は18～29歳(38.3%)で4割近くと高くなっている。「区民相談室」は75歳以上(36.1%)で3割台半ばを超えて高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳(54.8%)・30歳代(54.5%)・60～64歳(53.8%)で5割台半ば近くとそれぞれ高くなっている。「区民相談室」・「かがやきプラザ相談センター」はともに、年代が上がるにつれておおむね増加する傾向がある。(図12-10-3)

図12-10-3 知っているいじめ等の相談窓口(年代別)



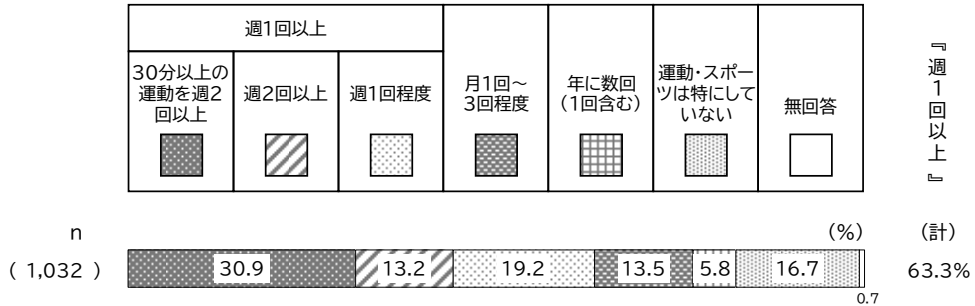
13. スポーツ実施率

(1) 運動・スポーツを行う頻度

◇『週1回以上』が6割台半ば近く

問34 あなたは、この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度運動・スポーツを行いましたか。(○は1つ)

図13-1-1 運動・スポーツを行う頻度

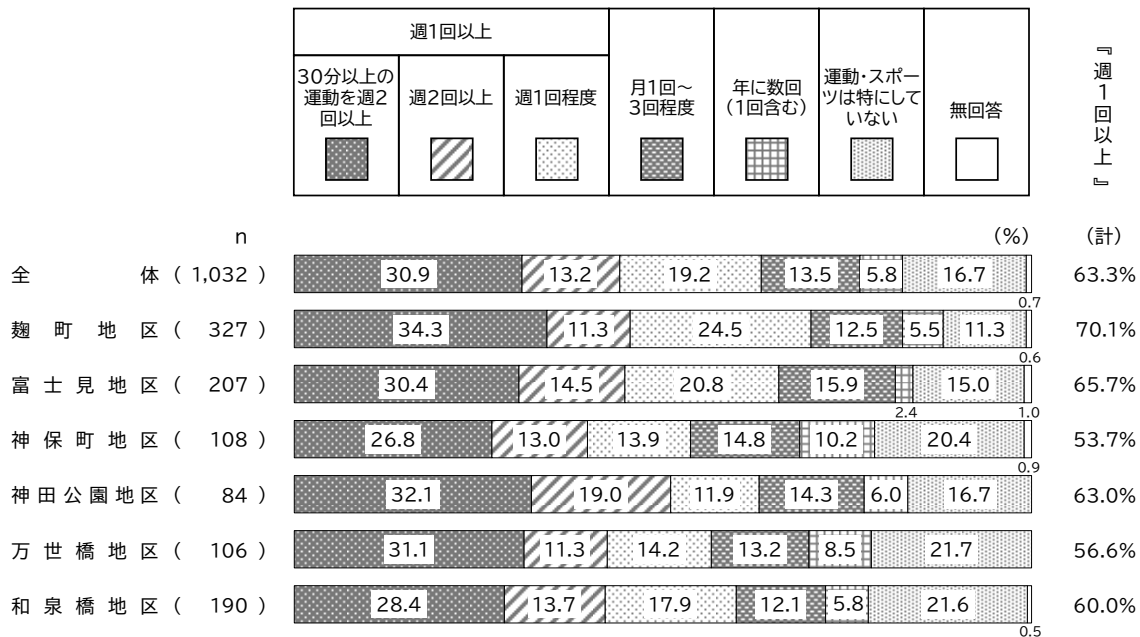


運動・スポーツを行う頻度について聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(30.9%)が約3割と最も高く、これに「週1回程度」(19.2%)、「週2回以上」(13.2%)を合わせた『週1回以上』(63.3%)は6割台半ば近くとなっている。(図13-1-1)

地区別に見ると、『週1回以上』は麴町地区(70.1%)で約7割と最も高くなっている。

『週1回以上』は全ての地区で半数を超えているが、最も高い麴町地区(70.1%)と最も低い神保町地区(53.7%)では16.4ポイントの差が開いている。(図13-1-2)

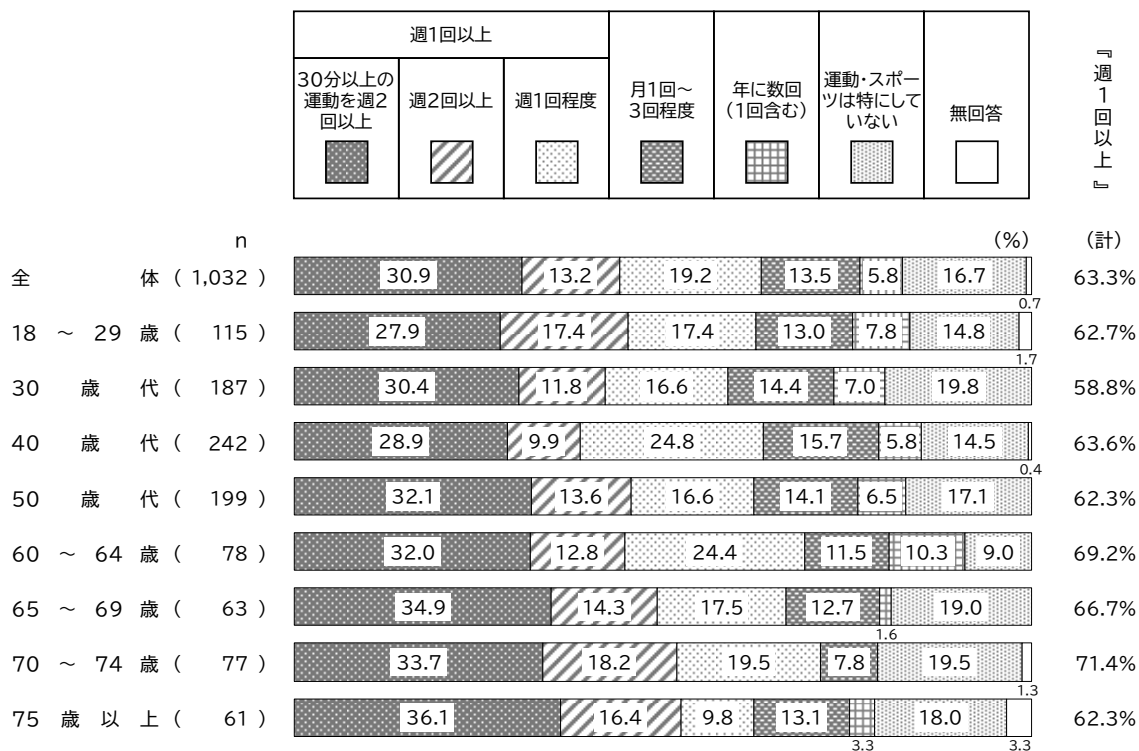
図13-1-2 運動・スポーツを行う頻度(地区別)



年代別にみると、『週1回以上』は70～74歳（71.4%）で7割強と高くなっている。

『週1回以上』は全ての年代で半数を超えているが、多くが6割台となっており、5割台は30歳代（58.8%）、7割台は70～74歳（71.4%）のみとなっている。（図13-1-3）

図13-1-3 運動・スポーツを行う頻度（年代別）



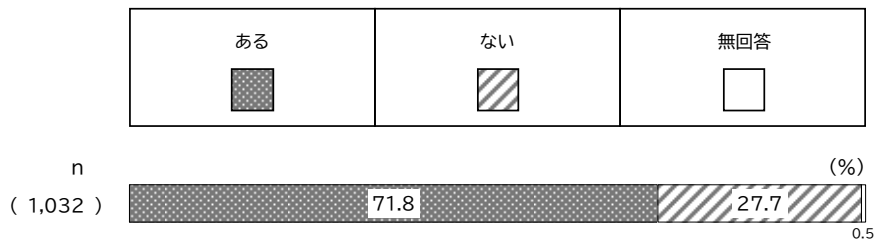
14. 区内の身近な緑について

(1) 好きな緑豊かな空間

◇「ある」が7割強

問35 あなたの身近に好きな（お気に入りの）緑豊かな空間はありますか。（○は1つ）

図 14-1-1 好きな緑豊かな空間

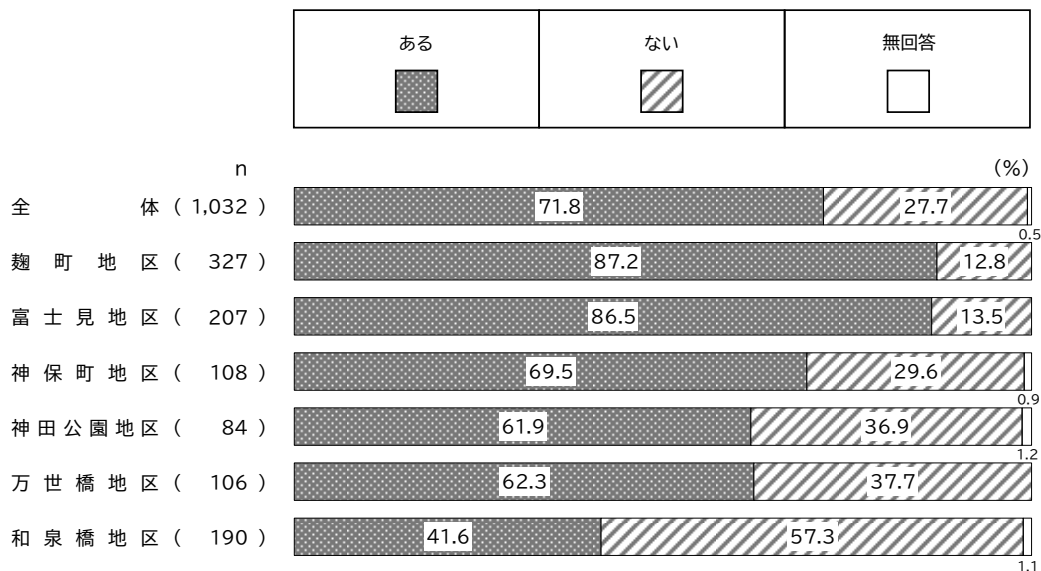


好きな緑豊かな空間について聞いたところ、「ある」(71.8%)が7割強、「ない」(27.7%)は2割台半ばを超えている。(図 14-1-1)

地区別に見ると、「ある」は麴町地区(87.2%)・富士見地区(86.5%)で8割台半ばを超えてそれぞれ高くなっている。一方、「ない」は和泉橋地区(57.3%)で5割台半ばを超えて高くなっている。

「ない」が「ある」を上回っているのは和泉橋地区のみとなっている。(図 14-1-2)

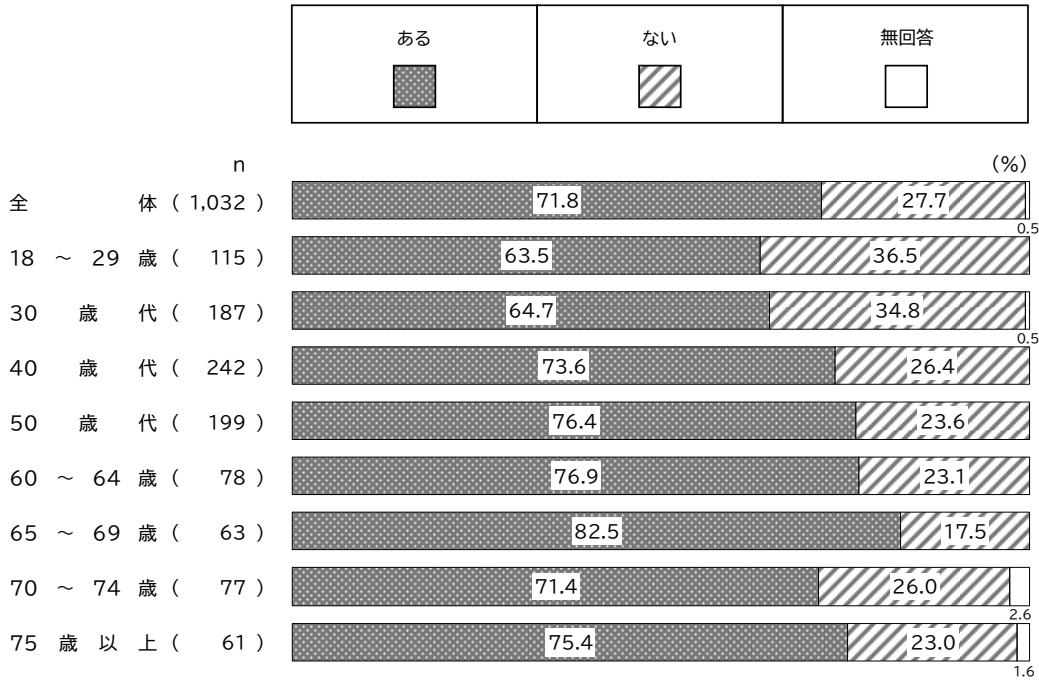
図 14-1-2 好きな緑豊かな空間（地区別）



年代別にみると、「ある」は65～69歳(82.5%)で8割強と高くなっている。一方、「ない」は18～29歳(36.5%)で3割台半ばを超えて高くなっている。

全ての年代で、「ある」が「ない」を上回っている。(図14-1-3)

図14-1-3 好きな緑豊かな空間(年代別)

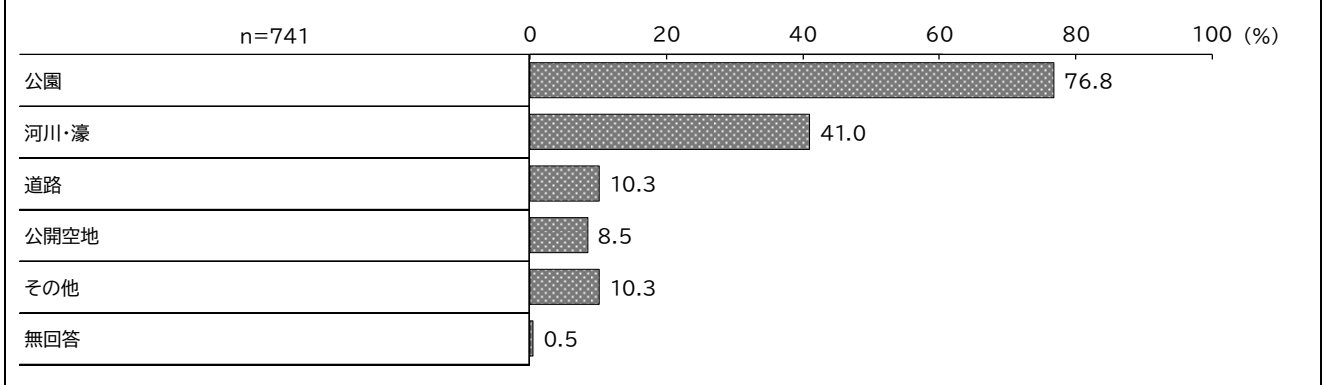


(1-1) どのような空間か

◇「公園」が7割台半ばを超える

(問35で「1. ある」とお答えの方に)
 問35-1 それはどのような空間ですか。(〇はいくつでも)

図14-1-4 どのような空間か

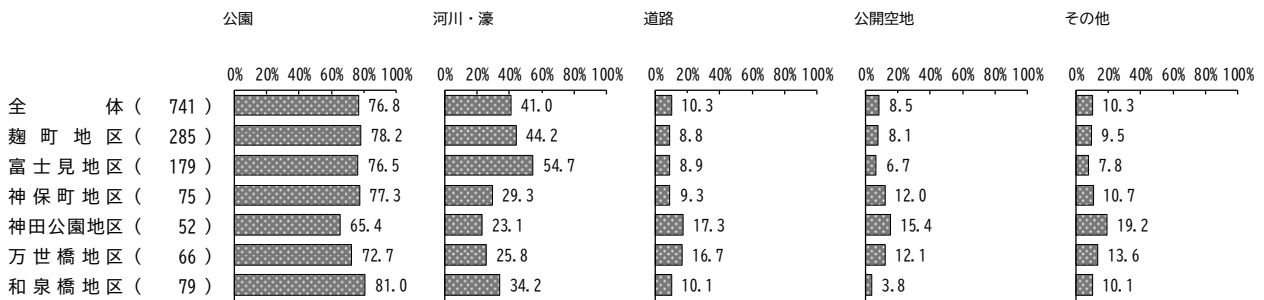


好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に、どのような空間かについて聞いたところ、「公園」(76.8%)が7割台半ばを超えて最も高く、「河川・濠」(41.0%)は4割強となっている。

(図14-1-4)

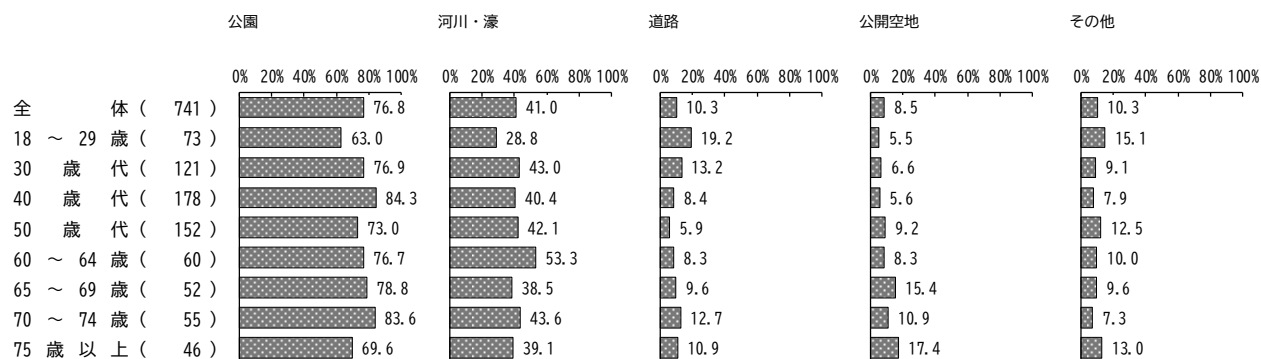
地区別にみると、「公園」は和泉橋地区(81.0%)で8割強と高くなっている。「河川・濠」は富士見地区(54.7%)で5割台半ば近くと高くなっている。また、「道路」は神田公園地区(17.3%)・万世橋地区(16.7%)で1割台半ばを超えてそれぞれ高くなっている。(図14-1-5)

図14-1-5 どのような空間か (地区別)



年代別にみると、「公園」は40歳代(84.3%)・70～74歳(83.6%)で8割台半ば近くと高くなっている。「河川・濠」は60～64歳(53.3%)で5割台半ば近くと高くなっている。また、「道路」は18～29歳(19.2%)で2割弱と高くなっている。(図14-1-6)

図14-1-6 どのような空間か(年代別)



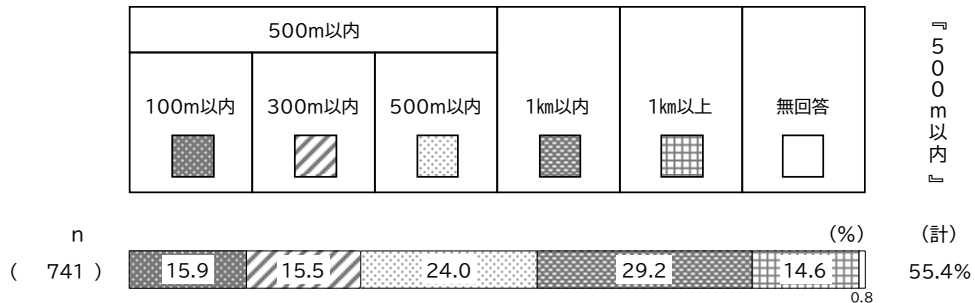
(1-2) 自宅からの距離

◇ 「1 km以内」が3割弱

(問 35 で「1. ある」とお答えの方に)

問 35-2 それは自宅 (または区内の職場) からどれくらいの場所にありますか。(○は1つ)

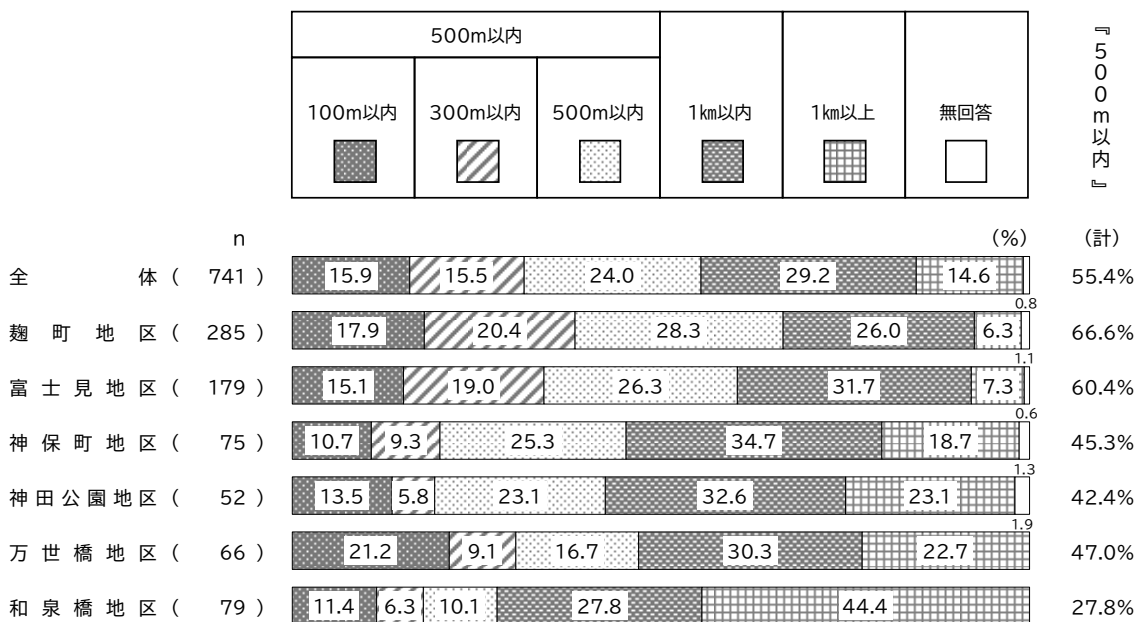
図 14-1-7 自宅からの距離



好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に、自宅からの距離について聞いたところ、「1 km以内」(29.2%) が3割弱と最も高く、次いで、「500m 以内」(24.0%)、「100m 以内」(15.9%) となっている。「100m 以内」(15.9%) と「300m 以内」(15.5%) と「500m 以内」(24.0%) を合わせた『500m 以内』(55.4%) は5割台半ばとなっている。(図 14-1-7)

地区別にみると、『500m 以内』は麴町地区 (66.6%) で6割台半ばを超えて高くなっている。一方、和泉橋地区 (27.8%) は2割台半ばを超えているが最も低くなっている。(図 14-1-8)

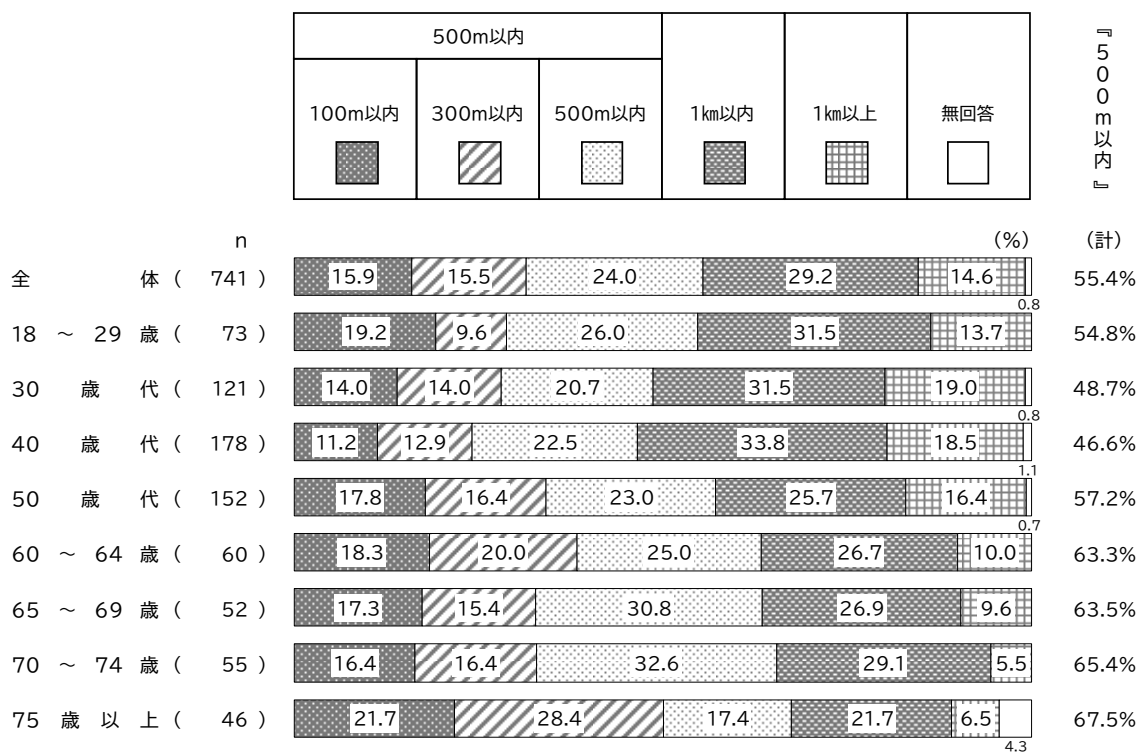
図 14-1-8 自宅からの距離 (地区別)



年代別にみると、『500m以内』は75歳以上(67.5%)で6割台半ばを超えて高くなっている。「300m以内」は75歳以上(28.4%)で3割近くと高くなっている。「500m以内」は70~74歳(32.6%)で3割強と高くなっている。また、「1km以内」は40歳代(33.8%)で3割台半ば近くと高くなっている。

(図 14-1-9)

図 14-1-9 自宅からの距離 (年代別)



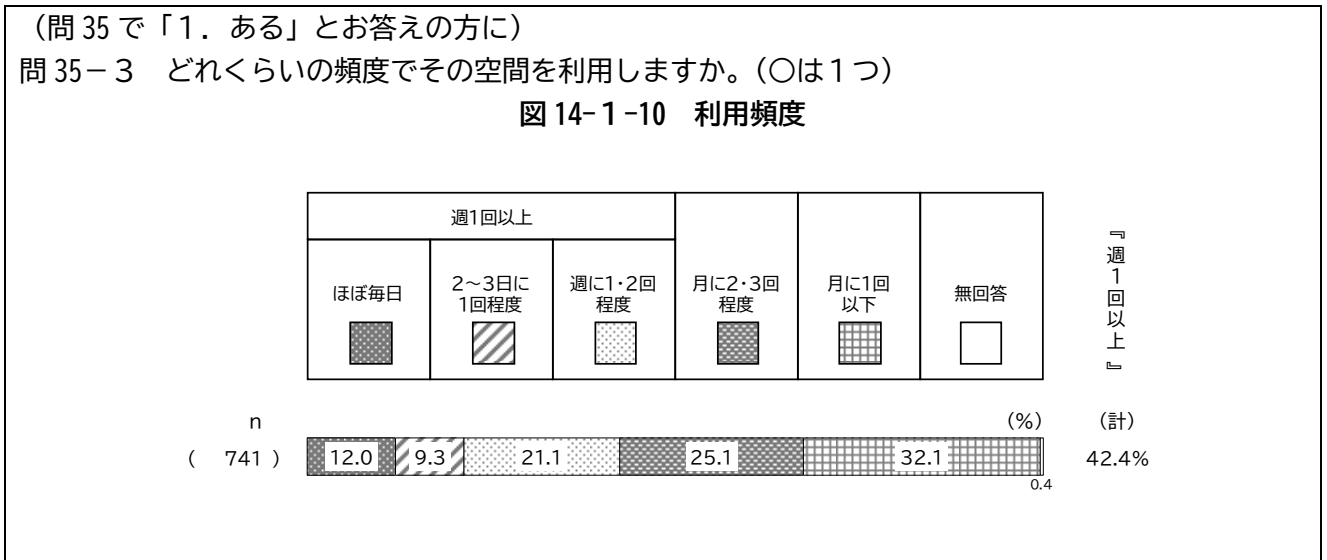
(1-3) 利用頻度

◇「月に1回以下」が3割強

(問35で「1. ある」とお答えの方に)

問35-3 どれくらいの頻度でその空間を利用しますか。(○は1つ)

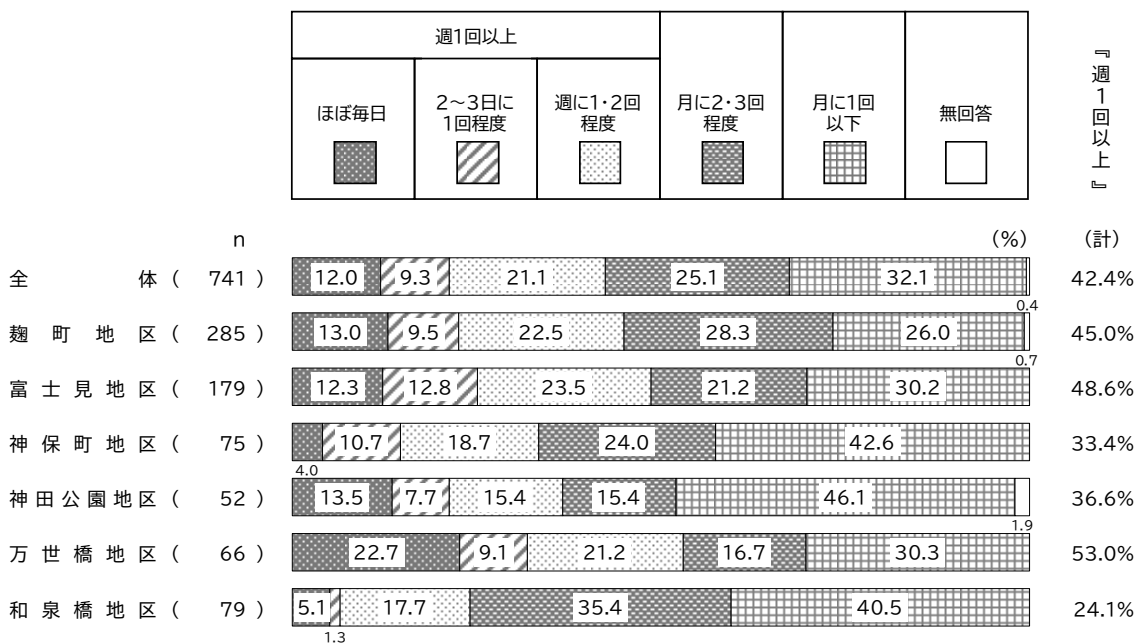
図14-1-10 利用頻度



好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に、利用頻度について聞いたところ、「月に1回以下」(32.1%)が3割強と最も高く、次いで、「月に2・3回程度」(25.1%)となっている。「ほぼ毎日」(12.0%)と「2~3日に1回程度」(9.3%)、「週に1・2回程度」(21.1%)を合わせた『週1回以上』(42.4%)は4割強となっている。(図14-1-10)

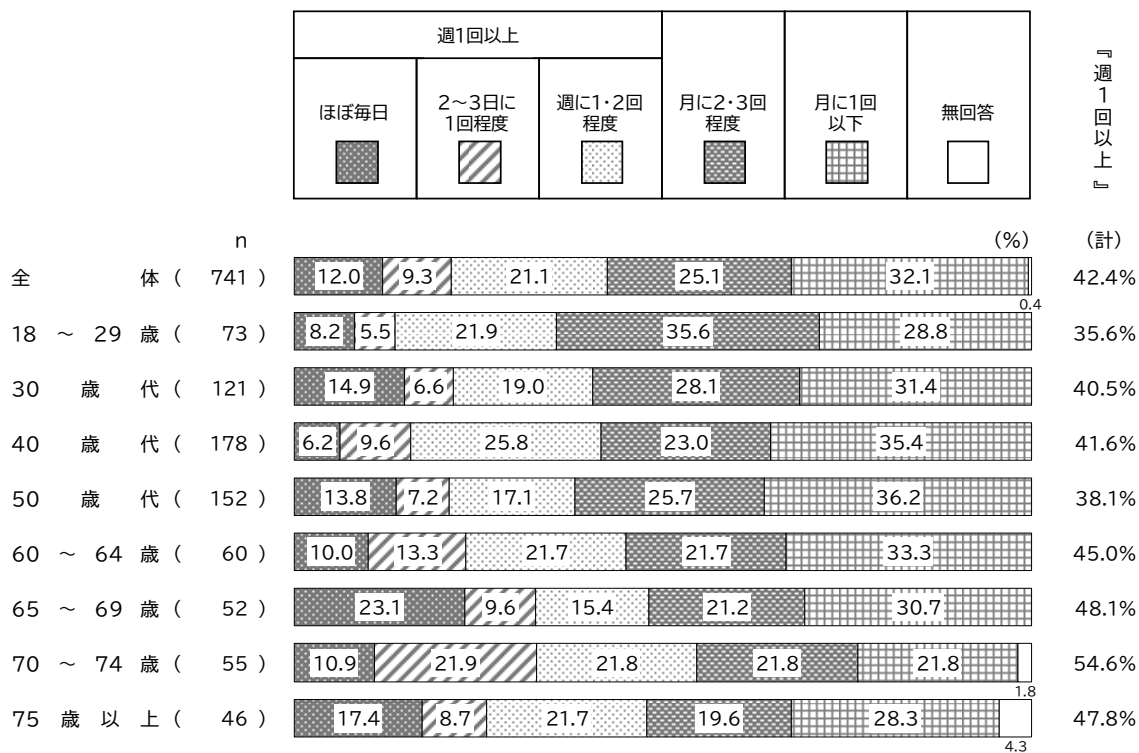
地区別にみると、『週1回以上』は万世橋地区(53.0%)で5割台半ば近くと高くなっている。「月に2・3回程度」は和泉橋地区(35.4%)で3割台半ばと高くなっている。また、「月に1回以下」は神田公園地区(46.1%)で4割台半ばを超えて高くなっている。(図14-1-11)

図14-1-11 利用頻度(地区別)



年代別にみると、『週1回以上』は70～74歳(54.6%)で5割台半ば近くと高くなっている。「月に2・3回程度」は18～29歳(35.6%)で3割台半ばと高くなっている。また、「月に1回以下」は50歳代(36.2%)で3割台半ばを超えて高くなっている。(図14-1-12)

図14-1-12 利用頻度(年代別)



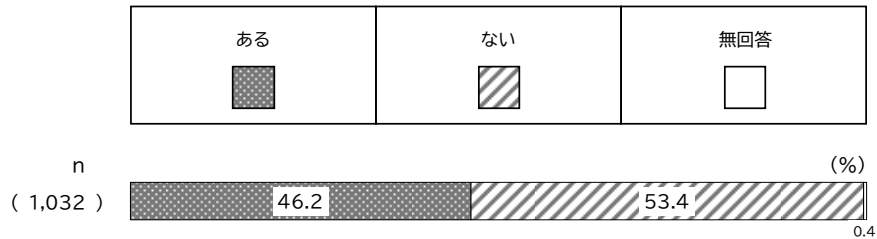
15. 区内の水辺について

(1) 区内の水辺の利用状況

◇「ない」が5割台半ば近く

問36 あなたは普段、区内の水辺を利用（通行）することがありますか。（神田川沿い、日本橋川沿いなど）（○は1つ）

図 15-1-1 区内の水辺の利用状況

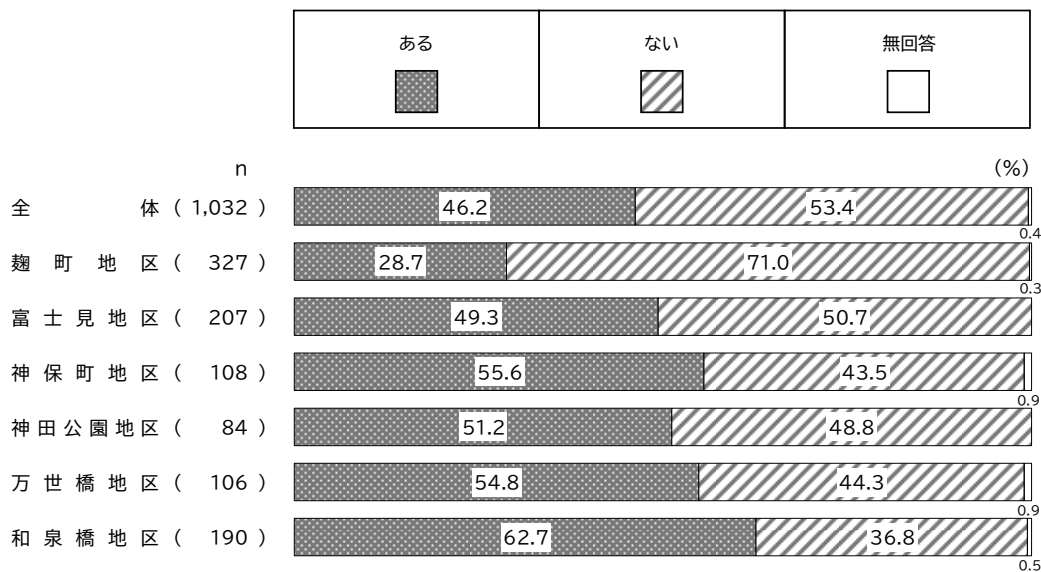


区内の水辺の利用状況について聞いたところ、「ない」(53.4%)が5割台半ば近く、「ある」(46.2%)は4割台半ばを超えている。(図 15-1-1)

地区別にみると、「ある」は和泉橋地区(62.7%)で6割強と高くなっている。一方、「ない」は麴町地区(71.0%)で7割強と高くなっている。

和泉橋地区は「図 14-1-2 好きな緑豊かな空間（地区別）」において全ての地区の中で「ある」が最も低くなったが、区内の水辺の利用状況においては、「ある」(62.7%)は全ての地区の中で最も高くなっている。(図 15-1-2)

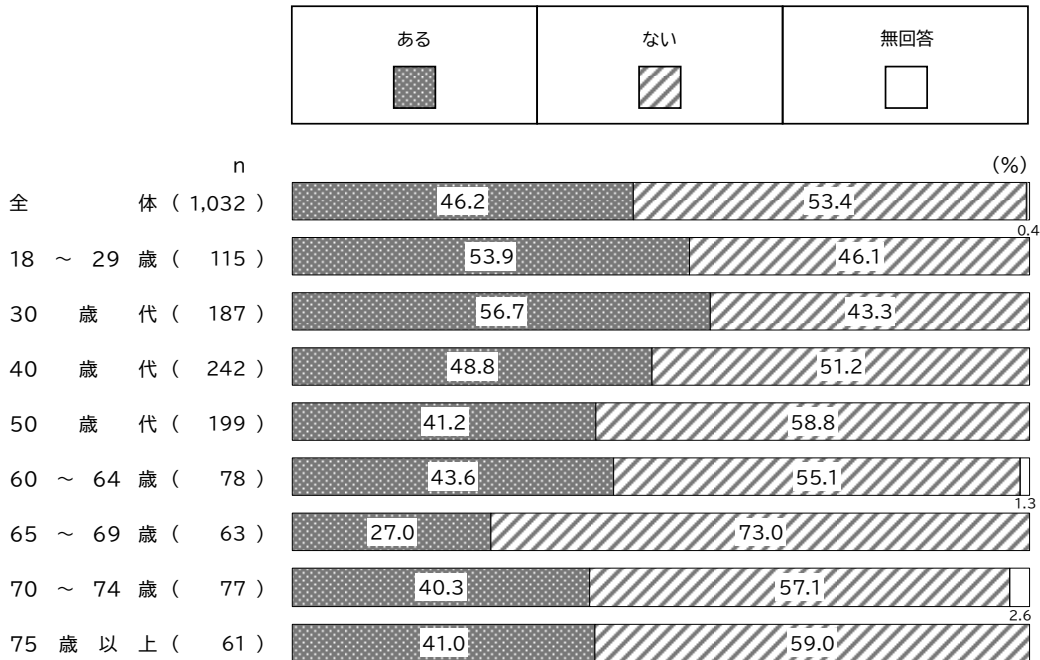
図 15-1-2 区内の水辺の利用状況（地区別）



年代別にみると、「ある」は30歳代(56.7%)で5割台半ばを超えて高くなっている。一方、「ない」は65～69歳(73.0%)で7割台半ば近くと高くなっている。

「ある」が「ない」を上回っているのは18～29歳・30歳代となっている。(図15-1-3)

図15-1-3 区内の水辺の利用状況(年代別)

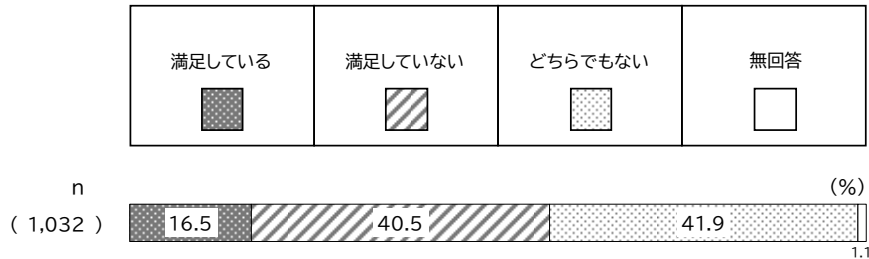


(2) 区内の水辺環境の満足度

◇「どちらでもない」が4割強

問37 あなたは区内の水辺の環境に満足していますか。(○は1つ)

図 15-2-1 区内の水辺環境の満足度

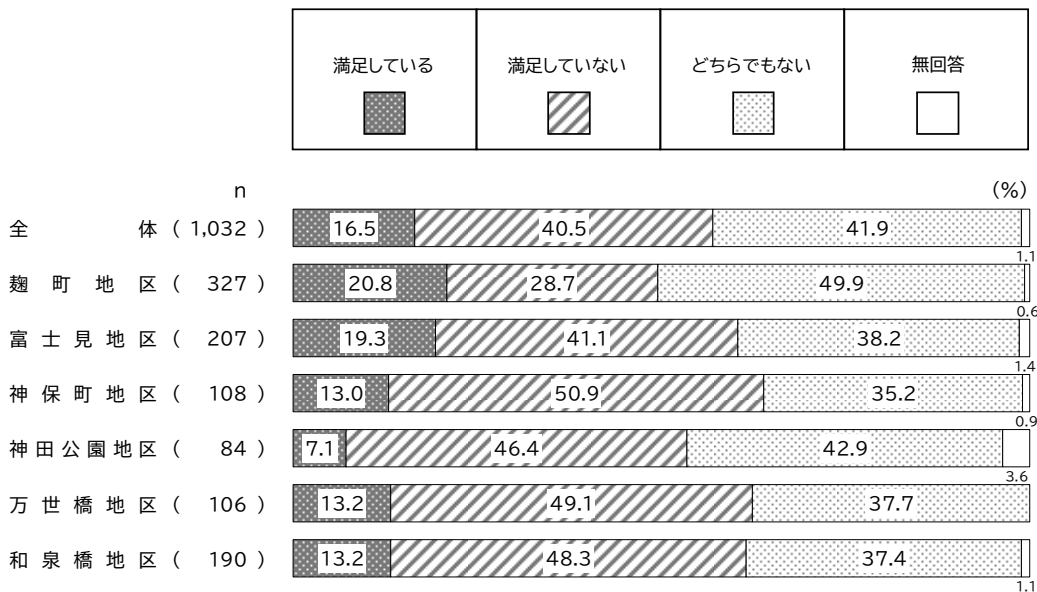


区内の水辺環境の満足度について聞いたところ、「どちらでもない」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「満足していない」(40.5%)、「満足している」(16.5%)となっている。(図 15-2-1)

地区別にみると、「満足している」は麴町地区(20.8%)で約2割と高くなっている。一方、「満足していない」は神保町地区(50.9%)で約5割と高くなっている。

麴町地区のみ回答の順位が「どちらでもない」>「満足していない」>「満足している」の順に高くなっており、その他の地区は「満足していない」>「どちらでもない」>「満足している」の順に高くなっている。(図 15-2-2)

図 15-2-2 区内の水辺環境の満足度 (地区別)

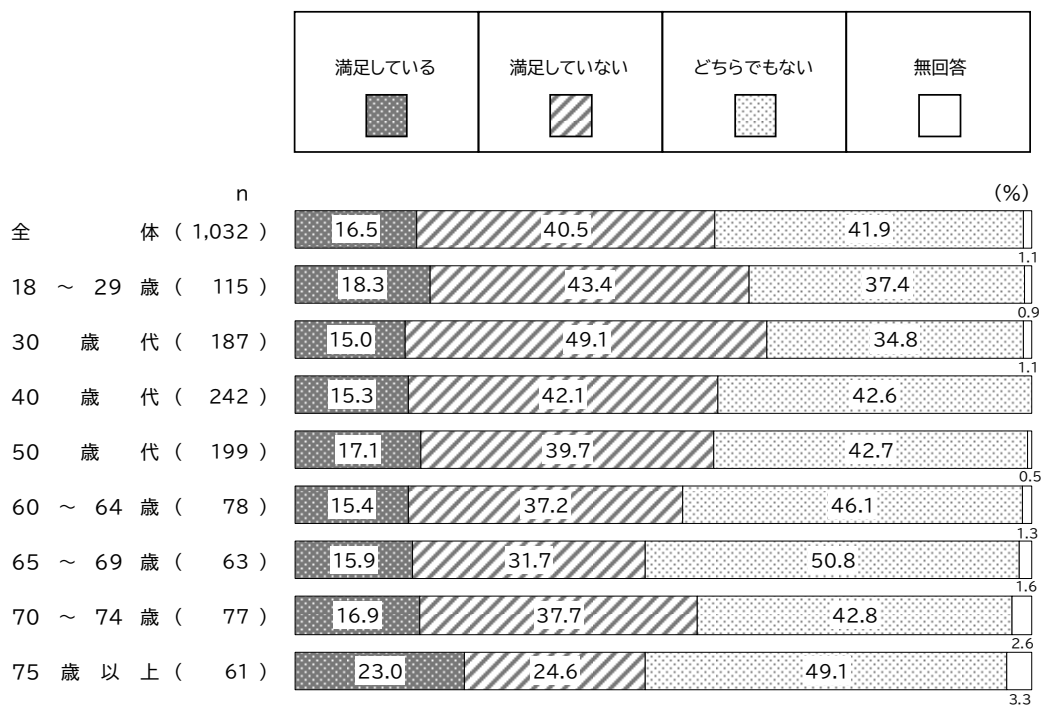


年代別にみると、「満足していない」は30歳代(49.1%)で5割弱と高くなっている。

多くの年代で「満足していない」が「満足している」を大きく上回っているが、75歳以上のみ「満足している」(23.0%)・「満足していない」(24.6%)ともに2割台半ば近くと僅差になっている。

(図15-2-3)

図15-2-3 区内の水辺環境の満足度(年代別)

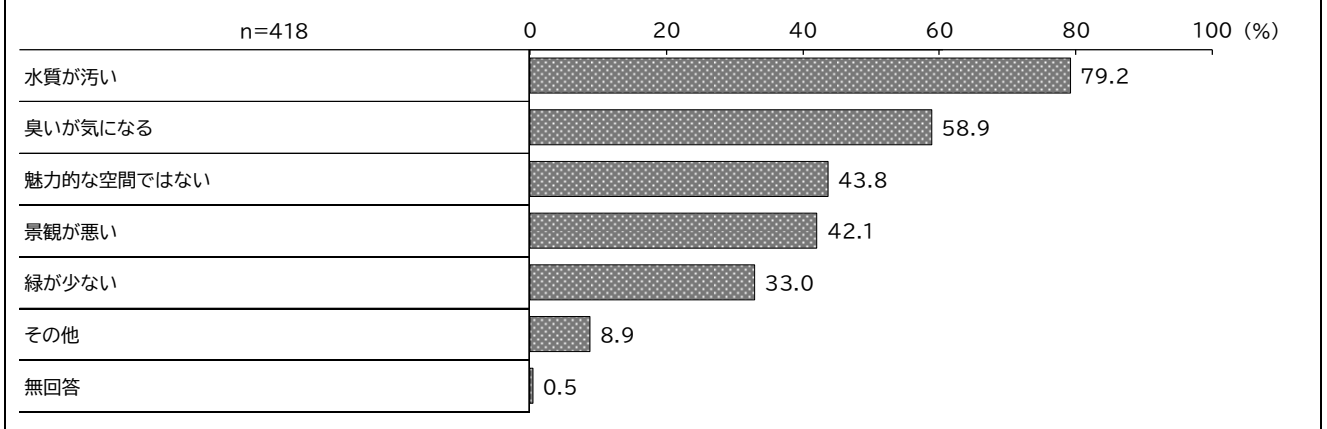


(2-1) 満足していない理由

◇「水質が汚い」が8割弱

(問37で「2. 満足していない」とお答えの方に)
問37-1 その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

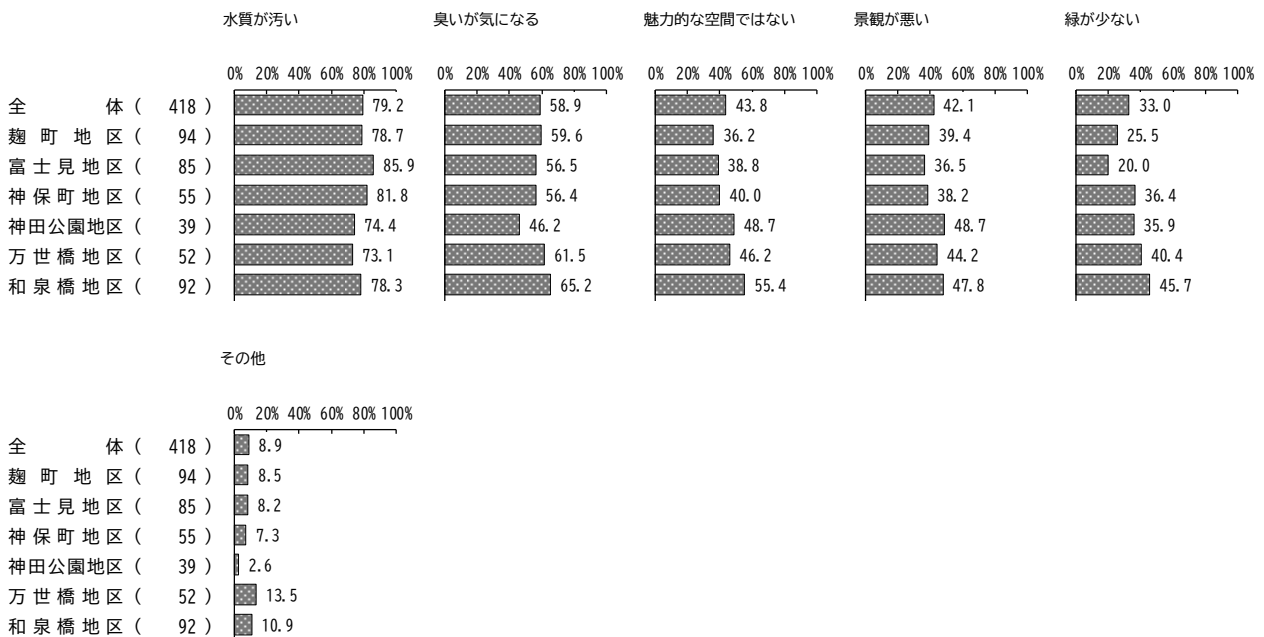
図15-2-4 満足していない理由



区内の水辺環境の満足度で「満足していない」とお答えの方に、満足していない理由について聞いたところ、「水質が汚い」(79.2%)が8割弱と最も高く、次いで、「臭いが気になる」(58.9%)は6割近くとなっている。(図15-2-4)

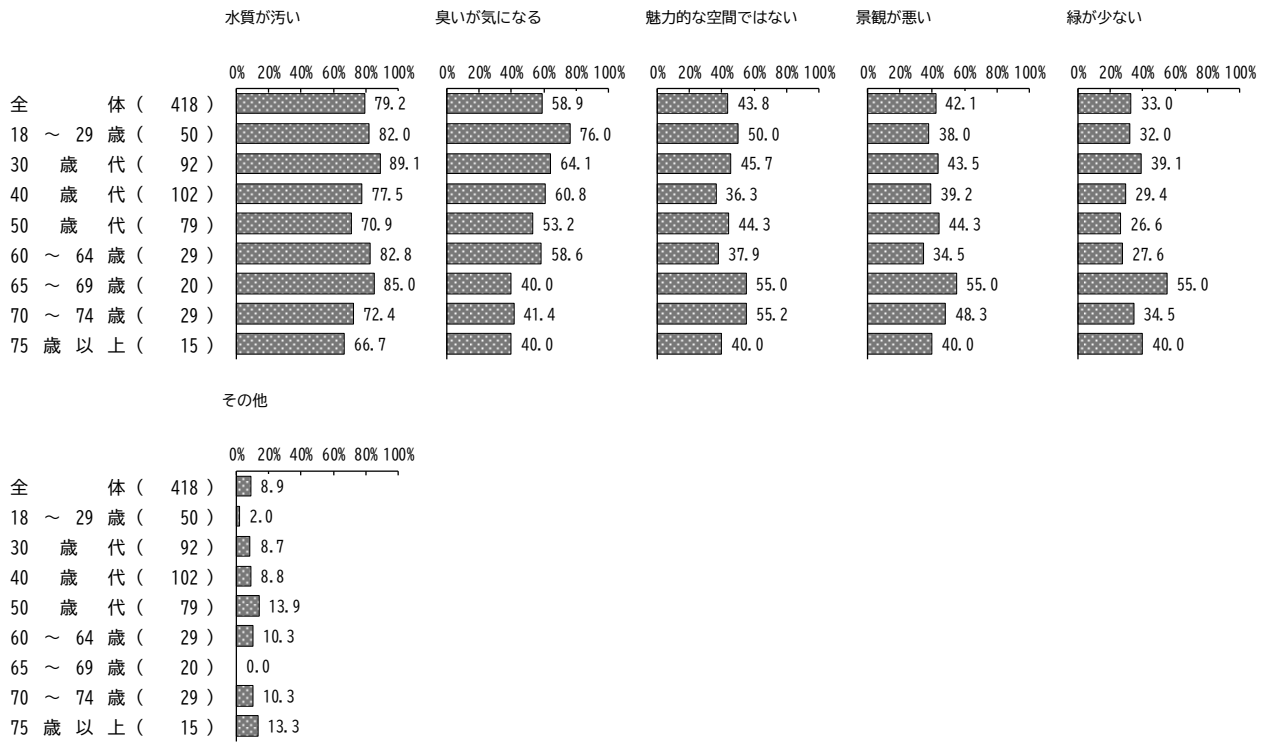
地区別にみると、「水質が汚い」は富士見地区(85.9%)で8割台半ばと高くなっている。「臭いが気になる」は和泉橋地区(65.2%)で6割台半ばと高くなっている。また、「魅力的な空間ではない」は和泉橋地区(55.4%)で5割台半ばと高くなっている。(図15-2-5)

図15-2-5 満足していない理由(地区別)



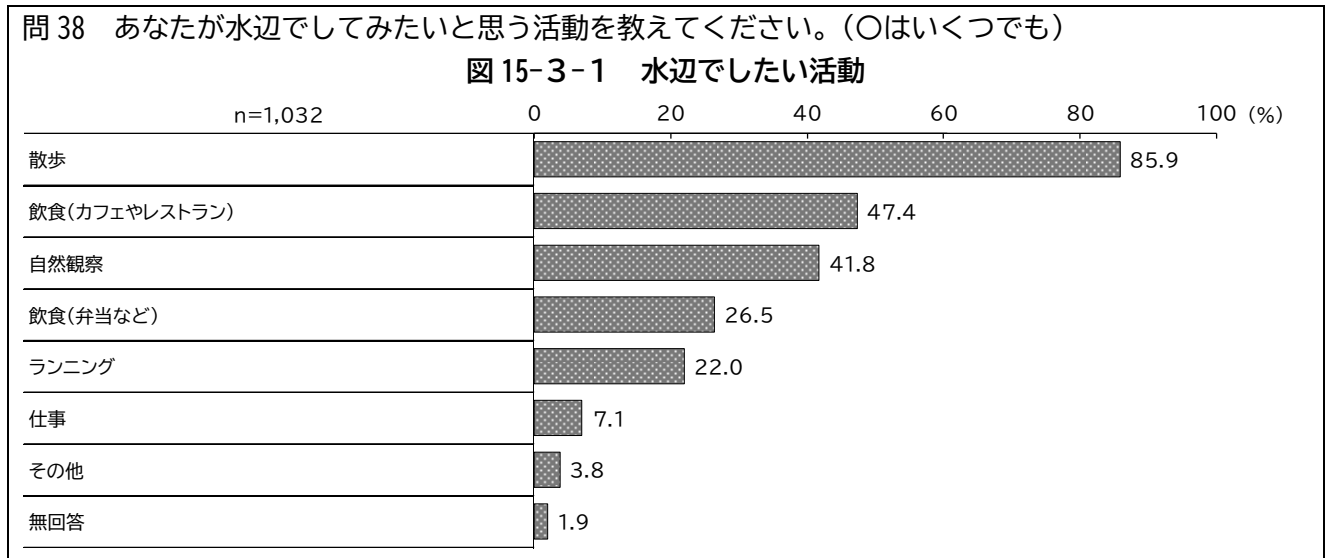
年代別にみると、「水質が汚い」は30歳代(89.1%)で9割弱と高くなっている。「臭いが気になる」は18～29歳(76.0%)で7割台半ばを超えて高くなっている。また、「魅力的な空間ではない」は65～69歳(55.0%)・70～74歳(55.2%)で5割台半ばとそれぞれ高くなっている。(図15-2-6)

図15-2-6 満足していない理由(年代別)



(3) 水辺でしたい活動

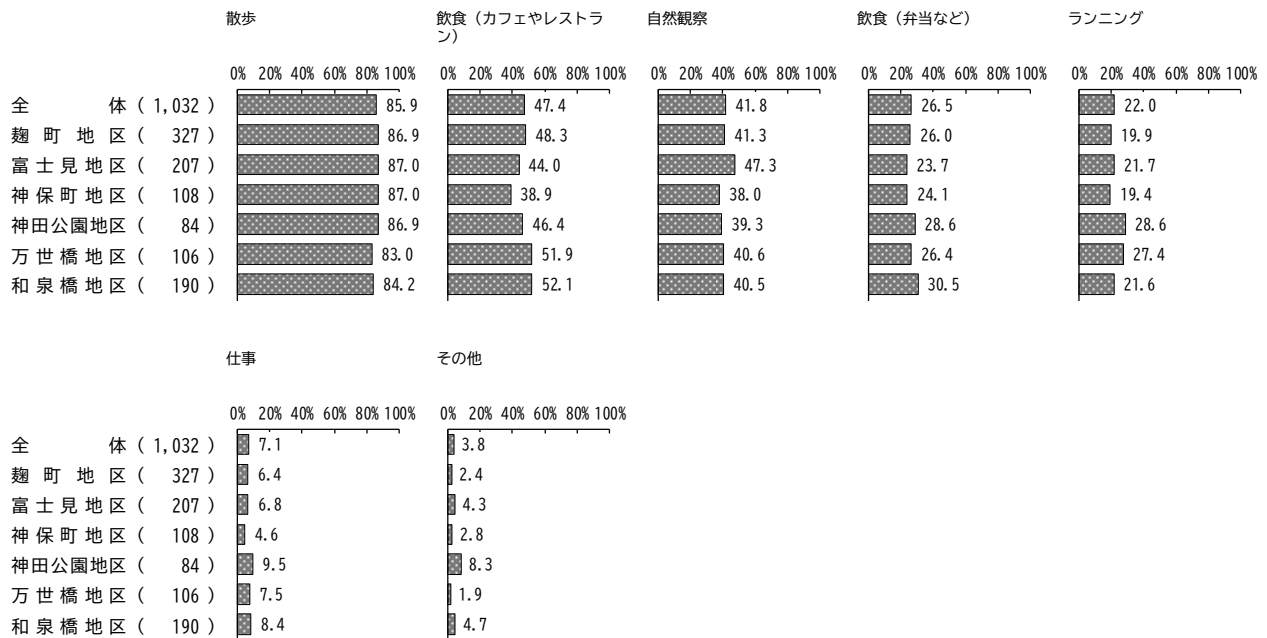
◇「散歩」が8割台半ば



水辺でしたい活動について聞いたところ、「散歩」(85.9%)が8割台半ばと最も高く、次いで、「飲食(カフェやレストラン)」(47.4%)、「自然観察」(41.8%)となっている。(図15-3-1)

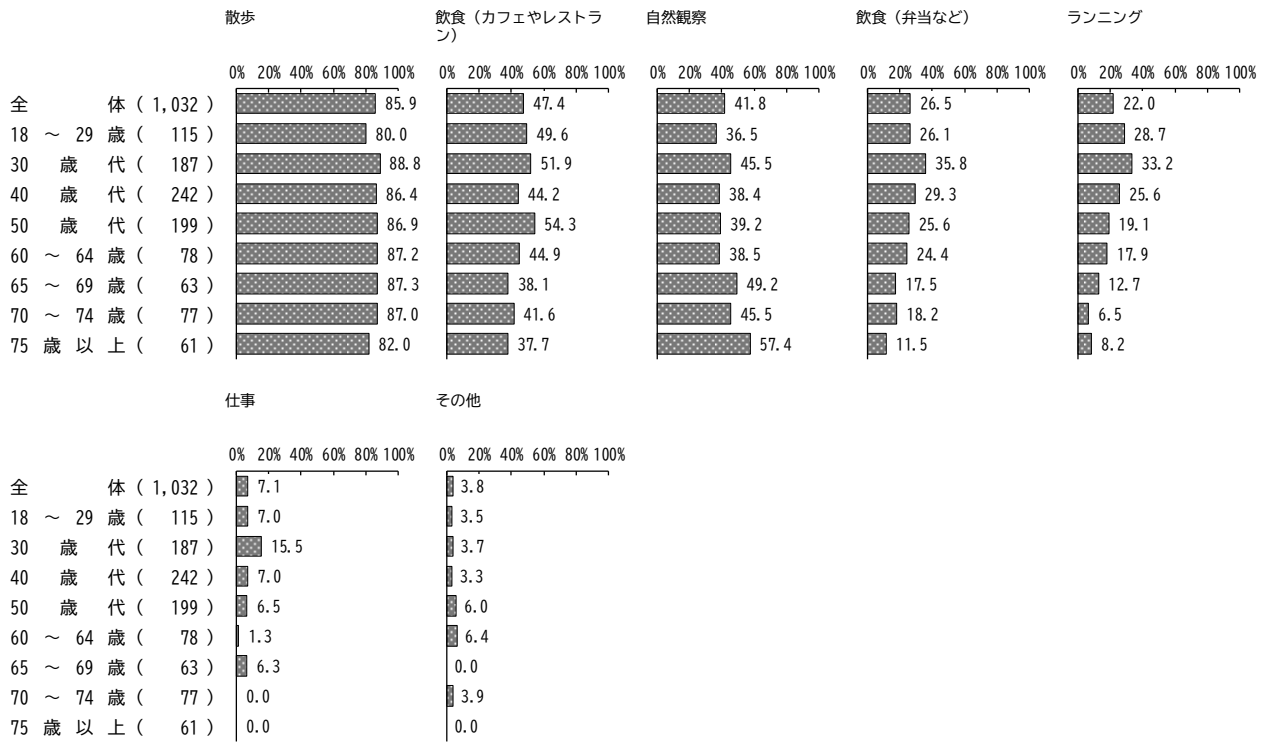
地区別にみると、「飲食(カフェやレストラン)」は万世橋地区(51.9%)・和泉橋地区(52.1%)で5割強と高くなっている。(図15-3-2)

図15-3-2 水辺でしたい活動(地区別)



年代別にみると、「飲食（カフェやレストラン）」は50歳代(54.3%)で5割台半ば近くと高くなっている。「自然観察」は75歳以上(57.4%)で5割台半ばを超えて高くなっている。また、「飲食（弁当など）」は30歳代(35.8%)で3割台半ばと高くなっている。(図15-3-3)

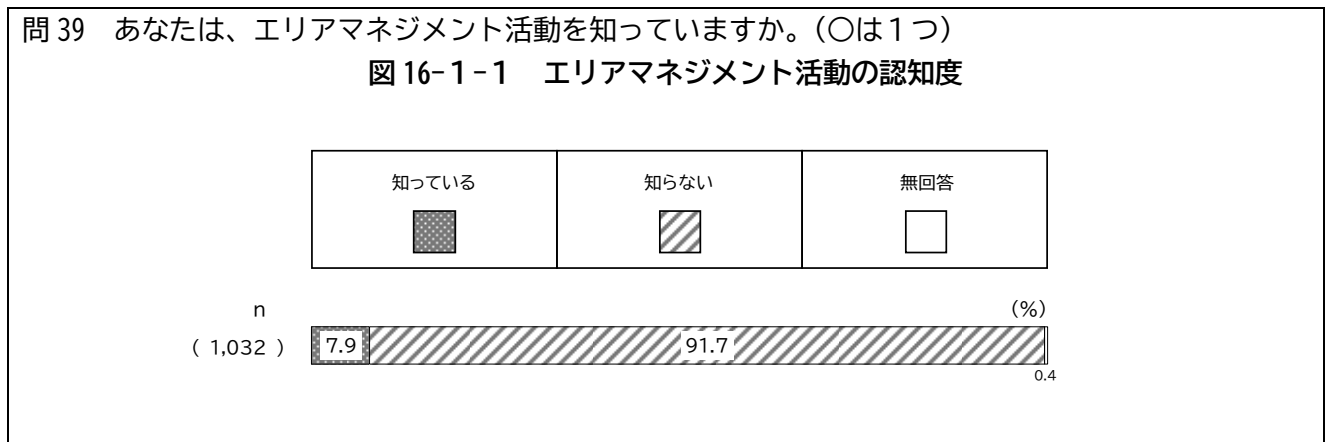
図15-3-3 水辺でしたい活動（年代別）



16. エリアマネジメントについて

(1) エリアマネジメント活動の認知度

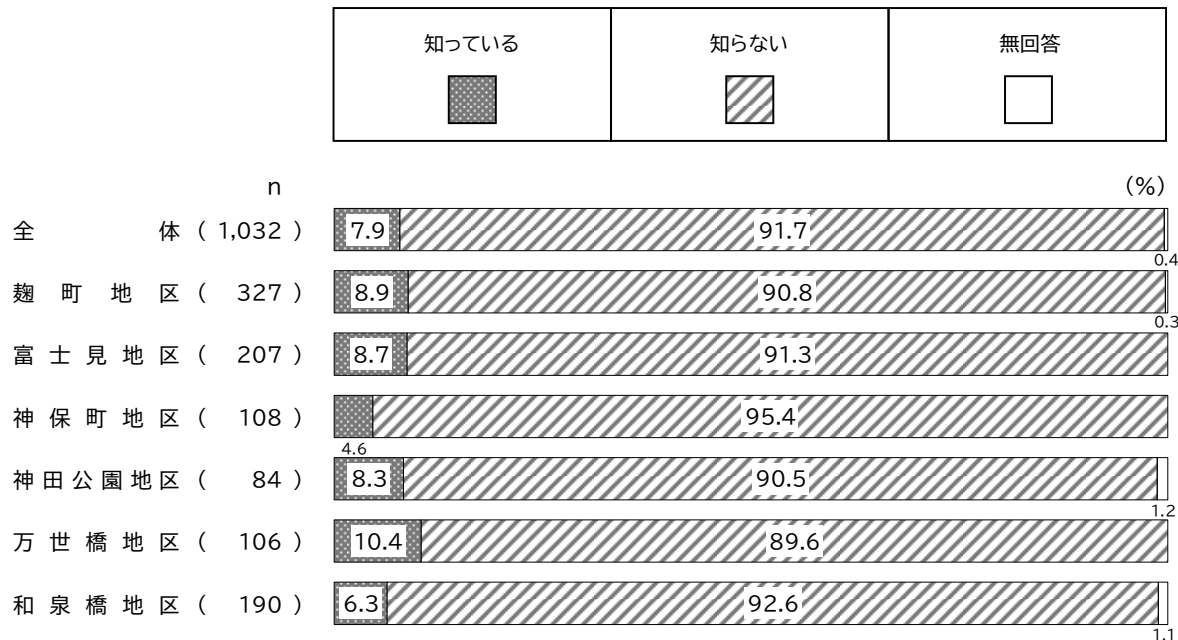
◇「知らない」が9割強



エリアマネジメント活動の認知度について聞いたところ、「知らない」(91.7%)が9割強、「知っている」(7.9%)は1割未満となっている。(図16-1-1)

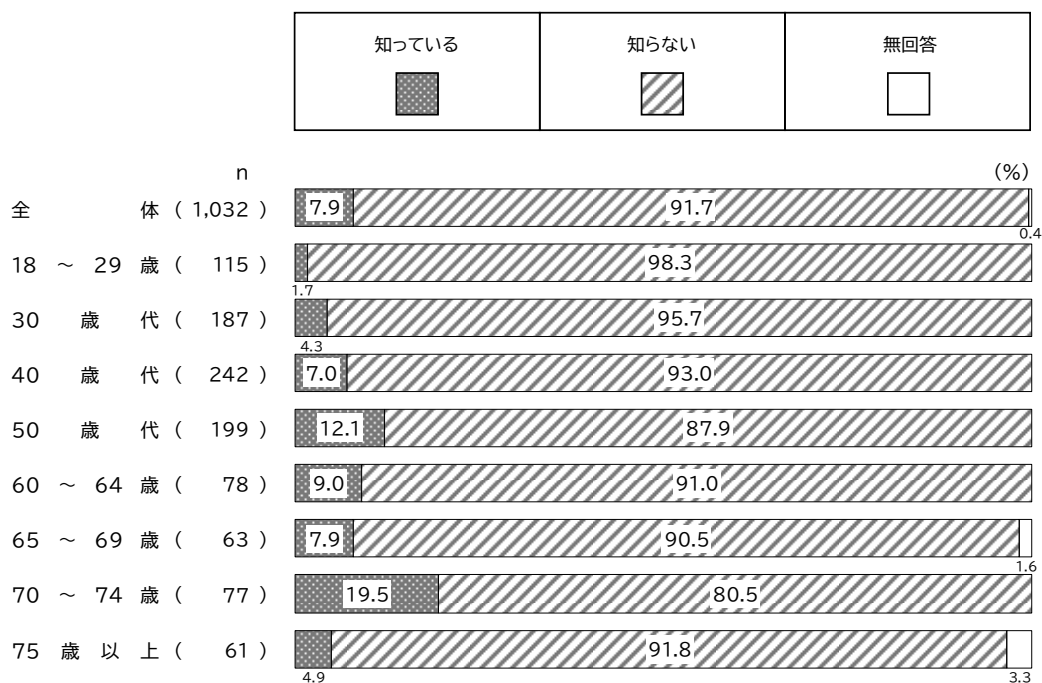
地区別にみると、「知らない」は神保町地区(95.4%)で9割台半ばと高くなっている。(図16-1-2)

図16-1-2 エリアマネジメント活動の認知度(地区別)



年代別にみると、「知っている」は70～74歳(19.5%)で2割弱と高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳(98.3%)で10割近くと高くなっている。(図16-1-3)

図16-1-3 エリアマネジメント活動の認知度(年代別)



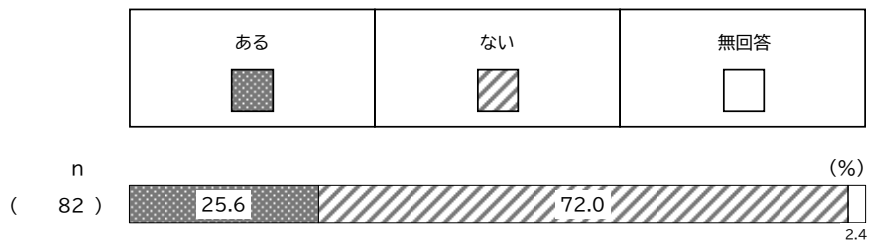
(1-1) エリアマネジメント活動への参加状況

◇「ない」が7割強

(問39で「1. 知っている」とお答えの方に)

問39-1 あなたはエリアマネジメント活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

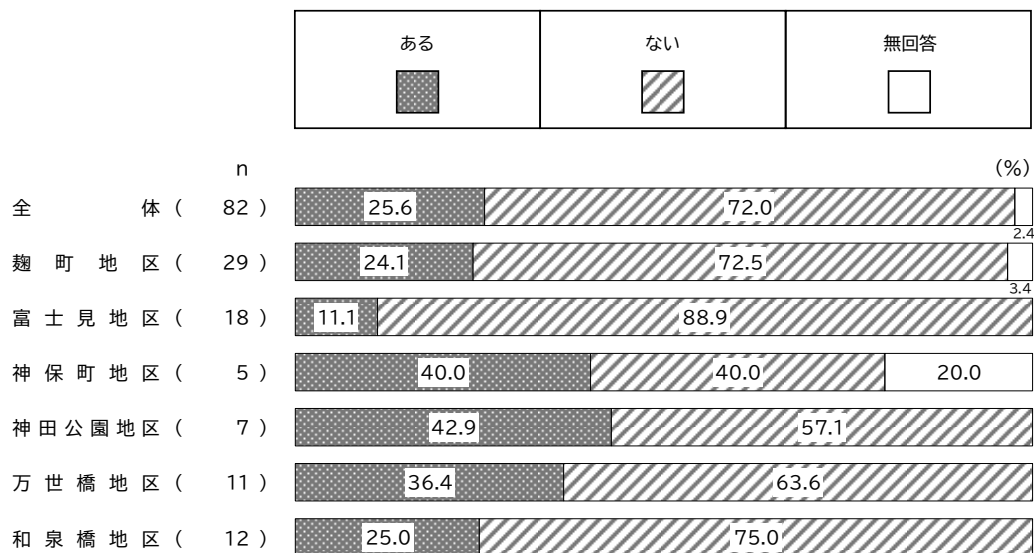
図16-1-4 エリアマネジメント活動への参加状況



エリアマネジメント活動の認知度で「知っている」とお答えの方に、エリアマネジメント活動への参加状況について聞いたところ、「ない」(72.0%)が7割強、「ある」(25.6%)は2割台半ばとなっている。(図16-1-4)

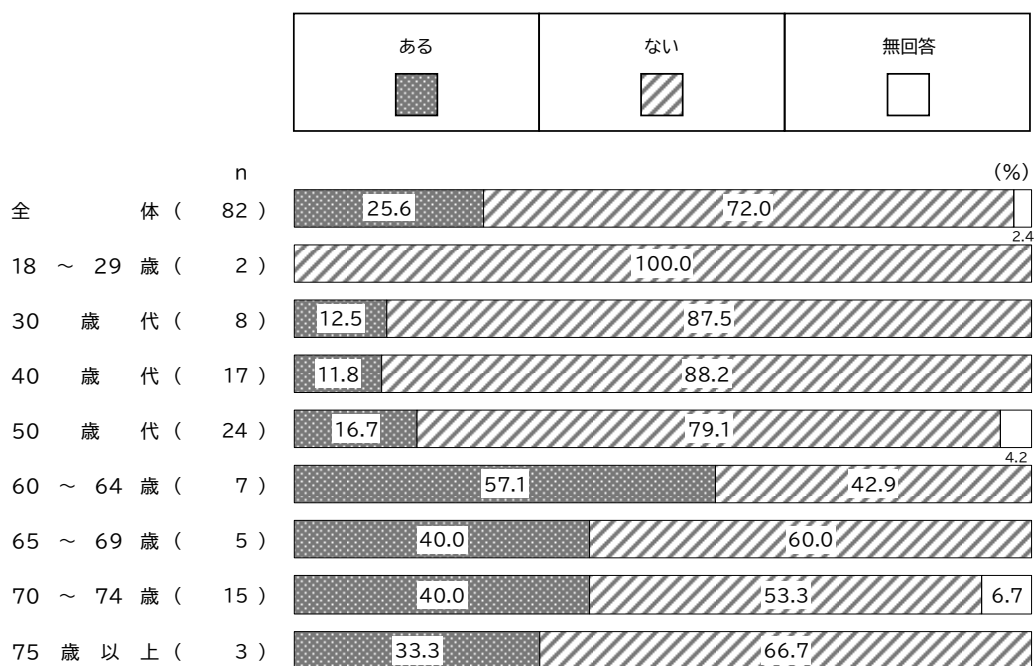
地区別にみると、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示するにとどめる。)(図16-1-5)

図16-1-5 エリアマネジメント活動への参加状況(地区別)



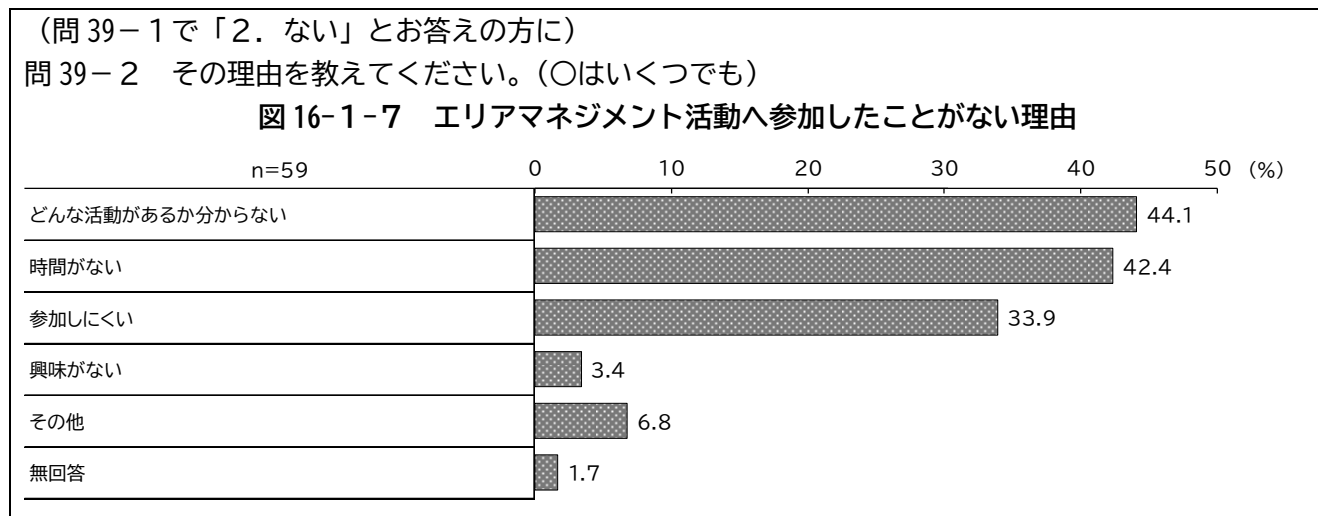
年代別にみると、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示するにとどめる。) (図 16-1-6)

図 16-1-6 エリアマネジメント活動への参加状況 (年代別)



(1-2) エリアマネジメント活動へ参加したことがない理由

◇「どんな活動があるか分からない」が4割台半ば近く

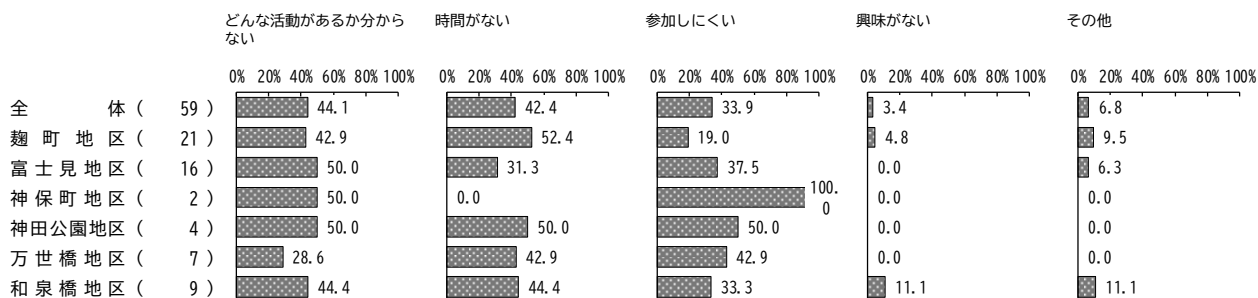


エリアマネジメント活動への参加状況で「ない」とお答えの方に、エリアマネジメント活動へ参加したことがない理由について聞いたところ、「どんな活動があるか分からない」(44.1%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「時間がない」(42.4%)、「参加しにくい」(33.9%)となっている。

(図 16-1-7)

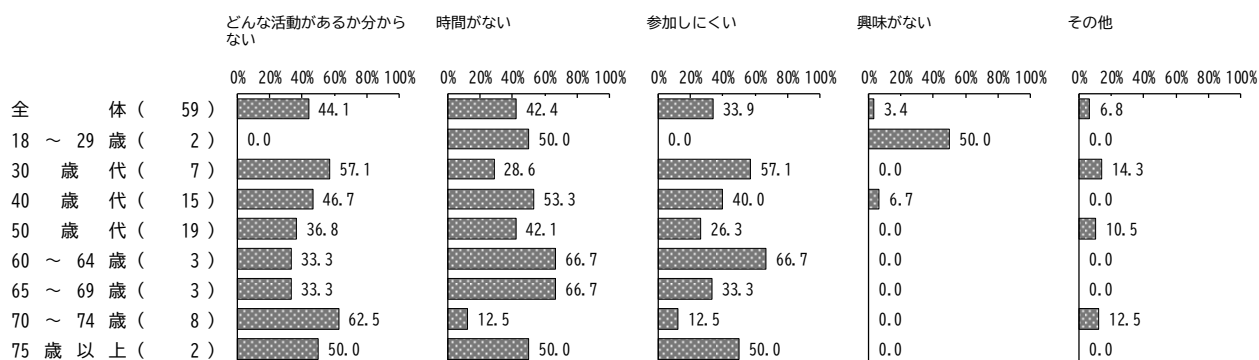
地区別にみると、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示するにとどめる。)(図 16-1-8)

図 16-1-8 エリアマネジメント活動へ参加したことがない理由 (地区別)



年代別にみると、以下の図のとおりである。(回答数が少ないため、参考値として図示するにとどめる。) (図 16-1-9)

図 16-1-9 エリアマネジメント活動へ参加したことがない理由 (年代別)

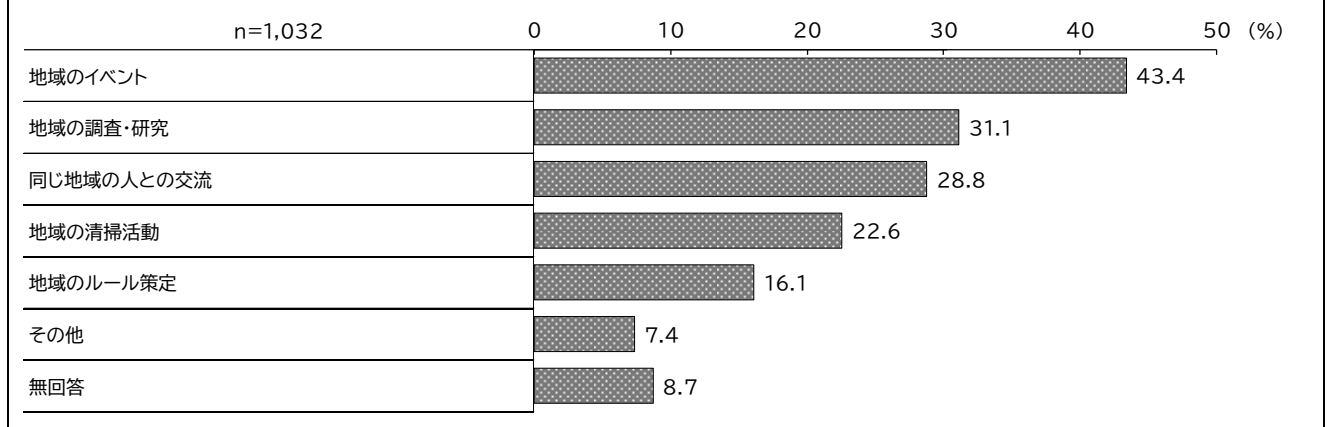


(2) 行きたい (参加したい) エリアマネジメント活動

◇「地域のイベント」が4割台半ば近く

問 40 次のエリアマネジメント活動のうち、行いたい (参加したい) と思うものを教えてください。
(〇はいくつでも)

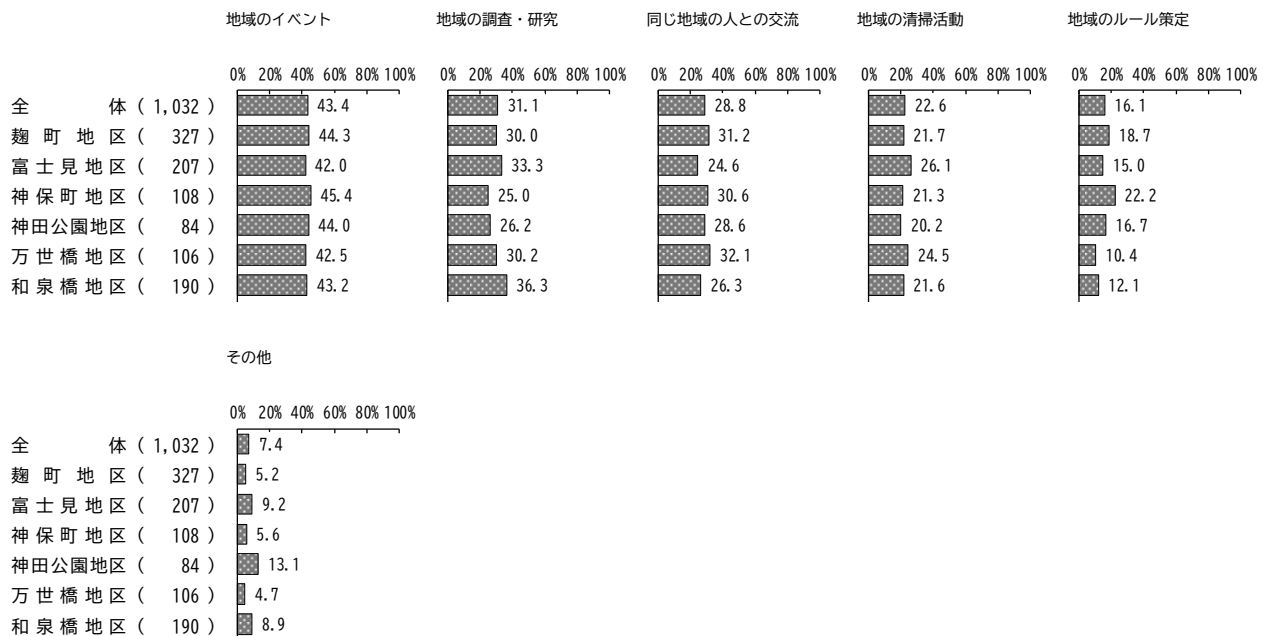
図 16-2-1 行いたい (参加したい) エリアマネジメント活動



行いたい (参加したい) エリアマネジメント活動について聞いたところ、「地域のイベント」(43.4%) が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「地域の調査・研究」(31.1%)、「同じ地域の人との交流」(28.8%) となっている。(図 16-2-1)

地区別にみると、「地域の調査・研究」は和泉橋地区(36.3%)で3割台半ばを超えて高くなっている。また、「地域のルール策定」は神保町地区(22.2%)で2割強と高くなっている。(図 16-2-2)

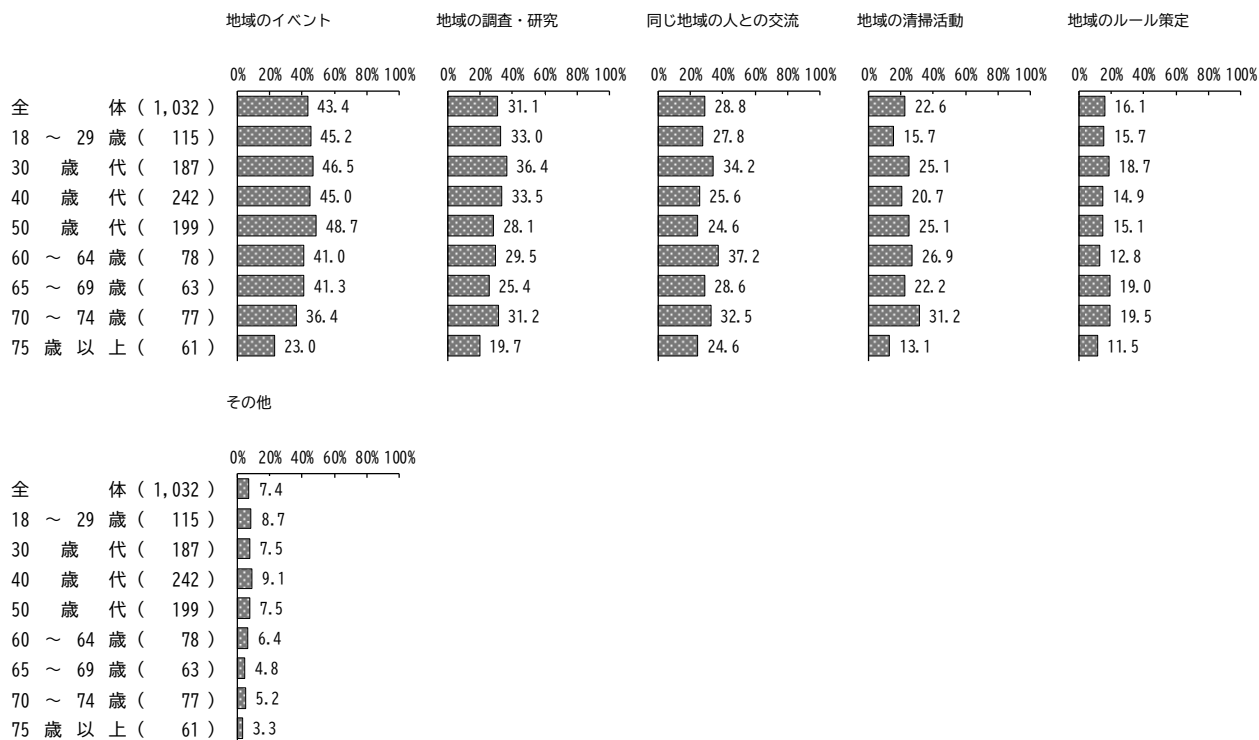
図 16-2-2 行いたい (参加したい) エリアマネジメント活動 (地区別)



年代別にみると、「地域のイベント」は50歳代(48.7%)で5割近くと高くなっている。「地域のイベント」は18～29歳から65～69歳にかけて4割以上となっている。

「地域の調査・研究」は30歳代(36.4%)で3割台半ばを超えて高くなっている。また、「同じ地域のひととの交流」は60～64歳(37.2%)で3割台半ばを超えて高くなっている。75歳以上はどの回答でも最も低い数値となっており、行いたい(参加したい)意向が低くなっている。(図16-2-3)

図16-2-3 行いたい(参加したい)エリアマネジメント活動(年代別)

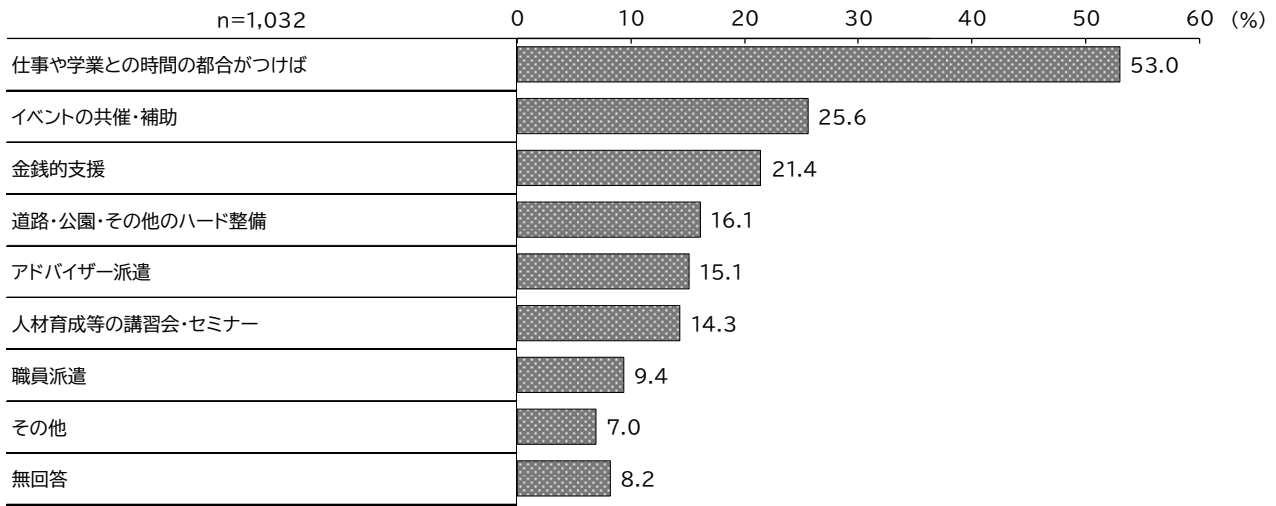


(3) エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援

◇「仕事や学業との時間の都合がつけば」が5割台半ば近く

問41 どのような支援があればエリアマネジメント活動に参加したり、主体的に活動したりできますか。(〇はいくつでも)

図16-3-1 エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援

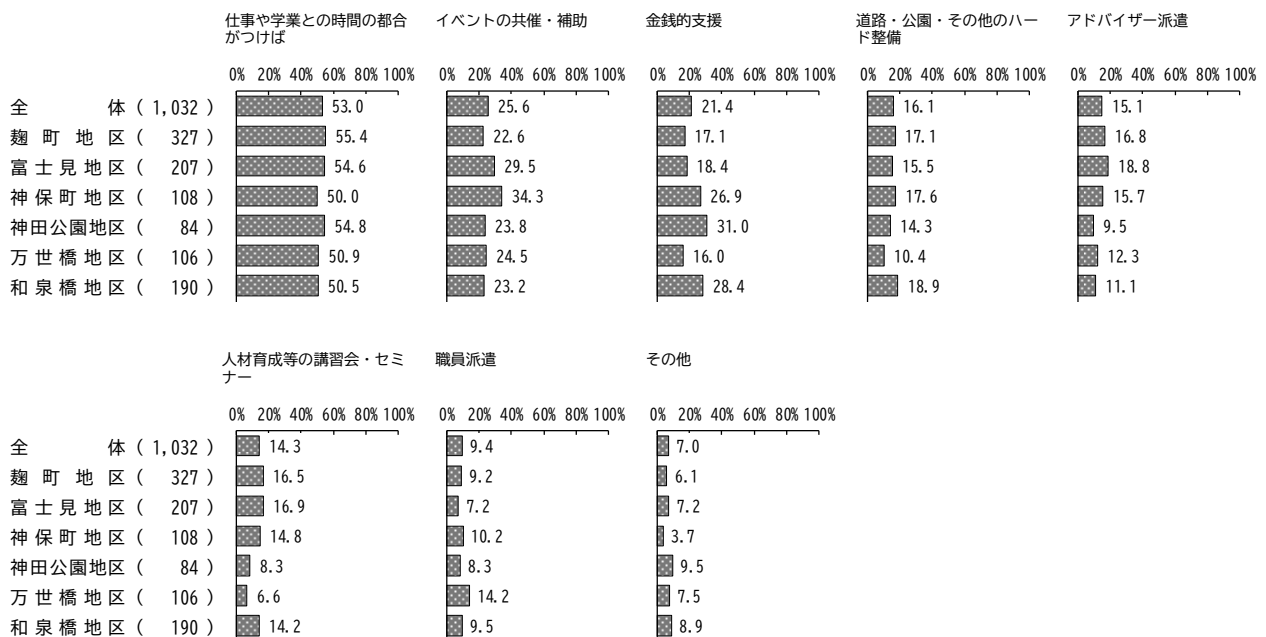


エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援について聞いたところ、「仕事や学業との時間の都合がつけば」(53.0%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「イベントの共催・補助」(25.6%)、「金銭的支援」(21.4%)となっている。(図16-3-1)

地区別にみると、「イベントの共催・補助」は神保町地区(34.3%)で3割台半ば近くと高くなっている。「金銭的支援」は神田公園地区(31.0%)で3割強と高くなっている。また、「人材育成等の講習会・セミナー」は麴町地区(16.5%)・富士見地区(16.9%)で1割台半ばを超えて高くなっている。

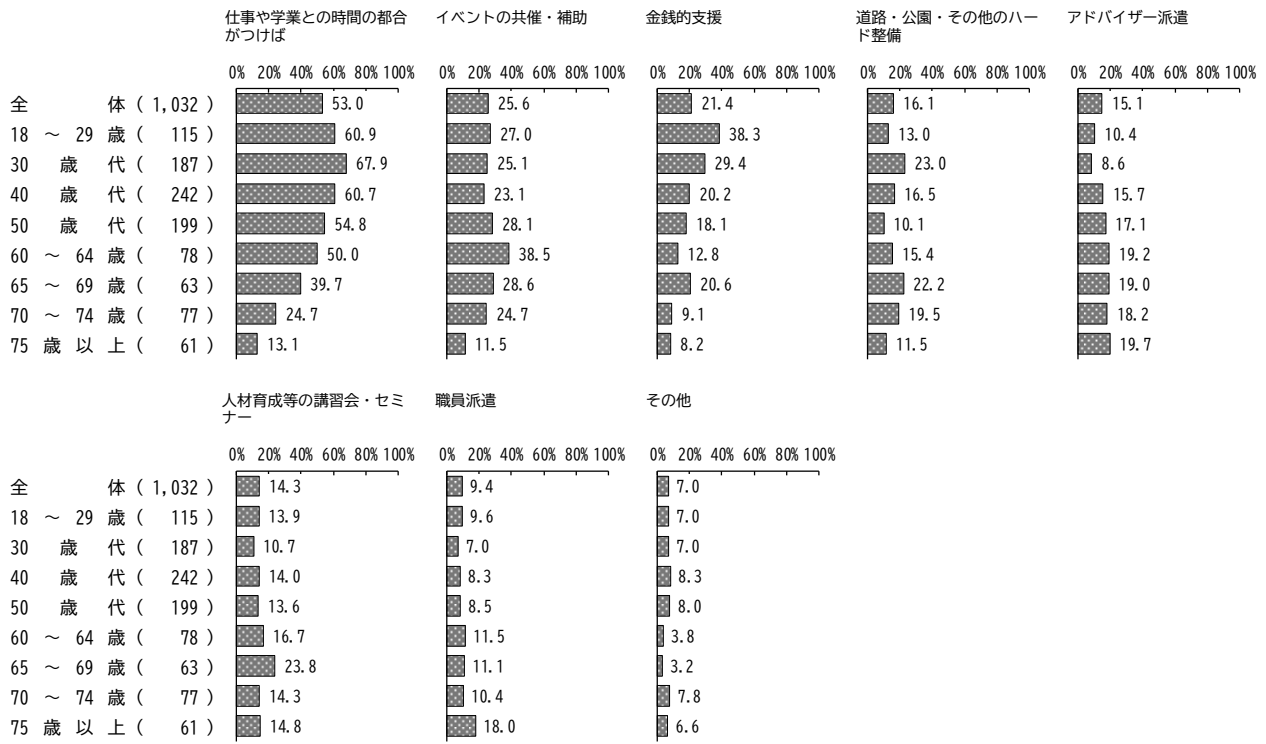
(図16-3-2)

図16-3-2 エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援(地区別)



年代別にみると、「仕事や学業との時間の都合がつけば」は30歳代(67.9%)で6割台半ばを超えて高くなっている。「イベントの共催・補助」は60～64歳(38.5%)で4割近くと高くなっている。また、「金銭的支援」は18～29歳(38.3%)で4割近くと高くなっている。(図16-3-3)

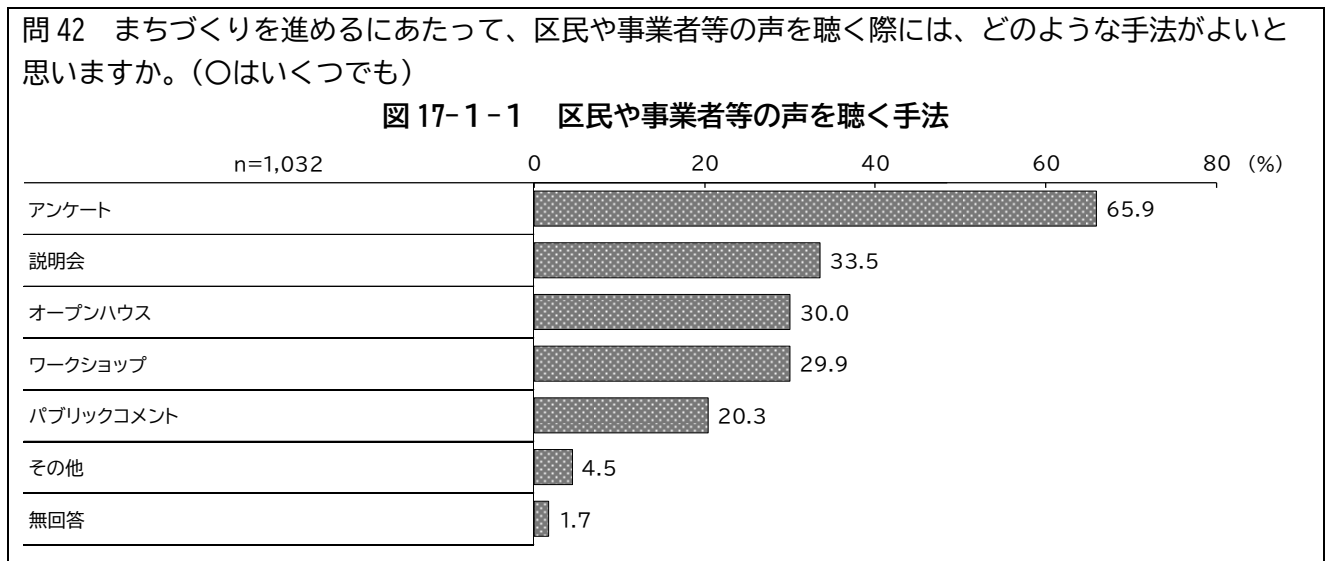
図16-3-3 エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援（年代別）



17. まちづくりにおける合意形成の方法について

(1) 区民や事業者等の声を聴く手法

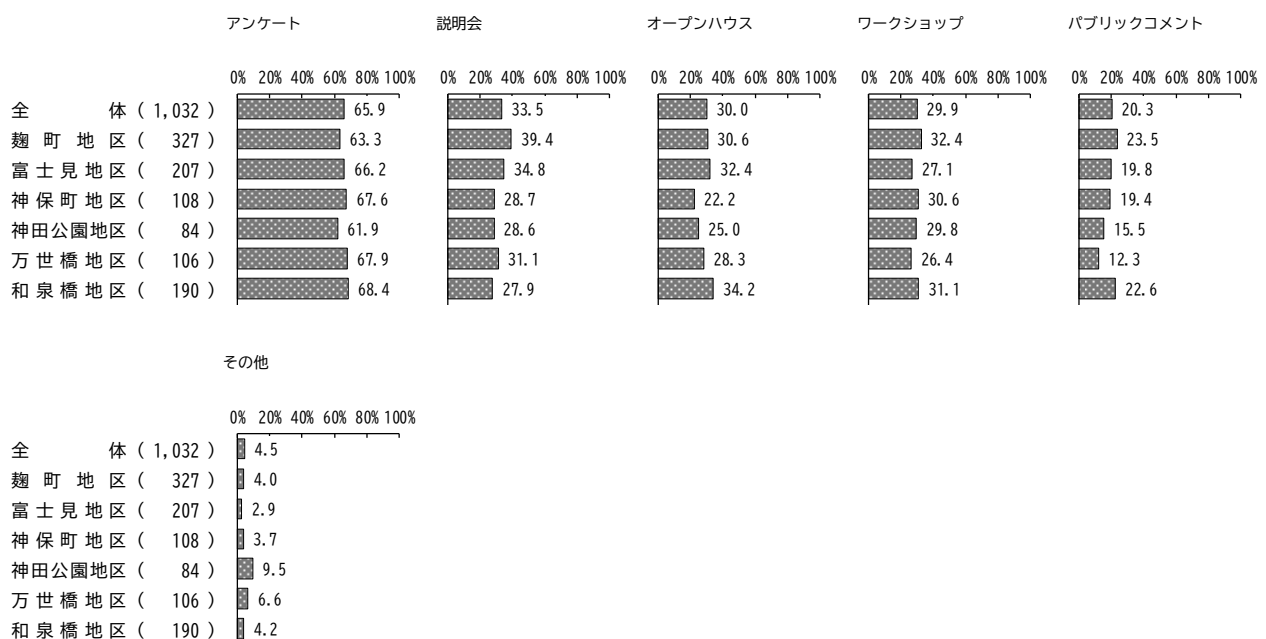
◇「アンケート」が6割台半ば



区民や事業者等の声を聴く手法について聞いたところ、「アンケート」(65.9%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「説明会」(33.5%)、「オープンハウス」(30.0%)、「ワークショップ」(29.9%)となっている。(図 17-1-1)

地区別にみると、「説明会」は麴町地区(39.4%)で4割弱と高くなっている。「オープンハウス」は和泉橋地区(34.2%)で3割台半ば近くと高くなっている。また、「パブリックコメント」は麴町地区(23.5%)で2割台半ば近くと高くなっている。(図 17-1-2)

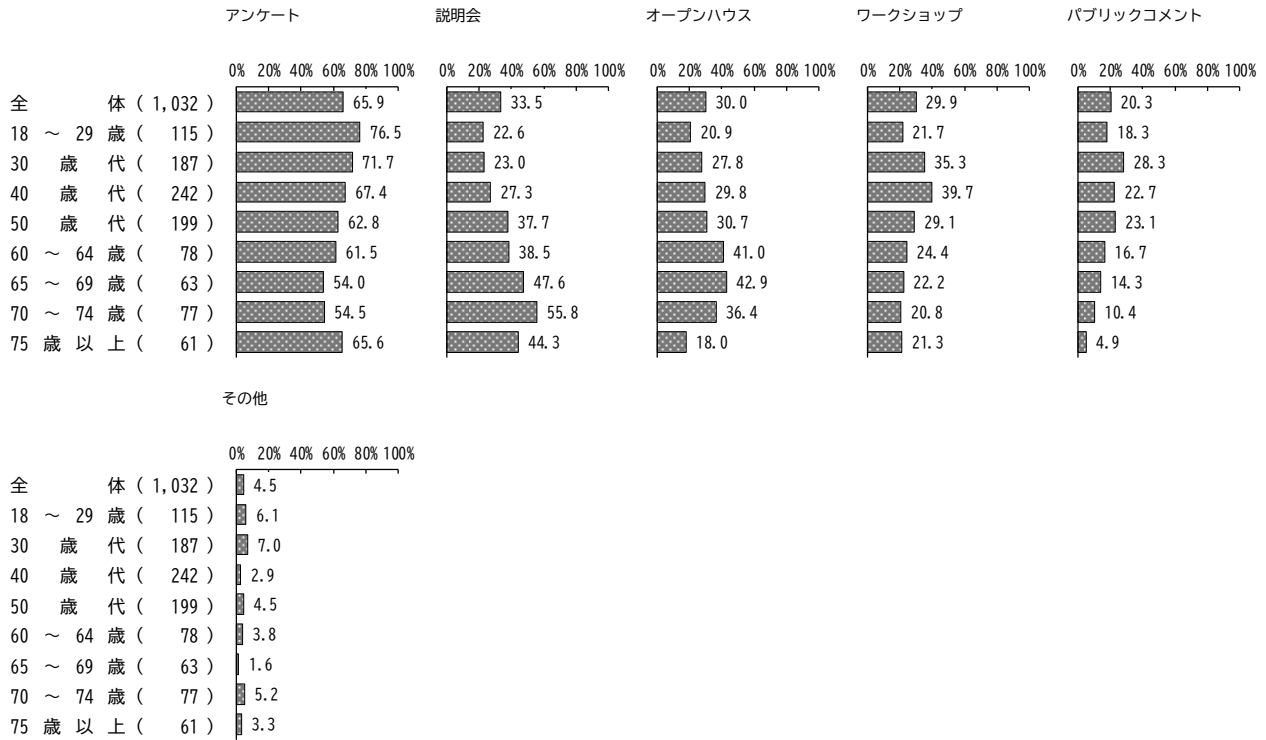
図 17-1-2 区民や事業者等の声を聴く手法（地区別）



年代別にみると、「アンケート」は18～29歳(76.5%)で7割台半ばを超えて高くなっている。「説明会」は70～74歳(55.8%)で5割台半ばと高くなっている。「オープンハウス」は60～64歳(41.0%)・65～69歳(42.9%)で4割強と高くなっている。

70～74歳のみ、「説明会」が最も高くなっており、その他の年代は「アンケート」が最も高くなっている。(図17-1-3)

図17-1-3 区民や事業者等の声を聴く手法(年代別)

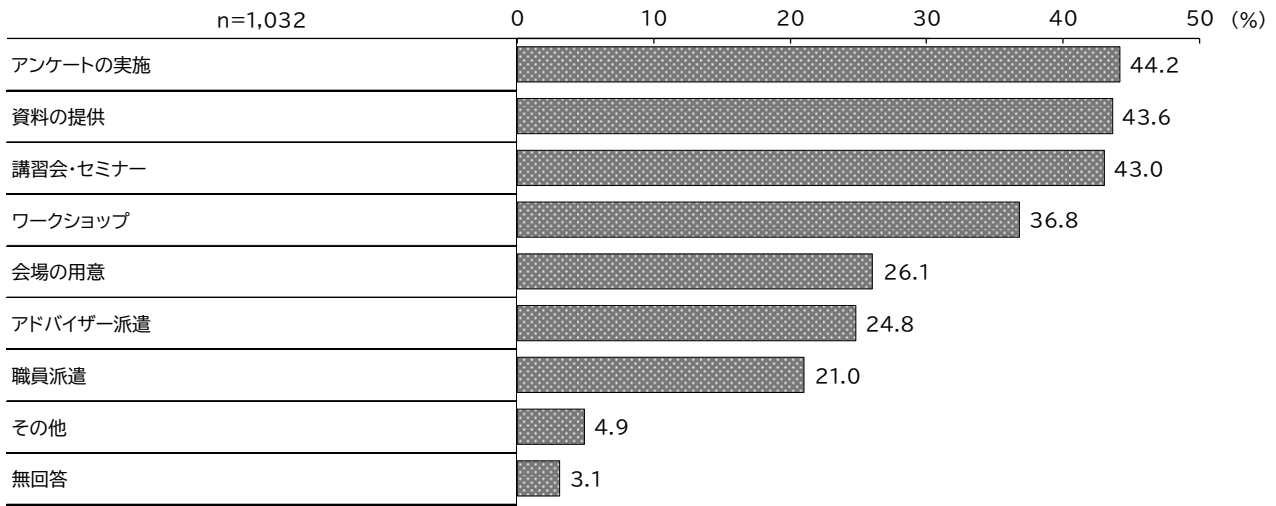


(2) 区民や事業者等で共通認識を築くための支援

◇「アンケートの実施」・「資料の提供」・「講習会・セミナー」が4割台半ば近く

問43 まちづくりを進めるにあたって、区民や事業者等で共通の認識を築くには、どのような支援が必要だと考えますか。(〇はいくつでも)

図 17-2-1 区民や事業者等で共通認識を築くための支援

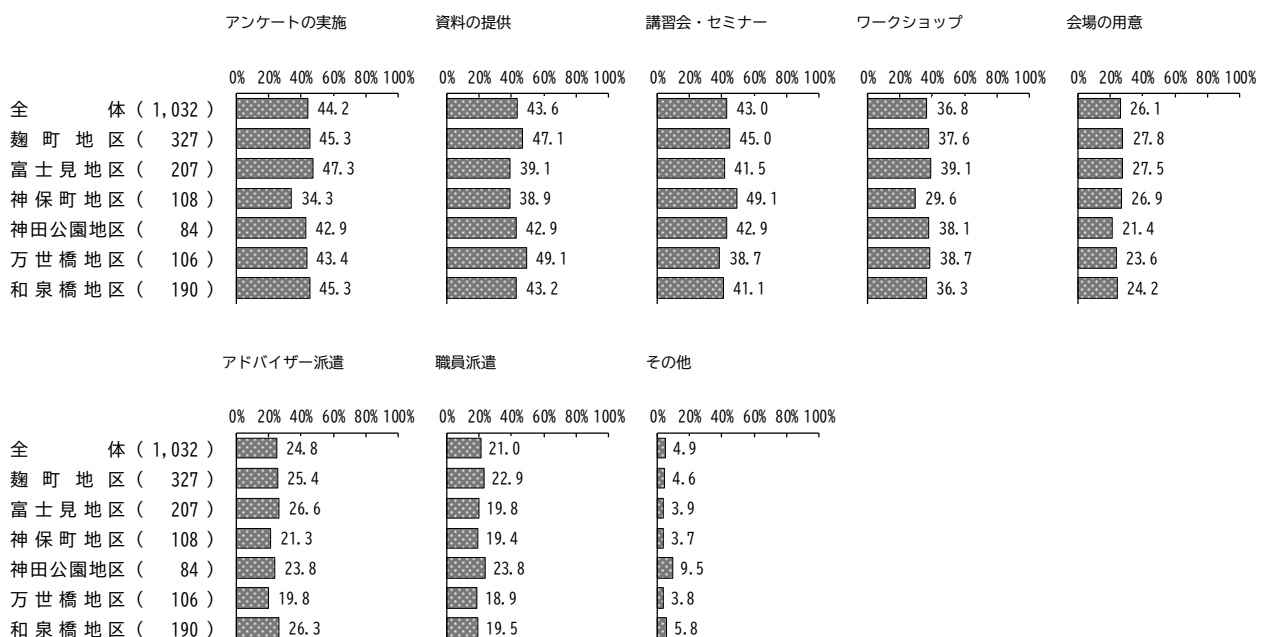


区民や事業者等で共通認識を築くための支援について聞いたところ、「アンケートの実施」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「資料の提供」(43.6%)、「講習会・セミナー」(43.0%)となっている。(図 17-2-1)

地区別にみると、「アンケートの実施」は富士見地区(47.3%)で4割台半ばを超えて高くなっている。「資料の提供」は万世橋地区(49.1%)で5割弱と高くなっている。また、「講習会・セミナー」は神保町地区(49.1%)で5割弱と高くなっている。

麴町地区・神田公園地区(同率)・万世橋地区は「資料の提供」が、富士見地区・神田公園地区(同率)・和泉橋地区は「アンケートの実施」が、神保町地区・神田公園地区(同率)は「講習会・セミナー」がそれぞれ最も高くなっている。(図 17-2-2)

図 17-2-2 区民や事業者等で共通認識を築くための支援(地区別)

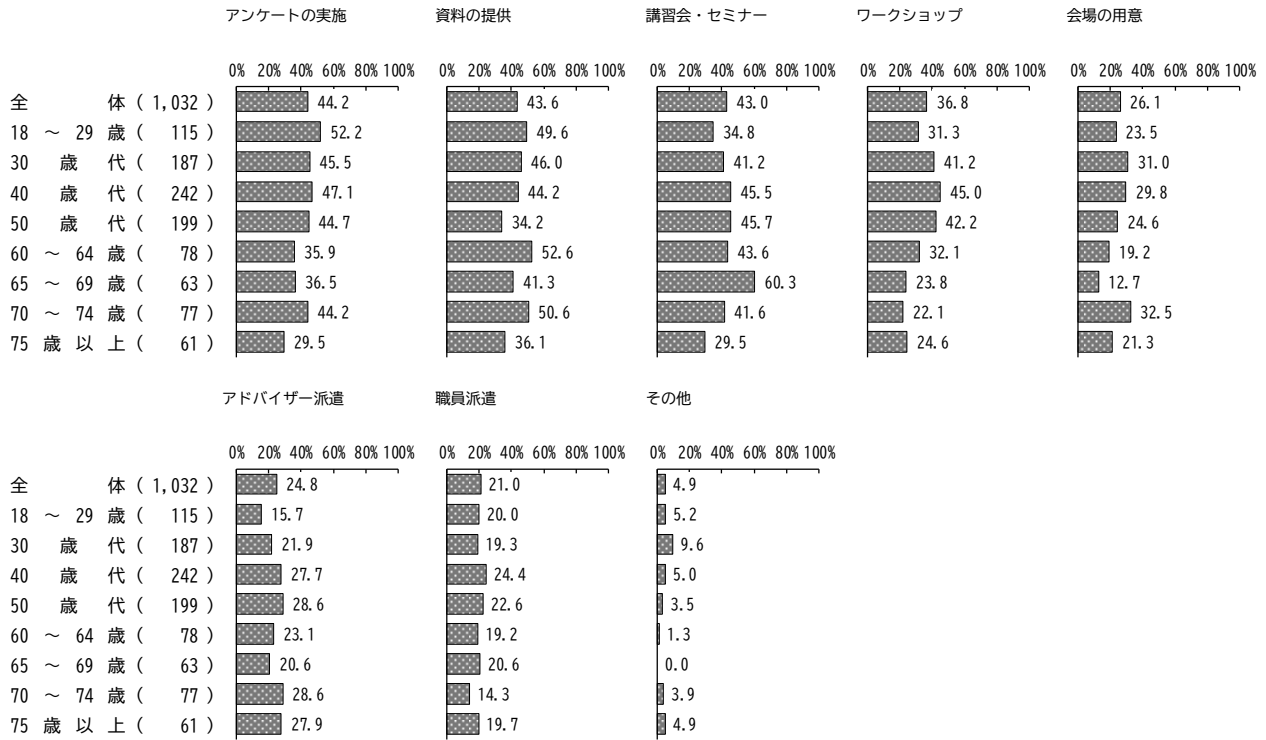


年代別にみると、「アンケートの実施」は18～29歳(52.2%)で5割強と高くなっている。「資料の提供」は60～64歳(52.6%)で5割強と高くなっている。また、「講習会・セミナー」は65～69歳(60.3%)で約6割と高くなっている。

18～29歳・40歳代は「アンケートの実施」が、30歳代・60～64歳・70～74歳・75歳以上は「資料の提供」が、50歳代・65～69歳は「講習会・セミナー」がそれぞれ最も高くなっている。

(図 17-2-3)

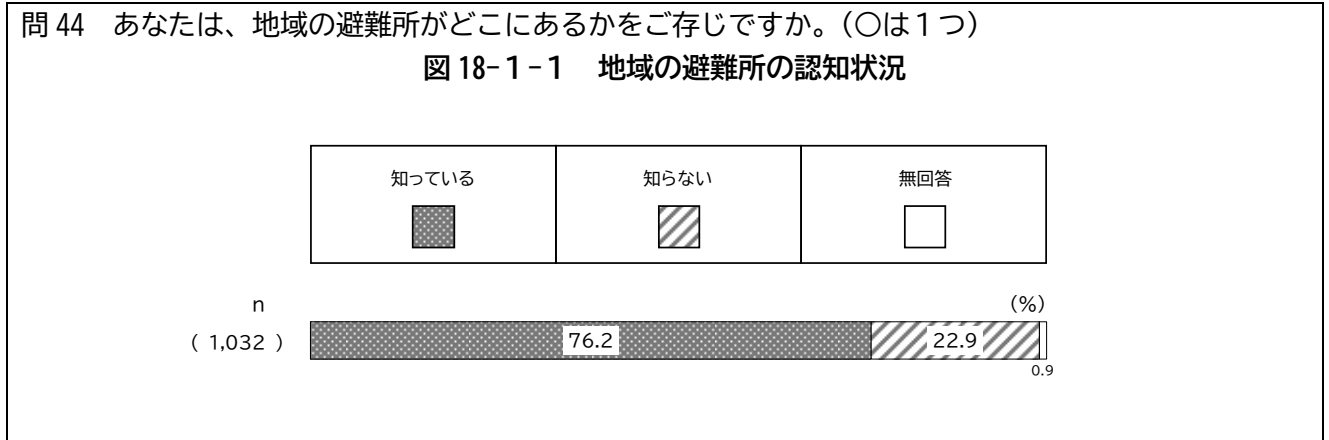
図 17-2-3 区民や事業者等で共通認識を築くための支援（年代別）



18. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知状況

◇避難所の位置を「知っている」が7割台半ばを超える

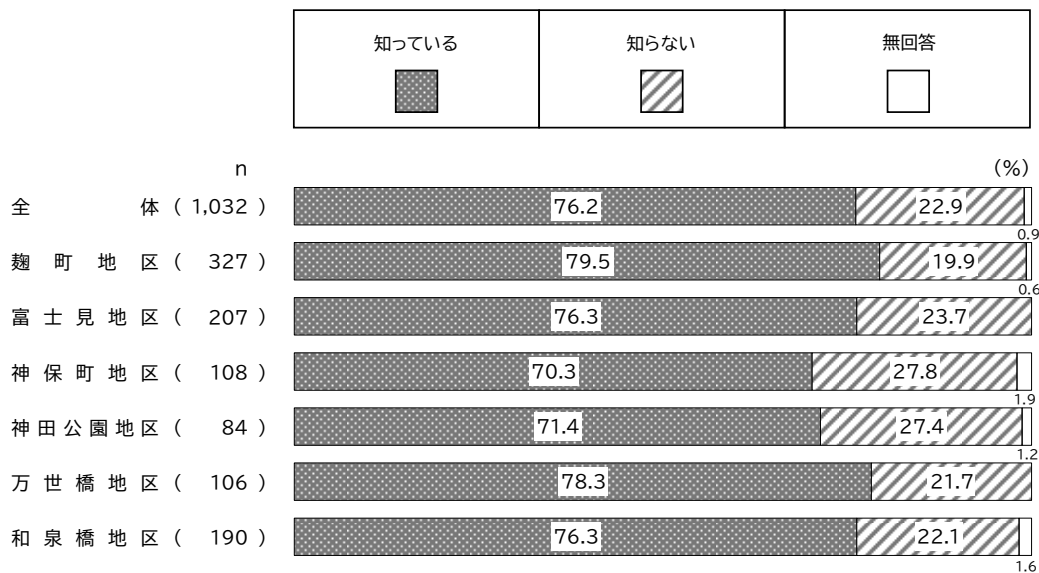


地域の避難所の認知状況について聞いたところ、「知っている」(76.2%)が7割台半ばを超え、「知らない」(22.9%)は2割強となっている。(図 18-1-1)

地区別に見ると、「知っている」は麴町地区(79.5%)で8割弱と高くなっている。

全ての地区で「知っている」が「知らない」を上回っており、いずれの地区も「知っている」は7割台と大きな変化はみられない。(図 18-1-2)

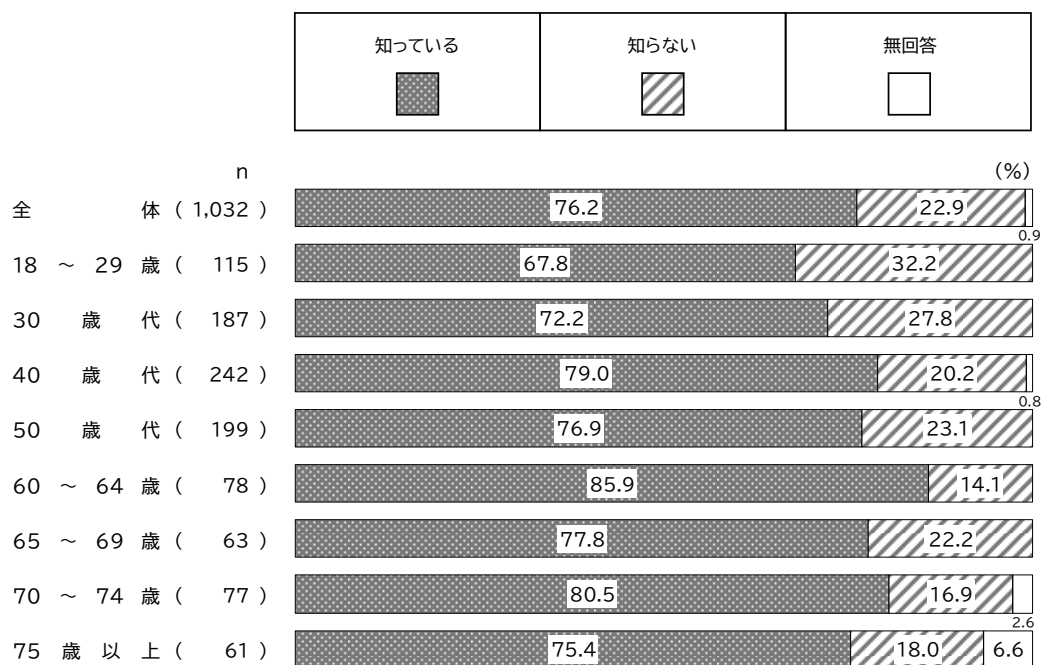
図 18-1-2 地域の避難所の認知状況 (地区別)



年代別にみると、「知っている」は60～64歳(85.9%)で8割台半ばと最も高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳(32.2%)で3割強となっている。

全ての年代で「知っている」が「知らない」を上回っているが、「知っている」が最も高い60～64歳(85.9%)と最も低い18～29歳(67.8%)では18.1ポイントの差が開いている。(図18-1-3)

図18-1-3 地域の避難所の認知状況(年代別)

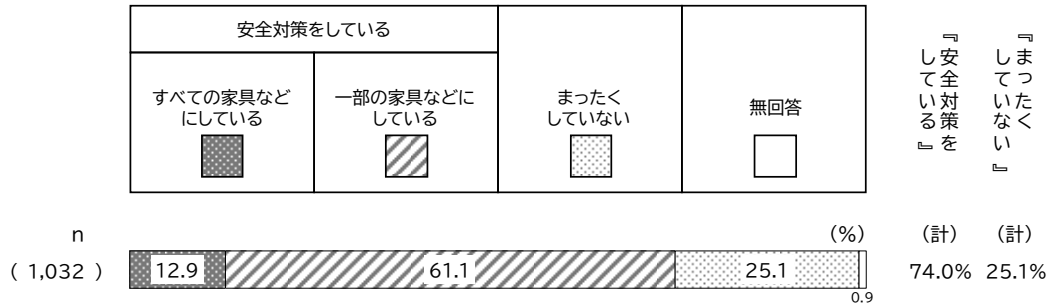


(2) 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

◇『安全対策をしている』は7割台半ば近く

問 45 あなたのお宅では、震災時に転倒のおそれのある家具などについて、安全対策を実施していますか。(○は1つ)

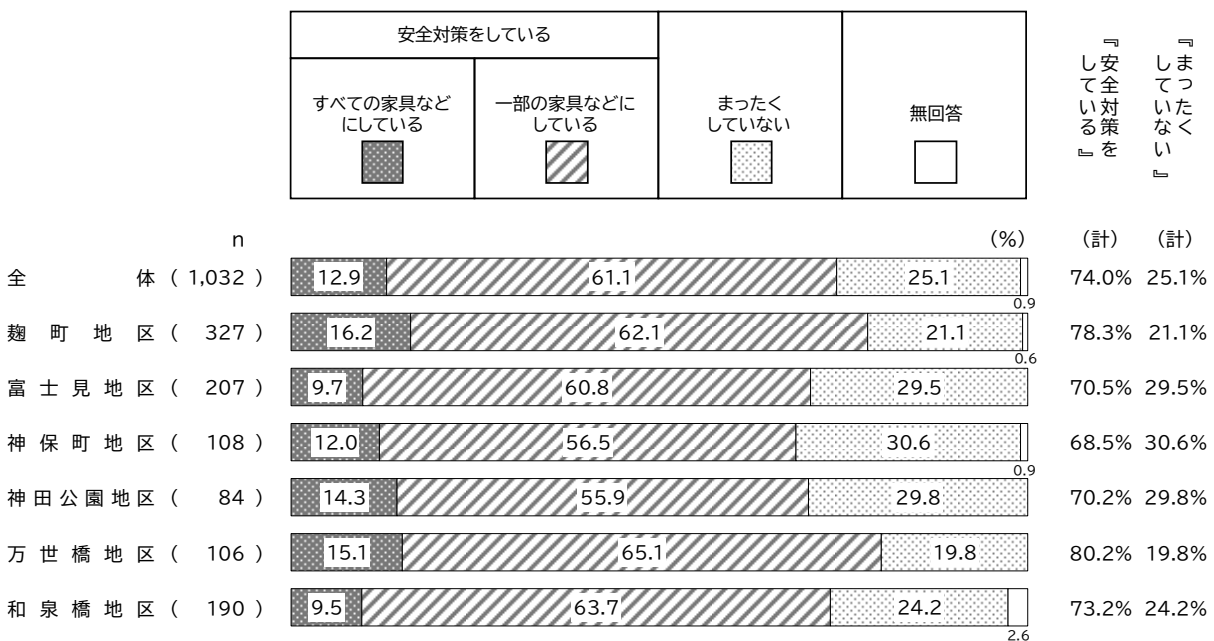
図 18-2-1 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策



震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策について聞いたところ、「一部の家具などにしている」(61.1%)が6割強と最も高く、これに「すべての家具などにしている」(12.9%)を合わせた『安全対策をしている』(74.0%)は7割台半ば近くとなっている。一方、「まったくしていない」(25.1%)は2割台半ばとなっている。(図 18-2-1)

地区別にみると、『安全対策をしている』は万世橋地区(80.2%)で約8割と高くなっている。一方、「まったくしていない」は神保町地区(30.6%)で約3割と高くなっている。(図 18-2-2)

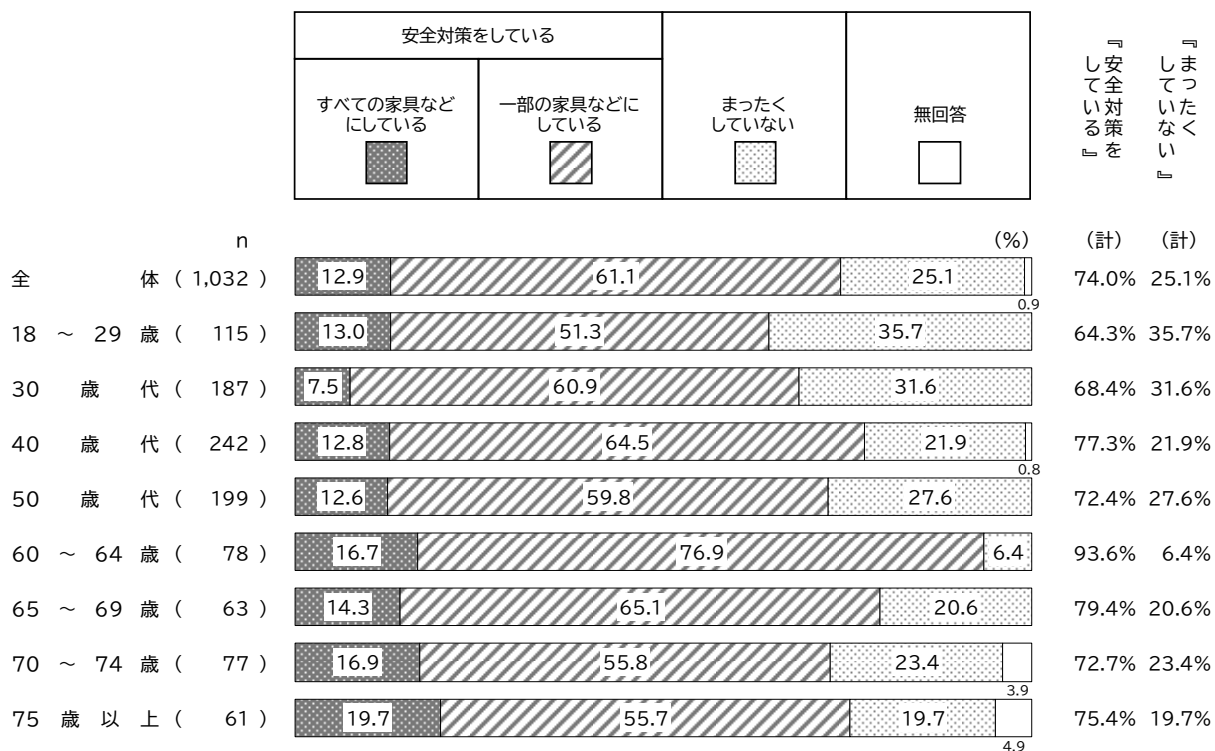
図 18-2-2 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策(地区別)



年代別にみると、『安全対策をしている』は 60～64 歳（93.6%）で9割台半ば近くと高くなっている。一方、「まったくしていない」は 18～29 歳（35.7%）で3割台半ばと高くなっている。

「まったくしていない」は多くの年代で2割弱から3割台半ばであるのに対し、60～64 歳（6.4%）は1割未満と特に低くなっている。（図 18-2-3）

図 18-2-3 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策（年代別）

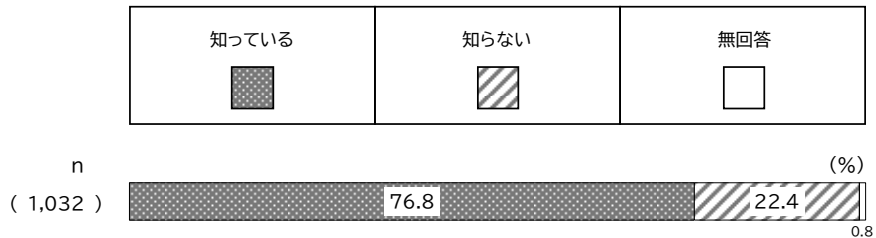


(3) 洪水などの災害リスクの認知度

◇自宅周辺の洪水などの災害リスクを「知っている」が7割台半ばを超える

問 46 あなたのお宅周辺の、洪水などの災害リスクについてご存じですか。(○は1つ)

図 18-3-1 洪水などの災害リスクの認知度

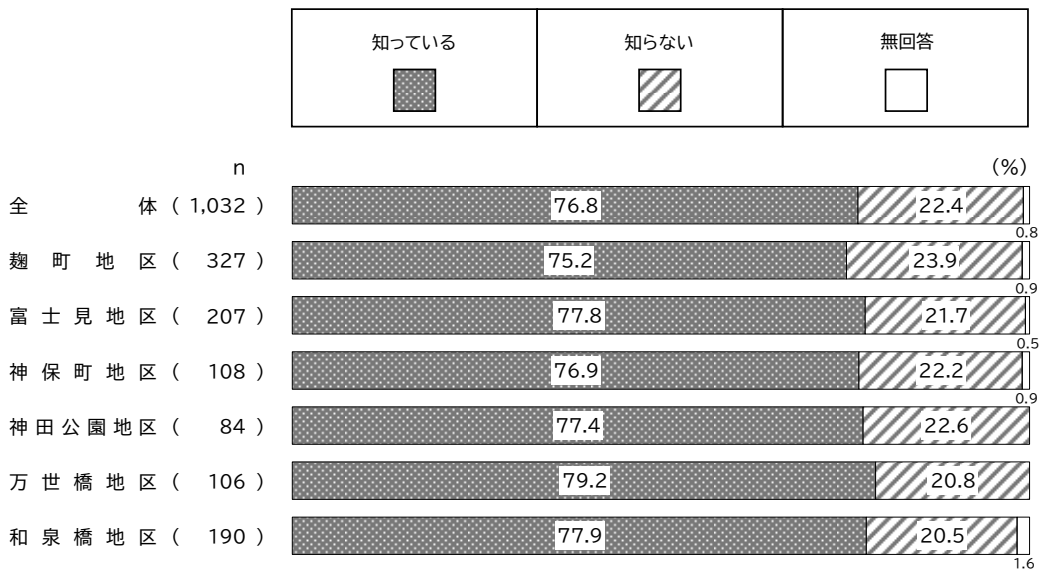


洪水などの災害リスクの認知度について聞いたところ、「知っている」(76.8%)が7割台半ばを超え、「知らない」(22.4%)は2割強となっている。(図 18-3-1)

地区別に見ると、「知っている」は万世橋地区(79.2%)で8割弱と高くなっている。

すべての地区で「知っている」が「知らない」を上回っており、「知っている」は7割台、「知らない」は2割台と大きな違いはみられない。(図 18-3-2)

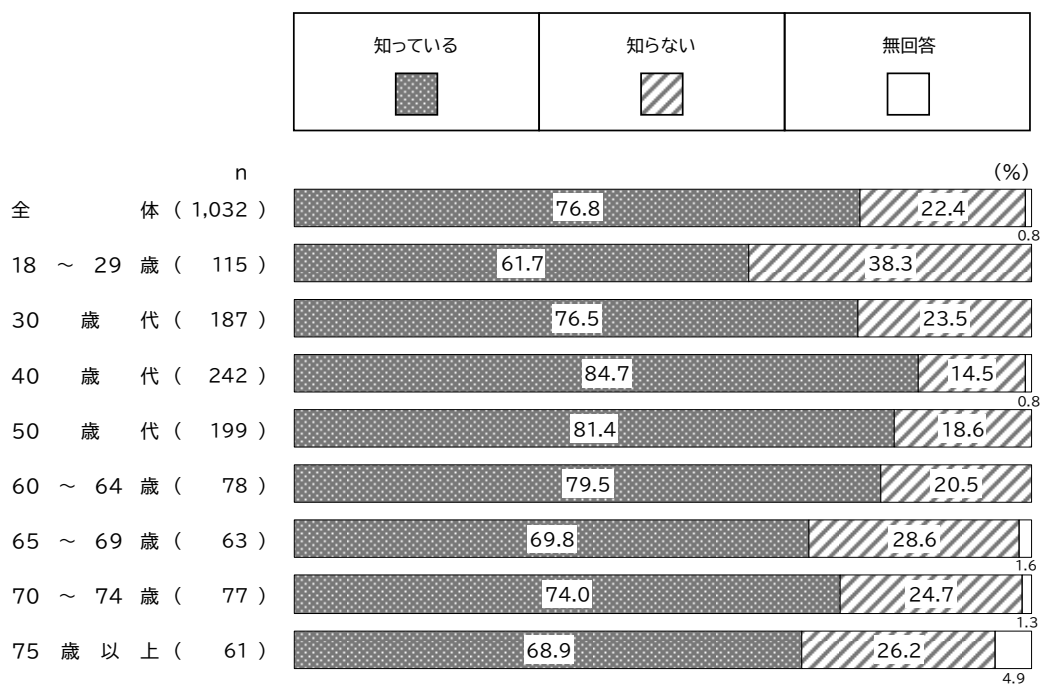
図 18-3-2 洪水などの災害リスクの認知度 (地区別)



年代別にみると、「知っている」は40歳代(84.7%)で8割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「知らない」は18~29歳(38.3%)で4割近くとなっている。

「知っている」が最も高い40歳代(84.7%)と最も低い18~29歳(61.7%)では23.0ポイントの差が開いている。(図18-3-3)

図18-3-3 洪水などの災害リスクの認知度(年代別)

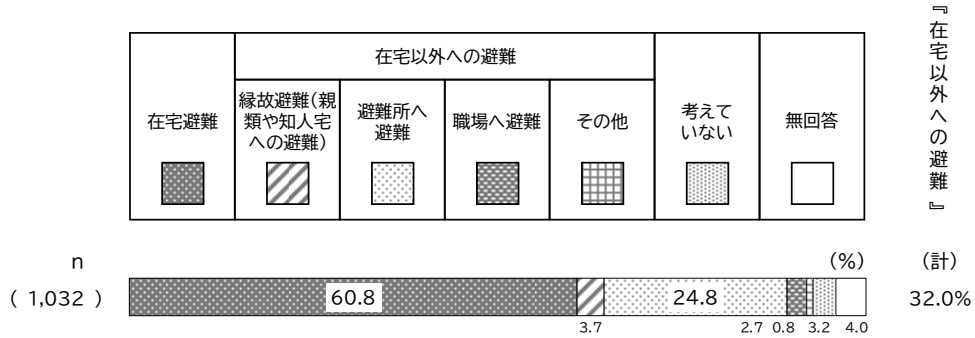


(4) 災害が起きた時の避難方法

◇「在宅避難」が約6割

問 47 あなたは、災害が起きた時どのような避難方法を考えていますか。(○は1つ)

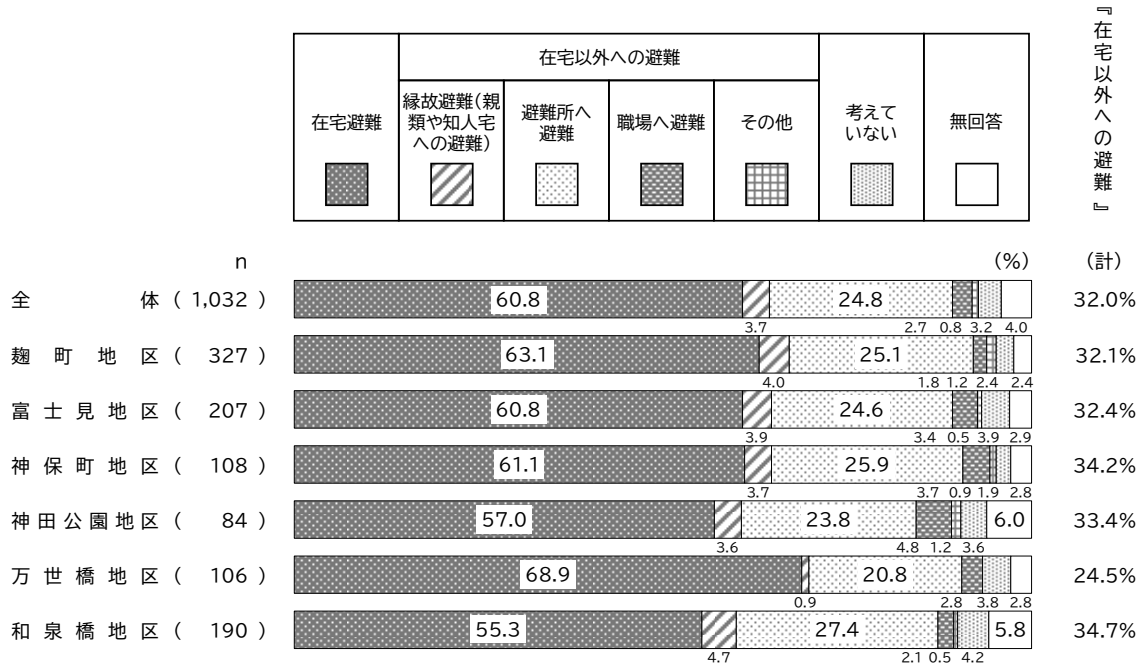
図 18-4-1 災害が起きた時の避難方法



災害が起きた時の避難方法について聞いたところ、「在宅避難」(60.8%)が約6割と最も高くなっている。次いで、「避難所へ避難」(24.8%)と「縁故避難(親類や知人宅への避難)」(3.7%)と「職場へ避難」(2.7%)、「その他」(0.8%)を合わせた『在宅以外への避難』(32.0%)は3割強となっている。(図 18-4-1)

地区別に見ると、「在宅避難」は万世橋地区(68.9%)で7割近くと高くなっている。「考えていない」は全ての地区でわずかにみられる。(図 18-4-2)

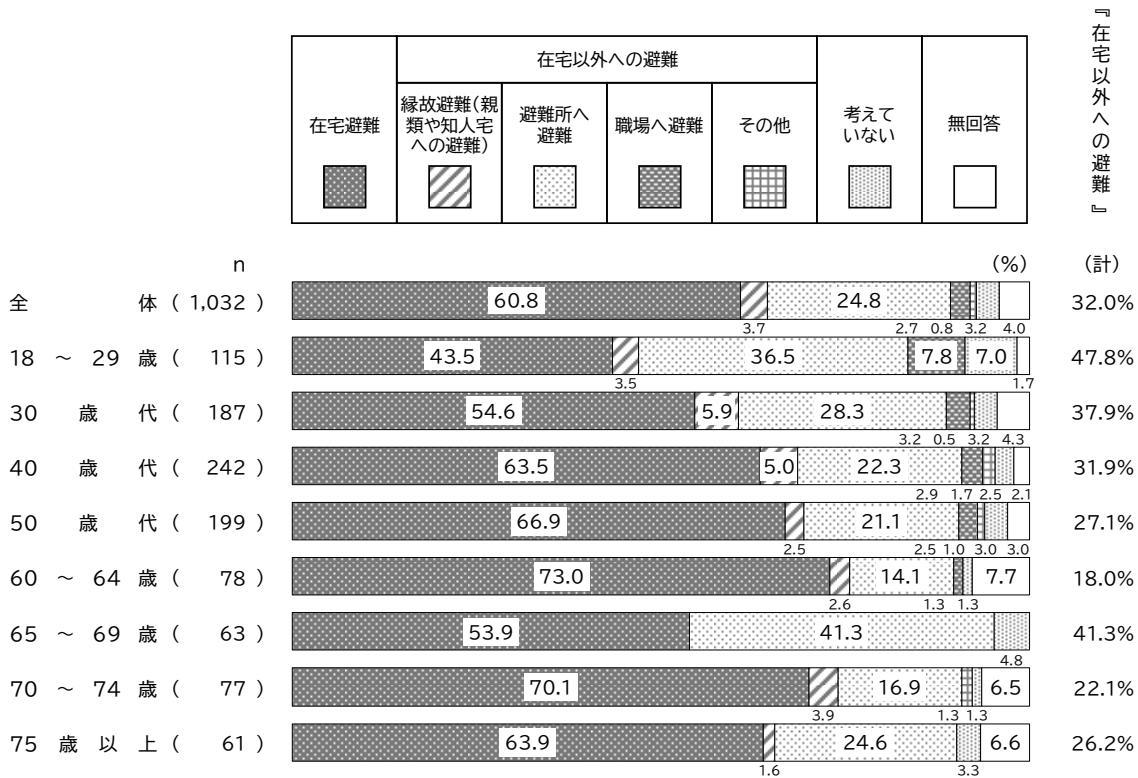
図 18-4-2 災害が起きた時の避難方法(地区別)



年代別にみると、「在宅避難」は60～64歳(73.0%)で7割台半ば近くと最も高くなっている。一方、『在宅以外への避難』は18～29歳(47.8%)で4割台半ばを超えて高くなっている。

「考えていない」は全ての年代で一定数みられ、18～29歳(7.0%)は他の年代よりもわずかに高くなっている。(図18-4-3)

図18-4-3 災害が起きた時の避難方法(年代別)

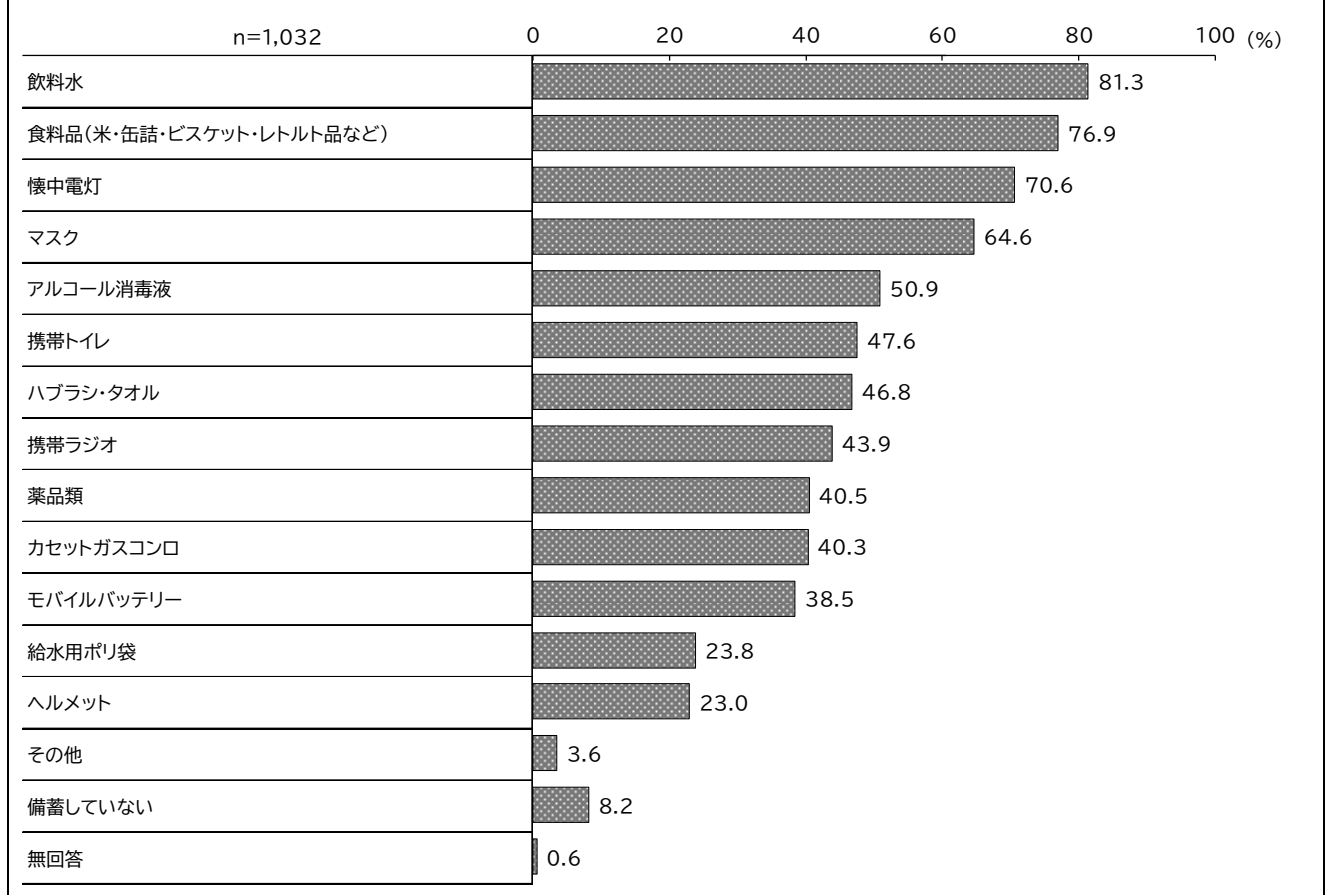


(5) 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

◇「飲料水」が8割強

問 48 あなたのお宅では、地震などの災害に備えてどのようなものを備蓄していますか。
(○はいくつでも)

図 18-5-1 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

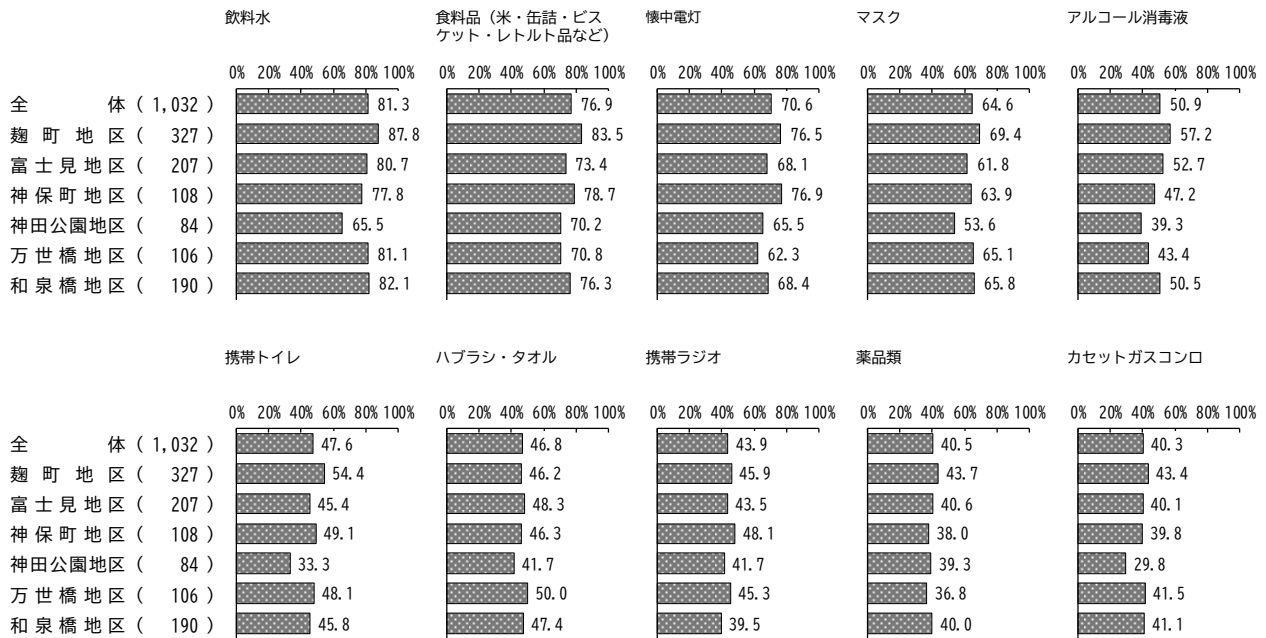


地震などの災害に備えて備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」(81.3%)が8割強と最も高く、次いで、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」(76.9%)、「懐中電灯」(70.6%)、「マスク」(64.6%)、「アルコール消毒液」(50.9%)となっている。(図 18-5-1)

地区別にみると、「飲料水」は麴町地区(87.8%)で8割台半ばを超えて高くなっている。「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」も麴町地区(83.5%)で8割台半ば近くと高くなっている。また、「懐中電灯」は麴町地区(76.5%)・神保町地区(76.9%)で7割台半ばを超えて高くなっている。

麴町地区・富士見地区・万世橋地区・和泉橋地区は「飲料水」が、神保町地区・神田公園地区は「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」がそれぞれ最も高くなっている。(図 18-5-2)

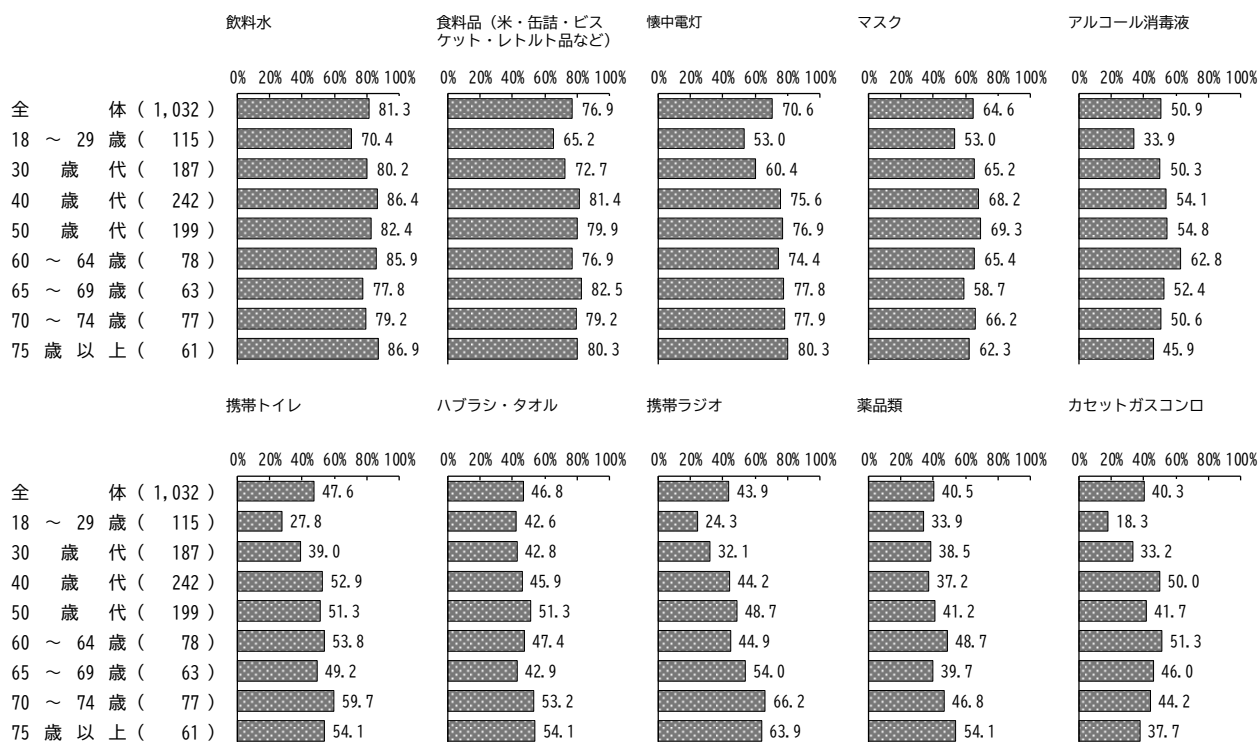
図 18-5-2 地震などの災害に備えて備蓄しているもの(地区別)



年代別にみると、「飲料水」は40歳代(86.4%)・75歳以上(86.9%)で8割台半ばを超えてそれぞれ高くなっている。「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」は40歳代(81.4%)・65～69歳(82.5%)で8割強とそれぞれ高くなっている。また、「懐中電灯」は75歳以上(80.3%)で約8割と高くなっている。

18～29歳は「ハブラシ・タオル」(42.6%)、「薬品類」(33.9%)を除く選択肢で全体よりも10ポイント以上低くなっている。(図18-5-3)

図18-5-3 地震などの災害に備えて備蓄しているもの(年代別)



(5-1) 災害に備えた飲料水の備蓄状況

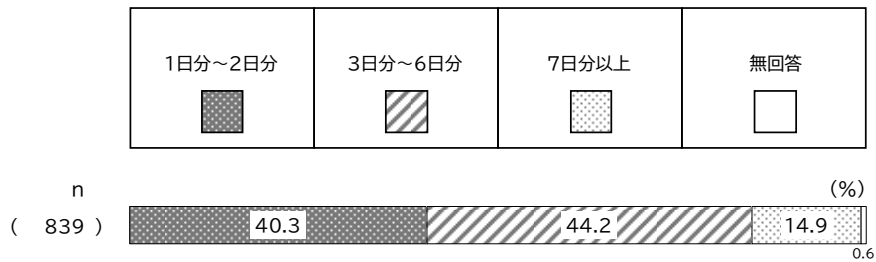
◇「3日分～6日分」が4割台半ば近く

(問48で「1. 飲料水」とお答えの方に)

問48-1 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の飲料水を備蓄していますか。(○は1つ)

(参考：1人1日あたり 飲料水3リットル)

図18-5-4 災害に備えた飲料水の備蓄状況

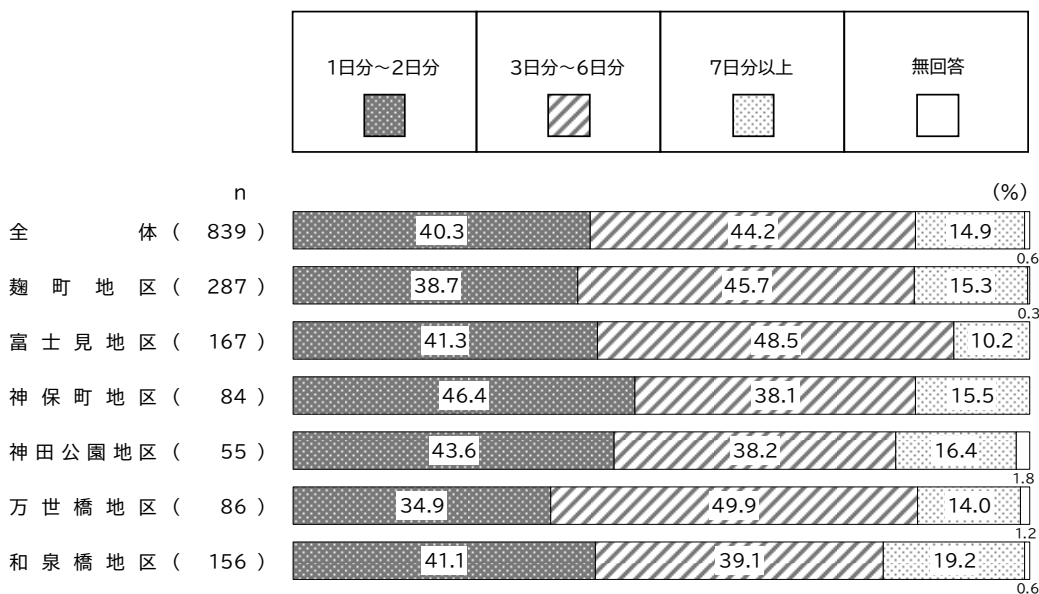


地震などの災害に備えて備蓄しているもので「飲料水」とお答えの方に、災害に備えた飲料水の備蓄状況について聞いたところ、「3日分～6日分」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「1日分～2日分」(40.3%)、「7日分以上」(14.9%)となっている。(図18-5-4)

“飲料水”を地区別にみると、「1日分～2日分」は神保町地区(46.4%)で4割台半ばを超えて高くなっている。また、「3日分～6日分」は万世橋地区(49.9%)で5割弱と高くなっている。

神保町地区・神田公園地区・和泉橋地区では「1日分～2日分」が、麴町地区・富士見地区・万世橋地区では「3日分～6日分」が最も高くなっている。(図18-5-5)

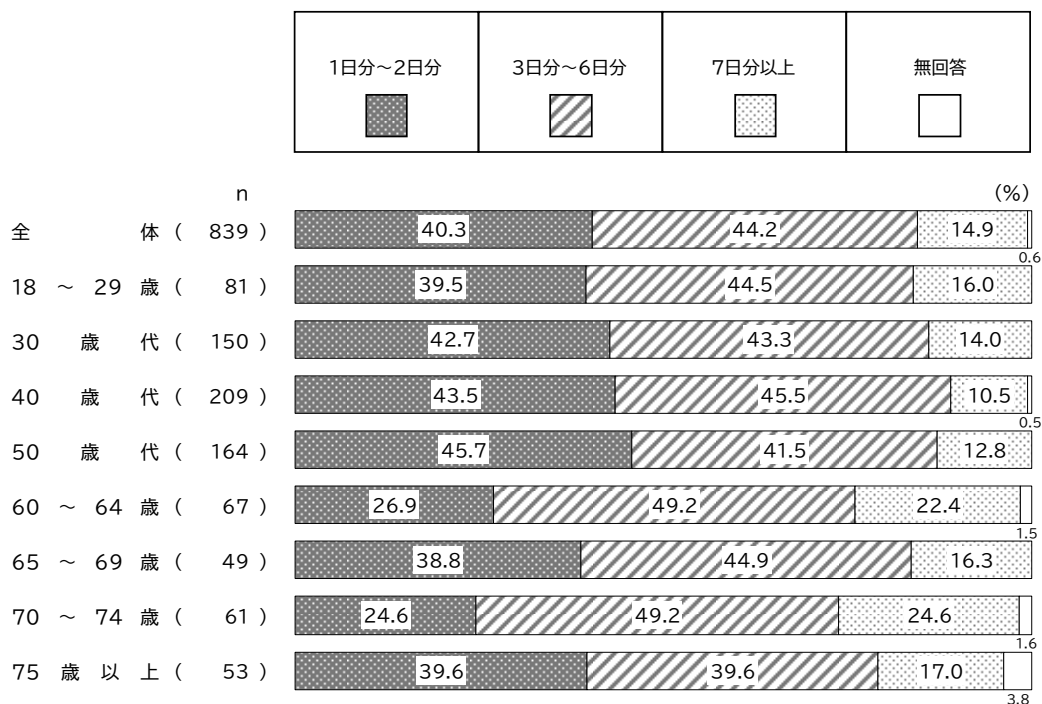
図18-5-5 災害に備えた飲料水の備蓄状況(地区別)



“飲料水”を年代別にみると、「1日分～2日分」は50歳代（45.7%）で4割台半ばと高くなっている。また、「7日分以上」は70～74歳（24.6%）で2割台半ば近くと高くなっている。

多くの年代で「3日分～6日分」が最も高くなっているが、50歳代のみ「1日分～2日分」（45.7%）が最も高くなっている。（図18-5-6）

図18-5-6 災害に備えた飲料水の備蓄状況（年代別）



(5-2) 災害に備えた食料品の備蓄状況

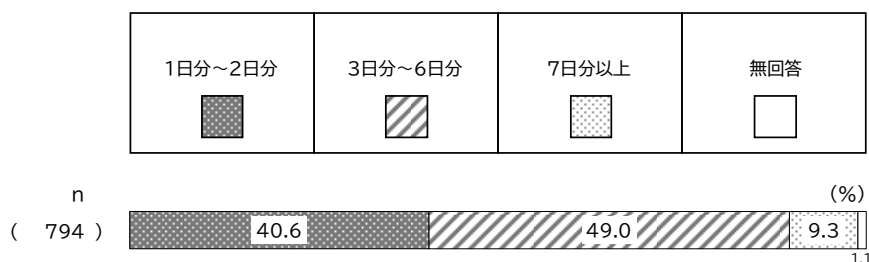
◇「3日分～6日分」が5割弱

(問48で「2. 食料品」とお答えの方に)

問48-2 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の食料品を備蓄していますか。(○は1つ)

(参考：1人1日あたり 保存食など3食)

図18-5-7 災害に備えた食料品の備蓄状況

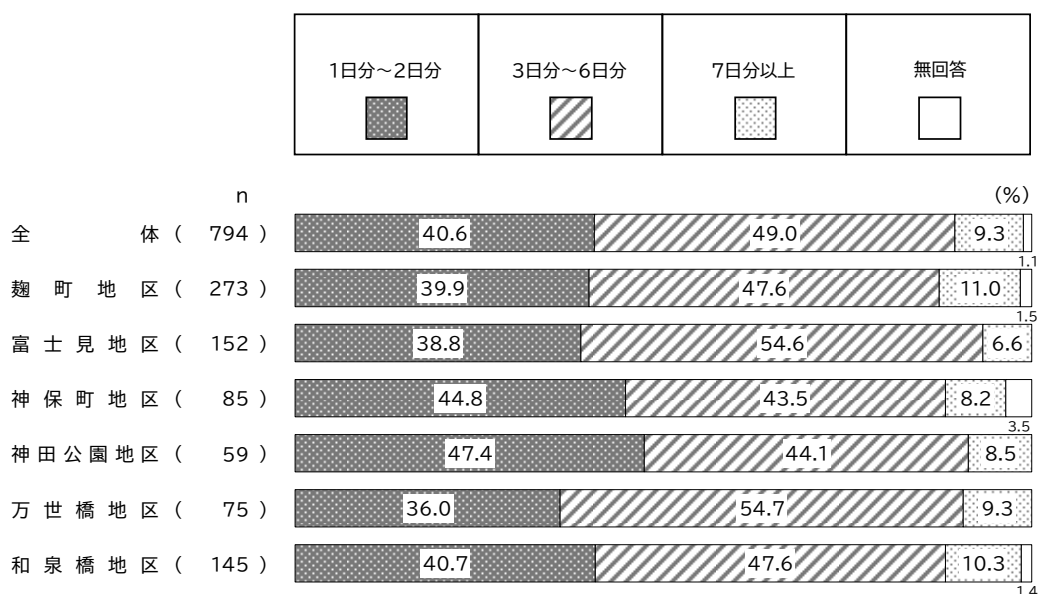


地震などの災害に備えて備蓄しているもので「食料品」とお答えの方に、災害に備えた食料品の備蓄状況について聞いたところ、「3日分～6日分」(49.0%)が5割弱と最も高く、次いで、「1日分～2日分」(40.6%)、「7日分以上」(9.3%)となっている。(図18-5-7)

“食料品”を地区別にみると、「1日分～2日分」は神田公園地区(47.4%)で4割台半ばを超えて高くなっている。また、「3日分～6日分」は富士見地区(54.6%)・万世橋地区(54.7%)で5割台半ば近くと高くなっている。

神保町地区・神田公園地区は「1日分～2日分」が最も高く、その他の地区は「3日分～6日分」が最も高くなっている。(図18-5-8)

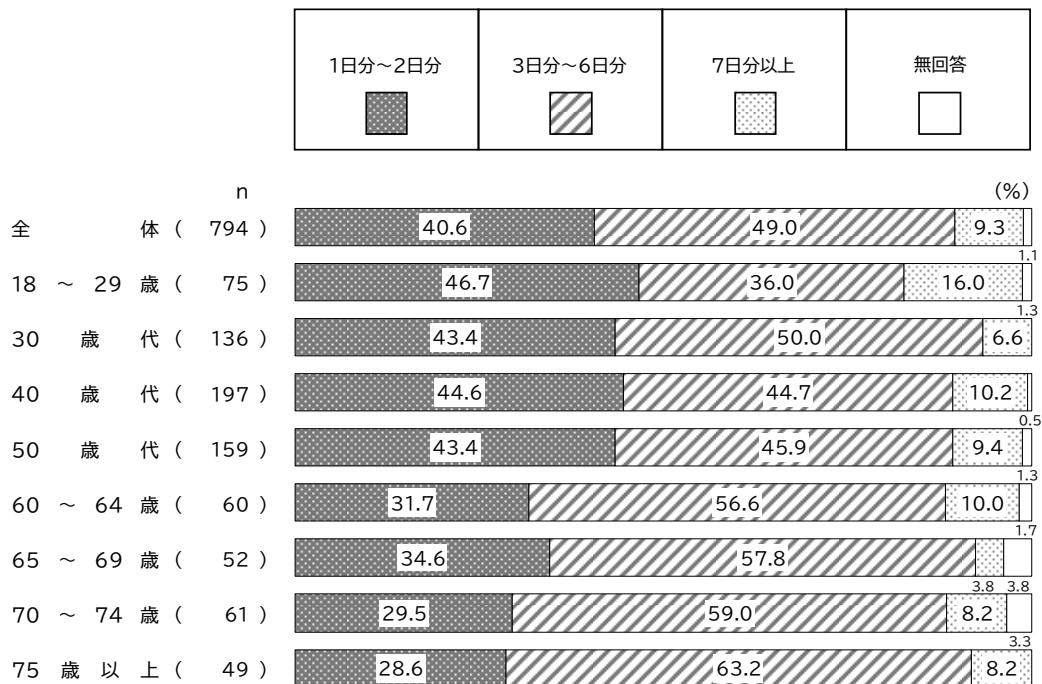
図18-5-8 災害に備えた食料品の備蓄状況(地区別)



“食料品”を年代別にみると、「1日分～2日分」は18～29歳（46.7%）で4割台半ばを超えて高くなっている。また、「3日分～6日分」は75歳以上（63.2%）で6割台半ば近くと高くなっている。

多くの年代で「3日分～6日分」が最も高くなっているが、18～29歳のみ「1日分～2日分」（46.7%）が最も高くなっている。（図18-5-9）

図18-5-9 災害に備えた食料品の備蓄状況（年代別）



(5-3) 災害に備えた携帯トイレの備蓄状況

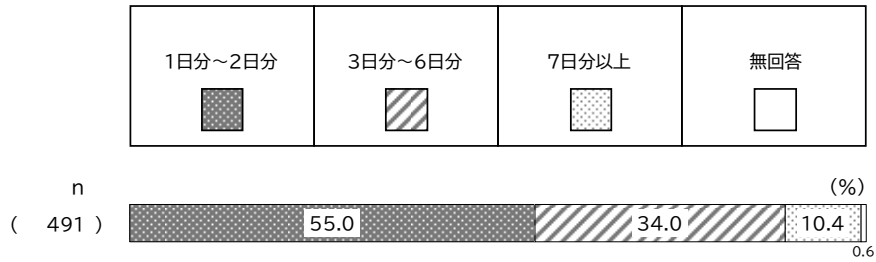
◇「1日分～2日分」が5割台半ば

(問48で「3. 携帯トイレ」とお答えの方に)

問48-3 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の携帯トイレを備蓄していますか。(○は1つ)

(参考：1人1日あたり 携帯トイレ概ね5枚)

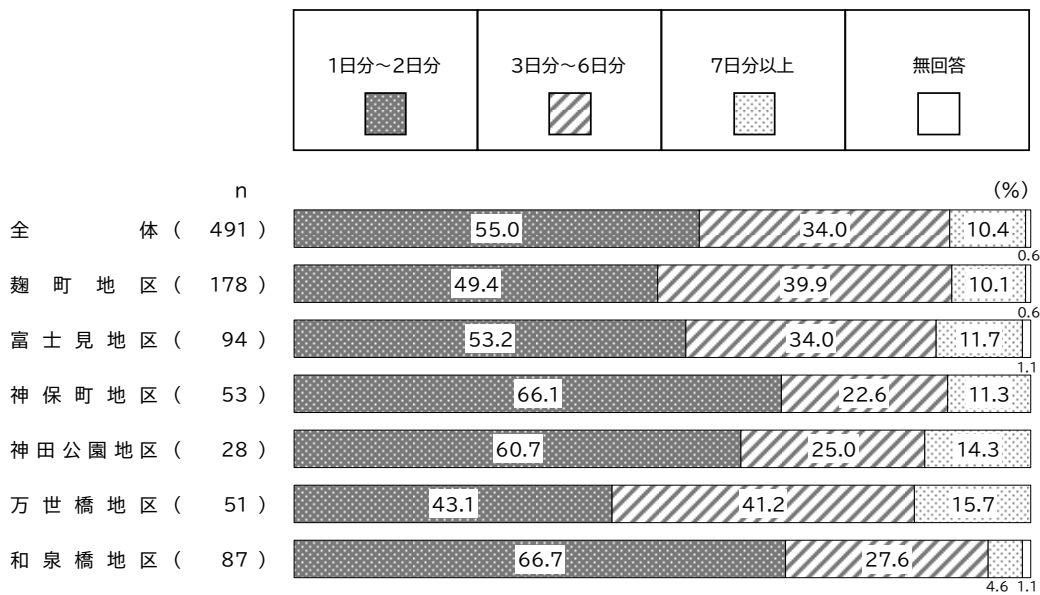
図18-5-10 災害に備えた携帯トイレの備蓄状況



地震などの災害に備えて備蓄しているもので「携帯トイレ」とお答えの方に、災害に備えた携帯トイレの備蓄状況について聞いたところ、「1日分～2日分」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「3日分～6日分」(34.0%)、「7日分以上」(10.4%)となっている。(図18-5-10)

“携帯トイレ”を地区別にみると、「1日分～2日分」は神保町地区(66.1%)・和泉橋地区(66.7%)で6割台半ばを超えて高くなっている。また、「3日分～6日分」は万世橋地区(41.2%)で4割強と高くなっている。(図18-5-11)

図18-5-11 災害に備えた携帯トイレの備蓄状況(地区別)



“携帯トイレ”を年代別にみると、「1日分～2日分」は50歳代(64.7%)で6割台半ば近くと高くなっている。また、「3日分～6日分」は75歳以上(48.5%)で5割近くと高くなっている。

「7日分以上」は65～69歳(25.8%)で2割台半ばとなり、他の年代よりも高くなっている。

(図 18-5-12)

図 18-5-12 災害に備えた携帯トイレの備蓄状況 (年代別)

